

令和7年度障害者スポーツ振興事業

「地域におけるパラスポーツの振興事業」

報 告 書

公益財団法人日本パラスポーツ協会

はじめに

わが国のスポーツ施策は、平成 23 年のスポーツ基本法制定を契機に、障がい者のスポーツの所管部局移管、スポーツ庁の設置、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、東京 2025 デフリンピックの開催など、大きな変化を遂げております。

各地方自治体においても、令和 4 年 3 月に策定された第 3 期スポーツ基本計画のもと、新たなスポーツ推進計画の策定や計画内容の改訂がなされ、地域で開催される多くのスポーツ事業では、障がい者がスポーツに参加する環境や体制の整備が進められ、その取り組みが期待されるところであります。また、最近では 47 都道府県のうち、約半数がスポーツを担当する部局を統合し、障がいの有無に関わらず、スポーツを一体的に推進していく体制が増えてきております。

そのような中、日本パラスポーツ協会(以下、当協会)では、平成 23 年度より国庫補助事業として、当協会に登録する都道府県・政令指定都市パラスポーツ協会を対象とした「地域におけるパラスポーツの振興事業」を実施してまいりました。現在は、パラスポーツ協会に加えて、パラスポーツ指導者協議会とパラスポーツ競技団体を受託対象団体として事業を実施しております。また、パラスポーツセンターについては別事業にて地域のパラスポーツ振興を進めています。

本事業の目的については、これまでどおり「障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現する」ことは不変であります。本事業を通じて事業実施団体が地域の自治体やスポーツ団体、関係者等と連携・協働しながら、障がい者のスポーツ実施環境の拡充、指導体制の整備等の環境整備のみならず、障がい当事者が運動・スポーツに触れ、自主的に楽しむ機会をいかに増やし、日常的な活動に繋げていくかを重要な位置づけとしております。

今年度、本事業を受託いただいた 30 団体においては、それぞれが掲げる課題と向き合い、様々な課題解消に向けた取り組みとして、未普及地域での活動の場づくりや競技人口の増加(選手発掘・育成)に関する多くの事業を実施いただきました。

今後、さらに多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、多くの団体が組織連携を進め、今後のパラスポーツの振興体制の拡がり期待されるところです。

本報告書が、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しむ環境整備の取り組みの好事例として、全国各地のパラスポーツの振興に一助になることを望んでおります。

最後に本事業にご協力いただきました各団体の皆様に感謝するとともに、今後とも、関係の皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

令和 8 年 3 月

公益財団法人日本パラスポーツ協会

目 次

はじめに

I 振興事業の概要	1
1. 助成の目的	
2. 委託先対象	
3. 対象事業	
4. 活動の範囲	
5. 委託費と対象経費	
6. 地域振興事業検討委員会の設置	
7. 事業視察・ヒアリングの実施	
8. 事業報告会の開催	
9. 事業説明・相談会の開催	
II 実施事業の概要	7
III まとめと今後の課題	10
1. 事業概要	
2. 事業内容の特徴	
3. 組織連携の取り組み	
4. JPSA 登録4協議会との連携	
5. 事業の成果と課題	
6. おわりに	
IV 事業実施団体の報告	31
1. 一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	
2. 一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会	
3. 一般社団法人京都障害者スポーツ振興会	
4. 公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	
5. 和歌山県障害者スポーツ協会	
6. 徳島県パラスポーツ協会	
7. 大分県障がい者スポーツ協会	
8. 熊本県障害者スポーツ・文化協会	
9. 一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会	
10. 公益財団法人京都市障害者スポーツ協会	
11. 宮城県障害者スポーツ指導者協議会	
12. 特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会	
13. 一般社団法人日本ボッチャ協会	
14. 公益財団法人全日本柔道連盟	
15. 特定非営利活動法人 日本パラ・パワーリフティング連盟	
16. 一般社団法人日本パラ水泳連盟	
17. 一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟	
18. 公益財団法人日本障害者スキー連盟	
19. 一般社団法人日本車いすカーリング協会	
20. 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合全日本グランドソフトボール連盟	
21. 特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟	
22. 特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会	
23. 公益財団法人日本セーリング連盟	
24. NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会	
25. 特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会	
26. 日本卓球バレー連盟	
27. 一般社団法人日本パラダンススポーツ協会	
28. 一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会	
29. 一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟	
30. 一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会	

I 振興事業の概要

1. 助成の目的

障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、公認パラスポーツ指導者の活用を促し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワーク等の組織・体制づくりの構築を目的とする。また、都道府県・指定都市のパラスポーツ協会、同パラスポーツ指導者協議会、JPSA 登録パラスポーツ競技団体が各地域におけるパラスポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的とする。

2. 委託先対象

令和 7 年度公益財団法人日本パラスポーツ協会登録団体①都道府県・指定都市パラスポーツ協会②同パラスポーツ指導者協議会③同パラスポーツ競技団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とした。今年度は、申請のあった 30 団体を対象に助成した。

3. 対象事業

本事業の目的に沿った内容で、以下の事業区分を対象とした。なお、事業実施にあたっては、委託先対象団体が主体的に企画・運営し、関係団体等と協力・連携した体制で実施するものとした。

【事業区分】

①パラスポーツ協会

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 (活動の場づくり)	・県市におけるスポーツ教室事業(障がい者対象) ・未普及地域における活動拠点の創出事業 ・他団体等と連携したスポーツ拠点の設置事業
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業 (指導者対象)	・パラスポーツの指導人材の資質向上事業 ⇒パラスポーツ指導者協議会、学校教員、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブスタッフなどを対象
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 (体制づくり)	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援事業
4.新たな取り組み支援事業 (事業区分1～3 に該当しない事業)	

②パラスポーツ指導者協議会

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 (活動の場づくり)	・県市におけるスポーツ教室事業(障がい者対象) ・公認パラスポーツ指導者の支部拠点設置事業
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業 (指導者対象)	・パラスポーツの指導を担う人材の資質向上事業 ・公認パラスポーツ指導者の活動機会の活性化事業 ・若手人材の活動活性化事業(大学生等との連携)
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 (体制づくり)	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援事業
4.新たな取り組み支援事業 (事業区分1～3 に該当しない事業)	

③パラスポーツ競技団体

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 (活動の場づくり)	・ブロック、県市におけるスポーツ教室事業(障がい者対象) ・特別支援学校等と連携したスポーツ活動事業
2.スポーツの体験・継続事業 (障がい者対象)※新たな教室・大会等の開催含む	・パラスポーツに新たに取り組む障がい者のスポーツ体験事業(体験会を通じた競技参加の裾野拡大) ・障がい者が地域で継続してスポーツに取り組むための事業 ・ブロック、県市における大会、記録会開催事業
3.競技指導者・支援者育成事業 (指導者対象)	・ブロック、県市における競技別(専門性の高い)指導者の育成 ・審判員及び普及に関わる指導者の育成
4.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 (体制づくり)	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・ブロック、県市における競技団体設立に向けた事業 ・ブロック、県市における既存の競技団体の活動支援事業
5.新たな取り組み支援事業 (事業区分1～4 に該当しない事業)	

4. 活動の範囲

①②の団体は、原則として、委託先団体の都道府県・指定都市を実施場所とした(ただし、実施内容・特性等の理由により当該の都道府県・指定都市内で実施が困難な場合はこの限りではない)。

③の団体は、ブロック単位もしくは都道府県・指定都市(複数可)を実施場所とした。

5. 委託費と対象経費

委託費は、各団体に 50 万円～200 万円とした。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとした。さらに、委託費(総事業費)の 25%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入を可能とした(事務用品等の備品の購入は不可)。

6. 地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。また、検討委員会および当協会技術委員会により、今後の日本におけるパラスポーツ推進の参考にするための総括をおこなった。

地域振興事業 検討委員会委員

No.	氏 名	所 属
1	猪飼 聡	京都市障害者スポーツセンター
2	太田 澄人	長野県障がい者福祉センター サンアップル
3	角正 真之	大阪市長居障がい者スポーツセンター
4	丸野 奈央	鹿児島県障害者自立交流センター
5	村上 光輝	日本パラリンピック委員会サービスマネージャー
6	兒玉 友	日本福祉大学 スポーツ科学部
7	中澤 吉裕	日本パラリンピック委員会ハイパフォーマンスマネージャー

日本パラスポーツ協会 技術委員会 推進部会

No.	氏 名	所 属
1	太田 澄人	長野県障がい者福祉センター サンアップル
2	角正 真之	大阪市長居障がい者スポーツセンター
3	丸野 奈央	鹿児島県障害者自立交流センター
4	村上 光輝	日本パラリンピック委員会サービスマネージャー
5	兒玉 友	日本福祉大学 スポーツ科学部

事務局(公益財団法人日本パラスポーツ協会)

No.	氏 名	役 職
1	三上 真二	日本パラスポーツ協会 スポーツ推進部 部長
2	屋敷 優友	日本パラスポーツ協会 スポーツ推進部 課長
3	佐藤 雄太	日本パラスポーツ協会 スポーツ推進部 係長
4	吉荒 瑠莉奈	日本パラスポーツ協会 スポーツ推進部 係員

◆会議の開催

第1回会議(地域振興事業 検討委員会)

日 時:令和7年4月24日(木) 14時00分～18時00分

令和7年4月25日(金) 10時00分～14時00分

実施形態:対面およびオンライン会議

内 容:1.令和7年度 申請団体の実施内容について

・申請団体の事業実施体制の適性について

・申請内容の確認について

2.令和7年度 委託先の審査・選定について(選定委員会)

第2回会議(第1回 技術委員会推進部会)

日 時:令和7年8月5日(火)15時00分～18時00分

実施形態:対面

内 容:1. R6 地域振興事業報告会のアンケート結果について(報告・共有)

2. 委託先および委託費について(報告)

3. 事業報告書について

4. 委託団体ヒアリング(視察)について

5. 次年度の申請様式について

第3回会議(第2回 技術委員会推進部会)

日 時:令和7年11月21日(金)15時00分～18時00分

実施形態:対面およびオンライン会議

内 容:1.各委託団体の中間報告(事業進捗)について

2. 事業相談会および報告会について

3. 次年度以降の選定方針について

4. 都道府県・政令指定都市パラスポーツ協会実態調査について

第 4 回会議(第3回 技術委員会推進部会)

日 時:令和 8 年 2 月 24 日(火)15 時 00 分~18 時 00 分

実施形態:対面会議

内 容:1.令和 7 年度地域振興事業報告会について

2.令和 7 年度地域振興事業報告書の作成について

3.令和 8 年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」に向けて

4.事業視察・ヒアリングの報告について

5.委託団体の決算報告について

7. 事業視察・ヒアリングの実施

目 的 各委託団体の実施事業を現地で視察し、事業の現況(参加者層・支援者層や事業運営状況の共有等)を把握すること。また、事業実施上の成果・課題・展望について団体へヒアリングし、今後の事業継続へ向けたサポートを行うとともに、収集した情報を分析することで次年度以降の本事業の充実化を図る。

視 察 者 日本パラスポーツ協会技術委員会推進部会および JPSA 事務局

対象団体 令和 7 年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」委託団体

<視察・ヒアリング実績>

団体名称	事業名	日程	場所
宮城県障害者スポーツ指導者協議会(指導協)	パラスポーツ推進事業	9 月 28 日(日)	石巻市河北総合センター ビッグバン (宮城県石巻市)
京都障害者スポーツ振興会(協会)	チャレンジ! パラスポーツ陸上競技体験会(北部会場)	11 月 8 日(土)	京丹後はごろも陸上競技場 (京都府京丹後市)
熊本県障害者スポーツ・文化協会(協会)	熊本県下地域ふれあいパラスポーツ体験会	11 月 9 日(日)	嘉島町民体育館 (熊本県嘉島町)
日本アンプティサッカー協会(NF)	Amputee soccer Challenge Camp 2025	11 月 30 日(日)	新潟ふれ愛プラザ 新潟県新潟市
日本パラ・パワーリフティング連盟(NF)	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 香川版	1 月 24 日(土)	かがわ総合リハビリテーション福祉センター (香川県高松市)

8. 事業報告会の開催

目 的 令和 7 年度に本事業を実施した団体が一堂に会し、地域におけるパラスポーツの振興に関する取り組みの現状や事業のねらいや実施の背景、課題等を報告・検討することで、それぞれの地域の実態に即した新たな事業展開のヒントや地域が抱える課題解決のための一助とする。

会 場 ロイヤルパークホテル 2 階【東雲】

日 程 令和 8 年 2 月 25 日(水) 12 時 00 分～18 時 15 分

<報告会スケジュール>

時間	内容
11:20～11:50	受付
12:00～12:15	開会・オリエンテーション
12:15～13:45	団体からの事業報告 1. 徳島県パラスポーツ協会 木野 直樹 氏 2. 日本パラダンススポーツ協会 浅見 明子 氏 3. 日本パラ・パワーリフティング連盟 岡本 孝義 氏
14:00～14:15	～休憩(15 分)～
14:15～16:00	グループワーク: 自団体の地域振興に関する課題について解決策を立案する ワーク1. 同じ団体属性(45 分) ワーク2. 異なる団体属性(45 分)
16:00～16:10	～休憩(10 分)～
16:10～16:20	クロージングセッション
16:20～16:35	事務連絡/閉会
16:45～18:15	情報交換会 JPSA3階会議室にて

9. 事業説明・相談会の開催

目 的 令和 8 年度以降に本事業の受託を検討している当協会登録団体を対象に、地域におけるパラスポーツ振興の現状・課題を共有する機会を設ける。また、専門委員および受託希望団体間における情報交換や事業企画の相談を行うことで、それぞれの地域の実態に即した新たな事業展開のヒントや地域が抱える課題解決のための一助とすること。

実施形態 対面もしくはオンラインによるハイブリット形式

内 容 標記事業の事業申請および実施計画(取り組み内容)に関する相談会

日 程 令和 8 年 2 月 3 日(火)13 時 00 分～18 時 30 分

参加団体 9 団体

<相談会参加団体内訳>

■団体種別

パラスポーツ競技団体……………9 団体

■申請実績別

①本事業申請実績あり……………6 団体

②本事業申請実績なし……………3 団体

II 実施事業の概要

30 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要をまとめた。また、それぞれの「地域のスポーツ環境の特色」「地域の実情・課題点」、「事業の目的・ねらい」、実施された「各事業における事業報告」、「事業全体の評価」についてまとめた。

「各事業における事業報告」については、事業内容、開催日時、会場、参加者、人員体制、連携団体(事業における役割)、事業における公認パラスポーツ指導者の役割・活用について、スポーツ用具の整備・活用についての 9 項目から実施概要を整理した。

「事業全体の評価」については、事業の目的・ねらいの達成・未達の原因、事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)、費用に関する所見、今後の課題や事業展開などについて、各団体において自己評価を行った。

それぞれの団体の活動の詳細については、IV. 実施事業団体の報告を参照いただきたい。

【実施内容区分 一覧】

<都道府県・政令指定都市パラスポーツ協会、都道府県パラスポーツ指導者協議会>

No.	団 体 名	1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業	2.スポーツ指導者等の育成・連携事業	3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業	4.新たな取り組み支援事業
1	岩手県障がい者スポーツ協会	●	●		●
2	宮城県障害者スポーツ協会	●			
3	京都障害者スポーツ振興会	●			
4	兵庫県障害者スポーツ協会	●	●		
5	和歌山県障害者スポーツ協会	●			
6	徳島県パラスポーツ協会			●	
7	大分県障がい者スポーツ協会	●			
8	熊本県障害者スポーツ・文化協会	●			
9	仙台市障害者スポーツ協会			●	
10	京都市障害者スポーツ協会	●		●	
11	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	●			●
		9	2	3	2

<JPSA登録パラスポーツ競技団体>

No.	団 体 名	1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業	2.スポーツの体験・継続事業	3.競技指導者・支援者育成事業	4.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業	5.新たな取り組み支援事業
12	日本ブラインドサッカー協会		●		●	
13	日本ボッチャ協会		●		●	
14	全日本柔道連盟	●			●	
15	日本パラ・パワーリフティング連盟	●				
16	日本パラ水泳連盟		●			
17	日本車いすバスケットボール連盟	●				
18	日本障害者スキー連盟		●	●		
19	日本車いすカーリング協会	●				
20	全日本グランドソフトボール連盟			●		
21	日本知的障がい者サッカー連盟			●		
22	日本アンプティサッカー協会		●			
23	日本セーリング連盟	●				
24	日本ソーシャルバスケットボール協会	●	●			
25	日本ソーシャルフットボール協会			●	●	
26	日本卓球バレー連盟	●	●	●		
27	日本バラダンススポーツ協会	●				
28	日本車椅子ソフトボール協会		●		●	
29	日本車椅子ハンドボール連盟	●				
30	全日本視覚障害者ボウリング協会		●			
		9	9	5	5	0

令和7年度地域におけるパラスポーツの振興事業 実施団体一覧

No.	団体名	受託回数	委託費(万円)	事業名 / 事業内容
1	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	9回目	127.5	パラスポーツ推進のためのロジックモデルを活かした地域拠点整備事業
				・パラスポーツ体験交流促進事業 ・インクルーシブスポーツ指導者養成事業 ・令和7年度障がい者スポーツ特別研修会
2	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会	8回目	171	宮城県パラスポーツ振興事業
				・発達障がい児のためのプール体験教室 ・パラスポーツ発掘プロジェクト ・宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会
3	一般社団法人京都障害者スポーツ振興会	初	127.5	京都府における障害者スポーツの振興事業
				・チャレンジ！パラスポーツ陸上競技体験会(北部会場) ・プールで楽しもう！(舞鶴会場) ・プールで楽しもう！(福知山会場) ・プールで楽しもう！(綾部会場)
4	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	10回目	160	繋げるパラスポーツ振興事業2025
				・バクライミングと他地域交流 ・精神障害者のスポーツ環境拡充 ・サウンドテーブルテニスヘチムアプローチ
5	和歌山県障害者スポーツ協会	9回目	190	紀の国パラスポ アクティベーションプロジェクト
				紀の国パラスポ アクティベーションプロジェクト
6	徳島県パラスポーツ協会	4回目	50	令和7年度 とくしまパラスポーツチーム支援プロジェクト事業
				・パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編 ・パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編
7	大分県障がい者スポーツ協会	3回目	170	持続的なスポーツ環境構築によるパラスポーツ普及促進
				・支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業 ・総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業
8	熊本県障害者スポーツ・文化協会	初	180.5	熊本県下地域ふれあいパラスポーツ体験会 (障がいのある人もない人も一緒にパラスポーツを楽しもう)
				・相良村・山江村ふれあいパラスポーツ体験会 ・美里町ふれあいパラスポーツ体験会 ・嘉島町ふれあいパラスポーツ体験会
9	一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会	初	41.65	「地域と育む障害者スポーツ推進事業」
				・ボッチャ普及事業 ・フロアバレーボール普及事業 ・サウンドテーブルテニス普及事業
10	公益財団法人京都市障害者スポーツ協会	2回目	110.5	パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト
				・スクエアボッチャ体験会 ・IDバスケットボール活動支援事業 ・IDソフトボール活動支援事業
11	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	3回目	142.5	障がい者のスポーツ参加推進事業
				・パラスポーツ推進事業 ～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～ ・障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業
12	特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会	3回目	190	ブラインドサッカー地域リーグ2025(北日本・中日本・西日本)
				・ブラインドサッカー北日本リーグ(仙台会場) ・ブラインドサッカー中日本リーグ(新潟会場) ・ブラインドサッカー中日本リーグ(静岡会場) ・ブラインドサッカー西日本リーグ(広島会場)
13	一般社団法人日本ボッチャ協会	4回目	190	地域スポーツ振興のための指導者等育成・都道府県協会(PF)支援事業 (Bチャレンジ2025 東日本・西日本・全国代表者会議・PF支援会議)
				・Bチャレンジ関東ブロック(東日本対象) ・Bチャレンジ近畿ブロック(西日本会員対象) ・全国代表者会議(各ブロック)
14	公益財団法人全日本柔道連盟	3回目	50	ID柔道(知的障がい者柔道)紹介事業
				・ID柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(千葉県) ・ID柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(茨城県) ・ID柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(神奈川県) ・ID柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(東京都)
15	特定非営利活動法人 日本パラ・パワーリフティング連盟	4回目	200	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会
				・筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in佐賀(他4会場)

16	一般社団法人日本パラ水泳連盟	4回目	200	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業
				日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業
17	一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟	3回目	200	普及発掘支援事業
				キッズ&ジュニアチームの創設(活動)支援プロジェクト
18	公益財団法人日本障害者スキー連盟	4回目	171	地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業
				・パラスキー・スノーボード体験教室事業 ・特別支援学校スキー体験事業 ・地域スキークラブ活動支援事業
19	一般社団法人日本車いすカーリング協会	2回目	161.5	車いすカーリングの体験会および、活動拠点の環境整備
				・地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント(大阪) ・地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント(東京)
20	社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合 全日本グランドソフトボール連盟	初	51	全日本グランドソフトボール連盟 審判養成研修事業
				審判養成研修会(宮崎県日向市会場)
21	特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟	2回目	200	JFFID地域活性化プロジェクト ～だれもがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～
				・JFFID地域活性化プロジェクト In 弘前 ・JFFID地域活性化プロジェクト In 八戸
22	特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会	2回目	133	アンプティサッカー普及プロジェクト
				Amputee soccer Challenge Camp 2025
23	公益財団法人日本セーリング連盟	3回目	140	パラセーリング普及推進事業
				パラセーリング普及推進事業
24	NPO法人 日本ソーシャルバスケットボール協会	4回目	180.5	精神障がい者バスケットボール推進事業 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026
				・エンジョイカップ2025 九州プレ大会 ・ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2025-2026 和歌山ラウンド(他6会場) ・ドリームカップ2025
25	特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会	3回目	150	ソーシャルフットボール全国キャラバン
				・ソーシャルフットボール 北東北キャラバン ・ソーシャルフットボール キャラバン in香川 四国 ・ソーシャルフットボール全国キャラバン 指導者養成研修会
26	日本卓球バレー連盟	3回目	200	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業
				・卓球バレー指導者・審判員養成講習会 ・卓球バレー体験教室 ・ブロック公認 卓球バレー交流大会
27	一般社団法人日本パラダンススポーツ協会	2回目	153	パラダンススポーツ体験会
				パラダンススポーツ体験会
28	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会	3回目	170	地域における車椅子ソフトボール振興事業
				・車椅子ソフトボール体験会 in 大分(他3会場) ・チーム設立支援(青森)
29	一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟	初	110	4ブロック4市における車いすハンドボール体験会、支援者(指導者・審判)講習会
				地域の場づくりに向けた車いすハンドボール体験・支援者養成イベント
30	一般社団法人 全日本視覚障害者ボウリング協会	2回目	171	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業
				視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業

Ⅲ まとめと今後の課題

今年度、30 団体により実施された事業について「1. 事業概要」、「2. 事業内容の特徴」、「3. 組織連携の取組み」、「4. JPSSA 登録 4 協議会との連携」、「5. 事業の成果と課題」の項目別に整理した。

1 各団体の実施事業の概要

各団体が実施した事業について、【実施内容】、【主な背景・課題】、【企画概要】で整理した。都道府県・政令指定都市パラスポーツ協会は、県市のスポーツ推進計画をベースに地域の現状や課題を捉えたうえで、適切な企画・実施がなされた。都道府県パラスポーツ指導者協議会、競技団体も、各組織におけるパラスポーツ振興の現状や課題を分析したうえで、その背景にそった事業の展開がなされた。

※各団体が申請した時点での内容を記載する

※各団体の実施内容には、事業区分を番号で示した。

(1)パラスポーツ協会【10 団体】、パラスポーツ指導者協議会【1 団体】

<事業区分>

- ①障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)
- ②スポーツ指導者等の育成・連携事業(指導者対象)
- ③競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)
- ④新たな取り組み支援事業(事業区分1～3 に該当しない事業)

◆一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

内容	①パラスポーツ体験交流促進事業 ②インクルーシブスポーツ指導者養成事業 ④令和 7 年度障がい者スポーツ特別研修会
背景	・地域の行政や関係者が受動的な関わりにとどまっている。 ・地域の主体的・持続的な取り組みへの転換が難しい。 ・地域が主体的な取り組みを実感できるようなステップが不足している。
企画	・スポーツへの参加を通じて、参加者や指導者が主体的に地域へ情報を発信する。 ・口コミやSNS等と行政広報を連動させて、情報の伝達状況を改善することを目指す。 ・参加者が楽しさを他者に伝えようとする意識を促し、スポーツ交流を加速させる。

◆一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会

内容	①発達障がい児のためのプール体験教室 ①パラスポーツ発掘プロジェクト ①宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会
背景	・仙台市を中心とした地域では一見スポーツが普及しているように見えるが、実際は市外ではまだ十分に普及していない。 ・仙台近郊の市町村では、仙台市でのイベントに頼る傾向があり、自地域での普及活動には消極的な面がある。
企画	・各地域で体験教室等を実施し、障害者がよりスポーツに親しみやすい環境を作る。 ・地域指導員等へのレクチャーを行い、関係者主導で継続開催できる体制を築く。 ・各市町村が独自に事業化できる体制を構築するきっかけを作ることを目指す。

◆一般社団法人京都障害者スポーツ振興会

内容	①チャレンジ！パラスポーツ陸上競技体験会(北部会場) ①プールで楽しもう！(舞鶴会場) ①プールで楽しもう！(福知山会場) ①プールで楽しもう！(綾部会場)
背景	・行政の補助金・助成金の削減により、事業の継続が困難である。 ・高齢化・人口減少・コロナ禍の影響でスポーツ離れが進行している。 ・特に京都府北部はスポーツ資源が少なく、活動の機会が不足している。
企画	・北部地域で陸上競技の体験機会を拡大し、身近な場所で関われる機会を増やす。 ・民間プールの協力を得て、障害者が水遊びや水泳に取り組める環境を創出する。 ・地域において障害者が利用できる場づくりと、それを支える人づくりを進める。

◆公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

内容	①パラクライミングと他地域交流 ①精神障害者のスポーツ環境拡充 ②サウンドテーブルテニスヘチームアプローチ
背景	・パラスポーツ競技全体における選手の減少と高齢化が深刻である。 ・新規競技の取組みは評価されたものの、十分な成果に至っていない。 ・精神障害者へのスポーツ振興において、関係団体との関係構築はできたが、支援の体制や内容がまだ十分とは言えない。
企画	・前年度の事業を継続し、民間施設の活用で新たなパラスポーツ環境を周知する。 ・地域や関係団体との連携を深め、パラスポーツの需要を考究し協働体制を築く。 ・隣府県との交流を図り、参加者や指導者、支援者に好影響を与える取組を行う。

◆和歌山県障害者スポーツ協会

内容	①紀の国パラスポ アクティベーションプロジェクト
背景	・協会内で専任職員が不足しており、組織としての経験蓄積が難しい。 ・支援学校を拠点とする試みが1校のみにとどまり、地域拠点化が進んでいない。 ・地方部ではパラスポーツの認知度が低く、活動場所も限られている。
企画	・パラスポーツの認知度を高めて、スポーツ教室への参加と運動実施率向上を狙う。 ・イベント型教室等で活動拠点を拡大し、認知度向上と拠点創出の好循環を作る。 ・市町村や関係者と連携して安定的な場所を確保し、日常的な活動環境を整える。

◆徳島県パラスポーツ協会

内容	③パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編 ③パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編
背景	・徳島県内に知的バレーボールの既存チームが存在しない。 ・フットソフトボールについても、連携体制や選手基盤が未整備。 ・支援学校・支援学級・施設との連携がこれからであり、確立されたネットワークがない状態である。
企画	・支援学校や施設等での選手発掘を進め、存続可能なチームづくりと連携を構築する。 ・競技の選択肢を増やすことで選手発掘を促し、継続的に活動できる土台を固める。 ・チーム活動を通じた社会参加の場をつくり、生活の質の向上と目標達成を支える。

◆大分県障がい者スポーツ協会

内容	①支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業 ①総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業
背景	・日常的に障がい者がスポーツに取り組める環境の整備ができていない。 ・結果として、障がい者の社会参加支援が不十分である。
企画	・体験会の開催により、どのような競技があるかを知ってもらう機会を拡大させる。 ・障害者がスポーツをしたい時に、いつでも取り組める環境づくりを多角的に進める。 ・様々な分野の関係者と協力体制を構築し、持続可能なスポーツ環境の確立を図る。

◆熊本県障害者スポーツ・文化協会

内容	①相良村・山江村ふれあいパラスポーツ体験会 ①美里町ふれあいパラスポーツ体験会 ①嘉島町ふれあいパラスポーツ体験会
背景	・熊本県内にある 67 の総合型スポーツクラブのうち、障がい者が加入しているのはわずか 3 クラブである。 ・地域における障がい者のスポーツ活動の「場所」と「施設」が不足している。 ・指導員の不足が障がい者スポーツ活動の大きな障壁となっている。 ・障がい者の地域との関わりが希薄であり、孤立傾向が顕著である。
企画	・様々な専門職が連携し、健常者と共にパラスポーツを楽しむ基礎を地域で固める。 ・実行委員が自身の役割を認識し、共生社会を支える人づくりを最優先に進める。 ・幼少期から競技に触れる環境を整えて、障がい者への理解と社会参加の促進を狙う。

◆一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会

内容	③ボッチャ普及事業 ③フロアバレーボール普及事業 ③サウンドテーブルテニス普及事業
背景	・障害者スポーツの独自種目(例:ボッチャ、フロアバレー)の普及が進んでいない。 ・競技人口が減少傾向にある。 ・専門指導者の確保が難しい。
企画	・独自種目の広報や体験会を定期開催し、競技の認知度を高めることを目指す。 ・専門指導者を育成するための講習会を実施し、競技環境の整備と再構築を図る。 ・大会や交流を確立し、継続的な場の創出やクラブ設立、コミュニティ形成を狙う。

◆公益財団法人京都市障害者スポーツ協会

内容	①スクエアボッチャ体験会 ③ID バasketボール活動支援事業 ③ID ソフトボール活動支援事業
背景	・障害のある人が身近な地域でスポーツに親しめる環境が十分でない。 ・スクエアボッチャ体験会は盛況だったが、活動の定着には至っていない。 ・指導スタッフの体制が整っていない。
企画	・地域の施設を会場とし、拠点の施設へ足を運ぶのが困難な人の参加環境を整える。 ・身体障害者団体等と連携し、スクエアボッチャを通じてスポーツへの参加を促す。 ・地域指導員が障害者を積極的に受け入れ、いつでも気軽に楽しめる体制を築く。

◆宮城県障害者スポーツ指導者協議会

内容	①パラスポーツ推進事業 ～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～ ④障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業
背景	・仙台、広域仙台北、県北の3支部では、ほとんど活動が行われていない。 ・各支部長が本業の合間に活動しており、十分な支部運営が困難である。 ・活動が滞っている地域でも、現場に出てくる指導員はいるが、活動に結びついていない。
企画	・障害当事者のスポーツ参加を軸に体験会を実施し、短期型教室へ発展をさせる。 ・地域指導員と連携し、障害者を継続的に受け入れるための活動の場を構築する。 ・事業所での出前教室等を通じて、より多くの当事者がスポーツに親しむ機会を作る。

(2)パラスポーツ競技団体【19 団体】

<事業区分>

- ①障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)
- ②スポーツの体験・継続事業(障がい者対象)※新たな教室・大会等の開催含む
- ③競技指導者・支援者育成事業(指導者対象)
- ④競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)
- ⑤新たな取り組み支援事業(事業区分1～4 に該当しない事業)

◆特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会

内容	②ブラインドサッカー北日本リーグ(仙台会場) ②ブラインドサッカー中日本リーグ(新潟会場) ②ブラインドサッカー中日本リーグ(静岡会場) ②ブラインドサッカー西日本リーグ(広島会場)
背景	・コロナ禍により、大会辞退や参加不安定が多発し、開催自体が困難である。 ・中央競技団体主導による運営が負担過多で、地域独自の発展や試合外の取り組みが困難である。 ・地域住民の巻き込みや観客動員が中央団体のみでは限界で、地域浸透に課題がある。
企画	・大会運営のノウハウを地域に伝え、クラブチームが主体となって大会を開催する。 ・地域のステークホルダーを巻き込み、視覚障害者が社会と繋がる活動基盤を作る。 ・体験イベントを通じて新規選手を発掘し、競技が未定着な地域への普及活動を行う。

◆一般社団法人日本ボッチャ協会

内容	②B チャレンジ関東ブロック(東日本対象) ②B チャレンジ近畿ブロック(西日本会員対象) ④全国代表者会議(各ブロック)
背景	・地域協会の組織基盤が脆弱で、地域間の格差が顕著である。 ・競技役員や企画運営人材が不足しており、大会開催体制が不十分である。
企画	・研修会の開催を通じて指導者や競技役員などの人材を育成し、地域での格差解消を図る。 ・全日本選手権の予選敗退者を対象とした模擬試合を行い、選手の競技機会の増加を狙う。 ・代表者会議やブロック会議を設置し、地域内の連携強化と組織の基盤固めを推進する。

◆公益財団法人全日本柔道連盟

内容	①ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(千葉県) ①ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(茨城県) ①ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(神奈川県) ①ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業・体験会(東京都)
背景	・参加都道府県は 20 県にとどまり、半数以上の県が未参加である。 ・参加者数の地域的な偏りが見られる。 ・保護者の中には、柔道を危険と認識し、抵抗を感じている人もいる。
企画	・知的障がい者や保護者に、柔道の安全性を周知することで新規競技者の獲得を目指す。 ・安全な特別規程を周知し、怪我への不安を解消することで競技の裾野を広げる。 ・指導者に競技ルールへの理解を促し、地域における柔道の受け入れ先をさらに拡大する。

◆特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

内容	①筋肉でつながろう!パラ・パワーリフティング研修会&体験会 in 佐賀 ①筋肉でつながろう!パラ・パワーリフティング研修会&体験会 in 四国 ①筋肉でつながろう!パラ・パワーリフティング研修会&体験会 in 大阪 ①筋肉でつながろう!パラ・パワーリフティング研修会&体験会 in 鳥取 ①筋肉でつながろう!パラ・パワーリフティング研修会&体験会 in 山口
背景	・パラ・パワーリフティングの地域連盟が非常に少ない(岡山・兵庫のみ)。 ・日本連盟への依存が高く、地域での自立した活動が困難である。 ・未開拓地域が多く存在している。
企画	・研修会や体験会を実施して、選手やコーチ、スタッフとなる新たな人材を発掘する。 ・地域のパラスポーツ協会等と連携を強め、地域に眠る逸材を連盟へ繋ぐ体制を築く。 ・「筋肉」を合言葉に多様な人と繋がり、各地域で日常的に練習できる拠点を作る。

◆一般社団法人日本パラ水泳連盟

内容	②日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業
背景	・パリ 2024 パラリンピックの報道露出が少ないため、一般認知が進みにくい。 ・地方では依然として障がいに関するルール理解が不足しており、具体的な対応方法への問い合わせが多い。
企画	・健常者がパラ水泳記録会に参加する機会を作り、相互理解と交流の場を創出する。 ・インクルーシブな大会の普及を通じて、障害の有無に関わらず共に輝く社会を作る。 ・通信記録会へのポイント制導入により、地域における記録会の活性化と魅力を高める。

◆一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟

内容	①キッズ&ジュニアチームの創設(活動)支援プロジェクト
背景	・ジュニア世代の選手が少ない。 ・練習場所の確保が困難である。 ・選手の送迎や大会の機会が不足、さらに指導者・スタッフの人材も不足している。
企画	・ジュニアチームの運営を資金面で援助し、子どもたちが気軽に参加できる環境を作る。 ・競技備品の購入や指導者への謝礼を支援し、チーム運営の安定と人材確保を図る。 ・全国のジュニア世代の競技人口を増やし、競技全体の底上げと発展に繋げていく。

◆公益財団法人日本障害者スキー連盟

内容	②パラスキー・スノーボード体験教室事業 ②特別支援学校スキー体験事業 ③地域スキークラブ活動支援事業
背景	・パラスキーは「気軽にできるスポーツ」ではなく、用具・場所・指導者の制約が大きい。 ・障がい者が日常的に練習・体験できる環境や地域との連携体制が整っていない。
企画	・障害者が参加しやすい環境で体験会を開催し、雪上を滑る機会を増やして継続者を募る。 ・3年後には初心者向けの競技大会へ参加者を輩出し、競技力の向上と定着化を目指す。 ・地域と連携してクラブ活動やスキー場での指導を行い、日常的に取り組める環境を作る。

◆一般社団法人日本車いすカーリング協会

内容	①地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント(大阪) ①地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント(東京)
背景	・指導者・ボランティアの人材不足:地域主体での継続的活動に必要な人材が圧倒的に不足している。 ・関東圏での体験機会の欠如:これまでは最も近い会場が長野県であり、都内在住者にとって継続的な参加が困難だった。
企画	・都市部で体験機会を創出し、パラスポーツの裾野拡大と競技人口増加の基盤を作る。 ・都内近郊の車いす利用者が氷上スポーツを体験できる、限定的な課題の解決を図る。 ・都市型パラスポーツの普及モデルを構築し、年間を通じた持続的な活動を目指す。

◆社会福祉法人日本視覚障害者団体連合全日本グランドソフトボール連盟

内容	③審判養成研修会(宮崎県日向市会場)
背景	・審判員が不足している地域が多く、選手の活動が制限されている。 ・宮崎県には選手が少なく、公認の審判員がいない。
企画	・体験会や練習会を通じて若年層の参加を促し、地域における競技人口の拡大を図る。 ・審判員やコーチなどの運営人材を養成し、競技全体の質と安全性の向上を目指す。 ・地域住民の支援体制を構築し、宮崎県内での競技の定着と全国への波及を狙う。

◆特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟

内容	③JFFID 地域活性化プロジェクト In 弘前 ③JFFID 地域活性化プロジェクト In 八戸
背景	・人材不足やノウハウ不足により、担当者の配置が難航している。 ・地域によっては組織体制が脆弱または統括組織自体が未整備である。 ・地域の需要に対応した環境整備や情報把握が進んでいない地域が存在している。
企画	・地域での組織化が困難な場所へ直接出向き、担当者の発掘と体制の構築を支援する。 ・外部団体との関係性を築き、地域で継続して事業を遂行できる環境作りを促進する。 ・全国での連携を強化し、知的障がい児者がいつでもサッカーを楽しめる場を整える。

◆特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会

内容	②Amputee soccer Challenge Camp 2025
背景	・男女問わず競技人口がまだ十分とは言えない。 ・ユース世代の選手発掘が進んでいない。 ・地方において定期的な活動環境が整っておらず、参加・継続が困難な状況である。
企画	・活発な広報と体験会により、競技を知らない層へ初めて競技に触れる機会を作る。 ・チームがない地域でコミュニティを形成し、競技を継続できる環境整備を進める。 ・地域の関連団体と連携し、情報提供や周知活動における支援者の確保を推進する。

◆公益財団法人日本セーリング連盟

内容	①パラセーリング普及推進事業
背景	・視覚障害者、聴覚障害者など多様な障害に対応した体験機会が不足している。 ・各地での体験会が継続的に実施されていない。 ・地域や他団体との連携体制が十分に構築されていない。
企画	・各地にパラセーリングを体験できる場を創出し、競技の認知度と普及を促進する。 ・家族にも理解を深めてもらう場を作り、多種の障害者が継続参加できる環境を整える。 ・競技の安全性や魅力を広く周知し、世界大会を目指す将来の選手を発掘・育成する。

◆NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会

内容	①ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2025-2026 群馬ラウンド ①ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2025-2026 堺ラウンド ①ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 奈良ラウンド ①ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 東京ラウンド ①ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 岐阜ラウンド ①ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 福岡ラウンド ①ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 沖縄ラウンド ②エンジョイカップ 2025 九州プレ大会 ②ドリームカップ 2025
背景	・認知度が十分ではない。 ・当事者や家族からのニーズ(やりたい・チームを探している)に応えきれていない。 ・支援者の中には精神障がい者のバスケットボールに対してイメージが持てず、敬遠してしまう。
企画	・認知度が低い競技について地方での交流会を開催し、直接体験する機会を創出する。 ・協力団体との連携やオンラインセミナーを通じ、現地で活動を支える支援者を募る。 ・九州等のブロック化を推進し、当事者がいつでも競技を楽しめる環境を整える。

◆NPO 法人日本ソーシャルフットボール協会

内容	④ソーシャルフットボール 北東北キャラバン ④ソーシャルフットボール キャラバン in 香川 四国 ③ソーシャルフットボール全国キャラバン 指導者養成研修会
背景	・経済的制約と人手不足により地域支援・コミュニケーションが不十分である。 ・コロナ禍以降、一部の県では活動が停滞している。 ・現地スタッフは少数で、地域全体への普及には至っていない。
企画	・選手育成や潜在的ニーズを持つ選手の発掘を行い、全国でのチーム発足を促進する。 ・地域内の支援者ネットワークを構築し、施設や団体、企業との連携のきっかけを作る。 ・運営ノウハウや普及方法を提供し、各地域で継続的に活動できる体制を整備する。

◆日本卓球バレー連盟

内容	③卓球バレー指導者・審判員養成講習会 ①卓球バレー体験教室 ②ブロック公認 卓球バレー交流大会
背景	・競技の特性に詳しい指導者が不足しており、継続的な普及や競技発展に繋がっていない。 ・資金・人材の不足により、全国的な活動が思うように進んでいない。 ・大会時にルール解釈の違いによる混乱が発生しており、選手から不満の声が上がっている。
企画	・未普及地域で講習会や体験会を継続し、指導者の育成と活動拠点の確保を推進する。 ・正しいルールの理解と審判技術の統一を図り、公平で質の高い競技環境を整備する。 ・重度障害者のスポーツ参加課題を解決し、地域での活動定着と共生社会を実現する。

◆一般社団法人日本パラダンススポーツ協会

内容	①パラダンススポーツ体験会
背景	・指導者が関東圏にしかおらず、全国的な普及が進んでいない。 ・専門指導者が不在の地域では、競技を始めたくても始められない状況である。 ・競技用車いすを全国に配置しても、指導者がいないため活用できていない。 ・体験会を通じてニーズは確認できたが、継続的な取り組みにつなげていない。
企画	・地域団体と連携した体験会を開催し、当事者だけでなくサポーターの育成を進める。 ・継続活動の希望がある地域で現地との連携を密にし、自律的な普及体制を構築する。 ・教育機関との協力を強化して若年層へ普及を図り、持続可能な活動基盤を確立する。

◆一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会

内容	②車椅子ソフトボール体験会 in 大分 ②車椅子ソフトボール体験会 in 大阪 ②車椅子ソフトボール体験会 in 岩手 ②車椅子ソフトボール体験会 in 広島 ②車椅子ソフトボール体験会 in 千葉 ④チーム設立支援(青森)
背景	・地方では競技人口が少ない。 ・地方では車椅子やグラウンドなど競技環境が整っていない。 ・結果として、車椅子ソフトボールに触れる機会が地方で不足している。
企画	・競技の魅力を発信して体験会を行い、新たな競技者や協力者の発掘と獲得を狙う。 ・体験会を通じて地域住民との交流を深め、地域内でのコミュニティ形成を促進する。 ・障がい者スポーツへの理解を地域で広め、日常的に競技を楽しめる環境を構築する。

◆一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟

内容	①地域場の場づくりに向けた車いすハンドボール体験・支援者養成イベント
背景	車いすハンドボールの普及地域と未普及地域との格差が大きい
企画	・各地域で拠点となる場を作り、支援者や指導者などの人材育成を急務として進める。 ・自治体や関係団体と連携し、地域全体でパラスポーツを振興する体制を構築する。 ・未普及地域を開拓し、誰もが日常的に競技を楽しめる共生社会の実現を目指す。

◆一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会

内容	②視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業
背景	・視覚障害者がボウリングに挑戦しようとしても、支援者・指導者が見つからない。 ・支援者・指導者が見つからない原因として、視覚障害者がどのようにボウリングを行うかが広く知られていない。
企画	・各地域で指導者や支援者の養成講習会を開催し、普及活動を支える人材を育成する。 ・指導者を増やすことで潜在的な選手を発掘し、将来的に選手数を大きく増加させる。 ・視覚障害者の社会参加や健康増進を図り、国際大会で活躍できる選手を輩出する。

2. 事業内容の特徴

地域・団体の課題や特性に応じた様々な取り組みがみられた。申請時の事業区分ごとに事業内容を整理し、県協会・県指導協と競技団体に分けて特徴をまとめる。

事業区分ごとの申請事業数と割合

事業区分	協会・指導協	競技団体
障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)	①18(62%)	①23(44%)
スポーツ指導者等の育成・連携事業(指導者対象)※協会・指導協のみ	②2(7%)	
スポーツの体験・継続事業(障がい者対象)※競技団体のみ	-	②19(37%)
競技指導者・支援者育成事業(指導者対象)※競技団体のみ	-	③4(8%)
競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)	③7(24%)	④6(12%)
新たな取り組み支援事業	④2(7%)	⑤0
合計	29事業 (11団体)	52事業 (21団体)

※各受託団体が申請した事業区分および申請事業数で算出(一部、申請時と報告時で内容変更したものも含まれる)

※各割合は、小数点以下切り捨て

※数値の前の番号は、事業区分番号

【協会・指導協】

受託 11 団体のうち 9 団体が、「障がいのある人の活動拠点の拡大・支援」を狙いとした事業を企画した。その割合が全事業の約 6 割を超えたのは、前年度と同じ傾向となった。主な取り組みは、地域の普及状況に合わせた競技選定による「体験会」形式の企画であり、スポーツの裾野を広げる場づくりに注力していることが伺える。

なお、指導者の育成区分が 2 事業と少ないが、近年取り組みが増えている「場づくり」と「人材の育成」がセットで取り組まれていることにより、表面化されていないことが企画内容からはみてとれる。地域の行政、福祉、教育機関、民間施設と多角的に連携し、場づくりと人づくりを両輪で進められていることが最大の特徴といえる。

【競技団体】

「障がいのある人の活動拠点の拡大・支援事業」が最多の 44%を占めたが、前年度の 16%から約 3 倍に増加した。受託団体によっては、同種の企画でありながら別会場で行う事業を個別にカウントしている影響もあるが、県協会・指導協同様、地域振興の土台となる「場づくり」が意識されていることが伺える。

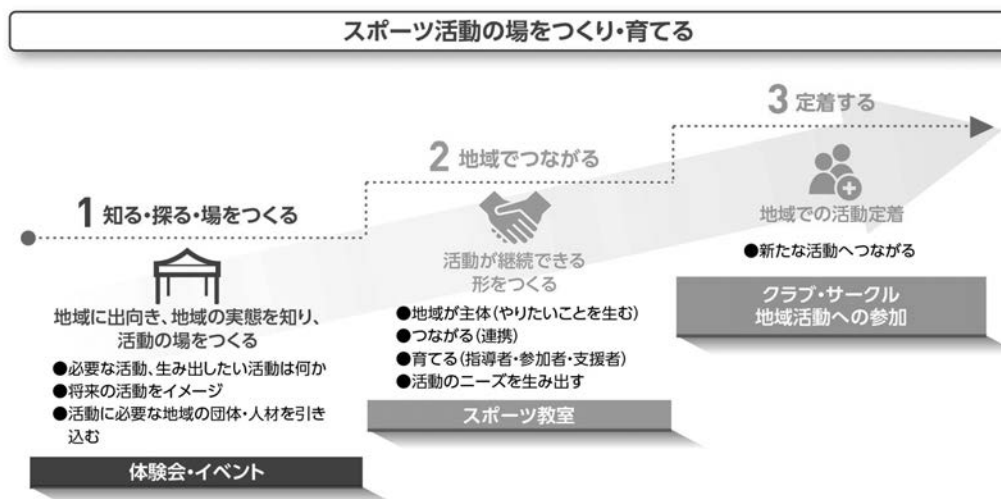
一方、前年度 54%と最多だった「スポーツの体験・継続事業」が 37%と減少した。これは、パラスポーツに新たに取り組む障がい者のスポーツ体験事業の区分であるが、この区分よりも、パラスポーツ協会や指導者協議会との地域組織との連携を見据えた「場づくり」が多く企画される傾向となった。

JPSA では、障がいのある人のスポーツ活動の定着に向けた地域スポーツ振興の展開モデルとして、以下のステップを掲げている。近年の傾向として、協会・指導協、競技団体ともに、組織連携を意識した「場をつくる」企画が大半を占める。一方で、前年度より「体制づくり」を目的にした事業が増えていることも興味深い。受託団体共通で、「地域間格差の解消」や「持続可能な活動基盤の構築」が課題としてあげられるが、単発の事業ではなく、場づくりを土台に、地域での継続的な活動を意識され、関係団体とのつながりを深めていく「自立した活動」に向けた道筋が描けてきているともいえるだろう。

地域でのスポーツ活動拡充のイメージ

地域のパラスポーツ振興は、まず地域の実情を把握し、必要な活動・つくりたい活動のイメージをもった計画的なアプローチが求められます。

例えば、未普及の地域で活動の場をつくる初期段階では、体験会やイベントを通して地域の実態を把握し(ステップ1)、その後、地域とともに定期的な活動(スポーツ教室など)を通して継続を図る活動を模索(ステップ2)。さらに、スポーツの日常化に向けた地域で自立したクラブ・サークル化(ステップ3)が一つの道筋といえるでしょう。3年後、5年後の地域活動のイメージをもって取り組むことも振興のポイントとなります。



3 組織連携の取り組み

地域での活動定着に欠かせない各種団体との組織連携の実績を次の一覧表で示す。

【協会・指導協】

連携先カテゴリー		行政	パラスポーツ (JPSA4協議会)				教育			スポーツ				専門分野		
受託団体名	事業名	行政	協会	指導者協議会	パラスポセン	パラ競技団体	学校（小中高特）	専門短大大学	その他教育機関	総合型クラブ	一般競技団体	地域クラブ	プロスポーツ団体	病院	福祉関係機関	民間企業
岩手県障がい者スポーツ協会	パラスポーツ体験交流促進事業	○	-	○	○		○	○	○	○		○		○	○	
	インクルーシブスポーツ指導者養成事業		-	○			○					○				○
	令和7年度障がい者スポーツ特別研修会	○	-	○	○		○								○	
宮城県障害者スポーツ協会	発達障がい児のためのプール体験教室		-	○			○	○			○				○	○
	パラスポーツ発掘プロジェクト		-	○								○				
	宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会		-	○			○		○			○				
京都障害者スポーツ振興会	チャレンジ！パラスポーツ陸上競技体験会（北部会場）	○	-	○			○	○	○		○				○	
	プールで楽しもう！（舞鶴会場）	○	-	○			○	○	○		○			○	○	○
	プールで楽しもう！（福知山会場）	○	-	○			○	○	○		○				○	○
	プールで楽しもう！（綾部会場）	○	-	○			○	○	○		○				○	○
兵庫県障害者スポーツ協会	サウンドテーブルテニスヘチームアプローチ	○	-	○			○			○	○	○			○	○
	精神障害者のスポーツ環境拡充		-	○										○	○	
	パラクライミングと他地域交流		-	○	○				○						○	
和歌山県障害者スポーツ協会	紀の国パラスポ 活動の場作り（①パラスポ Meet・スポーツ教室開催事業、②イベント型教室・出前教室開催事業）	○	-	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
徳島県パラスポーツ協会	パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編	○	-				○		○	○	○				○	
	パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編	○	-				○		○	○					○	
大分県障がい者スポーツ協会	支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業		-	○		○	○		○		○	○				
	総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業		-	○		○	○			○						
熊本県障害者スポーツ・文化協会	嘉島町ふれあいパラスポーツ体験	○	-	○		○	○			○		○			○	○
	西地区ふれあいパラスポーツ体験	○	-	○	○	○				○	○	○		○	○	
仙台市障害者スポーツ協会	フロアバレーボール普及事業		-	○		○	○									
	サウンドテーブルテニス普及事業		-	○		○										
京都市障害者スポーツ協会	スクエアボッチャ体験会	○	-	○											○	
	IDバスケットボール活動支援事業 ～全スポ出場を目指して～		-	○			○					○				
	IDソフトボール活動支援事業 ～全スポ出場を目指して～		-				○					○				
宮城県障害者スポーツ指導者協議会	パラスポーツ推進事業 ～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～		-	○				○						○		
	障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業	○	-	○												
合計		14	-	24	4	7	19	7	11	8	10	11	1	6	16	8

【競技団体】

連携先カテゴリー		行政	パラスポーツ (JPSA4協議会)				教育			スポーツ				専門分野		
受託団体名	事業名	行政	協会	指導者協議会	パラスポーツ	パラ競技団体	学校（小中高特）	専門短大	その他教育機関	総合型クラブ	一般競技団体	地域クラブ	プロスポーツ団体	病院	福祉関係機関	民間企業
日本ブラインドサッカー協会	ブラインドサッカー北日本リーグ（仙台会場）	○					○					○				○
	ブラインドサッカー中日本リーグ（新潟会場）	○	○						○			○	○			
	ブラインドサッカー西日本リーグ（広島会場）	○							○							
	ブラインドサッカー中日本リーグ（静岡会場）	○	○													
日本ボッチャ協会	Bチャレンジ関東ブロック（東日本対象）				○											
	Bチャレンジ近畿ブロック（西日本対象）							○								
	全国代表者会議（各ブロック）	○														○
全日本柔道連盟	ID柔道紹介事業（茨城県）	○	○	○			○	○	○		○	○			○	
	ID柔道紹介事業（神奈川県）				○					○		○			○	
	ID柔道紹介事業（滋賀県）	○	○				○		○		○	○			○	
	ID柔道紹介事業（千葉県）	○									○	○			○	
日本パラ・パワーリフティング連盟	筋肉でつながろう！パラパワーリフティング研修会&体験会in佐賀	○	○	○	○	○		○	○					○		
	筋肉でつながろう！パラパワーリフティング研修会&体験会in香川	○	○	○	○	○	○	○	○					○		
	筋肉でつながろう！パラパワーリフティング研修会&体験会in大阪	○			○	○										
	筋肉でつながろう！パラパワーリフティング研修会&体験会in鳥取	○	○	○	○	○		○			○	○			○	
	筋肉でつながろう！パラパワーリフティング研修会&体験会in山口	○	○	○	○	○						○			○	
日本パラ水泳連盟	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業	○	○	○		○		○			○				○	○
日本車いすバスケットボール連盟	キッズ&ジュニアチームの創設（活動）支援プロジェクト	○				○		○				○				
日本障害者スキー連盟	パラスキー・スノーボード体験教室事業					○										
	特別支援学校スキー体験事業	○			○		○									
	地域スキークラブ活動支援事業							○				○				
日本車いすカーリング協会	地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント（東京）	○		○	○				○		○			○		
	地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント（栃木）	○		○							○	○			○	○
全日本グランドソフトボール連盟	みやざきにおけるグランドソフトボール競技の選手・審判養成事業「プレイ&ジャッジ育成プロジェクト」	○	○				○		○		○	○				
日本知的障がい者サッカー連盟	JFFID地域活性化プロジェクトin青森（青森市、八戸市）	○	○			○	○	○	○			○	○		○	
	フォローアップ事業 IDサッカー教室						○						○			
日本アンプティサッカー協会	Amputee soccer Challenge Camp 2025	○	○		○							○				
日本セーリング連盟	パラセーリング普及推進事業		○	○			○		○		○	○			○	○
日本ソーシャルバスケットボール協会	群馬ラウンド	○				○		○	○		○	○	○	○	○	
	堺ラウンド		○	○	○							○			○	
	奈良ラウンド		○	○		○								○	○	
	東京ラウンド		○		○			○	○			○			○	○
	岐阜ラウンド		○					○			○	○				
	福岡ラウンド	○	○		○	○		○						○	○	
	沖縄ラウンド		○		○			○								

日本ソーシャルバスケットボール協会	エンジョイカップ2025九州ブレ大会									○			○	○		
	ドリームカップ2025	○	○			○		○	○				○	○	○	
日本ソーシャルフットボール協会	ソーシャルフットボール 北東北キャラバン					○								○	○	
	ソーシャルフットボールキャラバンin香川/四国		○								○			○	○	
	ソーシャルフットボール指導者養成研修会		○			○			○		○			○	○	
	東北地区交流大会										○			○	○	
日本卓球バレー連盟	卓球バレー指導者・審判員養成講習会		○	○	○			○		○		○			○	
	卓球バレー体験教室		○	○	○			○		○		○			○	
	ブロック公認 卓球バレー交流大会	○	○	○	○			○		○		○			○	
日本パラダンススポーツ協会	パラダンススポーツ体験会		○	○		○	○					○				
日本車椅子ソフトボール協会	車椅子ソフトボール体験会 in 新潟							○								
	車椅子ソフトボール体験会 in 大阪	○					○									
	車椅子ソフトボール体験会 in 岩手							○								
	車椅子ソフトボール体験会 in 広島													○	○	
	チーム設立支援(青森)	○	○					○								
	車椅子ソフトボール体験会 in 千葉							○								
日本車椅子ハンドボール連盟	4ブロック4市における車いすハンドボール体験会、支援者(指導者・審判)講習会	○	○					○	○	○	○	○	○		○	
全日本視覚障害者ボウリング協会	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業		○	○							○				○	
合計		28	29	16	17	16	11	23	15	6	16	24	7	13	26	6

4 JPSA 登録 4 協議会との連携

本事業においては、地域のパラスポーツ指導員の活用が狙いの一つであるが、指導者協議会との連携は、近年の傾向同様、協会事業では約 9 割に対して、競技団体事業では約 3 割にとどまった。しかしながら、以下に事例としてあげるパラダンススポーツ協会の取り組みに代表されるとおり、競技団体が開催地の指導者協議会と連携することによる効果が着実に蓄積されてきており、今後の連携促進が一層期待される。

また、今年度はやや低調であったが、協会・指導者協議会と競技団体との相互連携の土台が築き始められており、事業企画時の連携の意識が芽生えている。

なお、毎年 2 月下旬に、受託団体が一堂に会している「事業報告会」でつながった人脈をきっかけに生み出された事業もみられた。本事業は、JPSA「4 協議会」間の横のつながりを深めていくことも重要な目的である。本事業をとおして、連携により各団体の地域活動がますます活発化されており、今後の連携促進が期待される。

<組織連携の好事例>

実施団体	一般社団法人日本パラダンススポーツ協会(2 回目の受託)
事業内容	「パラダンススポーツ体験会」 ・内容: 全国 5 か所(北海道、千葉県、岡山県、広島県、福岡県)で計 8 回実施。 ・参加者: 車いす利用者や教員等、延べ176名が参加し、パラスポーツ指導員17名が運営を支援した。
課題 ↓ 本事業の目的	・専門指導者が不在の地域では、競技を始めたくても始められない状況である。 ・競技用車いすを全国に配置しても、指導者がいないため活用できていない。 ・そもそも車いすがない。 ・体験会を通じてニーズは確認できたが、継続的な取り組みにつなげていない。 ↓ ・地域が主体となって継続できる他県の間をつくる。 指導者の発掘・育成、地域団体との連携による課題解決
主な連携団体 と内容	〈北海道会場で実施した際の連携団体〉 ○道南地区パラスポーツ指導者協議会…指導者協議会 ○車いすバスケットボールクラブ「ハダース」…地域クラブ 高額な競技用車いすの運搬費を削減するため、指導者協議会事務局長の提案により、地元クラブから車いすバスケットボール用車いすを借用し、運搬面での協力体制を構築した。 〈岡山会場で実施した際の連携団体〉 ○パラ・パワーリフティング連盟…パラスポーツ競技団体 ○芥子山小学校…学校 競技団体からの紹介をきっかけに小学校での開催が実現した。児童や教員、当事者の児童を含む 130 名以上を対象とした、教育現場における大規模な普及活動を展開した。
ポイント	北海道では、地元指導者協議会との連携により車いすを借用したことで運搬費を大幅に削減し、その余剰予算で広島県や福岡県での追加開催が実現した。また、地域のパラスポーツ指導員が技術を習得したことで、将来の自立した練習環境の基盤が築かれた。他競技団体との交流は、地域とのスムーズな連携や競技理解の向上、教育機関への普及体制構築に大きく寄与した。

5 事業の成果と課題

各受託団体の報告書から得られた事業ごとの成果を表で示す(成果項目は全団体共通の指標)。事業内容によって、企画時に目標として設定した成果指標は異なるが、成果は多岐にわたることから、得られた成果から次の通り考察する。

【協会・指導協】

		活動の場づくり								人材の育成								体制づくり								選手発掘・育成							
受託団体名	事業名	初めての当事者へ	新たな活動機会	地域特性・資源の活用	地域で継続		パラスポーツ指導者の活用	事業の担い手養成	養成・育成後の実践機会の創出	キーマンの発掘・育成	関係団体との連携	地域の担い手となる人材との連携	定着・継続できる体制整備	地域拠点の設置	新たな当事者の参加	クラブ等への登録	練習環境の充実	地域と連携した発掘・育成															
		申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後														
岩手県 障がい者スポーツ協会	パラスポーツ体験交流促進事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○																			
	インクルーシブスポーツ指導者養成事業	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○																		
	令和7年度障がい者スポーツ特別研修会	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○																		
宮城県 障害者スポーツ協会	発達障がい児のためのプール体験教室	○	○	○	○				○	○	○	○				○	○										○	○					
	パラスポーツ発掘プロジェクト	○	○						○	○				○		○	○																
	宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会	○	○			○	○		○	○	○			○	○		○	○															
京都府 障害者スポーツ振興会	チャレンジ！パラスポーツ陸上競技体験会(北部会場)	○	○	○	○				○	○	○	○				○	○																
	プールで楽しもう！（舞鶴会場）	○	○	○	○				○	○	○	○				○	○																
	プールで楽しもう！（福知山会場）	○	○	○	○				○	○	○	○				○	○																
	プールで楽しもう！（綾部会場）	○	○	○	○				○	○	○					○	○																
兵庫県 障害者スポーツ協会	サウンドテーブルテニスヘチームアプローチ	○		○		○			○		○		○		○			○								○							
	精神障害者のスポーツ環境拡充		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○																		
	パラクライミングと他地域交流	○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○		○	○	○					
和歌山県 障害者スポーツ協会	紀の国パラスポ 活動の場作り(①パラスポMeet・スポーツ教室開催事業、②イベント型教室・出前教室開催事業)	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○																		
徳島県 パラスポーツ協会	パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○									○	○	○	○				
	パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		○	○	○	○							○	○	○	○	○			
大分県 障がい者スポーツ協会	支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業	○	○	○	○	○		○	○	○						○	○		○	○						○	○	○					
	総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業	○	○				○	○	○	○			○	○	○		○	○		○		○		○						○			
熊本県 障害者スポーツ・文化協会	嘉島町ふれあいパラスポーツ体験	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										○	○	○	○				
	西地区ふれあいパラスポーツ体験	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							○	○	○	○				
仙台市 障害者スポーツ協会	フロアバレーボール普及事業	○	○	○	○				○	○		○				○										○							
	サウンドテーブルテニス普及事業	○	○	○	○				○	○		○	○				○									○							
京都市 障害者スポーツ協会	スクエアボッチャ体験会	○	○	○	○		○		○		○		○		○											○							
	IDバスケットボール活動支援事業 ～全スポ出場を目指して～		○		○			○		○							○	○								○							
	IDソフトボール活動支援事業 ～全スポ出場を目指して～		○		○			○									○	○								○							
宮城県障害者スポーツ 指導者協議会	パラスポーツ推進事業 ～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～	○	○	○	○				○	○	○	○				○	○									○							
	障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業	○	○	○	○				○	○				○			○									○							
合計		24	25	22	22	12	10	9	9	23	25	18	20	10	10	14	13	24	19	14	13	10	7	5	2	22	18	3	6	8	7	6	5
割合		89%	93%	81%	81%	44%	37%	33%	33%	85%	93%	67%	74%	37%	37%	52%	48%	89%	70%	52%	48%	37%	26%	19%	7%	81%	67%	11%	22%	30%	26%	22%	19%

前項で触れた通り、多くの事業が、「場づくり」を狙いに、パラスポーツ指導員を活用して行われた結果、「初めての当事者へのスポーツの提供」・「パラスポーツ指導員の活用」が約 9 割の事業で成果として表れた。これらは、申請時に掲げた目標値よりも実施後の数値の方が高く、各受託団体において、企画時における実施内容・地域・連携ターゲット等の選定が実を結んでいるともいえるだろう。

一方で、体制づくりの指標である「関係団体との連携」は、申請時の目標値に比べ、実施後の成果としては約 2 割減少し、さらには、「定着」関連項目は、前年度を下回る結果となった。事業区分として企画が少なかったこともあるが、外部団体との連携や活動の定着に向けた体制整備には、まだまだ課題が多いことが浮き彫りとなった。具体的には、事業の定期開催に向けた「場所・人・財源」を課題としてあげる団体が多い。

そのような中で、以下に事例としてあげる徳島県パラスポーツ協会の取り組みのように地域の具体的な課題に即して、「存続可能なチーム作り」という目的をたて、関係組織にアプローチし、チーム設立後の次の STEP(全国障害者スポーツ大会中国四国ブロック予選会出場)を描いて展開を行っている。事業・予算は小規模であるが、地域での継続を考えると現実的な事業規模ともいえる。また、全国障害者スポーツ大会は多くの障がい者が目標とする大会であり、地域の活動が全国障害者スポーツ大会へつながっていくことは、生涯のスポーツ参加の場として期待される。

<主な取り組み事例と成果>

実施団体	社会福祉法人徳島県社会福祉事業団 徳島県パラスポーツ協会(4 回目)
事業内容	「令和7年度 とくしまパラスポーツチーム支援プロジェクト事業」 ◆事業名:「パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編」 ・内容:基礎測定とバレーボールの体験・練習を実施した。延べ 21 名が参加し、県バレーボール協会や理学療法士会等より、延べ 17 名が運営を支援した。 ◆事業名:「パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編」 ・内容:基礎測定とフットソフトボールの練習・模擬試合を実施した。延べ 43 名が参加し、知的障害者福祉協会等より、延べ 22 名が運営を支えた。
課題 ↓ 本事業の目的	・徳島県内に知的バレーボールの既存チームが存在しない。 ・フットソフトボールについても、連携体制や選手基盤が未整備。 ↓ ・支援学校や施設等での選手発掘を進め、存続可能なチームづくりと連携を構築する。 ・競技の選択肢を増やすことで選手発掘を促し、継続的に活動できる土台を固める。 ・チーム活動を通じた社会参加の場をつくり、生活の質の向上と目標達成を支える。
連携団体	○徳島県知的障害者福祉協会…福祉関係機関 ○教育委員会特別支援教育課…行政 競技用具(ボール)の借用や専門講師の派遣に加え、選手発掘のターゲットとなる支援学校や障がい者施設への広報周知、申込状況の確認を担った。 ○徳島県バレーボール協会 ○各種専門職団体…福祉関係機関 県内にチームがなかった知的バレーボールの専門指導を競技団体が担い、理学療法士・作業療法士会等が当日の安全な運営サポートを提供した。
成果	知的フットソフトボールでは新規チーム設立と中四国ブロック予選出場という具体的成果を得た。また、複数競技の同時・同会場開催により効率的に運営費を抑制しつつ、競技専門のコーチ等に参画してもらい安全な指導体制を構築した。このネットワークが、将来的な競技普及と継続的な選手発掘に向けた強固な土台となった。

【競技団体】

		活動の場づくり								人材の育成						体制づくり						選手発掘・育成												
受託団体名	事業名	初めての当事者へ		新たな活動機会		地域特性・資源の活用		地域で継続		パラスポーツ指導者の活用		事業の担い手養成		養成・育成後の実践機会の創出		キーマンの発掘・育成		関係団体との連携		地域の担い手となる人材との連携		定着・継続でできる体制整備		地域拠点の設置		新たな当事者の参加		クラブ等への登録		練習環境の充実		地域と連携した発掘・育成		
		申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	申請時	実施後	
日本ブラインドサッカー協会	ブラインドサッカー北日本リーグ(仙台会場)					○	○	○				○	○			○	○	○	○	○	○	○												
	ブラインドサッカー中日本リーグ(新潟会場)			○	○	○	○	○	○			○				○	○	○	○															
	ブラインドサッカー西日本リーグ(広島会場)			○		○		○				○				○		○																
	ブラインドサッカー中日本リーグ(静岡会場)					○		○	○			○	○			○	○	○	○															
日本ボッチャ協会	Bチャレンジ関東ブロック(東日本対象)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
	Bチャレンジ近畿ブロック(西日本対象)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
	全国代表者会議(各ブロック)			○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○					○		○	○	○	
全日本柔道連盟	ID柔道紹介事業(茨城県)	○	○	○	○		○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ID柔道紹介事業(神奈川県)	○	○	○						○	○	○	○	○			○	○	○	○			○			○	○		○	○	○	○	○	
	ID柔道紹介事業(滋賀県)	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ID柔道紹介事業(千葉県)	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○		○	○	○			○	○	○	
日本パラ・パワーリフティング連盟	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in佐賀	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○			○						○	○							
	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in香川	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○			○	○	○		○						○	○							
	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in大阪	○	○	○	○	○	○			○		○	○			○	○	○		○						○	○							
	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in鳥取	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○		○			○			○	○		○					
	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in山口	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○			○	○	○	○	○	○	○	○	
日本パラ水泳連盟	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクループ型の開催事業	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○		○	○	○	○	○			○		○		○	○	○	○	○	○	○	
日本車いすバスケットボール連盟	キッズ&ジュニアチームの創設(活動)支援プロジェクト	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○			○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○			
日本障害者スキー連盟	パラスキー・スノーボード体験教室事業	○	○	○	○	○	○	○			○	○					○	○								○	○	○					○	
	特別支援学校スキー体験事業					○	○	○	○	○							○	○								○	○							
	地域スキークラブ活動支援事業	○	○	○	○			○	○			○	○				○				○	○				○	○	○	○	○	○			
日本車いすカーリング協会	地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント(東京)	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○			○	○			○	
	地域の場づくりに向けたパラカーリング体験イベント(栃木)	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○			○			○	
全日本グランドソフトボール連盟	みやぎにおけるグランドソフトボール競技の選手・審判養成事業「プレイ&ジャッジ育成プロジェクト」	○	○	○	○							○	○				○		○	○						○	○							
日本知的障がい者サッカー連盟	JFFID地域活性化プロジェクトin青森(青森市、八戸市)	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○		○			○	
	フォローアップ事業 IDサッカー教室	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○		○	
日本アンパティサッカー協会	Amputee soccer Challenge Camp 2025	○	○	○	○						○	○	○				○	○	○	○						○	○	○						
日本セーリング連盟	パラセーリング普及推進事業	○	○		○	○		○		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○					○	○		○	○			○	
日本ソーシャルバスケットボール協会	群馬ラウンド	○	○	○	○	○	○					○	○			○	○	○	○	○	○	○				○	○							
	堺ラウンド	○	○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○					○	○		○			○	○	
	奈良ラウンド			○	○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○	○	○						○	○				○	○	○	
	東京ラウンド	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			○	○	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○			
	岐阜ラウンド	○	○	○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○						○	○					○	○	
	福岡ラウンド	○	○	○	○				○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○			○	○		○				○	
	沖縄ラウンド	○	○		○					○	○	○				○		○	○	○							○							

[illegible]

協会・指導協同様、「活動の場づくり」で高い成果を残したが、競技団体では、「キーマンの発掘・育成」において、申請時の成果目標値に比べ、実施後の成果として挙げられた値が 8%増加する結果となった。各競技団体の切実な課題である当該競技の普及ならびに選手の掘り起こしに注力すると並行して、普及活動を定着させるためのマンパワーの確保がより一層意識されていることが伺える。

課題としては、人材や財源面に加え、選手掘り起こし、競技用具の調達・運搬面など、特別な環境・用具が必要な競技団体もあり、このような団体特有の課題も挙げられている。そのような環境の中、以下の事例にあげるパラ・パワーリフティング連盟は、課題と向き合いながらも、事業を地域に根付かせることができる可能性を秘めた組織と企画時から協働してきた。5 年後展望を共有しながら進めていくプランが練られている。また、競技人口が少ない競技団体であっても、他競技との共通点を見出し競技の魅力を伝えていく手法は、競技の普及をめざす団体にとって参考となるだろう。

<主な取り組み事例と成果>

実施団体	特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟(4 回目の受託)
事業内容	「筋肉でつながろう!パラ・パワーリフティング研修会&体験会」 ・内容:全国 5 か所で実施。パラ・パワーリフティングに関する研修会と練習体験を実施した。
課題 ↓ 本事業の目的	・パラ・パワーリフティングの地域連盟が非常に少ない(岡山・兵庫のみ)。 ・日本連盟への依存が高く、地域での自立した活動が困難である。 ・未開拓地域が多く存在している。 ↓ ・研修会や体験会を実施して、選手やコーチ、スタッフとなる新たな人材を発掘する。 ・地域のパラスポーツ協会等と連携を強め、地域に眠る逸材を連盟へ繋ぐ体制を築く。 ・「筋肉」を合言葉に多様な人と繋がり、各地域で日常的に練習できる拠点を作る。
連携団体	〈鳥取会場で実施した際の連携団体〉 ○鳥取県パラ・パワーリフティングクラブ…地域クラブ ○鳥取県障がい者スポーツ協会…協会 専門力向上をテーマに、健常者競技団体と連携してトレーニング全般の研修を実施し、競技に関わる層を拡大させた。 〈未開拓地域(佐賀会場・香川会場)で実施した際の連携団体〉 ○地元パラスポーツ団体…地域クラブ ○他競技団体…パラ競技団体 地元のキーマン(パラカヌー協会等)やパラスポーツ協会と連携し、会場提供や参加者募集の協力を得ることで、拠点構築の足掛かりを築いた。
成果	競技団体の専門力を生かした連携により、岡山での県連盟発足や山口でのクラブ設立など、地域自立型の拠点が構築された。また、「トレーニング」をキーワードに、健常者競技団体や他競技団体との交流を通じて、新たな選手や指導者候補の発掘に加え、既存施設の有効活用法も共有された。未開拓地域での普及と競技理解の促進に大きく寄与した。

6 おわりに

2011年より開始した「地域におけるパラスポーツ(旧:障がい者スポーツ)の振興事業」は、令和7年度で15年目を迎える。都道府県・政令指定都市のパラスポーツ協会を対象としスタートした本事業は、2022年に委託対象団体を「パラスポーツ協会」・「パラスポーツ指導者協議会」・「中央パラスポーツ競技団体」・「パラスポーツセンター」のパラスポーツ振興の中心的役割を担う4つの協議会に広げ、15年間で224団体を委託し、地域で実施されてきた。本事業で大切にしているのは、障がいのある方が「身近で」「日常的」「継続的」な活動の場を増やしていくことである。そのために、4つの協議会間の連携を基盤とし、活動地域において、地域が主体となった活動基盤をつくり、継続できる形を作っていく必要がある。そのためにも本事業での取り組みの蓄積が地域のパラスポーツ振興への有益な事例となっている。

本事業では、「地域主体の活動定着へのステップ」をイメージした取り組みを推進している(P19. 地域でのスポーツ活動拡充のイメージ)。今年度の委託事業では、STEP①に取り組んでいる事業が多いと言える。STEP①は、未普及地域やターゲットエリアで、活動を行いながら地域のニーズや人材・連携先を把握していくステップである。未普及地域に対しては、地域の状況を把握するため、人材・必要な連携先を探すことを目的に、その地域・活動に踏み出すかどうかを決める、非常に重要なステップである。さらには、スタート段階であっても次のステップを意識しての取り組みが、課題の解決を先に進めるために必要となる。予算面においても、地域自立の運営を考え、運営費も持続可能な形を考えることが、地域で主体的・継続的な活動にしていくために無視できない。

実際は簡単なことではないが、パラスポーツ振興の中心的な役割を担う4つの協議会の連携を中心に、地域が主体となって継続できる活動を作っていってもらいたい。そのために身近な次のステップをより具体的にイメージした取り組みを行うことがポイントとなる。本事業をとおして、次年度のステップを意識した活動、3年、5年後の目標地点を設定した活動に取り組めるように、当協会・技術委員会推進部会でも取り組んでいきたい。

本事業をまだ活用していない団体、活用を悩んでいる団体にも活用いただきたい。当協会および推進部会では、新たな団体の活動をサポートしている。2月上旬の相談会開催や、検討団体の報告会参加を勧めている。これらも、是非活用してほしい。現在、小規模な活動からまずは取り組めるタイプの事業も検討している。

本事業は、地域でのパラスポーツ活動の場を増やす目的と同時に、委託団体間の連携も重要な目的としている。今回の委託事業の中で、昨年の報告会でつながった協会と競技団体が今年度事業を連携して行う事例や、岡山県でのパラダンススポーツ協会の活動に、同地で活動基盤のあるパラパワーリフティング連盟が開催地の情報を提供し、未普及地域での活動をサポートする場面などが見られた。このような新たな連携による事業展開、地域展開が生まれることも本事業の大きな魅力である。「集まる」、「つながる」は、本事業の委託団体においても、地域の活動においても大切であるため、本事業をとおして、多くの団体に、この場を生かし、活用してもらいたい。

社会全体の課題として、人口減による影響は無視できなくなってきている。これは地域でのパラスポーツの振興の場でも同様で、地域に合った柔軟な形で取り組んでいく必要がある。今年度の報告会発表の中に、障がいのある方の活動の場づくりはもとより、地域の人、地域の団体がパラスポーツ振興を通じてそれぞれが価値を見出せている事業が見られた。地域の人材を生かし、将来の形を考えた意図的な取り組みは多くの団体の参考になった。このような事例を、過程と失敗・成果を追いモデルとして発信をしていきたい。

最後に、地域のパラスポーツ振興に取り組む団体、関係者の皆様の日頃のご尽力に感謝いたします。本事業をとおして、パラスポーツを支える4つの協議会と連携をとり、地域におけるパラスポーツの振興を進めてまいります。

IV 事業実施団体の報告

【事業名】

パラスポーツ推進のためのロジックモデルを活かした地域拠点整備事業

- ◆【事業内容①】 パラスポーツ体験交流促進事業
- ◆【事業内容②】 インクルーシブスポーツ指導者養成事業
- ◆【事業内容③】 令和 7 年度障がい者スポーツ特別研修会

一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	三浦 拓朗		
◆企画・実施担当者	三浦 拓朗	◆経理担当者	菊地 弥市

全体事業名称	パラスポーツ推進のためのロジックモデルを活かした地域拠点整備事業
委託費	1,275,000
地域の実情・課題点	これまで当協会では本事業を通してパラスポーツ交流による共生社会づくりの推進に取り組んできた。地域(市町村)においては、事業実施の重要性や価値観を共有するとともに横につながるネットワーク構築にもつながっている。しかしながら、地域の行政や関係者の中では事業に対しては受動的な関わりを中心とする意識があり、今後、地域において主体的・持続的な事業への転換については、地域が主体的な取組みができることを実感できるスモールステップの取組みを展開することが必要になると考える。 そこで本事業では昨年度、本事業において作成した本県におけるパラスポーツ推進のためのロジックモデルを活用して課題設定を見直し、地域の負担を軽減しながら主体的な取組みに移行できるようサポートしていきたいと考える。そのためには、初期段階での地域のスポーツの推進体制や実施状況などの現状に対する情報収集が必要になる。これまでもある程度行ってきたことではあるが、もう一歩踏み込み、ニーズや地域課題に対して地域を置き去りにせず共に考え、共に行動するスタンスを明確にしていきたい。
総合的な事業の目的	これまでの取組みにおいて本県においてはボッチャや卓球バレーをはじめとするインクルーシブスポーツの活用が地域の活動拠点整備において有効であることは立証されてきたと考える。しかしながら、これは一部の企画立案者や関係者における認識であり、地域全体には共有されていない。この課題を解決するために、スポーツ活動への参加を通して参加者や指導者が主体となって地域に発信するような促しが必要である。いわゆる口コミの強化が重要と考える。その方法は参加者に負担のないよう、それぞれの特性に応じて口コミやSNS等の発信まで多様な方法により横に広げていく。加えて行政が発行する広報との連動により、情報発信は改善されたと考える。参加する側が「楽しかった」「またやりたい」から次はこのことを「他者に伝えようとする意識」を促す取組みまでを事業のゴールとしたい。このことによりスポーツ交流の促進を加熱していきたい。
総合的な事業のねらい	本事業の最終ゴールはパラスポーツの実施を通して「障害のある人もない人も当たり前前に混ざり合う社会」を実現することである。これまでも継続して取り組んでいるところであり、少しずつではあるが前に進んでいる。今回の取組みにより、地域の皆さんにゴールへの歩みを実感していただくことが重要である。そのためには、以下のようなスモールステップによる小さいゴールを設定することが効果的と考える。 ①参加することにより「楽しい」「またやりたい」というスポーツ交流の価値を感じていただく ②参加者、指導者、地区、行政が連携しながら、スポーツ交流の価値を他者に発信することにより、主体として関わりを実感する。 ③仲間を増やしていき、地区のサークル・クラブ等の組織化により主体としての成果を感じていただく。 ④地区での体験会や大会参加を主体的に行う。 ⑤これまでの選択肢になかった様々な事業(アウトドアスポーツ等)への参加を促す。

事業名	
事業①	パラスポーツ体験交流促進事業
事業②	インクルーシブスポーツ指導者養成事業
事業③	令和7年度障がい者スポーツ特別研修会
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
事業名	パラスポーツ体験交流促進事業		
事業内容	①久慈地域卓球バレー交流会 ②岩手県ユニバーサル麻雀交流大会1 ③岩手県みんなのポッチャ選手権大会 ④登山教室 ⑤マリンスポーツ体験教室 ⑥卓球バレー釜石交流大会 ⑦グラウンドゴルフ釜石鶴住居交流大会	⑧岩手県ユニバーサル麻雀交流大会2 ⑨あまちゃんカップ(卓球バレー久慈交流大会) ⑩パラスポーツ体験会 ⑪さんてつカップ(卓球バレー宮古交流大会) ⑫釜石ニュースポーツ交流会 ⑬大船渡さんまカップ	
開催日時	①令和7年7月2日(水)9:00～13:00 ②令和7年7月27日(日)9:30～15:30 ③令和7年8月10日(日)9:45～15:30 ④令和7年8月17日(日)9:30～15:00 ⑤令和7年9月7日(日)9:30～15:30 ⑥令和7年9月30日(火)13:00～16:00 ⑦令和7年11月6日(木)9:30～13:00	⑧令和7年11月8日(土)9:30～15:30 ⑨令和7年11月9日(日)9:50～15:30 ⑩令和7年11月13日(木)9:30～12:00 ⑪令和7年11月22日(土)9:30～15:00 ⑫令和7年12月6日(土)10:00～12:00 ⑬令和7年12月7日(日)9:30～12:30	
会場	①久慈市マリニアリーナ(久慈市) ②ふれあいランド岩手(盛岡市) ③盛岡タカヤアリーナ(盛岡市) ④八幡平レストハウス(八幡平市) ⑤リアスハーバー宮古(宮古市) ⑥栗橋地区生活応援センター(釜石市) ⑦釜石鶴住居復興スタジアム(釜石市)	⑧ふれあいランド岩手(盛岡市) ⑨久慈市マリニアリーナ(久慈市) ⑩パラアリーナ(盛岡市) ⑪宮古市民総合体育館(宮古市) ⑫釜石市民体育館(釜石市) ⑬大船渡市民体育館(大船渡市)	
参加者	①98名(身2、知22、精5、一般51) ②30名(身4、知2、精14、一般10) ③45名(身18、知4、精3、一般20) ④36名(身8、一般32名) ⑤45名(身12、知3、精2、一般28) ⑥74名(身6、一般68) ⑦61名(身25、一般36)	⑧38名(身6、知2、精12、一般18) ⑨98名(身31、知5、精神3、一般59) ⑩28名(身18、知2、精2、一般6) ⑪94名(身36、知10、精6、一般42) ⑫120名(身8、知2、精6、一般104) ⑬129名(身38、知2、精8、一般81)	
人員体制	①20名(県TV協2、久慈TV協6、ボラ12)／内バラ指5 ②8名(espo4、学生2、OT2、事務局2)／内バラ指4 ③13名(東京BC協3、県BC協2、県スポ協1、スポ進3、OT1、事務局3)／内バラ指10 ④20名(山岳7、PT2、OT6、業者1、指導協1、事務局3)／内バラ指11 ⑤23名(競技団体14、PT1、OT5、事務局3)／内バラ指6 ⑥8名(社協3、スポ進3、県1、事務局1)／内バラ指3 ⑦25名(釜石市GG協20、OT2、事務局3)／内バラ指5	⑧12名(espo6、学生2、OT2、事務局2)／内バラ指4 ⑨45名(県TV協4、久慈TV協9、県スポ協1、スポ進3、事務局3、ボラ25)／内バラ指15 ⑩5名(盛岡市身障協3、事務局2)／内バラ指3 ⑪25名(県TV協5、指導協1、スポ進2、レインボーネット2、OT2、事務局3、ボラ10)／内バラ指10 ⑫5名(県TV協3、事務局2)／内バラ指5 ⑬22名(県TV協5、久慈TV協2、スポ進8、大船渡市1、ボラ6)／内バラ指11	
連携団体名 (箇条書き)	・岩手県卓球バレー協会・久慈地域卓球バレー協会・久慈市身体障害者協議会・ひばり療護園(久慈市)・岩手eスポーツ協会・岩手県立大学ユニバーサルスポーツクラブ・岩手県作業療法士会・岩手県スポーツ協会・東京都ポッチャ協会・岩手県ポッチャ協会・岩手県山岳スポーツクライミング協会・あすなる山岳会・ライフセディア株式会社・いわてマリフィールド・宮古市シーカヤック協会・岩手県理学療法士会・花巻市スポーツ推進委員協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	イベント周知や参加者の取りまとめの他、多くの団体が当日の運営(指導及び審判業務)業務が中心的な役割である。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	当日の運営業務の他、それぞれの地域でのイベント企画の際に現地コーディネート業務を担う人材が増えてきている。役割としては関係団体との調整・会場選定、日程調整や参加及び協力団体等への根回しなどで、当協会が行ってきた事前準備の業務負担が軽減されている。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	32
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	92
スポーツ用具の 整備・活用について	本事業での実績はない		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
事業名	インクルーシブスポーツ指導者養成事業		
事業内容	①卓球バレー指導者講習会 ②一関市・気仙沼市障がい者スポーツ協会交流事業 ③ボッチャ指導者講習会 ④車いす体験会 ⑤卓球バレー指導者講習会&体験会		
開催日時	①令和7年9月11日(木)13:00～16:30 ②令和7年9月15日(月)9:30～15:00 ③令和7年9月27日(土)9:30～12:30 ④令和7年10月2日(木)9:00～12:00 ⑤令和7年12月20日(土)9:00～15:30		
会場	①岩手大学学生センター(盛岡市) ②気仙沼市民福祉センターやすらぎ(気仙沼市) ③薬王堂緑ヶ丘店(盛岡市) ④ふれあいランド岩手(盛岡市) ⑤ふれあいランド岩手(盛岡市)		
参加者	①14名(身1、一般13) ②67名(身45、一般22) ③15名(一般15) ④45名(一般45) ⑤37名(身5、知2、精6、一般24)		
人員体制	①2名(県TV協1、事務局)／内パラ指2 ②20名(県TV協5、宮城TV協3、事務局2、ボラ10)／内パラ指12 ③2名(事務局)／内パラ指2 ④4名(教員2、指導協1、事務局1)／内パラ指2 ⑤6名(県TV協4、事務局2)／内パラ指3		
連携団体名 (箇条書き)	・岩手大学卓球部・岩手県卓球バレー協会・宮城卓球バレー協会・一関市パラスポーツ協会・気仙沼市障害者スポーツ協会・緑ヶ丘町内会・盛岡医療福祉スポーツ専門学校・アスレクト		
実際の事業での 連携団体の役割	岩手大学卓球部は、指導者養成事業実施後、卓球バレー交流大会に参加した。当日は、選手として他のチームとの交流に加え、スタッフ協力いただいている。盛岡医療福祉専門学校は盛岡市のマラソン大会に車いす部門のサポート役として車いす体験会を実施している。卓球バレーの全国大会を2連覇したアスレクトチームは様々なイベントにおいて選手がスタッフとして活躍している。これらの活動が評価され、岩手日報体育賞の他、岩手県スポーツ協会の栄光賞を受賞した。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	卓球バレーの指導者養成講習会には、資格取得したパラスポーツ指導員がサポートスタッフとして参加していただいている。また、パラスポーツ指導員の多くが卓球バレー指導者の資格を取得して、地域での活動実績につながっている。 今回、協力いただいた選手にも資格取得を進めていきたいと考える。これを含め、障がい当事者への資格取得を進め、主体的な参加による満足度を高めるとともに活動の幅を広げていきたい。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	9
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	21
スポーツ用具の 整備・活用について	本事業での実績はない		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
事業名	令和7年度障がい者スポーツ特別研修会		
事業内容	令和7年度障がい者スポーツ特別研修会 ①テーマ:使える遊び集・覚えておくと便利帳 ②サブテーマ:当事者間の効果的な関係性づくり、スポーツ導入からスポーツ交流へ ③内容:体験教室で盛り上がった参加者が事業終了後に関係性を継続することは少ない。そこで本事業ではこれらの課題解決のヒントとして参加者間の関係性づくりを行う際の効果的なプログラムの実践研修を行った。		
開催日時	令和7年12月21日(日)10:00~16:30		
会場	ふれあいランド岩手(盛岡市)		
参加者	26名(身2、精1、一般24) 県外からの参加があった。特別支援学校教員、県スポーツ協会、パラアスリート、PT、OTなど多様な参加があった。		
人員体制	講師1名 一般社団法人車いすインストラクター協会 代表理事 橋本大佑 氏 サポートスタッフ2名、事務局2名/内パラ指4		
連携団体名 (箇条書き)	・岩手県スポーツ協会 ・岩手県特別支援学校連絡協議会 ・岩手県理学療法士会 ・岩手県作業療法士会 ・岩手県パラスポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	各団体へのイベント周知が中心であった。岩手県スポーツ協会からは事務局長自らが参加していただいた。また、指導者協議会からは当日の運営スタッフとして協力いただいた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	各地域で展開する体験教室において、体験後の交流促進について見直す機会としたい。これにより、「楽しい」「またやりたい」が増幅して、次の活動参加へのモチベーションや本事業のロジックモデルの指針にある当事者自らが横に広げる動きにもつながると考える。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	4
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	4
スポーツ用具の 整備・活用について	本事業での実績はない		

【事業内容①】の事業写真

(1) 【事業名】久慈地域卓球バレー交流会(7月2日)

事業の様子



平日にも関わらず多くの参加があった。



試合の様子1



試合の様子2



試合の様子3

平日開催では、福祉事業所からの参加が可能となる。高齢者は平日・土日を問わず参加できるが、運営スタッフは平日の参加が難しい。開催日についての調整は検討が必要である。

【事業内容①】の事業写真

(2) 【事業名】第 11 回岩手県ユニバーサル麻雀交流大会(7 月 27 日)

事業の様子



使用アプリは「雀魂」である。無料アプリで人気があり、課金すると個人でも大会開催が可能

大会の様子。こちらは課金キャラ。麻雀を日中プログラムとしている精神科病院も多く、今後の広がりを期待できる。



大会の様子。試合経過もアプリ内で確認でき、運営側にも便利な機能が多数ある。

運営会場の様子。参加者はすべてオンライン参加である。運営には e スポーツ協会の他、岩手県立大学のユニバーサルスポーツクラブ等から協力いただいている。学生はアプリ操作のノウハウを短時間で習得する。今後は運営を任せる方向で調整している。

【事業内容①】の事業写真

(3) 【事業名】第1回岩手県みんなのボッチャ選手権大会(8月10日)

事業の様子



本大会は年齢・性別・障がいの有無を問わないオールフリーールのミニコートで実施。また相互審判制を採用。公認審判を持つ方は自主的に計測のお手伝い。



株式会社 CAC の稲垣義則さんがボランティアで参加。せっかくの機会なので正式ルールでの対戦をデモンストレーションしていただいた。



JR 東日本チームと滋賀大会本県代表チームとのガチンコ対決。JR チームはジャパンカップに出場した強豪チームである。白熱の攻防は4対3でJR チームが勝利。



滋賀大会陸上代表とボッチャ代表との対戦。オールフリーールでは面白い対戦が続々と生まれていく。

【事業内容①】の事業写真

(4) 【事業名】登山交流会(8月17日)

事業の様子



開会式の様子。岩手県山岳スポーツクライミング協会の吉田会長よりあいさついただいた。



車いす登山の基本スタイル。電動アシスト付き車いすを使用。サポーターは前に2名、後ろに1名を配置。自走することでバッテリーが作動するため、登山者にもがんばっていただく。



登山者は参議院議員の横沢たかのりさん。意外にも初参加であった。なんか楽しそうである。



八幡平山頂での記念撮影。登りよりもここから下山する行程が実はハードである。

【事業内容①】の事業写真

(5) 【事業名】マリンスポーツ体験教室(9月7日)

事業の様子

	
まずは陸上でパドル操作の基本練習からスタート	初参加の電動車いす利用者(筋ジス)。移乗にも工夫が必要。また、カヤックのシートでは座位保持が難しく今後の課題となった。それでも5分間ほどのカヤック体験で本人も喜んでいた。
	
この日は波が穏やかだったため、対岸への上陸作戦を決行した。子供たちは海水浴で大騒ぎであった。	終了後の記念撮影。車いす利用者の参加希望が多く、理学療法士や作業療法士のスタッフ参加がますます重要となる。

【事業内容①】の事業写真

(6) 【事業名】卓球バレー釜石交流大会(9月30日)

事業の様子



開会式の様子。じいちゃん、ばあちゃんの熱気ムンムン。ステージにある表示は地元の館長さんが作成。「スポーツマン精神」「尊重」「勇気」「覚悟」の文字。何かいいですね。



地元から8チームが参加。2コートで熱戦を繰り広げた。前半は予選リーグで後半はトーナメント戦を行った。



試合の様子。主審は釜石市スポーツ推進委員が中心。画像の方は本事業のキーパーソンである。各地域でこのような人材を発掘したい。



試合の様子。釜石市の他、お隣の大船渡市スポーツ推進委員も審判のお手伝いに行っていた。

【事業内容①】の事業写真

(7) 【事業名】グラウンドゴルフ釜石鶴住居交流大会(11月6日)

事業の様子



開会式での選手宣誓。選手代表は地元、釜石市グラウンドゴルフ協会から。天気がよかった。



プレーの様子。World Cup の会場であり、芝がとてもきれいである。また、プレーには参加せずに施設見学のための参加者もいる。



プレーの様子。天然芝のデメリットは車いすでの自走がハードであること。グループ分けの際、同伴にはフットワークの良い選手が入るよう工夫が必要である。



事業の様子

【事業内容①】の事業写真

(8) 【事業名】第 12 回岩手県ユニバーサル麻雀交流大会(11 月 8 日)

事業の様子

 2025_1107_東北最大持ち込み型ゲームイベント G019サミット12th in APPI IWATE2025 / WINTER2025.11.7~11.9 (3日間)_Day1	
今回は東北最大の持ち込みゲームイベント G019 サミット(会場:安比高原)とのコラボ事業として実施。決勝の様子が安比会場でも中継された。画像は主催者あいさつの様子。	オンライン参加者との連絡ツールとして LINE を使用している。今回は、安比会場との連絡ツールとしてディスコードを試験的に導入した。
	
今回、e スポーツ協会関係者はすべて安比会場での運営となった。こちらの会場は業者の機器担当者と事務局のみであった。	コラボ事業としての発信もあり、参加選手は最多の 32 名となった。回を重ねるごとに選手の競技力が向上しており、日々、本大会を目標に努力を重ねている様子が伺える。

【事業内容①】の事業写真

(9) 【事業名】あまちゃんカップ(卓球バレー久慈交流大会)(11月9日)

事業の様子



本大会開催準備は大半を久慈地域卓球バレー協会が行った。地域主体で継続的に開催するためにはスタッフ体制や財源など多くの課題があるが、多様な団体と連携を図りながら取組みたい。



試合の様子。旧身体療護施設チームの同門対決。地域の大会には移動負担の大きい重度障がい選手も多く参加できるメリットがある。



試合の様子。本大会は地元チームだけでなく、他の地域からの参加もあった。また、運営スタッフも半数以上は他地域からの協力者である。地域主体といってもこのような広域連携は欠かせない。



試合の様子。どの大会でも運営スタッフは十分とは言えないが、その分、選手が積極的に運営をサポートする動きができています。支援する側、される側に分かれずに共に大会を創ろうとする空気が心地よい。

【事業内容①】の事業写真

(10) 【事業名】パラスポーツ体験会(11月13日)

事業の様子

	
開会式の様子。あいさつは盛岡市身体障害者福祉協議会の藤原事務局長が行った。	準備体操の様子。ボランティアの指導の元、ラジオ体操に続いて、簡単なリズム体操を行った。
	
実施種目は卓球バレー・ボッチャ・カローリングの3種目を実施した。	聴覚障がいのある参加者には手話通訳が対応した。

【事業内容①】の事業写真

(11) 【事業名】さんてつかップ(卓球バレー宮古交流大会)(11 月 22 日)

事業の様子



試合は3コートで実施。宮古地区は会場予約や参加チームへの周知協力まではできている。この先の地域主体での運営体制構築に課題がある。



試合の様子。奥が山田町、手前が宮古市の身障者チーム。地元以外では盛岡市、久慈市、釜石市からのチーム参加があった。



スタッフ 15 名のうち、地元から 3 名。うち審判有資格者が 1 名のみである。まずはここを課題として地元審判(指導者)養成に取り組む必要がある。



試合の様子。地域大会は、交流的な要素があるため、審判員や指導者のスキルアップの場としても活用できる。

【事業内容①】の事業写真

(12) 【事業名】釜石市ニュースポーツ交流会(12月6日)

事業の様子



本事業は釜石市の8地区対抗のスポーツ交流大会で種目はボッチャ、スカットボールに加えて、今回より卓球バレーをデモンストレーション種目として加えていただいた。

すでに卓球バレーに取り組んでいる皆さんに協力いただきながら、卓球バレーのルール説明を行った。



ルール説明後は模擬試合を行った。審判は全国大会を2連覇したアスレクトチームの選手が務めた。



最後にアスレクトチームのデモンストレーションを行った。多くの方々に見学いただいた。来年度は本格的な卓球バレー大会開催につなげたい。

【事業内容①】の事業写真

(13) 【事業名】大船渡さんまカップ(卓球バレー大船渡交流大会)(12月8日)

事業の様子



開会式の様子。選手宣誓は地元の身障団体の今野さんが行った。



5コートで実施。地元大船渡市・陸前高田市の他、盛岡市、釜石市、久慈市、一関市、宮城気仙沼市などから20チームが参加した。また岩手大学卓球部が初参加となった。



試合の様子。奥が岩手大学卓球部、手前が全国大会2連覇中のアスレクトチーム。岩大はかなり練習を積んできた様子が伺えた。しかし、アスレクトチームの牙城は高かった。



試合の様子。地元、企業(明治安田生命)チームと久慈市の身障者チームの対戦。このように多様な団体が交流できるのも卓球バレーの魅力の1つである。

【事業内容②】の事業写真

(1)【事業名】卓球バレー指導者養成講習会(9月11日)

事業の様子



実技の様子。この講習会は岩手大学の卓球部が中心となり企画した。会場は岩手大学学生センターであった。



実技の様子。同部では卓球バレーを活用した地域貢献活動に取り組んでいる。



実技の様子。講習は日本卓球バレー連盟の基準カリキュラムに基づき実施した。



実技の様子。前半は講義、後半は実技で卓球バレーのルール説明と指導方法、審判実技を行った。

【事業内容②】の事業写真

(2)【事業名】卓球バレー交流会(一関市&気仙沼市障害者スポーツ協会交流事業)(9月15日)

事業の様子



2コートで実施。参加は一関市、気仙沼市、名取市から8チームが参加した。



試合の様子。得点係やボール拾いは試合のないチームが交代で行う。事前に分担しなくても率先して手伝ってくれるのでありがたい。



試合の様子。審判講習も実施した。特に上級の審判資格取得を希望する方にとっては、この場は協会推薦を得られるかの瀬戸際である。



閉会式終了後に記念撮影。皆さん、どうぞ来年もお元気でお会いしましょう！

【事業内容②】の事業写真

(3)【事業名】ボッチャ指導者講習会

事業の様子



この講習会では地域において多様な参加者に対してどのようにボッチャを導入するかを体験していただく内容となっている。



最初に当協会のボッチャを活用したインクルーシブスポーツ推進事業について説明した。その後、ボッチャの試合を通して競技特性や地域での活用方法について考える機会とした。



まずは、楽しい。またやりたいを引き出すこと。そして参加者が受け身にならずに主体的に参加できるようアプローチすることが大切である。



引率の先生も本気モードになってきました。この時は、指導者はできるだけ遠くから見守ります。

【事業内容②】の事業写真

(4)【事業名】車いす体験会(10月2日)

事業の様子(画像は実際の活動の様子)



本事業は初めて開催される盛岡リレーマラソンに出場する車いすランナーのボランティア養成を目的として実施した。



体験会では車いすの基本操作(前進・ブレーキ・ターン等)と一般的な車いす介助を学んだが実際には一緒に走り、坂道でのフォローが中心であった。



アーチェリーに取組む若手車いす選手。今日はハンドバイクに挑戦。若さに任せて後続を引き離した。



ゴールの瞬間は達成感にあふれていた。2 kmほどの短いコースとはいえ、日常用車いすではかなりの運動負荷であろう。

【事業内容②】の事業写真

(5)【事業名】卓球バレー指導者養成講習会&体験会

事業の様子



実技の様子1。日本卓球バレー連盟の公認資料に基づき、講義を行い、その後は実技に入った。講師は日本卓球バレー連盟審判員会委員長の菅野聡さんをお願いした。



実技の様子2。講習補助は、全国大会を2連覇したアスレクトチームに所属する審判員で卓球バレーのデモンストレーションを行った。実技では受講者が交代で主審・副審の実践を行う。



午後の体験会では、卓球バレー未経験者への指導法を実践した。午前から引き続き午後の体験会に参加した受講者にも指導実践いただいた。



アスレクトチームの他、上級審判の資格を持つ指導者もボランティアで参加していただいた。

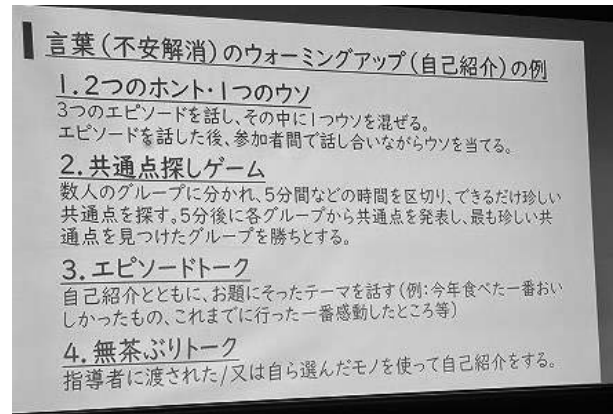
【事業内容③】の事業写真

(1)【事業名】令和 7 年度障がい者スポーツ特別研修会

事業の様子



開会式の様子。あいさつは当協会の平藤会長。
本日の講師である一般社団法人日本車いすイン
ストラクター代表理事の橋本大佑さんである。



体験教室後の参加者間の横のひろがりの障壁と
なるのが、参加者間の関係性。体験教室では楽
しんでるが、参加相互の関係性が深まっている
わけでない。これを解消する手立てとして様々
なゲームを体験していただいた。



体験プログラム「じゃんけんベースボール」につ
いて説明する橋本さん。車いす、知的障がい者、
障がいのない人など多様な集団で皆が楽しむた
めの事例紹介である。



体験プログラム「サムスペル」は集団で行うブロ
ック積み遊びである。プレー中は言葉を発するこ
とができないというルールがある。

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
全体事業名	パラスポーツ推進のためのロジックモデルを活かした地域拠点整備事業		
総委託費	1,275,000	決算額	1,368,961
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	本事業の総合的な目的は、昨年度事業において作成した「パラスポーツ推進のためのロジックモデル」を活用して、効果的な地域移行を実践・検証することであった。これまでも継続的に取り組んでおり、行政や地域団体との連携により、徐々に主体的な活動実施への成果が表れている。しかしながら、あくまでも当協会の運営サポートが必要条件であり、完全な地域移行の難しさを実感している。地域移行のためには、行政や地域団体等との連携だけではなく、当事者自らが積極的に横に広げる動きが必要であることが見えてきた。この動きが行政や地域団体を動かす力となるのである。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	本事業において、実施してきた卓球バレー交流大会において、初めて地域主体の交流大会が実現した。しかしながら、審判や運営スタッフが不足し、当協会より派遣する形をとった。この人員不足に加え、経費負担など今後の継続実施には課題が多いが、指導者養成事業を実施するなど、課題が明確解決にも取り組むなど次のステップするなど、地域においてもゴールを見据えた取組みに発展したことは1つの成果である。 また、当事者が大会運営のサポートをする機会も増えており、主体的な参加が当事者のモチベーションを上げる機会になると同時に横に広げる活動にもつながっているようである。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	総事業費の6割以上となる旅費・謝金について当協会の規程に基づき支出した。また、事業費が減額となった分は事業数や事業内容を調整して実施した。 今後、独自予算での実施となるのであれば、卓球バレー・ボッチャの交流大会については企業の冠大会等、協賛形式での実施が考えられる。また、参加費の増額やボランティアの増員によって対応が想定される。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	各事業において満足度は高い。内容によって声は様々であるが、大半は楽しい、またやりたいという声が聞かれている。最近では、「手伝うよ」「自分も何かできることがあったらやるから」といった声が多く出ている。支援する側、される側の関係性から共に創るの関係性への変化が見られた。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	本事業において、久慈市では地域主体の大会開催につながった。これを継続するためには人員育成、財源の確保等、新たな課題が生まれている。この課題解決に対しても地域主体で取り組めるよう連携の在り方を考えていきたい。他にも主体的な事業実施に前向きな地域がある。課題は地域特性もあるが、根幹は一緒に背中を少しだけ押すことが当協会の役割となるであろう。また、運営側だけでなく、参加する側と共に創るというゴールを示し、より良い関係性づくりにも配慮することにより、地域ネットワーク作りとの相乗効果が生まれる傾向にある。		
その他所見	本年度の障がい者スポーツ研修会では参加者の関係性づくりに対して焦点を当てた。地域での導入教室の際、参加者は初対面であってもその場ではとても盛り上がる。しかし、教室後にはその関係性が切れてしまうことがある。しかし、導入教室の際のプログラムにひと手間加えることにより、この問題は解消されることがある。ここがとても重要であり、横の関係性を発展させていくことで、口コミや仲間集め、ひいてはクラブ化にもつながる可能性が高まる。 これまで、地域主体の事業移行には、行政や支援団体との連携を主と考えてきたが、参加者側を巻き込むことも重要であり、共に創るの関係性が地域移行への推進力を増すことになると考える。		

【 宮城県パラスポーツ振興事業 】

- ◆ 【 発達障がい児のためのプール体験教室 】
- ◆ 【 パラスポーツ発掘プロジェクト 】
- ◆ 【 宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会 】

一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	佐藤敬広		
◆企画・実施担当者	齋藤友規	◆経理担当者	坂口信一

全体事業名称	宮城県パラスポーツ振興事業
委託費	1,700,000
地域の実情・課題点	・2024年度は、2023年度に引き続き、障がい当事者がスポーツへ触れるきっかけを作ることを目的に、地域の社会資源を使用した事業を展開した。 ・宮城県では、県の中心部に政令指定都市が存在するため、さもすれば普及・振興しているように錯覚する状況ではあるが、仙台市を出ればまだまだ普及しているとは言い難い状況にある。特に仙台近郊の市町村では仙台市に行けば、なにかしらのイベントが実施され、活動できる状況であるため、市町村内での普及振興には消極的な部分もみられる。 ・市町村教育委員会、理学療法士会、作業療法士会等の各種専門機関、各種競技団体等の市町村組織、公共または民間のスポーツ施設、およびスポーツ推進員など地域の指導者組織との連携による、地域に根ざした事業展開ができるような体制づくりが急務と考えている。
総合的な事業の目的	・これからスポーツを始めたいと考えている方々の活動に対する支援を、各専門機関や、地域の指導者組織、公共施設や民間のスポーツ施設等との連携を図ることで、障がい者が一生涯のスポーツとして地域で取り組める環境づくりの構築を目指すとともに、地域の方々への障がいに対する理解を促し、障がいを持つ方々がスポーツや健康に取り組むきっかけづくりを行う。 ・県内各市町村の生涯学習課等の部署、民間のスポーツ施設等との連携により、障がいの有無にかかわらず、生涯スポーツとして、各市町村の予算による独自の取組など、それぞれが事業化できる体制を構築するきっかけを作ることも目的として実施する。
総合的な事業のねらい	・宮城県内における障がい者スポーツの普及を目的に、各地域で体験教室等を実施することで、地域で暮らす障がい者がよりスポーツに親しみやすい環境を構築することを狙いとする。 ・教員、市町村スポーツ推進員、総合型スポーツクラブ等の地域でスポーツ指導に携わる方々や、民間スポーツ施設スタッフ等への体験教室等を通じてのレクチャーを実施し、障がいへの理解を深め、障がい者への対応の方法を知ること、地域の関係者主導により継続して開催できるよう展開するなど、障がい者が地域で活動する為の受け入れ体制の構築をねらいとする。

事業名	
事業①	発達障がい児のためのプール体験教室
事業②	パラスポーツ発掘プロジェクト
事業③	宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
事業名	発達障がい児のためのプール体験教室		
事業内容	実施内容 (1)発達障害児者・者支援団体によるインストラクター等向け障害特性にかかる講習会。 (2)発達障害児を対象としたプール体験教室（募集定員：各回30名）。 (3)発達障害児を対象とした短期水泳教室（募集定員：30名）。 回数：計12回…(1)6回。(2)2回(10月5日, 12日)。(3)4回(11月16日, 30日, 12月14日, 21日)。 会場：仙台スイミングスクール南小泉校 ※宮城県スイミングクラブ連絡協議会の所属スクールにて実施 ※発達障害児者・者支援団体によるインストラクター等向け障害特性にかかる講習については、各実施回のスタート前ミーティング、および終了後の振り返りミーティング時に、その日の課題解決を目的に実施した。		
開催日時	○発達障害児を対象としたプール体験教室 ① 2026年10月 5日(日) 10:00～11:00 ② 2026年10月19日(日) 9:30～12:30 ○発達障害児を対象とした短期水泳教室 ③ 2026年11月16日(日) 9:30～12:30 ④ 2026年11月30日(日) 9:30～12:30 ⑤ 2026年12月14日(日) 9:30～12:30 ⑥ 2026年12月21日(日) 9:30～12:30		
会場	仙台スイミングスクール南小泉校		
参加者	教室当日になり参加者の情緒が不安定になったことや、インフルエンザ等により欠席者が多く出た。しかし、殆どの申込者から欠席連絡があったことから、本教室への参加の意欲があることが伺えた。 ●知的・発達障がい児(小学校1年生～高等部3年) ① 2026年10月 5日(日) 申込者数:30名 ② 2026年10月14日(日) 申込者数:57名 ③ 2026年11月16日(日) 申込者数:57名 ④ 2026年11月30日(日) 申込者数:57名 ⑤ 2026年12月14日(日) 申込者数:57名 ⑥ 2026年12月21日(日) 申込者数:57名		
人員体制	宮城県スイミングクラブ協議会に所属しているスイミングクラブのインストラクターに協力を得た。今年度はスイミングスクールの事業化に向けた取組も想定したことから少数のインストラクターでの対応となった。また、学生補助員のうち約半数は大学水泳部、半数は県内の公立高校の水泳部の協力もあった。 ○スイミングクラブ協議会 のべ48名 ○パラスポーツ指導者 のべ16名 ○学生補助員 のべ10名 ○協会職員 のべ 9名		
連携団体名 (箇条書き)	*東北身体障がい者水泳連盟 *（一社）宮城県スイミングクラブ協議会 （株）仙台スイミングスクール, (株)JSS, *（特非）自閉症ピアリンクセンターここねっと *東北福祉大学体育会水泳部 *宮城県仙台二華高等学校水泳部 *宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	連携団体による検討会を実施し、事業の提案、実施内容の検討を行った。 宮城県スイミングクラブ協議会は、プール施設の調整と確保、インストラクターの募集と確保、水泳指導体制の構築などの役割を担った。 自閉症ピアリンクセンターここねっとは、インストラクターや学生等に対して障害特性や配慮事項の研修、教室中における集団行動が苦手な障害児への対応を担った。 東北福祉大学および仙台二華高等学校は、安全面から学生ボランティアの確保とともに、次世代の支援を担う学生への普及を担った。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	宮城県内在住のパラスポーツ指導者全員へ周知募集を図り、各回3～4名の参加をいただいた。普段から障害者水泳に携わる方々が多く、障害特性に応じたインストラクターの指導補助を担った。教室の指導体制において、水泳の専門家であるインストラクターと発達障害者支援団体の職員が関わっていたが、水泳と障害をつなぐ役割をパラスポーツ指導員が担っていた。なお、課題として、今回開催地が仙台市内に集中したこともあり、県北・県南など遠方からの参加者が少なかった。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	5
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	16
スポーツ用具の 整備・活用について	購入したスイミングキャップは、参加した児童から氏名を覚えてもらうため、講師が着用した。 次年度以降、参加者を名前等呼ぶ等の声がけにより、参加者と講師陣の距離が近づくような工夫が必要との声があった。 以前購入したアームヘルパーに経年劣化による破損等が見られたため、新たに購入した。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
事業名	パラスポーツ発掘プロジェクト		
事業内容	県内における障がい者のスポーツ活動の拡大・支援（活動の場づくり）を目的として、スポーツに取り組む児童・生徒や、これからスポーツを始めたい方を対象に、身体を動かすことの楽しさや、身体の動かし方を体得するスポーツプログラムを行った。また、誰もがスポーツを楽しめるインクルーシブな環境を目指し、スポーツや健康づくりに取り組むきっかけづくりを行うことを目的として、知的障がい児・者、その兄弟児等を対象として県内各所にて実施した。		
開催日時	①2025年12月20日（日）10:00-11:30 ②2026年 1月10日（日）10:00-11:30 ③2026年 1月17日（日）10:00-11:30 *全国大会派遣等の業務、他の事業との兼ね合いもあり、12月～1月での開催となった。		
会場	①2025年12月20日（日）さんみらい多賀城イベントプラザ（多賀城市） ②2026年 1月10日（日）支援学校仙台みらい高等学園（仙台市） ③2026年 1月17日（日）富谷市成田公民館（富谷市）		
参加者	①2025年12月20日（日）申込 6名 ②2026年 1月10日（日）申込20名 ③2026年 1月17日（日）申込14名 *プール体験教室等で改めて周知を行ったところ、プール体験が楽しかったのでこちらにも参加した方も多く見られ、また、一度参加した後に改めて参加申し込みを行うものが出てくるなど、後半は申込数が増加した。		
人員体制	パラスポーツ指導者 4名 N.athletics陸上チーム 4名（うちパラスポーツ指導者1名） 協会職員 2名（うちパラスポーツ指導者2名）		
連携団体名 （箇条書き）	（株）N.athletics 富谷市		
実際の事業での 連携団体の役割	講師、補助員を務める団体による検討会を実施。 実施形態、事業内容の検討を行った。 各回での用具の準備、当日のスクール運営などを担っていただいた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	障がい者スポーツ指導者資格を持つ放課後デイサービスにて指導を行う方々に講師を務めていただいたほか、受付、実技補助、参加者への介助等を行っていただいた。	本事業における パラスポーツ指導者の 実人数	7
		本事業における パラスポーツ指導者の 延べ人数	21
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
事業名	宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会		
事業内容	スポーツを通じて、社会で生きていく上で必要な力を養う一つの機会とし、日々の練習の成果を競い合い、自立した社会生活につなげることを目的として、宮城県内の知的障がい者の支援学校に在籍する生徒を対象とした陸上記録会を実施した。		
開催日時	2025年9月14日（日） 7:00-14:00		
会場	岩沼市陸上競技場		
参加者	宮城県内支援学校13校から94名の生徒が出場した。		
人員体制	協会職員・役員 5名（うちパラスポーツ指導者5名） 支援学校教員 14名（うちパラスポーツ指導者1名） パラスポーツ指導者 1名 大学生 3名 みやぎTFC 6名 N.athletics陸上チーム 4名（うちパラスポーツ指導者1名）		
連携団体名 （箇条書き）	＊宮城県障害者スポーツ指導者協議会 ＊N.athletics陸上チーム ＊みやぎTFC		
実際の事業での 連携団体の役割	連携団体との検討会の実施。 実施種目、内容の検討を行った。 プログラム編成、役員編成、用具の準備、競技会運営などを担っていただいた。 支援学校教員は、当日の競技役員として、また、連携団体のみやぎTFC、N.Athletics陸上チームに所属する知的障がいを持つ選手達も、運営補助員として、レースの先導や伴走、通告等の業務を行った。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	生徒が不安なく競技に出場できる環境を作るため、日常に近い人員体制をとったこともあり、できるだけ外部役員を入れずに実施した。障がい者スポーツ指導者資格を持つ教員や、支援学校の体育の授業を担当している放課後デイサービスの職員、全国障害者スポーツ大会派遣選手団で陸上競技を担当するパラスポーツ指導者など、普段から生徒と接している方々に競技役員を務めていただいた。	本事業における パラスポーツ指導者の 実人数	7
		本事業における パラスポーツ指導者の 延べ人数	7
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし		

【 宮城県パラスポーツ振興事業 】の事業写真

①事業写真

(1) 【 発達障がい児のためのプール体験教室 】

事業の様子



会場



体験教室



短期教室



教室後ミーティング

【宮城県パラスポーツ振興事業】の事業写真

①事業写真

(2) 【パラスポーツ発掘プロジェクト】

事業の様子



受講生受付



反応運動



ボールを使った運動



ラダーを使った運動

【 宮城県パラスポーツ振興事業 】の事業写真

①事業写真

(3) 【 宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会 】

事業の様子

	
開会式	跳躍種目
	
トラック種目	役員ミーティング

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
全体事業名	宮城県パラスポーツ振興事業		
総委託費	1,981,556	決算額	2,046,287
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	より身近な地域で、気軽に親しむ環境を構築することを狙いとして実施。支援者が障害に対する理解を深める場として、地域の関係者の主導により継続して実施出来るよう展開することで、障害当事者の受け入れ体制の構築をねらいとした。また、参加者のニーズも高く、様々な種目を行わせたいという保護者の思いもあり、定員以上の応募があったものの、体調等の理由により当日参加数が減少してしまったイベントもあった。一方で、屋外イベントとなった支援学校陸上では、保護者より事前に開催の問い合わせがあるなど、生徒はもとより、観戦する保護者も大会の開催を楽しみにしている様子が伺えた。 事業全体を通して、社会資源としての施設等を積極的に利用する機運が生じつつあり、今後も継続して実施することでより多くの支援者を募り、また、当事者が参加しやすい環境を作るきっかけとしていかなければならないなど感じている。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	各事業を通じて、それぞれ連携する団体と、県内における現状や今後の課題等の共有が実施できたことは大きかった。今回、短期教室において、1か所のスクールを会場に、そのスクールに勤務するインストラクターを中心とした実技指導を実施した。習熟度別にグループ分けを行い、「水遊びから泳ぎ」へと一連の流れでの指導、最終日には「できた」ことを詳細に記した修了証を配布するなど、工夫して実施していた。また、比較的手厚く指導できる時間帯を記した広告なども配布し、実際に問合せ、通う生徒もあらわれている。より多くの社会資源を積極的に利用しようとするならば、現場の指導者への意識づけから実践への流れもさることながら、経営者の意識づけの必要性を感じている。参加した保護者等からの評価は大きかったので、この成功体験が多くの方の目に留まるような周知の方法の検討、今後も短期教室を取り入れる等の実施形態の検討など、利用者や保護者の満足度をより高めるの教室の進め方の検討などの意見もあった。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	概ね予算通りの内容で実施できていたと思われる。特にプール事業については、今回より1回限りの体験教室と4日間参加の短期教室の2講座を実施。受講料もそれぞれ大きく値上げしたものの、募集を始めて3日間で定員を大きく超える申し込みがあり、関係団体と協議の上、30名づつ、2時間に分けて開講することに対応した。その際、本来であれば担当した2時間分の諸謝金を交付すべき所、1日分として従来通りの交付額で実施した。やはり、活動した時間分の交付が必要であったと反省している。 燃料費、人件費の高騰などにより、特にプール使用料は次年度以降も上昇する傾向にあり、民間の施設を使用する事業では、いつまでも好意による安価な金額での借用というわけにもいかないのが現状ではあるが、前回同様、スポーツ活動へのきっかけづくりのための教室として開催することができたことは、今後、地域で自走することを目指し、自主財源を使用しての実施を目指すことに少しづつではあるが近づけているように感じた。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	前年に引き続き、様々な分野の方々との意見交換ができ、大きな収穫となった部分もあった。 また、各事業へ参加した保護者、運営を担当した講師、補助員の満足度は高いものがあり、教室等へのサポートを通じた障がい理解も深まっている様子であった。教室への参加者も、教室終了後に、既存の活動しているクラブやサークルへ入会する方法を問い合わせ、実際にスクールへ通う者も出てくるなど、運動の定着化へのきっかけという役割は果たされてきているように感じた。参加した保護者からは、このような事業が各地で継続的に開催されることを望む意見が多く、単発での開催よりある程度まとまった継続した活動が求められているように感じた。 支援学校対抗陸上では、必ずしも競技性を求めている、運動能力を獲得することが難しい生徒達にとって、日ごろから大会に参加する(できる)機会が少ない状況と、参加機会を求める保護者や、教職員の声が大いに反映された大会となっており、荒天だったにもかかわらず欠場者は少なく、生徒はもとより、観戦する保護者も大会の開催を楽しみにしている様子が伺えた。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	障がい者スポーツの普及啓発については、他機関との連携、専門性の組み合わせが重要である。障がい者当事者を含めて、関わり合う人たちが自身の役割感を満たされる効果があることが分かった。その意味では、本企画の発展性は大きいように考えている。 また、本事業を通じて社会資源としての「スイミングスクール」、公立または民間の「プール」等の体育施設、総合型地域スポーツクラブ等で、事業として確立し、入会に繋げるなど、会員獲得の一助になればと考える。 そのためにも、県内の各圏域での本事業の実施することで、各地域でのパラスポーツ指導者やスポーツ推進員、学校や民間のスポーツ施設、障がい当事者がより連携する事業展開を目指したいと考えている。また、単発での運動経験を得るための事業から継続した活動へと結びつける事業展開の必要性も増してきている。		
その他所見			

【事業名】京都府における障害者スポーツの振興事業

- ◆【事業内容①】①チャレンジ！パラスポーツ 陸上競技体験会(北部会場)
- ◆【事業内容②】②プールで楽しもう(舞鶴会場)
- ◆【事業内容③】③プールで楽しもう(福知山会場)
- ◆【事業内容④】④プールで楽しもう(綾部会場)

一般社団法人京都障害者スポーツ振興会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会		
◆計画書作成者	中村 芳道		
◆企画・実施担当者	中村 芳道	◆経理担当者	井川 善博

全体事業名称	京都府における障害者スポーツの振興事業
委託費	1,275,000
地域の実情・課題点	当振興会は、障害者スポーツに取り組む人の増加を目指し、スポーツのすそ野を広げる事業に注力しているが、近年、高齢化や人口の減少、コロナ禍の影響によるスポーツ離れがすすんできている。 とりわけ、京都府北部地域においては、スポーツ資源が少なく、障害者がスポーツに触れる機会が少ない。 そのために、地域において障害者が利用できるスポーツの場づくりと、それを支える人づくりを進める必要がある。
総合的な事業の目的	本事業は、障害者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現することを目的に実施する。本事業をきっかけに地域の行政、福祉団体、スポーツ団体等、関係者と連携・共同して企画・運営することにより、地域の障害者スポーツの振興体制を整備していきたい。
総合的な事業のねらい	京都府北部地域は、京都市内や府南部地域と比較してスポーツ施設が少なく、とりわけ陸上競技は、体験する機会が少なく、近年整備された京丹後市の陸上競技場を活用して、体験会を実施し、身近な場所で陸上競技に関わる機会を拡大する。 また、プールは公共施設が少なく、民間事業者が運営する施設がほとんどになっており、障害者が利用しにくい状況があり、事業者の協力によってプール体験会を実施し、障害者が身近な場所で水遊び、水泳に取り組める環境を作り出していきたい。

事業名	
事業①	チャレンジ！パラスポーツ 陸上競技体験会(北部会場)
事業②	プールで楽しもう(舞鶴会場)
事業③	プールで楽しもう(福知山会場)
事業④	プールで楽しもう(綾部会場)
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会		
事業名	①チャレンジ！パラスポーツ 陸上競技体験会(北部会場)		
事業内容	パラ陸上競技の体験会		
開催日時	2025年11月8日(土) 午前10時から午後4時		
会場	京丹後はごろも陸上競技場		
参加者	障害のある参加者:42名 家族、介助等:20名		
人員体制	北丹陸上競技協会:11名 運営21名(北部12名、南部9名)		
連携団体名 (箇条書き)	京都府 京都府教育委員会 京都新聞社会福祉事業団 KBS京都 北丹陸上競技協会 京丹後市 京都パラスポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	京都府、京都府教育委員会、京都新聞社会福祉事業団、 KBS京都;広報 北丹陸上競技協会:技術指導 京都パラスポーツ指導者協議会:運営協力 京丹後市:職員2名が記録補助		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	北部在住のパラスポーツ指導者は、北部地域での活動の場が少ないので、貴重な機会として、体験活動に参加できた。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	11名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	18名
スポーツ用具の 整備・活用について	通常の陸上競技場に配置されていない、ジャベリックスロー、ビーンバックを整備することで、参加者が新たな種目に挑戦することができた。車いす用空気入れで、レーサーを持ち込み、参加者が体験することができた。リレーバトン、ゼッケンも活用できた。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会		
事業名	②プールで楽しもう(舞鶴会場)		
事業内容	水遊び、パラ水泳競技の体験会		
開催日時	2025年6月15日(日) 13時から15時		
会場	ビートスイミングまいづるプール		
参加者	障害のある参加者:27名 家族、介助等:9名		
人員体制	京都水泳協会:1名 運営13名(北部6名、南部7名)		
連携団体名 (箇条書き)	京都水泳協会 ビートスイミングまいづるプール 京都パラスポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	京都水泳協会:技術指導 ビートスイミングまいづるプール:会場提供 京都パラスポーツ指導者協議会:運営協力		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	北部在住のパラスポーツ指導者は、北部地域での活動の場が少ないので、貴重な機会として、体験活動に参加できた。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	7名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	12名
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会		
事業名	③プールで楽しもう(福知山会場)		
事業内容	水遊び、パラ水泳競技の体験会		
開催日時	2025年12月7日(日) 15時から17時		
会場	NSI福知山スイミングスクールプール		
参加者	障害のある参加者:15名 家族、介助等:7名		
人員体制	京都水泳協会:1名 運営:17名(北部9名、南部8名)		
連携団体名 (箇条書き)	福知山市 京都水泳協会 NSI福知山スイミングスクールプール 京都パラスポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	福知山市:広報 京都水泳協会:技術指導 NSI福知山スイミングスクールプール:会場提供 京都パラスポーツ指導者協議会:運営協力		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	北部在住のパラスポーツ指導者は、北部地域での活動の場が少ないので、貴重な機会として、体験活動に参加できた。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	9名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	13名
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会		
事業名	④プールで楽しもう(綾部会場)		
事業内容	水遊び、パラ水泳競技の体験会		
開催日時	2025年9月7日(日) 13時から15時		
会場	綾部健康プラザプール		
参加者	障害のある参加者:18名 家族、介助等:7名		
人員体制	京都水泳協会:1名 運営:18名(北部9名、南部9名)		
連携団体名 (箇条書き)	京都水泳協会 綾部健康プラザプール 京都パラスポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	京都水泳協会:技術指導 綾部健康プラザプール:会場提供 京都パラスポーツ指導者協議会:運営協力		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	北部在住のパラスポーツ指導者は、北部地域での活動の場が少ないので、貴重な機会として、体験活動に参加できた。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	11名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	15名
スポーツ用具の 整備・活用について	プール用車いす 体験会で使用するプールは、民間のスイミング等であり、プール用の車いすが配備されていない。今回整備することで、参加者が安心して参加することができた。他のプール会場でも活用している。		

【①チャレンジ！パラスポーツ 陸上競技体験会(北部会場)】の事業写真

① 事業写真

(1) 【チャレンジ！パラスポーツ 陸上競技体験会】

事業の様子



スタッフ打ち合わせをしています。



開会式で横断幕を背景に参加者が並んでいます



短距離走を走っています。



車いすランナーが長距離走をしています



走巾跳びの体験をしています



車いすスラロームの体験をしています。

【②プールで楽しもう(舞鶴会場)】の事業写真

① 事業写真

(2) 【プールで楽しもう(舞鶴会場)】

事業の様子



スタッフ打ち合わせをしています。



水慣れをしています



水慣れをみんなでしています。



音楽に合わせてリズムダンスをしています。



水泳の泳法指導を受けています。



水泳の泳法指導を受けています。

【③プールで楽しもう(福知山会場)】の事業写真

① 事業写真

(3) 【プールで楽しもう(福知山会場)】

事業の様子



スタッフ打ち合わせをしています。



助成金で購入したプール専用車いす



準備体操をしています。



水泳の個別指導をしています。



リズム体操をしています。



参加者全員で集合写真を撮っています。

【④プールで楽しもう(綾部会場)】の事業写真

① 事業写真

(4) 【プールで楽しもう(綾部会場)】

事業の様子



スタッフ打ち合わせをしています。



助成金で購入した「横断幕・車いす」利用の様子



準備体操をしています。(スタッフは助成金で購入した水泳帽を着用)



水泳の個別指導をしています。



リズム体操をしています。



参加者全員で集合写真を写しています。

新聞記事

事業③ プールで楽しもう（福知山会場）

12月8日(月) 京都新聞



障害者ら水泳堪能

府北部一円から集う 福知山

京都障害者スポーツ振興会（京都市左京区）は7日、障害者が水泳に親しむ行事を、福知山市和久町町のNSI福知山スイミングスクールで開いた。府北部一円から集まった参加者が、水中でのひとときを楽しんだ。

同振興会は障害者の水泳行事を府北部でも根付かせるため、ボランティアも募っている。山や舞鶴、綾部市で地

元の水泳スクールの協力を得て催している。この日は、小学生から30代まで19人が参加した。水に慣れることや水遊びから始め、ボランティアの指導を受けて本格的な水泳にも挑戦した。

長は「参加者が本当にめた輪を広げていきたくて笑顔で楽しそうだった。ボランティアも含

た。ボランティアも含

（片村有宏）

ボランティアと水泳を楽しむ障害者たち（福知山市和久町・NSI 福知山スイミングスクール）

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人 京都障害者スポーツ振興会		
全体事業名	京都府における障害者スポーツの振興		
総委託費	1,275,000	決算額	1,455,271
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	京都府北部地域において障害者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる環境作りを目指して陸上競技と水泳競技の体験会を実施した。参加者からは、事業の継続を望む声が多く聞かれた。陸上競技体験会では、参加者に団体による偏りがあった。 この事業を実施する中で、北部地域の支援学校、事業者、行政等と連携を図ることができ、地域での事業に取り組む人材を育成することができた。また、一般スポーツ競技団体との連携も図ることができた。 今後、本事業を継続することで地域との連携を深め、地域主体で実施できる体制の構築を目指していきたい。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	事業委託を受けることにより、ポスターやチラシが作成でき、北部地域の諸団体に届けることで事業を周知することができ、参加者の増加につながった。 北部地域のパラスポーツ指導者協議会からは、近くで活動の場ができてよかった、との感想があった。 事業実施に当たり、北部地域の協力者と企画・運営会議を持つことができ、これまでの「お手伝い」から「運営者」へと意識を高めることができた。実施回数を増やすことや新たな会場を確保することに積極的な意見が聞かれるようになった。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	委託費については、これまで支払いできていなかった謝金・交通費を支給することができ、協力者のモチベーションの向上につながった。また、プール用車いすなどのスポーツ用具が整備できたことで、参加者が安心して参加できるようになり、有効に活用することができた。 今年度は、初めての試みであったので、費用の見積もりに不十分な部分があった。今回の経験を生かして、次年度はより正確に見積もって予算建てを検討したい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【参加者】 普段は経験できないことができて、楽しかった。今後も継続してほしい。違う場所でも実施してほしい。 【支える人】 当初は戸惑ったが、親切にサポートしてもらい、自分も楽しく参加できた。もっと、いろいろな場所できるとよい。今後も継続してやっていきたい。地元の高校生がボランティアとして参加し、またやりたい、との声があった。 【行政等】 北部地域で実施してもらってありがたい。当日は、係としてお手伝いできた。北部の支援学校からたくさん参加させていただいた。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	京都府北部地域でのスポーツ体験事業は、多くの障害者の参加機会を増やし、スポーツに親しむ人の増加につながる。継続的に実施していくとともに、今後さらにその機会と場所の確保に努める必要がある。 今回3件のプールの協力が得られたが、今後さらに民間事業のプール運営者に障害者利用を広げるための働きかけを進める。 本事業の中で連携できた北部地域のスポーツ指導者や行政、支援学校、大学、専門学校、社会福祉協議会等との協力関係を深め、地域主体で実施できる基盤を作っていく必要がある。		
その他所見	本事業を通じて、スポーツに触れる機会の少ない地域の障害者に体験の場を確保することができた。参加者からは、楽しかった、という感想とともに、今後も継続してほしい、もっと機会を増やしてほしい、という声が聞かれた。 全国障害者スポーツ大会の参加経験者が、その後もスポーツ活動を継続していく機会になった。 これまででは、地域の行政の支援が希薄だったが、事業を通じて協力関係が深まり、今後に期待できる要素になった。		

【繋げるパラスポーツ振興事業 2025】

- ・パラクライミングと他地域交流
- ・精神障害者のスポーツ環境拡充
- ・サウンドテーブルテニスへチームアプローチ

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	増田和茂		
◆企画・実施担当者	増田和茂	◆経理担当者	角田 恵

全体事業名称	繋げるパラスポーツ振興事業2025
委託費	160万円
地域の実情・課題点	当協会では、選択肢の多いパラスポーツが推進する目的に施設整備、支える人や組織、関係事業への経費助成、多種のパラスポーツイベント企画開催など多種多様の取り組みを行っている。その現況で昨年度同委託事業で取り組んだ新しいスポーツへの可能性とチャレンジとしての「クライミング」、視覚障害者スポーツの代表である「サウンドテーブルテニスの周知と新展開」に取組み一定の考課が検証されたが選手減少と高齢化、審判員の育成課題には及ばず、そして、精神障害者におけるスポーツ振興への取り組みに関係団体との関係化が生まれた。その需要とマッチングにさらに充実と継続することが課題である。
総合的な事業の目的	本事業は前年度取り組んだ事業(パラクライミング教室・サウンドテーブルテニスの周知と新展開・精神障害者のスポーツ環境づくり)が一過性ではなく、継続した付加価値をもって繋ぐ事業を目的とする。障害者スポーツの拠点施設(障害者優先施設)に傾注することなく、民間スポーツ施設の活用による新たなパラスポーツ環境への気づきや施設管理者の理解促進、地域や関係化のなかった団体との連携と協働、地域におけるパラスポーツの需要を考究する。そして、各事業における対象者を兵庫県在住者の枠を超えて、隣府県との交流という新たなチャレンジが参加者、指導者、支援者などへの好影響を創出することに意識した取り組みを目指す。
総合的な事業のねらい	クライミングにおいては、中期的にクラブ・サークルへの発展、隣府県のパラクライミング交流や民間施設の利用促進と施設のユニバーサル施設環境整備(導線やトイレ、更衣室など)、長期的には「兵庫県パラクライミング連盟」への創設を目指す。精神障害者へのスポーツにおいては、スポーツを通じた地域事業所間の関係づくりとスポーツ事業の定着、パラスポーツ指導員の活動環境の拡充や精神障害者対象の「スポーツ推進連携会議(仮称)」創設。サウンドテーブルテニスにおいては、県大会参加の増員、晴眼選手の参加や講習会受講者証の発行による支援者の定着、審判員の育成、長期には「兵庫県視覚障害者卓球協会(仮称)」の創設を目標とする。

事業名	
事業①	パラクライミングと他地域交流
事業②	精神障害者のスポーツ環境拡充
事業③	サウンドテーブルテニスハチームアプローチ
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
事業名	パラクライミングと他地域交流		
事業内容	パラクライミング教室の企画開催 ①実施回数 4回 ②施設環境 昨年度実施民間施設を利用 ビレーロープ設置、アクセスが良いこと、車いす用トイレが常設、施設側の受け入れ体制があること ③対象 肢体不自由(切断、車いすユーザー、機能障害)、視覚障害(全盲、弱視)、知的障害、精神障害 ④他府県パラクライミング団体との交流(徳島県、大阪府、京都府) ⑤パラクライミング国際選手のアドバイスと指導(小林幸一郎、大内秀之、濱ノ上文哉) ⑥パラスポーツ指導者の協働(研修含む)		
開催日時	①7月13日(日)12:00-15:00 ②9月7日(日)10:00-12:00 ③10月5日(日)10:00-12:00 ④11月16日(日)10:00-12:00		
会場	①7月13日(日) 南あわじcocomo 南あわじ市松帆古津路689 ②9月7日(日) グラビリティリサーチ(ミント神戸) 神戸市中央区雲井通7-1-1 M-INT神戸18F	③10月5日(日) グラビリティリサーチ(ミント神戸) 神戸市中央区雲井通7-1-1 M-INT神戸18F ④11月16日(日) グラビリティリサーチ(ミント神戸) 神戸市中央区雲井通7-1-1 M-INT神戸18F	
参加者	①7月13日(日)35名(肢体不自由7名、知的障害8名、視覚障害5名、精神障害2名、一般13名) ②9月7日(日)29名(肢体不自由13名、知的障害2名、視覚障害2名、一般12名) ③10月5日(日)25名(肢体不自由13名、知的障害1名、視覚障害3名、一般8名)	④11月16日(日) 23名(肢体不自由8名、知的障害2名、精神障害1名、一般12名)	
人員体制	①7/13 パラクライミング指導者 5名、パラスポーツ指導員 4名、障害者スポーツ協会 3名、クライミングジム施設職員 2名 *パラクライミング国際選手2名含む ②9/7 パラクライミング指導者 7名、パラスポーツ指導員 4名、障害者スポーツ協会 2名、クライミングジム施設職員 2名 *パラクライミング国際選手2名含む	③10/5 パラクライミング指導者 6名、パラスポーツ指導員 2名、障害者スポーツ協会 2名、クライミングジム施設職員 2名 *パラクライミング国際選手1名含む ④11/16 パラクライミング指導者 6名、パラスポーツ指導員 2名、障害者スポーツ協会 2名、クライミングジム施設職員 2名 *パラクライミング国際選手1名含む	
連携団体名 (箇条書き)	①日本パラクライミング協会 ②阿波ZARU(あわざる)(徳島県) ③京都はんなりモンキー ④一般社団法人フォーススタート ⑤ひょうごパラスポーツ指導者協議会 ⑥NPO法人ヤフラボラス	⑦クライミングジム(cocomo 南あわじ市) ⑧クライミングジム(グラビリティリサーチミント神戸)	
実際の事業での 連携団体の役割	①パラクライミングの指導と助言 障害に応じた技術やサポート(ブラインドへの言語による情報支援、キャンパーといわれる上肢だけの昇降など) 世界選手権日本代表選手からのクライミングの知見や国内地域での取り組みや環境など情報提供 ②事業の周知と参加者募集 大阪、京都、徳島県からの参加交流と今後の連携	③組織化への相談と提案 本事業を継続し、クラブ化、組織創設の方法など助言 民間ジムの活用やサポーターの養成や確保定着 ④パラスポーツ指導者は、未経験者であることから受付、誘導、トイレガイド、用具(シューズ、ハーネス)の係 また、待機場所からクライミングフロアへの移動介助など	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	①事業会場へのアクセス対応(最寄り駅から視覚障害者、車いすユーザーへのガイド) ②施設での安全配慮(階段、段差、エレベーター誘導、シューズやハーネス用具の着用補助)と行動 ③クライミング実施時の身体補助、準備体操 ④自己研鑽と体験情報を仲間に伝えること	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	26人
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	36人
スポーツ用具の 整備・活用について	今年度は用具購入なく、昨年度整備用具(専用シューズ)を活用。クライミングシューズは、今後のクラブ化、個人活動に向けたレンタル用具として期待される。クライミング施設(民間)の使用料は、シューズ、ハーネスを持参することで経費節減とクライミングへの取り組みツールとして重宝する。		

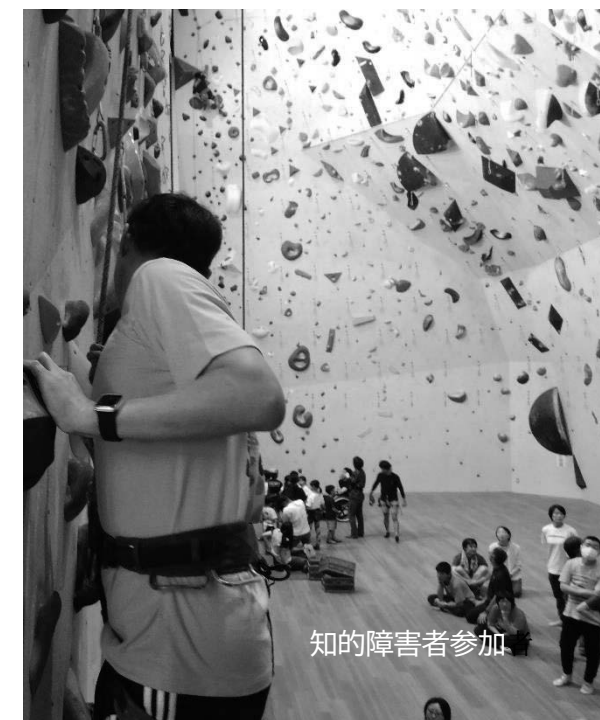
各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
事業名	精神障害者のスポーツ環境拡充		
事業内容	精神疾患、精神障害者の運動環境は少ない現状から関係機関や就労事業所などの連携で計画調整して、地域や施設に密着し取り組む。 (内容) ①心と体への開放導入プログラム ヨガとソシオエステ(「ソーシャル」を意味する「ソシオ」と「エステティック」を組み合わせ)の二つのメニュー また、ウォームアップに「姿勢」「呼吸」法を導入した。	②レクリエーションスポーツプログラム ・ポッチャ、ダーツ、モルック、バッコ、SSピンポン、卓球/バレー他の創意工夫したレクリエーションプログラムを単一または複数の用具での体験。 ③アウトドアスポーツを複数事業所交流事業 ・ウォーキングフットボール(淡路アスパ五色) ・事業所対抗モルック交流会	
開催日時	①6月27日(金)10:30-12:00 ②7月11日(金)10:30-12:00 ③8月20日(水)10:30-12:00 ④9月3日(水)10:30-12:00 ⑤9月12日(金)13:00-16:00 ⑥10月31日(金)13:00-16:00 ⑦11月6日(木)12:00-15:00	⑧11月13日(木)13:30-15:00 ⑨11月26日(水)13:00-15:00 ⑩11月28日(金)10:30-12:00 ⑪12月15日(月)13:00-16:00 ⑫12月26日(金)10:30-12:00 令和8年 ⑬1月6日(火)10:30-12:00	
会場	①6月27日 みになでしこ(神戸市西区) ②7月11日 みになでしこ(神戸市西区) ③8月20日 みになでしこ(神戸市西区) ④9月3日 みになでしこ(神戸市西区) ⑤9月12日 サンビック尼崎 ⑥10月31日 みになでしこ(神戸市西区) ⑦11月6日 アスパ五色(洲本市)	⑧11月13日 神戸みなとのもり公園 ⑨11月26日 三木市公民館 ⑩11月28日 ミニなでしこ(神戸市西区) ⑪12月15日 尼崎市園田東学習プラザ ⑫12月26日 みになでしこ(神戸市西区) 令和8年 ⑬1月6日 神戸市教育会館	
参加者	①6/27:19(障害者15、施設職員4) ②7/11:13(障害者10、施設職員3) ③8/20:14(障害者11、施設職員3) ④9/3:12(障害者9、施設職員3) ⑤9/12:27(障害者24、施設職員3) ⑥10/31:11(障害者8、施設職員3) ⑦11/6:55(障害者43、施設職員12)	⑧11/13:38(障害者34、施設職員4) ⑨11/26:32(障害者29、施設職員3) ⑩11/28:10(障害者7、施設職員3) ⑪12/15:27(障害者20、施設職員7) ⑫12/26:15(障害者12、施設職員3) ⑬1/6 :8(施設職員8)	
人員体制	①6/27:6(バラスポーツ指導者2、施設4、スポ協1) ②7/11:5(バラスポーツ指導者2、施設3、スポ協1) ③8/20:7(バラスポーツ指導者4、施設3、スポ協1) ④9/3:5(バラスポーツ指導者1、施設3、スポ協1) ⑤9/12:9(バラスポーツ指導者3、施設3、スポ協3) ⑥10/31:5(バラスポーツ指導者1、施設3、スポ協1) ⑦11/6:28(バラスポーツ指導者2、施設12、淡路サッカー組織選手10、スポ協4)	⑧11/13:8(バラスポーツ指導者2、施設4、スポ協2) ⑨11/26:9(バラスポーツ指導者2、施設3、エスデシャン2、スポ協2) ⑩11/28:6(バラスポーツ指導者2、施設3、スポ協1) ⑪12/15:27(バラスポーツ指導者3、施設7、スポ協3) ⑫12/26:6(バラスポーツ指導者1、施設4、スポ協1) 令和8年 ⑬1/6 :11(施設職員8、スポ協3)	
連携団体名 (箇条書き)	①兵庫県精神福祉家族会連合会 ②FC.AWJ(淡路島全域のサッカー組織)リーグ加盟) ③就労継続支援B型事業所(さくら工房) ④就労継続支援B型事業所(みになでしこ) ⑤就労継続支援B型事業所(そよかぜねっと) ⑥神戸自立地域ネットワーク		
実際の事業での 連携団体の役割	①兵庫県精神福祉家族会連合会 上記登録及び関係団体への事業周知と取組連携 ②FC.AWJ(淡路島全域のサッカー組織)リーグ加盟) 上記サッカー選手による指導、助言 ③就労継続支援B型事業所(さくら工房) 尼崎市内同類事業所への参加呼びかけ、施設利用予約と申し込み手続きなど	④就労継続支援B型事業所(みになでしこ) 事業所における活動定着に向けた取り組み ⑤就労継続支援B型事業所(そよかぜねっと) ソシオエステティック組織連携、三木市内福祉事業所への参加勧誘など ⑥神戸自立地域ネットワーク 神戸市内同類事業所への参加呼びかけ、会場予約と申込手続き	
本事業における バラスポーツ指導者の 役割・活用について	各事業の用具、会場設営、準備体操を担当する。また、従来のバラスポーツとの関りに精神障害者関係はほとんどなく、精神障害当事者から障害を学ぶこと、支援の要領を体験すること、さらに、生活環境(就労、余暇活動など)を知る。また、日頃体験が少ない「ヨガ」「呼吸や姿勢」、「多種のレクリエーション」、運動強度からも安全な「ウォーキングフットボール」を体験することが、今後の活動の場を広げる。	本事業における バラスポーツ指導員の 実人数	19
		本事業における バラスポーツ指導員の 延べ人数	25
スポーツ用具の 整備・活用について	スポーツ用具の整備(ダーツ、サッカーボール) ダーツ:事業所内で狭いスペースで手軽にできるレクリエーション財として活用する。障害特性や日頃の運動習慣がないことへの背景に運動参加の一歩として導入する。また、前年度整備したモルック、ポッチャ、SSピンポン用具の活用もあり複数のスポーツ体験は、運動・スポーツへの関心・興味の継続性をねらう。また、仲間からの賞賛は精神機能への好影響である。 サッカーボール:ウォーキングフットボールの練習、試合活用する。サッカーというイメージから「走らないサッカー」は息切れするほどの運動強度なく安心安全、さらに未経験者に人気高く、今後のサッカー定着が期待できる。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
事業名	サウンドテーブルテニスヘチームアプローチ		
事業内容	①サウンドテーブルテニス周知とユニバーサルスポーツ化 SSピンポン用具を使用して一般卓球台が専用台に類似環境ができることから、画期的な用具として視覚障害者を取り組める事業を行う。 ②卓球バレー・SSピンポンとの協働 障害の有無を超え、子供から高齢者まで活動盛んな同競技関係団体と連携協働 ③パラスポーツ指導者協議会地域(9地域)活動体制に、小学校、イベント体験会・教室が開催されるように連携する。 ④サウンドテーブルテニスの普及課題である審判員養成に向けた講習事業(無資格で修了書飲み発行) 導入段階であり、公認資格取得への動機づけをつくる。 ⑤サウンドテーブルテニスの普及目的にした組織体制を関係団体、選手、審判員などと検討し具体化する。		
開催日時	①6月8日(日)13:00-16:00 ②6月28日(土)13:00-16:00 ③7月23日(水)10:00-16:00 ④7月24日(木)10:00-15:00 ⑤8月3日(日)9:30-16:00 ⑥8月23日(土)10:00-12:00 ⑦9月17日(水)10:00-11:00 ⑧9月19日(金)10:30-12:10 ⑨9月20(土)13:00-16:00 ⑩9月27日(土)10:00-16:00 ⑪10月13日(祝月)9:00-15:00 ⑫10月22日(水)12:00-13:00 ⑬11月1日(土)9:30-12:00 ⑭11月9日(日)13:00-15:00 ⑮11月15日(土)10:00-15:00 ⑯11月18日(火)13:00-14:00 ⑰11月20日(木)17:30-19:30 ⑱11月24日(祝月)10:00-12:00 ⑲11月27日(木)9:00-11:30 ⑳11月29日(土)15:00-17:00 ㉑12月5日(金)10:00-12:00 ㉒12月14日(日)10:00-11:30 ㉓12月20日(土)15:00-16:30		
会場	①6月8日(日)神戸市長田文化センター ②6月28日(土)加古川市総合体育館 ③7月23日(水)アクリエ姫路 ④7月24日(木)アクリエ姫路 ⑤8月3日(日)上郡スポーツセンター ⑥8月23日(土)加古川市総合福祉センター ⑦9月17日(水)赤穂市立原小学校 ⑧9月19日(金)洲本市立第一小学校 ⑨9月20(土)明石市立総合福祉センター ⑩9月27日(土)たつの市スポーツセンター ⑪10月13日(祝月)県立総合体育館(西宮市) ⑫10月22日(水)丹波市氷上住民センター ⑬11月1日(土)高砂市ユーアイ福祉交流センター ⑭11月9日(日)こべしあわせの村 ⑮11月15日(土)木口記念会館(芦屋市) ⑯11月18日(火)赤穂市立有年小学校 ⑰11月20日(木)三菱電機三田市工場 ⑱11月24日(祝月)姫路市立勝原小学校 ⑲11月27日(木)丹波市立崇広小学校 ⑳11月29日(土)西宮市立北六甲台小学校 ㉑12月5日(金)神戸市立春日台小学校 ㉒12月14日(日)神戸福祉交流センター ㉓12月20日(土)神戸市総合福祉センター		
参加者	①6月8日(日)80人 ②6月28日(土)285人 ③7月23日(水)215人 ④7月24日(木)215人 ⑤8月3日(日)35人 ⑥8月23日(土)16人 ⑦9月17日(水)53人 ⑧9月19日(金)21人 ⑨9月20(土)200人 ⑩9月27日(土)105人 ⑪10月13日(祝月)30人 ⑫10月22日(水)11人 ⑬11月1日(土)23人 ⑭11月9日(日)100人 ⑮11月15日(土)56人 ⑯11月18日(火)45人 ⑰11月20日(木)27人 ⑱11月24日(祝月)23人 ⑲11月27日(木)77人 ㉑11月29日(土)21人 ㉒12月5日(金)63人 ㉓12月14日(日)15人 ㉔12月20日(土)36人		
人員体制	①6月8日(日)パラスポ協会1、ボラ1 ②6月28日(土)競技団体3、パラスポ指導者15、ボラ3、パラスポ協3 ③7月23日(水)パラスポ指導者6、パラスポ協1 ④7月24日(木)パラスポ指導者6、パラスポ協1 ⑤8月3日(日)パラスポ指導者8、パラスポ協2 ⑥8月23日(土)パラスポ指導者1、パラスポ協2 ⑦9月17日(水)パラスポ指導者1、パラスポ協3 ⑧9月19日(金)パラスポ指導者1、パラスポ協3 ⑨9月20(土)パラスポ指導者2、パラスポ協1 ⑩9月27日(土)パラスポ指導者2、パラスポ協1 ⑪10月13日(祝月)パラスポ指導者2、パラスポ協1 ⑫10月22日(水)パラスポ指導者2、パラスポ協4、⑬11月1日(土)パラスポ指導者3、パラスポ指導者5、パラスポ協1 ⑭11月9日(日)100人 ⑮11月15日(土)パラスポ指導者1、パラスポ協1 ⑯11月18日(火)パラスポ指導者1、パラスポ協2 ⑰11月20日(木)パラスポ指導者2、パラスポ協1 ⑱11月24日(祝月)23人 ⑲11月27日(木)パラスポ指導者5、パラスポ協2 ㉑11月29日(土)パラスポ指導者1、パラスポ指導者4、パラスポ今日 ㉒12月5日(金)パラスポ指導者1 ㉓12月14日(日)パラスポ指導者2、パラスポ協2 ㉔12月20日(土)パラスポ指導者2、パラスポ協2		
連携団体名(箇条書き)	①兵庫県視覚障害者福祉協会 ②加古川市視覚障害者福祉協会 ③高砂市視覚障害者福祉協会 ④西宮市視覚障害者福祉協会 ⑤三田市視覚障害者福祉協会 ⑥丹波市視覚障害者福祉協会 ⑦全国パーキンソン病友の会兵庫県支部 ⑧ひょうごパラスポーツ指導者協議会 ⑨兵庫県卓球バレー協会 ⑩日本SSピンポン協会 ⑪木口福祉財団 ⑫高砂市社会福祉協議会 ⑬県立総合リハビリセンター・ロボットリハビリセンター ⑭三菱電機工場三田		
実際の事業での連携団体の役割	①障害者団体:体験、講習会における指導補助、デモンストラーターとして当事者からのアドバイス ②全国パーキンソン病友の会兵庫県支部:卓球交流大会(福原 愛さんゲスト)でのSTT紹介と体験環境協力 ③ひょうごパラスポーツ指導者協議会:開催会場での企画準備調整と当日スタッフ参加 ④木口福祉財団:木口祭りにSTT体験ブース提供 ⑤兵庫県卓球バレー協会・日本SSピンポン協会との連携でSTT周知協働 ⑥高砂市社会福祉協議会:会場と専用台利用の協力 ⑦県立総合リハビリセンター・ロボットリハビリセンター:ロボット介護事業での紹介ブース提供 ⑧三菱電機工場:労働組合による従業員体験会の協働		
本事業におけるパラスポーツ指導者の役割・活用について	①令和6年度委託事業でSSピンポンセット購入と地域活用体制 地域におけるサウンドテーブルテニスの普及推進体制を整備 ②サウンドテーブルテニス周知活動重点項目に取り組む 福祉イベント、福祉教育の一環として情報を拡散させること ③サウンドテーブルテニス審判によるサポート体制に取り組む 日本公認審判員資格取得者を育成し、公認大会の運営に携わる ④兵庫県サウンドテーブルテニス普及の組織化に同調と協働	本事業におけるパラスポーツ指導員の実人数	80
		本事業におけるパラスポーツ指導員の延べ人数	86
スポーツ用具の整備・活用について	サウンドテーブルテニス専用台が高額である理由と競技人口が少ないことから専用台が常備されない現状がある。よって、地域活動も地域差がある中でパラスポーツ指導者が支援する機会が少ない。また、公認審判員有資格者も活動する機会が少なく、活動継続、審判員スキルの向上と維持においても課題がある。地域のスポーツ施設や学校に常設された一般卓球台でサウンドテーブルテニス代用することで周知への期待がもてる。このSSピンポン器具がユニバーサルスポーツとして画期的な活動事例(三重県)を参考にすることが活動指針の具体である。この用具は、サイド/エンドフレーム仕様部品、ネットと支柱はコンパネクとに収納、卓球台を保護するシール材など他養生テープと共に容易に持ち運びができる。		

パラクライミング 2026.7.13 クライミングジム cocomo



パラクライミング 2026.9.4 グラビティリサーチ mint 神戸



開講式とスタッフ紹介



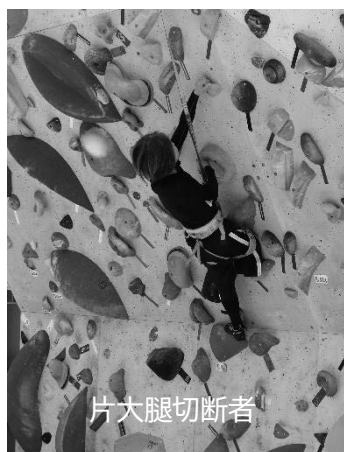
講師: 片岡さん



両下肢麻痺者への移動介助



ブラインドクライマー濱ノ上文哉氏
と視覚障害者への指導



片大腿切断者



脳性麻痺者のクライミング



講師: 大内さん



障害は二分脊椎

パラクライミング 2026.10.5 グラビティリサーチ mint 神戸



準備体操



視覚障害者
への指導



胸髄7番損傷による対麻痺者



小林幸一郎氏の指導



脳性麻痺者の指導と補助



両下肢麻痺者の
ハーネス着用



小林幸一郎氏の模範クライミング

パラクライミング 2026.11.16 グラビティリサーチ mint 神戸



受付と専用シューズの対応



準備体操



両下肢麻痺者へのハーネス着用



視覚障害者への指導



片下腿切断者のクライミング



脳原性障害者の昇降



サウンドテーブルテニスのチームアプローチ 周知プログラム



STT,SS ピンポン、卓球バレー
のコラボレーション



STT 選手による小学校訪問



STT 選手3名とスポーツ推進委員



STT 選手との交流授業



福祉学習と STT



神戸市内小学校の福祉学習



ブラインドヨガクラブへ訪問



淡路島の小学校と地元視覚障
害の方を講師に依頼

サウンドテーブルテニスのチームアプローチ 研修プログラム



隣県交流 STT 会場で
審判スキルアップ研修



公認審判員講師による審判講習



パラスポーツ指導員対象講習会



スポーツ推進委員対象講習



視覚障害者の参加体験



パラスポーツ指導者講習



スポーツ推進委員講習



パラスポーツ指導者講習

精神障害者のスポーツ環境充実



ソシオエステ施術



就労継続移行事業所へ出向



室内モルックと
パラスポーツ指導者



ダーツは高人気レクリエーション



ヨガ教室講師はパラスポーツ指導者



ウォーキングフットボール指導は
地元サッカークラブ



精神障害者のスポーツ環境充実



就労継続移行 A 型事業所対抗モルック大会



ボッチャは好評



モルック指導はパラ
スポーツ指導者



ヨガ体験は好感度



スクエアボッチャの
紹介と体験



多種のモルック紹介



パラスポーツ指導者によるモルック事業



トイレットパーパ
ートハトレ

令和7年度
（公財）日本バラスポーツ協会委託事業地域におけるバラスポーツの振興事業

チャレンジスポーツ大会 「コミュニティサッカー」

バスで繋ぐ、人が繋がる、心を繋げる 勝ちより価値



ウォーキングフットボールとは
歩いて行うミニサッカーです。
「走らない」「ぶつからない」「うばわない」
これらのプレイスタイルによって、老若男女、サッカー未経験者、運動が苦手な方も安心して楽しむことができます。
自然と笑顔になる不思議な楽しさをぜひ体験してみませんか？

スケジュール
日時：2025年11月6日（木）13:00～15:00
（12:00開場 12:30受付開始）
■FC AWJ選手、スタッフによるサッカー体験
■ウォーキングフットボール体験

FC.AWJ とは？
浜路島を拠点に活動しているサッカークラブです。
2022年には浜路島・浜本町・島本町と併せて「コミュニティサッカー」というビジョンを掲げ、「勝ちよりも楽しむ、勝つよりも楽しむ」を活動しています。

場所
五色台運動公園アスバ五色メインサッカー競技場
兵庫県洲本市五色町島崎2613
雨天時は、アスバ五色体育館にて実施

お問合せ
主催 （公財）兵庫県障害者スポーツ協会
協力 FC.AWJ / FCストライカーズ

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会		
全体事業名	繋げるパラスポーツ振興事業2025		
総委託費	1,600,000	決算額	1,604,487
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	三事業すべてが「挑戦」であり、アーバンスポーツへ向けたクライミングは民間施設を利用するに参加料無料。継続活動には、障害者割引はない、ビレイヤーの確保など経費面での個人負担が活動への影響が大きいことを実感する。精神障害者への運動環境には、個人参加ではなく、事業所単位での実施だから取り組めた事実がある。自立したスポーツ活動に施設から対外的な活動参加が課題となる。サウンドテーブルテニスの課題に対応に取組み、これまでにない周知活動は2年で4500人を超えるが、当事者参加には安定したガイドヘルパーの力は必須であり、競技人口拡大には課題も多い。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	①パラクライミングの他地域交流：前年度の開催経験を活かし、実施回数と徳島県、大阪、京都のパラクライミングクラブと交流ができた。参加者は、競技クライミングではなく生涯スポーツとしての意識であり、継続への手掛かりは「クラブ化」に向けた発起人意識変化がある。 ②精神障害者のスポーツ環境充実：三障害の中でも一番難しい対象と再認識し、障害者団体との事前打ち合わせにも現実には厳しく、自立活動には一部を除いて受け身的な事業参加である。が、一部自立した希望で「ウォーキングフットボールのクラブ化相談がある。 ③サウンドテーブルテニスのチームアプローチ：障害当事者、パラスポーツ指導者、競技団体などの関係良好で次年度への活動充実に期待がもてた。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	施設使用料が見込んだ金額より低額、予定した実施事業数が達成できなかった状況、予定講師による実施前の欠席など含め残高が懸念された。また、クライミング関連用具は、施設からレンタルするという好都合と考えていたが、今後の継続活動にはハーネス、チェストベルトなどを購入整備することも今後の計画では必要である。県外からの講師は宿泊必要とするが、会場近辺のホテルでは、規定額の宿泊所はないことから講師自身の負担額が大きく、今後の課題でもある。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【参加者】楽しかった、またやりたい、実施回数を増やしてほしい、ソシオエステでは、初体験で心と体のリラクゼーションができた。ボッチャなどの正式ルールを学び、大会があれば参加してみたい。公共交通機関のアクセスがよい場所を希望、参加料が無料（クライミング）であるが今後有料での事業は参加を控えると思う。定期的な活動環境を希望する。 【支援者】専門的な知識経験が必要と感じた。精神障害者の就労の場を初めて知った、座学で学ぶことを再学習する機会が重要と感じた。 【施設管理者】バリアフリーではないが、人の力で階段への昇降も可能であることを学ぶ。定期的な利用活動がパラスポーツの拡大を推進できるのではないかと。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	新しいスポーツ開拓には、民間施設へのバリアフリー化経費の補助金制度や施設使用料の減免も検討が必要。教室やイベントにおけるパラスポーツ指導者の活動が、当日限りの支援であり、専門的な知識や技術が不要であることが多い。（パラリンピック、デフリンピック他大規模事業は、事前研修が必須であること）だが、小さな事業においても事前研修が当日まで実施することで安心安全に事業が取り組みえると強く認識した。今年度は現状と課題に応じた事業計画を実施することが今後の継続性と形になる展開と考え、地域の現状と課題に都道府県パラスポーツ協会としての調査考察を含む委託事業申請が望ましいことは明らかである。		
その他所見	地域におけるパラスポーツ振興は、①障害者のみ参加型事業②一般地域社会が企画開催する事業に障害者参加型③障害者関連団体が企画開催する事業に地域社会からの一般参加型④両関係の良好な関係で推進させる参加型事業。多様な生活の中で共生社会実現に向けたパラスポーツの活動・・・国民の生活には、「ポイント」をためて生活の糧にする仕組み、パラスポーツのボランティア活動でポイントがたまる？対価にならなくてもボランティア活動が人の心を動かし、他者への自己表現。パラスポーツ指導者は、リピーターが多く活動手帳に記載押印だけではない価値を「活動時間」がポイントへ。従来の表彰式とは異なる様式で試行。		

【紀の国パラスポ アクティベーションプロジェクト～活動の場作り】

◆【パラスポ Meet・スポーツ教室開催事業】

◆【イベント型教室・出前教室開催事業】

和歌山県障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	和歌山県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	松下有香子		
◆企画・実施担当者	森下敏行 松下有香子	◆経理担当者	松下有香子

全体事業名称	紀の国パラスポ アクティベーションプロジェクト
委託費	190万円
地域の実情・課題点	○当協会の人員体制は1名を除き、県職員との兼職であり、協会全体としての経験値の蓄積しがたい状況にあることが課題でもある。そのため、競技団体や障害者スポーツ指導者協議会など、県内の各地域で「障害のある人と長期的に活動できる人材」とのネットワークを強化しながら、地域におけるスポーツ活動の振興、継続につなげていきたい。 ○10代を中心とした若年層をターゲットに実施した「パラスポMeet(広報型教室)」などの実施を一昨年から実施し、クラブへの入部や大会への出場などの成果がみられたため、今年度も各地域のブロックにおいて、継続した。 ○支援学校を地域でのパラスポの拠点とすべく、支援学校へアプローチを継続した結果、実現することができた。一過性にならないよう、教育委員会や支援体連など、様々なチャンネルを駆使してアプローチを行うとともに、各地域の拠点施設を活用し、身近なスポーツ活動の環境整備を行いたい。 ○「広報型教室」では、地方部にある当県では、パラスポの活動場所の少なさに加え、認知度の低さもあるため、各地域で継続実施し「知ってもらう」ことに重点を置いた取組を行った。さらに「出前型教室」や「イベント型教室」は地方部では、認知度をあげるために開催すべく働きかけたが、次年度に繰越す形となった。
総合的な事業の目的	パラスポに関わる人口の増加を目指し「パラスポMeet(複数型)」を開催した。障害のある人、ない人にもパラスポへ興味・関心を持ってもらい、「知ってもらう」という観点で成果がでた。 今年度、参加した人材を活用し、各地域において継続的なスポーツ活動ができる場所の創出、「スポーツの意義」をさらに認識してもらうことを目的に、競技ごとに「スポーツ教室」を開催する。また教室開催の過程で、市町村やスポーツ推進員、企業チーム関係者などと連携を図り、安定的な活動場所の確保など、パラスポの活動拠点の創出に繋げ、障害のある人がスポーツをライフワークの中に取り入れることを目的とする。
総合的な事業のねらい	「パラスポの楽しさ」、「必要性」を障害の有無に関わらず広く知ってもらうために、パラスポ自体や協会の認知度を向上させ、スポーツ教室への参加につなげ、運動実施率の向上、さらには教室から大会の継続的な参加、スポーツの生活化をねらう。また、パラスポ活動をサポートする人材を県内の各地域において確保するためにもイベント型教室や出前教室で、パラスポの活動拠点の拡大も行い、更なるパラスポの認知度向上や活動拠点の創出の好循環を実現したい。

事業名	
事業①	パラスポMeet・スポーツ教室開催事業
事業②	イベント型教室・出前教室開催事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	和歌山県障害者スポーツ協会		
事業名	バラスポMeet・スポーツ教室開催事業		
事業内容	和歌山県3ブロック(紀北・紀中・紀南)全域において、昨年度から「広報型複数教室」バラスポMeetを実施した開催地域を中心とし、障害者スポーツ教室を継続実施。 ルール説明、試合形式を行った。また、今後競技性を持った活動へと広げていくことを目的とし、フライングディスク競技、卓球競技、水泳競技ではステップアップ教室を開催した。		
開催日時	各種教室 カヌー ①令和7年6月14日(土) 13:30～15:30 ②令和7年10月18日(土) 13:30～15:30 フライングディスク ③令和7年6月22日(日) 13:30～15:30 ④令和7年7月6日(日) 13:30～15:30 水泳 ⑤令和7年7月26日(土) 11:30～13:30 ボッチャ ⑥令和7年10月5日(日) 15:00～17:00 ⑦令和8年1月31日(土) 13:30～15:30 卓球 ⑧令和8年1月18日(日) 13:30～15:30 陸上 ⑨令和8年2月1日(日) 13:30～15:30	フットソフトボール ⑩令和7年12月13日(土) 9:00～12:00 ⑪令和7年12月14日(日) 9:00～12:00 バスケットボール ⑫令和7年12月21日(日) 10:00～12:00 ⑬令和8年2月7日(土) 14:00～16:00 複数教室(バラスポMeet) 令和7年9月15日(日) 10:00～16:00 ①フライングディスク ②ボッチャ 令和7年11月24日(日) 9:00～16:00 ③フットソフトボール ④フライングディスク 令和8年2月1日(日) 10:00～17:00 ⑤ボッチャ ⑥卓球	
会場	各種教室 ①②和歌山県障害者サポートセンター ③紀三井寺公園補助競技場 ④紀三井寺公園陸上競技場 ⑤和歌山県障害者サポートセンター ⑥田辺スポーツパークアリーナ ⑦上富田町立岩田公民館 ⑧和歌山県障害者サポートセンター ⑨和歌山県立みくまの支援学校	⑩ビッグスマイルパーク えみくるドーム ⑪くろしおスタジアム屋内練習場 ⑫⑬和歌山県障害者サポートセンター 複数教室(バラスポMeet) ①②和歌山県立総合体育館 ③④紀三井寺公園補助競技場 ⑤⑥新宮市立総合体育館	
参加者	各種教室 ①6名(知的6) ②10名(肢体2・聴覚1・知的7) ③8名(肢体5・知的3) ④9名(肢体5・知的4) ⑤7名(肢体1・知的6) ⑥6名(肢体4・知的2) ⑦19名(肢体19) ⑧3名(知的2・精神1) ⑨11名(知的11)	⑩14名(知的14) ⑪8名(知的8) ⑫21名(知的21) ⑬30名(知的30) 複数教室(バラスポMeet) ①19名(肢体8・視覚2・聴覚1・知的8) ②18名(肢体14・聴覚1・知的3) ③10名(知的10) ④24名(肢体8・視覚3・聴覚3・知的10) ⑤11名(肢体4・知的7) ⑥16名(肢体1・知的14・精神1)	
人員体制	各種教室 ①競技団体4・協会職員2 ②競技団体6・協会職員2 ③バラスポーツ指導員8・協会職員4 ④バラスポーツ指導員6・協会職員4 ⑤競技団体2・協会職員2 ⑥バラスポーツ指導員6・協会職員2 ⑦バラスポーツ指導員19・協会職員5 ⑧競技団体4・スポーツ協会職員3 ⑨競技団体1・バラスポーツ指導員1・協会職員5	⑩クラブチーム9・協会職員4 ⑪クラブチーム5・協会職員1 ⑫企業クラブチーム10・クラブチーム1・協会職員2 ⑬企業クラブチーム10・クラブチーム1・協会職員4 複数教室(バラスポMeet) ①バラスポーツ指導員21・協会職員5 ②バラスポーツ指導員20・協会職員5 ③クラブチーム7・協会職員4 ④バラスポーツ指導員21・協会職員4 ⑤バラスポーツ指導員11・協会職員5 ⑥競技団体1・クラブチーム13・協会職員5	
連携団体名 (箇条書き)	和歌山県障害者スポーツ指導者協議会 和歌山県卓球協会 和歌山県水泳連盟 和歌山県障害者フライングディスク協会 和歌山県卓球バレー協会 和歌山県立みくまの支援学校	紀陽銀行ハートビーツ 知的バスケットボールチーム フットソフトボールチーム ホエール 和歌山県障害者スポーツ協会カヌー部会	
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体や県障害者スポーツ指導者協議会には、競技指導、運営の協力をいただいている。主軸となる指導者には、参加申込者数にあわせたアシスタントの確保や指導方法などの事前準備も含め、担当いただいている。		
本事業における バラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者の障害特性にあわせた指導やサポートを行いながら、まず競技の楽しさを共有するという役割を担っていただいている。競技を一緒に行ったり、話しかけたりしながら、個々の体調や気分をくみ取りながら、安全にスポーツできる雰囲気づくりを考え、運営に関わって頂いている。また、地元地域で活動する人材を活用し、運営につなげていく。	本事業における バラスポーツ指導員 の実人数	43
		本事業における バラスポーツ指導員 の延べ人数	117
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャやバスケットボールのコート作成やフットソフトボールコートでのマークで活用するため、ラインテープを購入した。 競技用具(ボッチャランプおよびバスケットボール)は、教室や定期練習などで活用した。また、ピン球は紀南地域や精神障害者卓球選手の発掘や普及を目的とした教室全般での活用および活動場所への貸出ができ、活用できた。 購入したスポーツ用具は、障害者サポートセンター体育館及び新宮市福祉センターに保管し、今後も体験会および教室、定期練習会などで継続的に活用する予定。		

各事業における事業報告シート

実施協協会名	和歌山県障害者スポーツ協会		
事業名	イベント型教室・出前教室開催事業		
事業内容	健常者も含む多くの方にパラスポーツへの興味・関心を持ってもらい、パラスポーツを共に楽しみ支える人材を作る目的で「イベント型教室」や小規模での「出前型」を全9回実施した。 「イベント型教室」ではスポーツが目的で来場していない方に体験してもらうため、「楽しめる環境づくり」を重視し、体験後には「パラスポの意義」や「活動内容」などの説明を行った。その結果、体験者が抱いていたパラスポへのイメージの垣根が低くなり、より身近な「一緒にたのしめるスポーツ」として捉えてくれた人が多く、イベント型の大きな成果となった。 出前型教室は「普段の活動場所仲間と一緒に、気兼ねなく参加できる」というメリットがポイントとなり、開催が実現化した。来年度以降、地域や回数を増やしていき、参加者一人一人にとってより大きなコミュニティである「スポーツ教室」への参加や大会参加に繋げていくためのステップとなった。同時に、地域でパラスポを支える人材とのネットワークの強化への機会となった。		
開催日時	イベント型教室(広報型) ①ポッチャ 令和7年8月6日(水) 10:00～16:00 ②ポッチャ 令和7年11月2日(日) 10:00～16:00	出前型教室 ①ポッチャ 令和7年5月24日(日) 19:00～20:30 ②ポッチャ 令和7年6月21日(日) 19:00～20:30 ③卓球バレー・ポッチャ 令和7年9月14日(日) 13:00～16:00 ④ポッチャ 令和7年10月30日(木) 13:00～15:00 ⑤ポッチャ 令和7年11月21日(金) 13:00～15:00 ⑥ポッチャ 令和7年12月2日(火) 13:00～15:00 ⑦卓球 令和8年1月29日(水) 13:30～15:00	
会場	イベント型教室(広報型) ①イオンモール和歌山サークルコート(イベント会場) ②和歌山ビッグ愛	出前型教室 ①②和歌山市ふれあいセンター ③和歌山ビッグ愛 ④西牟婁郡上富田福祉センター ⑤県障害児者サポートセンター ⑥田辺市福祉センター ⑦和歌山県立こころの医療センター	
参加者	イベント型教室(広報型) ①障害者・健常者 384名 ②障害者・健常者 約100名	出前型教室 ①15名(肢体7・視覚1・知的6・精神1) ②21名(肢体10・視覚1・知的9・精神1) ③13名(肢体9・健常者4) ④17名(健常者17) ⑤72名(肢体12・知的44・精神6・健常者10) ⑥21名(肢体5・視覚2・健常者14) ⑦25名(精神15・健常者10)	
人員体制	イベント型教室(広報型) ①パラスポーツ指導員8・協会職員5 ②パラスポーツ指導員6・協会職員3	出前型教室 ①協会職員1 ②協会職員2 ③パラスポーツ指導員5・協会職員1 ④協会職員3・教育委員会3 ⑤協会職員3・福祉施設職員6 ⑥協会職員3・市町村職員4・スポーツ推進員10 ⑦競技団体1・協会職員3・医療機関職員10	
連携団体名 (箇条書き)	和歌山県障害者スポーツ指導者協議会 和歌山県理学療法士協会 和歌山県卓球協会 和歌山県卓球バレー協会 田辺市人権擁護委員会 田辺市教育委員会		
実際の事業での 連携団体の役割	各競技団体や県障害者スポーツ指導者協議会には、競技指導、運営の協力をいただいている。「イベント型教室」では興味の無い人へも積極的にアプローチし、自分から楽しむ姿勢でだれとでも「競技の楽しさ」を分かち合ってくれている。また、「出前型教室」では二ズにあわせ楽しめるよう、指導員の確保や指導方法などの事前準備も含め、担当いただいた。 今後、パラスポーツの活動を自主運営することをめざす教育委員会などは、地域に根付いた活動拠点の創出を目的とし、今回参加してくれた人材が核となるよう、今後きめ細やかに連携していく。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について		本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	12
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	20
スポーツ用具の 整備・活用について	ポッチャ教室及びイベントでのポッチャコート作成のため、ラインテープを購入した。競技用具(ポッチャランプおよび卓球ピン球)は、教室や練習などで活用した。特に、ピン球は紀南地域や精神障害者卓球選手の発掘や普及を目的とした教室全般での活用および活動場所への貸出もでき、小規模のグループでの練習にも活用できた。 購入したスポーツ用具は、障害児者サポートセンター体育館及び新宮市福祉センターに保管し、今後も体験会および教室、定期練習会などで継続的に活用する予定。		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【パラスポ Meet・スポーツ教室開催事業】

事業の様子



フライングディスク教室
(和歌山県立総合体育館)



カヌー教室
(県障害児者サポートセンター)



フットソフトボール教室
(ビッグスマイルパーク えみくるドーム)



陸上教室
(県立みくまの支援学校)



バスケットボール教室 紀陽銀行ハートビーツ指導
(県障害児者サポートセンター)



ボッチャ教室
(上富田町立岩田公民館)

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) 【イベント型教室・出前教室開催事業】

事業の様子



パラスポ体験(卓球バレー)



「わかやま子ども福祉機器ラボ」
ボッチャ体験ブース設置



パラスポ体験(ボッチャ)



「わかやま子ども福祉機器ラボ」
ランプ投球体験



ボッチャ体験(青年学級)



ボッチャ体験イベント(イオンモール和歌山)

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	和歌山県障害者スポーツ協会		
全体事業名	紀の国パラスポ アクティベーション		
総委託費	1,900,000	決算額	1,917,503
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	パラスポーツの活動拠点作りにおいて、支援学校生徒の参加率向上と若手担い手の確保は課題がありながらも、既存のネットワーク構築や各教室の安定運営など、着実に前進できた。より多くの人々がスポーツ活動に触れる機会を増やすため「出前教室」の拡充や普及、多様なパラスポーツの紹介と体験機会の提供が引き続きの課題である。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	出前型やイベント型教室を開催したことで、スポーツに親しんでこなかった新しい参加者の獲得に繋がった。親しみのある身近な環境でスポーツできる時間を提供することで、参加しやすい状況を創出できた。また、参加者だけでなくパラスポーツ指導員の参加も増え、活動再開の機会となったと感じた。特に出前教室では、地域の市町の職員や教育委員会、福祉施設の職員と連携をとり開催できた。この人材を、近い将来活用できるようルール説明や競技体験を中心に行い、競技普及することができたと感じている。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	今年度は、これまで実現できていなかった「出前教室」が実現し、スポーツ活動へ繋げることができた点で、有効活用できたと考えている。 また、パラスポMeetやスポーツ教室では、開催地の指導者やパラスポーツ指導員の協力も得られているが、安定した経験値までには至っていない人材もある。そのため、経験豊富な人材が移動し、ノウハウを伝えている段階である。今後、地域で経験豊富な人材を多く獲得することで、旅費額などの執行状況が変化していくと考えている。 また、地域で自主財源での運営面では、教育委員会や市町と連携し提案しながら進めていく予定である。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	当県では、パラスポーツセンターがなく「一人でいつ来てもスポーツができる環境」が整備できていない。地域のスポーツクラブでのパラスポーツ活動や競技団体のサークルなどへの期待値も高いが、保護者や当事者からは、障害の理解という面から当協会主催の教室やイベントごとには安心感を持って参加できているという声が多い。サポート側の豊富な人材が影響していると感じる。しかし、継続した活動の場が欲しいという声が多く、各地域での環境整備が重要だと実感している。そのため、パラスポーツを支えることに興味を持った人や団体とは強い関係性を継続できるよう、定期的にアプローチしていく。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	障害のある方が地域で継続的にパラスポーツを行うための拠点づくりには、特別支援学校や福祉施設の活用が不可欠です。教職員との連携強化や多様な人材確保が重要となる。特別支援学校においては、働き方改革の中で協力的な教職員（キーパーソン）との関係を強化、生徒のスポーツ活動への理解を深めることが大切である。 福祉施設においては、余暇活動を含めた活動拠点づくり、障害のある人のスポーツ実施率を向上することが課題である。 スポーツ大会の開催を通じて、参加意欲を高め幅広い年齢層の参加者を増やすことが課題である。		
その他所見	当協会の事業は、13才以上を対象にしている。そのためスポーツ教室開催では児童の年齢は参加できないが、本事業で出前教室やイベント型教室を開催することができ、小学生や幼少期の児童へのアプローチができたことは非常に大きい。併せて、こちらが向くことで、より重度の障害がある方々の参加率がアップしている。 改めて、地域での活動の場づくりには「障害の理解」や「安全管理」などの重要性を痛感している。安心して参加できる環境作りを目指したい。		

【事業名】 令和7年度 とくしまパラスポーツチーム支援プロジェクト事業

◆【事業内容①】 パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編

◆【事業内容②】 パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 徳島県パラスポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 徳島県パラスポーツ協会		
◆計画書作成者	加藤史郎		
◆企画・実施担当者	木野 直樹	◆経理担当者	加藤 史郎

全体事業名称	令和7年度 とくしまパラスポーツチーム支援プロジェクト事業
委託費	500,000円
地域の実情・課題点	全国スポーツ大会中国四国ブロック予選会の知的バレーボール競技が、令和10年度に徳島県開催予定となっており、県内では知的バレーボール競技に関して既存のチームがない。そのため、令和10年度の中国四国ブロック予選会知的バレーボール競技大会出場を目指し、県内支援学校や支援学級(徳島県特別支援教育課)、障がい者施設(徳島県知的障害者福祉協会)にアプローチし、チーム設立を目指している。また、フットソフトボール競技では、攻守テクニック・ルール説明の内容の教室を開催することで、各競技団体に特化した競技特性を学び、また知的バレーボール競技と同様、県内支援学校や、支援学級(徳島県特別支援教育課)、障がい者施設(徳島県知的障害者福祉協会)にアプローチする。
総合的な事業の目的	チームづくりをすることで、支援学校・学級の在学学生、施設入所者より発掘を実施し、新規のチームづくりをととした社会参加の場づくりが、QOL向上とともに、中国四国ブロック予選大会出場という大きな目標が継続的なチーム存続につながるため、本事業を実施した。
総合的な事業のねらい	支援学校・学級、障がい者施設入所者を主な選手発掘のターゲットにしており、徳島県特別支援教育課や徳島県知的障害者福祉協会、競技団体(徳島県バレーボール協会)と、より濃密な連携・協働を図る。地域でのスポーツ活動拡充のイメージステップ1の強固な土台づくりをとおして、今後、継続的な選手発掘につながるよう着手し、将来的に存続可能なチームづくりと関係団体との連携づくりを構築することがねらいである。また、本事業を通じて、パラスポーツ選手志望者が競技の選択肢が増えることにより、選手発掘の促しにつながることをねらいとする。

事業名	
事業①	パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編
事業②	パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 徳島県パラスポーツ協会		
事業名	パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編		
事業内容	1回目 説明会・基礎測定会・バレーボール体験 2回目 バレーボール練習 3回目 バレーボール練習		
開催日時	1回目 令和7年9月20日（土）13時30分～15時30分 2回目 令和7年11月8日（土）13時30分～15時30分 3回目 令和7年12月20日（土）13時30分～15時30分		
会場	東部防災館おきのすインドアパーク（徳島県徳島市東沖洲1丁目8）		
参加者	延べ 21人		
人員体制	延べ 17人	(内訳) 協会職員 9人 徳島県バレーボール協会 3人 徳島県理学療法士会 2人 徳島県作業療法士会 3人	
連携団体名 (箇条書き)	○徳島県バレーボール協会 ○徳島県教育委員会特別支援教育課 ○徳島県知的障害者福祉協会 ○徳島県障害者指導者協議会 ○公益社団法人徳島県理学療法士会 ○一般社団法人徳島県作業療法士会 ○徳島県トレーナー協会		
実際の事業での 連携団体の役割	○徳島県バレーボール協会(講師) ○徳島県教育委員会特別支援教育課(開催までの事業案内周知) ○徳島県知的障害者福祉協会(当日の運営サポート) ○徳島県障害者指導者協議会(開催までの事業案内周知) ○公益社団法人徳島県理学療法士会(当日の運営サポート) ○一般社団法人徳島県作業療法士会(当日の運営サポート) ○徳島県トレーナー協会(当日の運営サポート)		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	開催までの事業案内周知、及び申込状況の進捗確認。また、事業を円滑に無事故で安全・安心に進行するため、各種連携協力団体との事前報告や打合せ等の調整や要望伺い。申込団体・個人に、本事業開催目的の案内。本事業の中間報告や最終調整の実施。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	7
スポーツ用具の 整備・活用について	当協会の用具を使用。バレーボールネット、支柱は会場のものを使用。		

各事業における事業報告シート

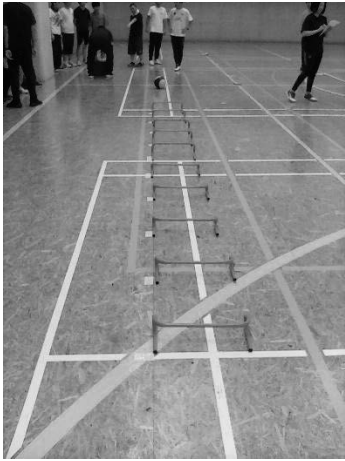
実施協会名	社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 徳島県パラスポーツ協会		
事業名	パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編		
事業内容	1回目 説明会・基礎測定会・打撃体験 2回目 打撃・守備練習、模擬試合 3回目 打撃・守備練習、模擬試合		
開催日時	1回目 令和7年9月20日(土)13時30分～15時30分 2回目 令和7年11月8日(土)13時30分～15時30分 3回目 令和7年12月20日(土)13時30分～15時30分		
会場	東部防災館おきのすインドアパーク(徳島県徳島市東沖洲1丁目8)		
参加者	延べ 43人		
人員体制	延べ 22人	(内訳) 協会職員 9人 徳島県理学療法士会 2人 徳島県作業療法士会 4人 徳島県知的障害者福祉協会 7人	
連携団体名 (箇条書き)	○徳島県教育委員会特別支援教育課 ○徳島県知的障害者福祉協会 ○徳島県障害者指導者協議会 ○公益社団法人徳島県理学療法士会 ○一般社団法人徳島県作業療法士会 ○徳島県トレーナー協会		
実際の事業での 連携団体の役割	○徳島県教育委員会特別支援教育課(開催までの事業案内周知) ○徳島県知的障害者福祉協会(講師) ○徳島県障害者指導者協議会(開催までの事業案内周知) ○公益社団法人徳島県理学療法士会(当日の運営サポート) ○一般社団法人徳島県作業療法士会(当日の運営サポート) ○徳島県トレーナー協会(当日の運営サポート)		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	開催までの事業案内周知、及び申込状況の進捗確認。また、事業を円滑に無事故で安全・安心に進行するため、各種連携協力団体との事前報告や打合せ等の調整や要望伺い。申込団体・個人に、本事業開催目的の案内。本事業の中間報告や最終調整の実施。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	7
スポーツ用具の 整備・活用について	徳島県知的障害者福祉協会のボールを使用。		

【事業内容①】 パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編の事業写真

① 事業写真

(1) 【事業名】 パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編

事業の様子

	
① 準備運動の様子	② 体力測定の様子1
	
③ 体力測定の様子2	④ 笠井講師のもと、参加者が直接個別サポートを受けている様子
	
⑤ 参加者全員で、レシーブ・トスの練習をしている様子	⑥ ソフトバレーボールを使って試合形式の練習をしている様子

【事業内容②】 パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編の事業写真

① 事業写真

(2) 【事業名】 パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編

事業の様子



① 準備運動の様子



② 体力測定の様子



③ ゴールに向かってシュート(ボールを蹴る)練習をする様子



④ 転がってくるボールをキャッチする練習をしている様子



⑤ 実践形式練習の様子(守備)



⑥ 実践形式練習の様子(攻撃)

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	徳島県パラスポーツ協会		
全体事業名	令和7年度 とくしまパラスポーツチーム支援プロジェクト事業		
総委託費	501,560	決算額	317,104
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	全国障害者スポーツ大会中国四国ブロック予選会への出場を目指しチーム設立を目的とした。フットソフトボールはチームを設立。事業にも障がい者施設を中心に多くの参加があり競技団体の活性化につながった。 一方でバレーボールはチーム設立することが出来なかった。男女別でのチーム編成が必要な点は今回チーム設立に至らなかった原因である。また、支援学校からの応募が少なかったため、よりアプローチする必要がある。令和10年度の中国四国ブロック予選会に向け継続的な事業を行う。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	【パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編】 初めての参加者もボールを投げるところから始めたり、基礎からフォローすることで継続した参加につながった。 【パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編】 障がい者施設を中心に多くの参加があった。若年層の参加者も多く競技団体の活性化につながった。攻守に分かれた練習競技力も向上。全国障害者スポーツ大会中国四国ブロック予選会へ向け引き続きアプローチしていく。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	予定より連携団体が減ってしまい、予定していた講師の人数を呼ぶことが出来なかった。また会場の変更があった。ただ、2種目共、同時期・同時会場開催であったので、会場費や謝金等が低く抑えられた。また、天候等、開催条件等、中止や延期することなく、効率的に実施することができた。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【パラアスリート発掘事業 知的バレーボール編】 (参加者)楽しかった、またやりたい。ソフトバレーボールじゃなかったの少し怖かった。 (スタッフ)トスをつなげることに難しさを感じる。 【パラアスリート発掘事業 知的フットソフトボール編】 (参加者)攻守の練習が楽しかった。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	支援学校などからの参加を増やしていき、卒業後も継続できるチーム設立を目指す。 支援学校、先生、保護者へのアプローチで参加者増加を考える。知的バレーボールは令和10年度の全国障害者スポーツ大会中国四国ブロック予選会(徳島開催)出場に向け、チーム設立を目指す。		
その他所見			

【持続的なスポーツ環境構築によるパラスポーツ推進】

- ◆【支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業】
- ◆【総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業】

大分県障がい者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	大分県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	松岡 新也		
◆企画・実施担当者	原 香代子	◆経理担当者	佐藤 由紀

全体事業名称	持続的なスポーツ環境構築によるパラスポーツ普及推進
委託費	1,700,000
地域の実情・課題点	障がい者に関する体験会を様々な学校等で行うが、障がい児者が持続して参加できる環境が整備されていないため、併行して、学校終わりや、土日に行っているクラブチームへ、月1回～2回のペースで継続して体験会を行ってもらい、事業が終了してもクラブチームで受入れを行っていただき、継続的なスポーツ活動ができるよう繋ぐ事ができた。 課題:ボランティアでクラブチームを活動されているのが実情で、場所の確保、道具、講師の確保など、継続して支援できる資金が必要である。
総合的な事業の目的	目的:支援学校や競技団体、パラスポーツ指導者協議会、社会福祉事業団と連携を行い、県内外で定期的な体験会などの開催を行うことで、パラスポーツの理解促進及び普及を行うとともに、クラブチームとも引き続き連携して体験会を行い、クラブチームへ繋げる、クラブチームを継続して運営してもえるよう、安定した資金を確保し、活動を一任することを目的とする。
総合的な事業のねらい	体験会の開催を通じて、どのようなスポーツがあるのか知ってもらうとともに、体験機会を広げ、障がい者がスポーツをしたい時にいつでも取り組める環境づくりを進めるため、色々な分野の関係者と協力していく。

事業名	
事業①	支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業
事業②	総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	大分県障がい者スポーツ協会						
事業名	支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業						
事業内容	支援学校や一般校の特別支援学級に在籍する児童・生徒に対し、障がい者スポーツに触れる機会を創出 競技団体の指導者・選手とのふれあいによる継続的なスポーツ活動へ誘導 社会福祉協議会などが開く地域単位の通いの場などにおいて、障がい者スポーツを事業メニューに追加してもらうための、体験回を開催 競技団体の指導者のほか、近隣に居住するサポーターに協力要請、持続的な関係を構築 通いの場に参加する障がい者はもちろん、高齢者など多種多様な層の参加者が持続的に取り組める環境を構築						
開催日時	① 令和7年7月11日(金) 13:20～14:30 ② 令和7年9月6日(土) 10:00～12:00 ③ 令和7年9月10日(水) 10:40～11:40 ④ 令和7年10月9日(水) 9:15～10:45 ⑤ 令和7年11月7日(金) 13:40～15:15 ⑥ 令和7年11月27日(木) 13:35～15:25 ⑦ 令和7年12月5日(金) 10:40～12:30 ⑧ 令和8年1月13日(火) 10:15～11:45	① 令和7年11月15日(土) 13:30～16:00 ② 令和7年11月29日(土) 13:00～15:30 ③ 令和7年12月13日(土) 13:00～15:30 ④ 令和7年12月20日(土) 13:00～15:30 ⑤ 令和8年1月10日(土) 13:00～15:30 ⑥ 令和8年1月18日(日) 13:00～15:30 ⑦ 令和8年1月24日(土) 13:30～16:00 ⑧ 令和7年11月8日(土) 15:00～16:00 ⑨ 令和7年11月29日(土) 15:00～16:00 ⑩ 令和8年1月17日(土) 15:00～16:00					
会場	① 大分市立明野東小学校 体育館 ② 佐伯市総合運動 体育館 ③ 大分県立大分支援学校 体育館 ④ 大分市立下郡小学校 体育館 ⑤ 津久見市立津久見小学校 体育館 ⑥ 大分県立聾学校 体育館 ⑦ 学校法人 平松学園 大分東明高等学校 第一体育館 ⑧ 学校法人府内学園 府内高等学校教室	① 大分県身体障害者福祉センター(卓球室・療育訓練室) ② 大分県身体障害者福祉センター(体育室(北側)) ③ 大分県身体障害者福祉センター(体育室(南側)) ④ 大分県身体障害者福祉センター(体育室(北側)) ⑤ 大分県身体障害者福祉センター(卓球室・療育訓練室) ⑥ 大分県身体障害者福祉センター(体育室(北側)) ⑦ 大分県立たぐらの杜高等支援学校 体育館 ⑧ 野口原総合運動場 ⑨ 野口原総合運動場 ⑩ 別府公園					
参加者	① 49名 ② 27名 ③ 3名 ④ 111名 ⑤ 28名 ⑥ 6名 ⑦ 103名 ⑧ 72名	① 16名 ② 13名 ③ 11名 ④ 14名 ⑤ 15名 ⑥ 23名 ⑦ 15名 ⑧ 4名 ⑨ 4名 ⑩ 4名					
人員体制	① 講師:3名 ② 講師:7名 指導員:3 ③ 講師:2名 ④ 講師:3名 ⑤ 講師:1名 指導員:5名 ⑥ 講師:2名 聴覚障害者協会:2名 ⑦ 講師:1名 指導員:8名 ⑧ 講師:2名	① 講師:2名 ② 講師:1名 ③ 講師:1名 ④ 講師:3名 ⑤ 講師:3名 ⑥ 講師:1名 ⑦ 講師:3名 ⑧ 講師:2名 補助員:2名 ⑨ 講師:2名 補助員:3名 ⑩ 講師:2名 補助員:3名					
連携団体名 (箇条書き)	① 大分身体障害者陸上競技協会 ② 大分県卓球バレー協会 大分県障害者フライングディスク協会 大分県スポーツウエルネス吹矢協会 佐伯支部 ③ おおいと立位障がい者陸上競技協会 ④ 大分県ポッチャ協会 ⑤ 大分県車いすバスケットボール連盟 ⑥ 大分県スポーツウエルネス吹矢(大分支部) 聴覚障害者協会 ⑦ 大分県車いすバスケットボール連盟 ⑧ 大分県フェンシング協会	①～⑦ 障害障卓球クラブたんぽぽ ①～③ 南石垣クラブ					
実際の事業での 連携団体の役割	体験内容の構成及び運営 体験参加者への技術的な指導						
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	体験会当日の競技の説明、障がいの特性に応じた競技方法指導、サポートなど		<table><tr><td>本事業における パラスポーツ指導員の 実人数</td><td>11</td></tr><tr><td>本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数</td><td>21</td></tr></table>	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	11	本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	21
本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	11						
本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	21						
スポーツ用具の 整備・活用について	(用具) アキュラシーゴール、ドッチビー(235)、ドッチビー(270)、ポッチャボール3+、ポリラインテープ (活用) フライングディスクをする時のゴールと当たっても危なくないよう柔らかい素材と手が不自由でも握りやすいようにドッチビーを使用。駅前広場などでする時に雨に濡れても使用できるように。	①～⑦ メイスアドバンス ラウンデル(黒厚) ラウンデル(赤厚) ボールスタンド ボール・アミーゴ ミニカウンター ボール ①～③ ストップウォッチ 簡易式スターター デジタルタイマー アルミバトン タスキ ソフトコーナーポイント					

各事業における事業報告シート

実施協会名	大分県障がい者スポーツ協会		
事業名	総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業		
事業内容	クラブを1つのモデルとして、障がい者の有無に関わらず参加できるユニバーサルなスポーツ環境を構築。障がい者への配慮等についてはパラスポーツ指導者競技会の指導員の参画により、クラブ側の負担を軽減。クラブで必要となる運営費・配慮すべき点を整理にうえ、翌年度以降他のクラブへモデルを展開		
開催日時	① ① 令和7年6月27日(金) 9:00～13:00 ② 令和7年8月5日(火) 19:00～20:45 ② ① 令和7年9月6日(土) 9:00～13:00 ② 令和7年10月11日(土) 10:00～12:00 ③ 令和7年10月19日(日) 9:00～13:00 ④ 令和7年11月15日(土) 9:00～13:00 ⑤ 令和7年12月20日(土) 9:00～13:00 ③ ① 令和7年6月24日(火) 10:00～11:30 ② 令和7年9月10日(水) 9:20～10:10 ③ 令和7年11月19日(水) 9:20～10:10 ④ 令和7年12月5日(金) 10:30～12:05		
会場	①-① 佐伯市 野岡体育館 ② 虹の翼 向島事務所 ②-①～⑤ 佐伯地区公民館 ③-①～⑤ 佐伯市 渡町台幼稚園 ④ 佐伯市 切畑小学校体育館		
参加者	①-① 11名 ② 8名 ②-① 11名 ② 26名 ③ 42名 ④ 34名 ⑤ 30名 ③-① 13名 ② 13名 ③ 13名 ④ 21名		
人員体制	①-① 講師:2名 ② 講師:2名 ②-① 講師:ポッチャ 2名 フライングディスク 2名 ② 講師:ポッチャ 2名 フライングディスク 2名 ③ 講師:4名 ④ 講師:ポッチャ 2名 ドッチビー 1名 ⑤ 講師:ポッチャ 2名 フライングディスク 1名 ③-① 講師:3名 ② 講師:ポッチャ 2名 フライングディスク 2名 ⑤ 講師:ドッチビー 2名 ポッチャ 1名 ④ 講師:3名		
連携団体名 (箇条書き)	総合型地域スポーツクラブ虹の翼		
実際の事業での 連携団体の役割	体験会内容の構成及び運営 体験会参加者への技術的指導		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	体験会当日の競技の説明、障がいの特性に応じた競技方法指導など	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	10
スポーツ用具の 整備・活用について	(用具) アキュラシーゴール、ドッチビー(235)、ドッチビー(270)、ポッチャボール3+、ポリラインテープ (活用) フライングディスクをする時のゴールと当たっても危なくないよう柔らかい素材と手が不自由でも握りやすいようにドッチビーを使用。駅前広場などでする時に雨に濡れても使用できるように。		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業】

事業の様子



R7.7.11 体験会 レーサー試乗



R7.9.6 佐伯スポーツフェスタ 卓球バレー体験



佐伯スポーツフェスタ スポーツウエルネス吹矢体験



佐伯スポーツフェスタ フライングディスク体験



R7.9.10 体験会 フレームランナー ペトラ試乗



R7.10.9 体験会 ボッチャ

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(2) 【支援学校等通いの場での競技団体と一体となった体験会の開催事業】

事業の様子



令和 7.11.7 体験会 車いすバスケットボール 試合



令和 7.11.27 体験会 スポーツウエルネス吹矢



令和 7.12.5 体験会 車いすバスケットボール 走行練習



R8.1.13 体験会 スマートフェンシング



令和 7.11.8 パラスポーツ体験会 陸上 ラダーを使用した練習



令和 7.11.29 パラスポーツ体験会 陸上 100m走



令和 8.1.17 パラスポーツ体験会 陸上 バトンリレー



令和 7.11.15 パラスポーツ体験会 卓球 初体験の参加者へ指導



令和 7.11.15 パラスポーツ体験会 卓球 試合形式



令和 7.11.29 パラスポーツ体験会 卓球 練習前のミーティング



令和 7.12.13 パラスポーツ体験会 卓球 基礎打ち



令和 7.12.20 パラスポーツ体験会 卓球 準備体操



令和 8.1.10 パラスポーツ体験会 卓球 多球練習



令和 8.1.17 パラスポーツ体験会 卓球 基礎打ち

【事業内容②】の事業写真

① 事業写真

(3) 【総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業】

事業の様子



R7.6.27 競技指導者・支援者育成事業(指導者対象)



R7.8.5 競技指導者・支援者育成事業(指導者対象)



R7.9.6 スポーツ体験・継続事業 佐伯地区公民館 ボッチャ体験



フライングディスク体験



R7.10.11 ボッチャ体験



R7.10.19 ボッチャ 説明・体験

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(4) 【総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業】

事業の様子



R7.11.15 ドッチビー体験



ボッチャ体験



R7.12.20 ボッチャ体験



フライングディスク体験



R7.6.24 スポーツ体験・継続事業 渡町台幼稚園 当事者の障がい特性説明・ボッチャ体験



R7.9.10 スポーツ体験・継続事業 渡町台幼稚園 ボッチャ体験

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(5) 【総合型地域スポーツクラブにおける障がい者の参加モデル構築事業事業名】

事業の様子



R7.9.10 フライングディスク体験



R7.11.19 ボッチャ体験



R7.11.19 ドッチビー体験



R7.12.5 バラスポーツ教室 講話(バラスポーツ 障がい ボッチャについて)



R7.12.5 身体障がい 麻痺・拘縮(腕に重りを着け体験)



R7.12.5 身体障がい (車いす体験)



R7.12.5 視聴覚障がい(アイマスク使用)



R7.12.5 ボッチャ説明・体験

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	大分県障がい者スポーツ協会		
全体事業名	持続的なスポーツ環境構築によるパラスポーツ普及促進		
総委託費	1,360,000	決算額	1,458,817
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	クラブチームと連携し継続して体験会を行い、学校終わりや、土日に継続してスポーツに親しめる環境を作り、その後も参加したい時にスポーツが行えるようクラブチームと繋ぐことが出来た。初級指導員の資格をとった方に指導者として、体験会に参加してもらい、違う箇所でも活動を希望する声があがるなど、人材育成に結びついた。学校での体験会の持続は学校終了後の場所の提供や、指導者等を確保する事が難しく、学校外での開催となり、送り迎え等で親御さんの協力が必要となるため、継続して通える方が限られる。学校で場所を借りられたり、地域で送迎バス等が使用できたら、継続して参加できる方が増えると思う。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	県南東部では総合型地域スポーツクラブの活動が地域での協力体制が安定し、場所の確保等継続でき持続して行えている。指導員から地域での活動を希望する声があり、指導者、場所の持続的な確保へ動いている。次年度に向け、引続きパラスポーツ指導者協議会と連携し、更なる継続してスポーツの行える場所づくりを障がい福祉施設、特別支援学校、福祉団体等とも継続的に協議していきたい。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	今年度は、継続してスポーツを行える環境を整え、有効に活用できた。今後は、地元地域での助成金や補助金も視野にいれ、安定した資金を確保し、地域で場所や・指導者の安定を測り、持続させたい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【参加者】楽しかった。毎週やってほしい。お友達ができた。 【支える人】参加する事で、学ぶ機会となり、考える貴重な経験となった。自分ができる事は何か。健常者のクラブ活動は行っているが、障がい者の方も一緒にスポーツが行えないか新たに考えたい。 【行政】パラスポーツを知ってもらい、障がいのある方でも楽しめるスポーツがたくさんあること、障がいのある方、ない方一緒に同じスポーツを楽しめることを知ってもらう機会をつくれた。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	今後の課題である活動を行う上での予算確保、運営体制を確立させ継続して展開できる体制を整えるため、当協会はサポート役として、連携をはかっていく。パラスポーツ指導者協議会だけでなく、行政での予算化を目指し、地域で実施できる持続可能な体制・方向性を検討していく。		
その他所見	パラスポーツ指導者協議会と連携し、大分県パラスポーツ指導者（初級指導員）養成講習会を別府市内で開催、障がい者スポーツサポーターの募集を当協会で行うことで人材の掘りおこし・育成に大きく繋がった。 体験会では広告を作成し、支援学校に配布、協会ホームページ、SNS等で通知し、障スポにゆ〜すを配布し、情報提供を行った。		

【事業名】令和7年度「地域におけるパラスポーツ振興事業」

◆【事業内容①】嘉島町地域ふれあいパラスポーツ体験会

（障がいのある人もない人も一緒にパラスポーツを楽しもう）

◆【事業内容②】熊本西地域ふれあいパラスポーツ体験会

（障がいのある人もない人も一緒にパラスポーツを楽しもう）

熊本県障がい者スポーツ・文化協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	熊本県障害者スポーツ・文化協会		
◆計画書作成者	中尾 直道		
◆企画・実施担当者	中尾 直道	◆経理担当者	右松 奈緒美

全体事業名称	令和7年度パラスポーツ振興事業「地域におけるパラスポーツ振興事業」
委託費	1,805,000
地域の実情・課題点	1, 熊本県下には67の総合型スポーツクラブが活動しているが、障がい者が加入しているクラブは3箇所程度で地域における障害者のスポーツ活動の場所と施設が不足している。原因として指導員の不足が大きいがそれを取り巻く地域での障がい者スポーツに対する意識が薄く、障がい者で地域活動や地域の行事に全く参加しないが47%で更に、隣近所の付き合いの度合いで差し支わりのない事なら話せるが38%、挨拶程度ならいるが23%、殆ど近所付き合いをしない22%と地域での障がい者の孤立が目立つ。この問題の解決策として地域において幼少から健常者と一緒にパラスポーツを楽しむ環境を早急に実現する必要がある、このために地域の①総合型スポーツクラブスタッフ、②スポーツ推進委員、③熊本パラスポーツ指導員、④理学療法士、⑤社会福祉協議会のスタッフ及び⑥地域の福祉行政が1つのテーブルを囲み、それぞれの持っているスキルを活かし、健常者と一緒にパラスポーツ楽しみ、共生社会の基礎を作るため、パラスポーツ体験会を開催し、体験会を実施するまでのノウハウとパラスポーツを知り、また、これらのスタッフで協働して地域での共生社会をつくる基礎固めとする。今回、熊本県下の①山江村、②相良村、③美里町、④嘉島町の地域の中で3箇所の体験会を計画しており、それぞれの地域に赴き実施要綱を元にスタッフに直接説明行った。体験会は①～⑥の地域のスタッフが体験会の時期、場所、開催方法等を地域ふれあいパラスポーツ体験会実行委員会で決定、実行する。
総合的な事業の目的	目的:熊本県障害者スポーツ・文化協会(以下、「スポ・文」という。)を中心として、総合型地域スポーツクラブと地域のパラスポーツ指導員、スポーツ推進委員、理学療法士、社会福祉協議会及び行政機関等が協働して、地域の健常者と障がい者が共に小さい頃からパラスポーツを楽しむ環境を整え、障がいに対する理解や相互の連帯感を深め、障がい者の社会参加を促進し、共生社会の実現を目指す。 ひいては、各地で幼少期からパラスポーツに触れることで、スポーツへの関心を高め、将来的にパラアスリート発掘に繋げる。 課題:福祉行政に携わる職員もその他の職員も障がいに対する理解が薄く、またパラスポーツに関心も薄い。この為、実行委員が地域の核となるために、地域の福祉行政の現状と方向性、また、地域の体育施設やスポーツの現状を把握する事が大切で、まず実行委員による組織作りも必要であるが、まず、人作りが最優先する。実行委員はそれぞれの立場で素晴らしいスキルを持っているが事障がい者の話になると殆どの人が解っていない。体験会が目的でなく、実行委員が地域の共生社会の実現に向けての重要な位置にあることを認識して貰うことが目的であり、実行委員会開催そのものが体験会になる。
総合的な事業のねらい	課題:福祉行政に携わる職員もその他の職員も障がいに対する理解が薄く、またパラスポーツに関心も薄い。この為、実行委員が地域の核となるために、地域の福祉行政の現状と方向性、また、地域の体育施設やスポーツの現状を把握する事が大切で、まず実行委員による組織作りも必要であるが、まず、人作りが最優先する。実行委員はそれぞれの立場で素晴らしいスキルを持っているが事障がい者の話になると殆どの人が解っていない。体験会が目的でなく、実行委員が地域の共生社会の実現に向けての重要な位置にあることを認識して貰うことが目的であり、実行委員会開催そのものが体験会になる。
事業名	
事業①	嘉島町地域ふれあいパラスポーツ体験会
事業②	熊本市西地域ふれあいパラスポーツ体験会
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	熊本県障害者スポーツ・文化協会		
事業名	嘉島町ふれあいパラスポーツ体験会		
事業内容	会場及び実行委員との調整が合わず、嘉島町及び嘉島町スポーツ協会が実施する「ジョイフルスポーツかしま2025」の中で、2回の実行委員会の開催後に体験会を行う事が出来た体験会当日が雨模様のため、急遽、嘉島町総合運動公園多目的競技場から嘉島町町民体育館での実施となり、予定どおりライフル射撃(ビームライフル射撃)、ポッチャ、卓球バレー、各種競技用車いすの体験会を行った。		
開催日時	令和7年11月9日(日)9:00～13:30		
会場	嘉島町町民体育館 熊本県上益城郡嘉島町上島926 096-237-2005		
参加者	・全体500名程度・パラスポーツ体験者		
人員体制	・実行委員11名 ・競技団体指導員6名 ・ボランティア4名 計21名		
連携団体名 (箇条書き)	・熊本ポッチャ協会 ・熊本卓球バレー協会 ・熊本県車いすバスケット連盟 ・熊本障がい者ライフル射撃協会		
実際の事業での 連携団体の役割	体験会当日は4つのブースに分かれ、参加者に対し解り易く競技内容と使用機材の説明及びルール説明して、特に保護者に対しては丁寧に説明し、興味と理解を深めた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	実行委員として2名のパラスポーツ指導員の協力を得て体験会では、受付とビームライフル射撃の指導を実施した。1名は嘉島町スポーツ協会の会員で地区の体育委員を兼ねて職務しており、次年度の「ジョイフルスポーツかしま2026」にパラスポーツを1競技でも取り入れる用に要望している。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について	「障害者スポーツ実施環境の構築事業」で購入した、車いすテニス車や子供用車いす等を用いた各種車いす体験及びポッチャを用いて体験会を行った。体験会後の11月27日ポッチャ4セット、12月18日車いす10台を嘉島町総合型スポーツクラブの借用が有り、今後パラスポーツを取り入れたいとの抱負を貰っている。		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名】嘉島町地域ふれあいパラスポーツ体験会
事業の様子

	
第2回実行委員会 写真。	各種競技車いす体験写真。
	
ボッチャ体験写真。	卓球バレー体験写真。

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) 【事業名】熊本市西地域ふれあいパラスポーツ体験会
事業の様子

	
車いすの操作練習写真。	アルティメットのルール説明写真。
	
実行委員会写真。	ボッチャ協会員による実行委員への指導写真。

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	熊本県障害者スポーツ・文化協会		
全体事業名	令和7年度(2025年度)地域におけるパラスポーツ体験		
総委託費	1,805,000	決算額	637,300円
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	地域の①総合型地域スポーツクラブ員、②パラスポーツ指導員、③スポーツ推進委員、④理学療法士、⑤社会福祉協議会、⑥行政機関を地域のパラスポーツ推進のキーマンとして、各分野から「ふれあいパラスポーツ体験会」を開催までを通して実行委員として活動して貰ったが、個別に目的と実行委員への説得と理解を得るのに時間を要した。しかしながら体験会を実施するまでの過程でパラスポーツの楽しさや、障がい者に対する理解を深めることが出来た。また、実行委員間の連携も取れて、今後の協力体制が構築された。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	実行委員については、行政機関、社会福祉協議会以外は殆ど障がい者については理解が無く、パラスポーツについても皆無であったが、実行委員会会議で「障がいの種類とスポーツについて」を講義して理解を深め、体験会後にポッチャセット、バスケット車の借用依頼が有り、パラスポーツ指導員や競技団体から支援も有り、自分達で体験会を行っており、総合型地域スポーツクラブで取り入れが始まり、また、次年度の地域でのスポーツイベントにもパラスポーツ競技を取り入れる動きが有り、今後も競技用資材の貸出し等を含め協力・支援体制を維持したい。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来的な資金繰りについて)	今年度、予定していた地域での振興事業が豪雨災害により体育館等が避難場所や宿泊施設となり実施出来なかった。2地域での振興事業を実施出来たが、比較的豪雨災害の少ない地域での開催で会場、日程等が空が無く、地域の既存のイベントに参加の形となり、会場使用料も1地域では無料となり、実行委員会の開催費用、旅費等を含め当初の予算より少ない状況になった。次年度からは地域のスポーツ開催関係の資料を基に振興事業を開催して行く必要が有り、地域単独での振興事業ではやはり実行委員の確保が難しい状況。地域イベントや大会で築いた協力関係を基に実施した方が効果的で、地域も協力し易いとの声があり、小まめな調整が必要となるが、実行委員会の体制作りと競技団体の連携を今後も継続するための費用の確保が必要になる。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	【参加者】アンケート回答で楽しかったとの声が多く、実施した競技の他にも競技希望が有り、今後の参考としたい。車いすに全然乗れなかったが上手く乗れるようにディスクを使った競技は楽しかったとの声があった。 【スタッフ】障がい者に対する理解が出来た、またこれからもパラスポーツ関係の開催等には参加したい。参加者が喜んで貰えて良かった。 【行政】色んなパラスポーツがあることを地域の人に知って貰って良かった、地域のイベントにも積極的に協力し、健常者と障害者が一緒にパラスポーツを楽しみ、共生社会の実現の礎とした。		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	①実行委員会の編成・・・実施にあたっては、それぞれのキーマンが集まって頂いたが、具体的に自分が何をすべきか解らず戸惑いがあった。体験会までの実行委員会を含めた中で、それぞれの重要性を認識して貰い、今後の活動の資となったのは良かった。しかし、個別に実行委員への説得や理解を得るためには、地域の現状をしっかりと知る必要があり、特にパラスポーツ振興事業を行う地域では1)障がい者プラン、2)障がい福祉計画、3)障がい児福祉計画についてはしっかりと現状と方向を理解しておく必要があり、併せてスポーツ人口や施設等にも目を通す必要がある。		
その他所見	①地域でのスポーツ振興事業では、1万～3万人の人口地域を対象に行ったが、地域では地区ごとに体育委員を置き、地域のスポーツ協会を設立し、スポーツ大会やスポーツ関係イベントでの働きを実施しており、この組織と今後どう関わって行くか検討の必要がある。 ②地域での新たなスポーツイベントを開くには限られた地区の予算内で行っているのが難しい面があり、現状を打開するには実行委員だけの力では弱さを感じた。町の予算関係となるとやはり決定を行う町議員の実行委員参加か、アドバイザー等としての実行委員会会議に参加が必要ではないかと感じた。 ③地域のパラスポーツ振興事業では、地域の企業の賛同も重要であり、今回、協力企業側に実行委員会の加入を依頼したが、特定の地域行政への支援は難しいということで、協賛の形での飲料水600本の提供に留まった。今後もいろんな形で継続して行く必要がある。		

地域と育む障害者スポーツ推進事業

◆【事業内容①】フロアバレーボール普及事業

◆【事業内容②】サウンドテーブルテニス普及事業

一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	菊地 利之		
◆企画・実施担当者	菊地 利之	◆経理担当者	菊地 利之

全体事業名称	「地域と育む障害者スポーツ推進事業」
委託費	416,500
地域の実情・課題点	日頃、地域においてスポーツに親しめる環境の推進に取り組んでいるが、フロアバレーボール・サウンドテーブルテニスなど、障害者スポーツの独自種目の普及が課題となっており、競技人口も減少傾向にある。併せて、専門指導者の確保が難しいことも、普及が進みにくい要因の一つと考えられる。
総合的な事業の目的	障害者スポーツの独自種目であるフロアバレーボール・サウンドテーブルテニスを普及の重点種目として位置づけ、競技の広報、体験イベント等の定期的な開催をとおして認知度を高めるとともに、専門指導者を育成するための講習会をとおして競技環境の整備・再構築を図る。 将来的には、定期的な大会や交流イベントを確立し、継続的に参加できる場の創出、参加者間のコミュニティの形成、クラブの立ち上げにつなげたい。
総合的な事業のねらい	市民の参加を促進し、競技人口の拡大と競技力の向上を図る。また、支援者は専門的な競技規則について学び、クラブとの連携を深め参加継続することで、両者が継続的にスポーツに親しめる仕組みを構築する。

事業名	
事業①	フロアバレーボール普及事業
事業②	サウンドテーブルテニス普及事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会		
事業名	フロアバレーボール普及事業		
事業内容	フロアバレーボールの体験会を開催することで競技の認知度を向上させ、より多くの人に競技の魅力を知ってもらうとともに、新たな競技者の発掘を促す。加えて、審判技術を学ぶ勉強会を実施することで、試合運営の質を向上させ、競技の普及振興に寄与することを目指す。		
	【競技体験(視覚障害者・晴眼者)】	『審判入門セミナー(ルール解説・審判技術)①・②』	
開催日時	令和7年12月7日(日)15:00～18:00	①令和7年12月20日(土)18:00～21:00 ②令和8年1月17日(土)18:00～21:00	
会場	宮城県障害者総合体育センター	①宮城県障害者総合体育センター ②宮城県障害者総合体育センター	
参加者	4名	①6名 ②6名	
人員体制	講師、及び講師補助 1チーム(杜の都スパイクーズ選手9名)	①運営スタッフ 1チーム(杜の都スパイクーズ選手5名) ②運営スタッフ 1チーム(杜の都スパイクーズ選手7名)	
連携団体名 (箇条書き)	杜の都スパイクーズ 仙台市障害者スポーツ指導者協議会	杜の都スパイクーズ 仙台市障害者スポーツ指導者協議会	
実際の事業での 連携団体の役割	当協会:周知、運営協力体制の構築、参加者取りまとめ・通知 杜の都スパイクーズ:競技体験時の競技紹介・指導、指導の補助(選手協力) 仙台市障害者スポーツ指導者協議会:当日の運営補助	当協会:周知、運営協力体制の構築、参加者取りまとめ・通知 杜の都スパイクーズ:競技体験時の競技紹介・指導、指導の補助 仙台市障害者スポーツ指導者協議会:当日の運営補助	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	・協議会会員に対する周知協力 ・体験会参加 ・会場準備や撤収 ・講師の補助、運営の補助(講師・講師補助が当事者チームのため、チームが体験会等を円滑に進められるよう直接的・間接的なサポート) ・連携体制の構築(講師(チーム)を巻き込み、今後の活動などの情報共有のためのLINEグループの開設・運用を開始)	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	7名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	9名

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会		
事業名	サウンドテーブルテニス普及事業		
事業内容	サウンドテーブルテニスに関する競技規則、試合運営方法等について学び知識を深めるとともに、選手への指導技術に関して知識を深めることで、競技の普及振興に寄与することを目指す。 『サウンドテーブルテニス審判勉強会』(全5回)		
開催日時	①令和7年10月19日(日)13:00～15:00 ②令和7年11月9日(日)13:00～15:00 ③令和7年12月7日(日)13:00～15:00 ④令和8年1月18日(日)13:00～15:00 ⑤令和8年1月25日(日)13:00～15:00		
会場	①太白障害者福祉センター ②宮城野体育館 サウンドテーブルテニス室 ③太白障害者福祉センター ④太白障害者福祉センター ⑤宮城野障害者福祉センター		
参加者	①1名 ②2名 ③7名 ④2名 ⑤6名		
人員体制	講師 1名 講師補助 1～3名 選手 4～8名		
連携団体名 (箇条書き)	宮城県障害者卓球協会STT審判部 フレッシュ仙台STTクラブ 仙台市障害者スポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	当協会:周知、運営協力体制の構築、参加者取りまとめ・通知 宮城県障害者卓球協会STT審判部:競技紹介・指導、指導の補助 フレッシュ仙台STTクラブ:実技協力・練習会への導線化 仙台市障害者スポーツ指導者協議会:当日の運営支援		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	・協議会会員に対する周知協力 ・体験会参加 ・会場準備や撤収 ・当日の運営の補助	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	7名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	16名

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名】フロアバレーボール普及事業

事業の様子



開始前ミーティングの様子



ポジショニングの様子



ネット際のラリーの様子



サーブ&レシーブ練習の様子

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) 【事業名】サウンドテーブルテニス普及事業

事業の様子



開始前ミーティングの様子



導入(デモンストレーション・競技体験)の様子



ゲーム解説(エンド又はサービス選択)の様子



審判(主審)実践の様子

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会		
全体事業名	「地域と育む障害者スポーツ推進事業」		
総委託費	416,500	決算額	410,715
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	視覚障害者スポーツの普及に特化した事業に初めて取り組んだ。今回の実施をとおして、参加者数や指導者活用などの数値指標は、今後の事業展開の基準となる「実測値」を把握することができた。両事業とも計画値には届かなかったものの、体験会・勉強会を通じて競技に触れる機会を提供でき、今後の取り組みにつながる基礎づくりは達成できたと考える。 一方で、新規当事者の獲得や周知の改善など、今後に向けた課題を発見することができた。実態よりも高い数値目標が計画未達の原因であると捉えており、課題を踏まえた今後の展開の参考としたい。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	FV・STTともに、体験会・審判勉強会を定期的に実施したことで、参加者が継続的に学べる場を確保できた点は成果である。また、両事業で指導者の参画があり、安全性・運営面での支援が得られたことが、地域での継続実施に向けた重要な進展であると感じる。 さらに、新規の視覚支援学校教員の参加など、今後の支援者層の拡大につながる発見もあった。ただし、新規当事者の発掘へのアプローチはまだ十分ではなく、これらの方々への接点づくりは改善が必要と感じている。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	両事業間で予算の流用もあったが、概ね想定内の支出で事業を実施することができた。特に周知に関しては当初予算よりも費用が生じたが、STT①の周知→FV事業での周知先の見直し・拡大→追加実施のSTTでの見直しと、周知先の精度の向上につながったと感じる。 競技の認知度拡大のための広く多層への周知を維持する必要があるが、周知の効率化（両事業の同時周知）など、効率的な資金繰りを心掛けたい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	参加者からは、体験や学びの場があることへの肯定的な声が多く、STTでは「継続して学べる場がありがたい」との意見もあった。FVでは、審判入門を含めた内容により競技理解が深まったという反応があった。一方で、「もう少し内容を充実させてほしい」「周知が届きにくい」という課題も挙がっており、事業内容の構成や難易度設定など、改善が必要であると感じる。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	【課題（初年度の結果より）】 ・新規当事者へのアプローチの難しさ（特に視覚障害者への周知） ・参加後の継続的な機会（フォロー）の設計 【今後の展望】 ・参加者の定着を図るためのフォローアップ体制の整備 ・体験→継続参加→クラブ・団体への導線づくり		
その他所見	本市の視覚障害者のスポーツについて、「実情」・「課題」を確認でき、学びの多い事業となった。他方、事務処理については、求められているレベルが高度なこともあり、想定よりも事務処理に時間を要した。		

【パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト】

◆【スクエアボッチャ体験会】

◆【ID バスケットボール活動支援事業】

◆【ID ソフトボール活動支援事業】

公益財団法人京都市障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人京都市障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	静 真樹		
◆企画・実施担当者	静真樹、石川敬史	◆経理担当者	深田 祥子

全体事業名称	パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト
委託費	850,000円
地域の実情・課題点	【障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)】 京都市内における障害のある人のスポーツ活動の拠点施設としては、当協会が指定管理者として運営する「京都市障害者スポーツセンター(左京区)」及び「京都市障害者教養文化・体育会館(南区)」の2か所であるが、障害のある人が身近な地域でスポーツに親しめる環境が十分であるとは言いがたい。 昨年度、助成金を活用して拠点以外の2行政区でスクエアボッチャの体験会を開催した。想定以上の参加者が集まり、地域で活動したいという意欲を持つ人は多いことが分かった。しかし、活動が定着したとは言えないため、引き続き、スクエアボッチャの体験会を開催し、その中で地域で自主的に活動を続けられる人を探す必要がある。 【競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)】 京都市では、知的障害者のスポーツ活動をする場が少なく限られている。支援学校卒業後、スポーツに取り組む機会が少なくスポーツの継続が難しい状況である。それに加え、クラブはあるが、認知度が低く、選手層の拡大やスタッフの指導体制等課題がある。
総合的な事業の目的	【障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)】 「京都市障害者スポーツセンター」、「京都市障害者教養文化・体育会館」以外の、地域の施設を会場として事業を実施し、両施設には足を運ぶことが困難な障害のある人が参加しやすい環境をつくる。 京都市内全域の障害のある人にスクエアボッチャを広めるため、知的に障害のある人と比べると身体に障害のある人の参加率が低いため、市内の各行政区にある「身体障害者団体連合」及び身体障害者団体が参画する「京都市身体障害者団体連合会」と連携し、障害のある人、特に身体に障害のある人のスポーツとして親しみやすいスクエアボッチャを実施し、スポーツへの参加を拡大する。 本事業を経て、各地域で活動するスポーツ推進委員やパラスポーツ指導員等が、地域でのスポーツ活動に積極的に障害のある人を受け入れ、障害のある人が、いつでも気軽にスポーツに取り組める環境の構築を目指す。 【競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)】 全国障害者スポーツ大会出場を目指して活動しているクラブに協力を得て、体験会を開催し、支援学校卒業後もスポーツ活動が継続できる場を提供する。また、既存クラブの選手層の拡大を目指す。
総合的な事業のねらい	・スクエアボッチャを通じた、障害のある人のスポーツの実施率の向上。 ・身近な地域でスポーツを気軽に楽しめる環境づくりの構築 ・パラスポーツ指導員の活動の場の提供及び活動の活発化 ・地域で活動するスポーツ指導に関係する団体との連携強化 ・スクエアボッチャの全市への普及 ・支援学校卒業後もスポーツ活動が継続できる場の提供

事業名	
事業①	スクエアボッチャ体験会
事業②	IDバスケットボール活動支援事業
事業③	IDソフトボール活動支援事業
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人京都市障害者スポーツ協会		
事業名	スクエアボッチャ体験会		
事業内容	スクエアボッチャ体験会 京都市内各地で、スクエアボッチャ体験会を実施する	スクエアボッチャ体験会事前会議 各体験会実施前にスタッフの事前会議を行う	
開催日時	①令和7年9月28日(日) 14:00～16:00 ②令和7年11月23日(日) 14:00～16:00 ③令和7年12月13日(土) 10:00～12:00	①令和7年9月17日(水) 18:30～20:00 ②令和7年11月17日(月) 18:30～20:00 ③令和7年12月8日(月) 18:30～20:00	
会場	①京都市みぶ身体障害者福祉会館(中京区) ②京都ライトハウス(北区) ③京都市立陵ヶ岡小学校(山科区)	①京都市障害者スポーツセンター(左京区) ②京都市障害者スポーツセンター(左京区) ③京都市障害者スポーツセンター(左京区)	
参加者	①参加者 18人、スタッフ 12人、協会職員 2人 ②参加者 24人、スタッフ 13人、協会職員 2人 ③参加者 18人、スタッフ 18人、協会職員 1人	①スタッフ 9人、協会職員 2人 ②スタッフ 6人、協会職員 2人 ③スタッフ 12人、協会職員 2人	
人員体制	①協会職員 2人 京都パラスポーツ指導者協議会 1人 京都市スポーツ推進委員 6人、その他 5人 ②協会職員 2人 京都パラスポーツ指導者協議会 1人 京都市スポーツ推進委員 5人、その他 7人 ③協会職員 1人 京都市スポーツ推進委員 10人、その他 8人	①協会職員 2人 京都パラスポーツ指導者協議会 1人 京都市スポーツ推進委員 5人、その他 3人 ②協会職員 2人 京都パラスポーツ指導者協議会 1人 京都市スポーツ推進委員 3人、その他 2人 ③協会職員 2人 京都市スポーツ推進委員 5人、その他 7人	
連携団体名 (箇条書き)	京都市身体障害者団体連合会 京都パラスポーツ指導者協議会 京都市スポーツ推進委員会 陵ヶ岡体育振興会	京都パラスポーツ指導者協議会 京都市スポーツ推進委員会	
実際の事業での 連携団体の役割	京都市身体障害者団体連合会 参加者への周知 京都パラスポーツ指導者協議会 スタッフの派遣 京都市スポーツ推進委員会 スタッフの派遣	京都パラスポーツ指導者協議会 スタッフの派遣 京都市スポーツ推進委員会 スタッフの派遣	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	イベント当日の会場の設営や受付、参加者の誘導、体験会の審判に協力 いただいた。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	4
スポーツ用具の 整備・活用について	本事業経費にて、スクエアボッチャ式を2セット購入し、体験会当日に使用		

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人京都市障害者スポーツ協会		
事業名	IDバスケットボール活動支援事業		
事業内容	知的バスケットボール体験会を2回開催する		
開催日時	①令和7年11月22日(土)14:00~15:30 ②令和8年1月24日(土)14:00~15:30		
会場	①京都市障害者スポーツセンター ②京都市障害者スポーツセンター		
参加者	①参加者 7人 (内新規参加者7人) スタッフ 7人 協会職員 2人 ②参加者 8人(内新規参加者4人) スタッフ 7人 協会職員 2人		
人員体制	①パラスポーツ指導員 1人 支援学校教員 1人 IDバスケットチーム(選手) 5人 協会職員 2人 ②パラスポーツ指導員 1人 支援学校教員 2人 IDバスケットチーム(選手) 4人 協会職員 2人		
連携団体名 (箇条書き)	京都パラスポーツ指導者協議会 京都市知的障害者バスケットボールチーム		
実際の事業での 連携団体の役割	京都パラスポーツ指導者協議会 (スタッフの派遣) 京都市知的障害者バスケットボールチーム (参加者への指導及び指導補助)		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	体験会の進行や参加者への指導及び指導補助に対する指示を行っていただいた。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人京都市障害者スポーツ協会		
事業名	IDソフトボール活動支援事業		
事業内容	知的ソフトボール体験会を月1回(7月～1月) 合計7回開催する。		
開催日時	①令和7年9月27日(土)11:30～12:30 ②令和7年10月11日(土)11:30～12:30 ③令和7年11月15日(土)11:30～12:30 ④令和7年11月22日(土)11:30～12:30 ⑤令和7年12月6日(土)11:30～12:30 ⑥令和7年12月20日(土)11:30～12:30 ⑦令和8年1月24日(土)11:30～12:30		
会場	①京都御苑富小路広場 ②京都御苑今出川広場 ③京都御苑今出川広場 ④京都御苑富小路広場 ⑤京都御苑今出川広場 ⑥京都御苑今出川広場 ⑦京都御苑富小路広場		
参加者	①参加者9人、スタッフ18人、協会職員2人 ②参加者5人、スタッフ13人、協会職員1人 ③参加者9人、スタッフ14人、協会職員2人 ④参加者11人、スタッフ16人、協会職員3人 ⑤参加者9人、スタッフ15人、協会職員2人 ⑥参加者6人、スタッフ15人、協会職員2人 ⑦参加者6人、スタッフ14人、協会職員1人	① (内初参加者9人) ② (内初参加者2人) ③ (内初参加者1人) ④ (内初参加者5人) ⑤ (内初参加者1人) ⑥ (内初参加者0人) ⑦ (内初参加者1人)	
人員体制	①協会職員2人、支援学校教員9人、IDソフトチーム9人 ②協会職員1人、支援学校教員5人、IDソフトチーム8人 ③協会職員2人、支援学校教員7人、IDソフトチーム7人 ④協会職員3人、支援学校教員7人、IDソフトチーム9人 ⑤協会職員2人、支援学校教員6人、IDソフトチーム9人 ⑥協会職員2人、支援学校教員5人、IDソフトチーム10人 ⑦協会職員1人、支援学校教員6人、IDソフトチーム8人		
連携団体名 (箇条書き)	京都市知的障害者ソフトボールチーム		
実際の事業での 連携団体の役割	京都市知的障害者ソフトボールチーム (参加者への指導及び指導補助)		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者への指導及び指導補助を行っていただく予定であったが、今回はパラスポーツ指導員の参加がなかった。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について			

【パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト】の事業写真

① 事業写真

(1) 【スクエアポッチャ体験会】

事業の様子



事前会議の様子①



事前会議の様子②



体験会の様子①



体験会の様子②



体験会の様子③



運営スタッフの参加者誘導の様子

【パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト】の事業写真

① 事業写真

(2) 【ID バスケットボール活動支援事業】

事業の様子



体験会前のミーティングの様子



ウォーミングアップ(ランニング)



コーディネーションドリルの様子①



コーディネーションドリルの様子②



シュート練習の様子①



シュート練習の様子②

【パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト】の事業写真

① 事業写真

(3) 【ID ソフトボール活動支援事業】

事業の様子



全体集合の様子



練習メニューの説明の様子



準備運動のランニングの様子



練習①(キャッチボール)



練習②(ティーバッティング)



体験者を指導するチームメンバー

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	京都市障害者スポーツ協会		
全体事業名	パラスポーツ活動拠点拡大プロジェクト		
総委託費	1,308,268	決算額	985,144
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	【障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)】 昨年度の2箇所、新たな地域として山科区の小学校を加えた3箇所を実施した。山科区の小学校においては、体育振興会との連携によりスクエアボッチャの体験会を実施し、新たな地域の拠点づくりにつなげることができた。また、3回全てにおいて、京都市スポーツ推進委員や京都パラスポーツ指導員の協力を得られ、地域の受け入れ体制づくりに一定の成果があった。一方で、参加者数は想定していた人数より少なかった。その原因として、地域での他のイベントと重なっていることが要因として考えられる。 【競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)】 現時点では支援学校教員の協力がほとんどであり、パラスポーツ指導員の協力が1人だけであったことが課題である。専門的な指導体制を整えるために、パラスポーツ指導員への周知を強化し、これまで競技や競技指導に携わってきた人材を掘り起こし、継続的に関わってもらえる体制づくりが必要である。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	【障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)】 新たに実施した地域では、体育振興会と連携できたことで、スクエアボッチャ体験会を円滑に実施することができ、地域定着の基盤づくりに繋がった。今後、地域への定着をさらに進めるためにも、地域で活動している団体との継続的な連携が必要不可欠である。 【競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)】 クラブと連携して事業を実施したことで、支援学校の生徒が卒業後もスポーツ活動を継続できる場としての環境整備に取り組むことができた。体験会を通じてクラブへの入部を希望する人もいる等、目的としている選手層の拡大や卒業後のスポーツ活動場所の確保につながる成果が得られた。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	今年度は、実際に協力いただいたスタッフ数が当初の想定より少なかったため、謝礼金に係る予算に余剰が生じた。また、手話通訳を必要とする参加者がいなかったことから、手話通訳に充てていた予算も未執行となった。これらの状況を踏まえ、次年度以降は今回の実績をもとに予算額を見直し、より適正な予算の設定に努めていきたい。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	【障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)】 スクエアボッチャ体験会では、障害の有無に関わらず、簡単に実施できる競技であることから、「気軽に楽しめる」「参加しやすい」といった声を聞くことができ、非常に満足度が高かった。また、実際に運営に協力いただいたスタッフからは、コートや準備が簡易にできる広げるタイプのシートなどがあると地域での実施がさらに広がるといった意見があった。 【競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)】 支援学校生徒の保護者からは、卒業後に継続してスポーツ活動ができる場を探していたため、体験会を定期的に開催してほしいという要望が多くあった。協力いただいたスタッフからは、体験会が選手の技術向上やチーム力の強化にもつながるとの評価を得ることができた。		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	【障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり)】 地域への定着や参加者を増やすために、地域で活動する団体との連携をより密に取り、実施日程や役割分担を事前に調整していくことが必要である。また、現在実施している地域での取り組みをモデルケースとして、新たな地域への展開を進めていく。 運営側としては、京都市スポーツ推進委員や京都パラスポーツ指導者協議会との連携により、パラスポーツ指導員の参加が徐々に増加している。今後は初級パラスポーツ指導員、特に取得して間もない人を中心にスタッフとしての協力を促し、人材の裾野を広げていく。 【競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり)】 今後も継続的に体験会を開催し、支援学校卒業後もスポーツ活動を続けられる場となるように、クラブと連携しながら体制を整えていく。また、運営側として、現在はクラブに所属している指導者に協力いただいているが、今後は、パラスポーツ指導員等の新たな人材の参加も視野に入れ、より充実した運営体制の構築を図る。		
その他所見			

【 障がい者のスポーツ参加推進事業 】

◆【事業内容①】

パラスポーツ推進事業 ～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～

◆【事業内容②】

障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
◆計画書作成者	豊指 祐樹		
◆企画・実施担当者	豊指 祐樹	◆経理担当者	豊指 祐樹

全体事業名称	障がい者のスポーツ参加推進事業
委託費	1,425,000
地域の実情・課題点	当協議会は障がいのある人のスポーツの普及、振興を図ると共に障がいのある人のスポーツの可能性を研究・開発および指導することを目的として、宮城県内を仙台、広域仙台北、県南、県北、県東部の5つ支部に分けて圏域ごとに活動を行っている。 しかし、5支部に分けたことで、活動格差が目立ち始めてきた。現在、県東部、県南はキーパーソンとなる指導員を中心に活動を行っているが、他3支部については、ほとんど活動が行えていない状況にある。各支部には支部長を設けているが、仕事の傍ら、支部活動の活性まで手が回っていないことが主な原因と思われる。しかし、活動が滞っている地域からも現場に出てくる指導員もいる。活動が滞っている圏域において、キーパーソンの確立、該当圏域の指導員の活動の場づくり、活動活性の基盤づくりが課題となっている。
総合的な事業の目的	今年度は、県北地区の石巻市や大和町をターゲットに、障がい当事者のスポーツ参加促進と対象圏域の指導員の活動活性化と基盤づくりを行っていききたい。これまでの事業の中で、県南地区の山元町においてボッチャをツールにスポーツ推進委員への競技の理解から実施方法など様々なレクチャーを行ってきた。結果、現在、町とスポーツ推進委員が連携し、高齢者のみならず、地域の障がい者を集め、定期でクラブ活動を行っている。今回は対象地域の障がい者のスポーツ参加を軸に、自分の「好き」を見つける体験会を実施し、短期型のスポーツ教室へ発展させる取り組みを計画している。今回対象となる石巻市のスポーツ推進計画の一部に「障害者スポーツの普及・強化」「障害者スポーツボランティアの育成」などが盛り込まれている。そのため、中長期的な展開としては地域のスポーツ推進委員とパラスポーツ指導員が連携して地域の障がい当事者を受け入れる活動の場の構築への期待が見込まれる。もう一方の大和町においては町のスポーツ推進計画には障害者スポーツ等の記載はなかったものの、昨年度、繋がりができたクリニックから、来院される患者に障がい当事者がおり、リハビリとしてスポーツ活動を考えているという相談も受けているため、きっかけづくりから、定期的な活動へ発展できる可能性はある。 また、昨年度より宮城県障害福祉課と連携して実施した県庁ロビーにおけるボッチャ体験(パラスポーツ体験)も、継続していく。昨年度、県庁で体験後、3事業所より、出前教室の依頼を受け、事業所内でのパラスポーツの取り組み促進を図ることができた。今年度は昨年度の倍の5～6事業所に発展させ、より多くの事業所で障がい当事者スポーツに親しむ機会を構築していただく、きっかけづくりを行う。
総合的な事業のねらい	本事業では特別支援学校や障がい者支援施設へ、パラスポーツの取り組みに関するアンケートを実施し、障がい児・者のスポーツ参加に関しての障壁となっているものを把握し、障がい者が身近な場所でスポーツに親しむことができる体制づくりを行っていききたい。そのために活動が滞っている地域を対象にステップ1を実践し、当該地域の障がい当事者とパラスポーツ指導員が活動できる環境づくりを目指す。

事業名	
事業①	パラスポーツ推進事業 ～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～
事業②	障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
事業名	パラスポーツ推進事業 ～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～		
事業内容	実施内容:体験型のプログラムを実施(全7回) 全7回を3つのステップに分ける。 ステップ①「きっかけ」:スポーツにふれる ステップ②「楽しさの継続」:仲間と楽しみ、自分の得意を見つける ステップ③「地域移行」:継続できる形へ 1～3回:ボッチャやフライングディスク、風船バレーなどの導入型レクリエーションスポーツの実施 4～6回:自分の得意や自分の現状を知るための個別チャレンジ型スポーツ(体力測定、的あて、ボール投げなど) 7回 :継続活動の紹介、スポーツのマッチング		
開催日時	① 2025年 7月26日(土)13:30～15:30 ② 2025年 8月31日(日)13:30～14:30 ③ 2025年 9月28日(日)13:30～14:30 ④ 2025年10月25日(土)13:30～14:30 ⑤ 2025年11月22日(土)13:30～14:30 ⑥ 2026年 1月24日(土)13:30～14:30		
会場	①～③ 石巻市河北総合センター ビッグバン(石巻市) ④～⑥ 大曲地区体育館(東松島市)		
参加者	① 31名 ② 0名 ③ 5名 ④ 0名 ⑤ 17名 ⑥ 34名		
人員体制	実行委員(パラスポーツ指導員) 4名 種目担当チーフ(パラスポーツ指導員) 3名 学生ボランティア 3～4名 指導員の職場の関係者(理学療法士) 2名		
連携団体名 (箇条書き)	なし ※初の試みでもあったため、関わる指導員への事業のイメージを認識してもらうこと、指導員が主導で運営するスキルを身に着けるために、協力者の間口は広げておりませんでした。連携まではいきませんでした。運営協力に地元大学生ボランティアや指導員の職場の関係者が運営補助スタッフとして関わっていただきました。		
実際の事業での 連携団体の役割	なし		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	・各回の実施内容、実施方法の検討を上記実行委員4名で月1回オンラインで打合せを実施。 ・会場手配、申込手続き、会場打合せ ・チラシの作成 ・参加者募集案内、周知作業 ・必要物品の手配(借用、購入など) ・運営マニュアルの作成、スタッフへの周知 ・参加者からの問合せ対応 ・参加者への事務連絡 ・学生ボランティアとの連絡調整 ・当日の運営 ・担当ブースの管理	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	10名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	39名
スポーツ用具の 整備・活用について	ディスゲッターフープ×2をフライングディスク体験ブースで使用 簡易ボッチャコート×1をボッチャ体験ブースで使用		

各事業における事業報告シート

実施協会名	宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
事業名	障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業		
事業内容	実施内容:ポッチャ体験と出前教室を実施予定。 ①6月26日(木)、27日(金)10:30~14:00 ②9月3日(水)~5日(金)10:30~14:00 ③12月3日(水)~5日(金) 出前教室:昨年度3事業所だったが今年度は5事業所を目標に実施していく。前年度同様、事業当日に各事業所へ出前のチラシを配布し、申込を受ける。パラスポーツ指導員2~3名で出向く。実施規模によっては1名での対応もあり得る。		
開催日時	① 2025年 5月28日(水)14:00~15:00 ② 2025年 6月26日(木)~27日(金)10:30~14:00 ③ 2025年 7月 9日(水)10:30~12:00 ④ 2025年 8月 2日(土)~ 3日(日)10:00~17:00 ⑤ 2025年 9月 3日(水)~ 5日(金)10:30~14:00 ⑥ 2025年12月 3日(水)~ 5日(金)10:30~14:00		
会場	① ケアプラザ富谷 ② 宮城県庁 ③ 本小牛田コミュニティーセンター ④ 夢メッセみやぎ ⑤ 宮城県庁 ⑥ 宮城県庁		
参加者	① 15名 ② 82名 ③ 10名 ④ 延べ200~300名 ⑤ 90名 ⑥ 82名		
人員体制	① パラスポーツ指導員 3名 ② パラスポーツ指導員 3名、 ボッチャクラブチームスタッフ 1名、選手 1名 ③ パラスポーツ指導員 1名 ④ パラスポーツ指導員 6名 ボッチャクラブチームスタッフ 5名、選手 1名 ⑤ パラスポーツ指導員 4名 ⑥ パラスポーツ指導員 3名 ボッチャクラブチームスタッフ 1名、選手 1名		
連携団体名 (箇条書き)	②⑤⑥:宮城県障害福祉課 ②④⑥:ボッチャクラブチームアクイラ宮城 ③:美里町地域活動支援センター ④:株式会社仙台放送		
実際の事業での 連携団体の役割	宮城県障害福祉課:会場提供、連絡調整、周知 アクイラ宮城:ポッチャ体験運営 美里町地域活動支援センター:連絡調整、会場手配 仙台放送:イベント主催者、連絡調整、駐車場手配		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	・関係機関との連絡調整 ・協力指導員への連絡文書作成、事前連絡 ・物品の準備手配 ・当日の会場準備、運営全般、競技の紹介 ・初参加の方へのレクチャー	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	8
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	21
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャ簡易コートを各事業のポッチャ体験にて使用		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【 パラスポーツ推進事業～誰もが参加できる共生型スポーツ文化の創出へ～ 】

事業の様子



会場準備



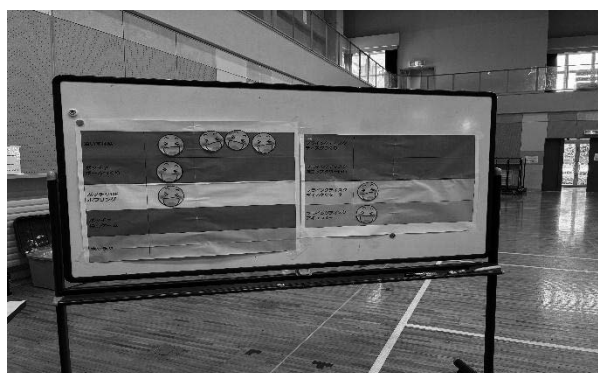
参加者受付



体験中の様子



当事者指導員によるレクチャー



参加者による体験種目の評価



実施後の振り返り、次回に向けた会議

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) 【 障がい者の健康維持増進とパラスポーツの理解促進事業 】

事業の様子

	
毎年参加してくれる事業所の利用者	来庁していた外国人と全スポ代表選手の 交流試合
	
パラスポーツ指導員の丁寧な対応	障害福祉課職員による AI を利用した体験案内
	
地元メディア主催のイベントにて	脳性まひ当事者選手が自ら始めたボール回収

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
全体事業名	障がい者のスポーツ参加推進事業		
総委託費	1,425,000	決算額	1,432,127
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	パラスポーツ推進事業を通して計画段階では、クラブ活動化にしていくために、7回のステップを踏んで実施する予定だったが、初回にパラスポーツ体験会を実施した結果、放課後等デイサービスからの参加者が多く、種目を絞った活動というよりは、複数の種目が準備された環境で、その時間好きなことをして楽しむという、レクリエーションタイプの遊びの場を定期的に実施していく方が、地域の実態に即しているように感じ、概ね4種目を展開した、遊びの場形式に変更した。参加された団体からは、継続開催の声も聞かれた。 また、パラスポーツ指導員を主体とした運営を行うことで、課題でもある、企画力、運営力等のスキルアップを図る機会にもなった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	事業開始当初は理想像の話ばかりが多かったが、参加者像や実際に運営をしていくことで、指導員一人一人が様々な気付きを得ることができ、回を重ねるごとに、実態に即した視点からの意見や提案が挙がるようになっていった。また、指導員の職場の関係者で興味関心のある方からも運営協力を得ることができ、継続的に関わっていただいたことで、今後も関わっていきいたいという声も聞かれ、新たな人材確保にもつながった。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効率的な資金繰りについて）	今年度は地域での継続した活動の種まきに主眼をおき、有効に活用ができた。 地域でも基盤づくりには3年、5年のスパンでは難しいようにも感じているが、将来的には地域での自走化を目指していくため、本事業を有効活用していきたい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【参加者】楽しかった、またやりたい。ぜひ、今後も継続して開催してほしい（引率職員より） 【指導員】事前準備や当日の運営など、経験する機会になった。受け入れる側も、笑顔で迎え入れることが大切という声があがった。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	あそびの場のような形式はいずれ、飽き、マンネリ化が生じてくることが想定されるため、実施方法や継続的な活動として維持していくためのあり方を検討していく必要があると思われる。 次年度以降の体制として、今回参加いただいた、事業所関係者にも参画いただき、事業所側の考えや意見と運営側の考えをすり合わせる場が必要と考える。その上で、どのような人員体制が望ましいのか、どのような運営方法が適しているのかを考え、少しでも継続的な活動の機会につなげられるように検討していく。		
その他所見	今回は視察の方にもお越しいただき、日頃から抱えている、指導員の高齢化、活動参加者の固定化、本事業の進め方など、気にかけていた部分を、ひもを解くようにご助言をいただけたので、事業担当含め本事業に関わった指導員が、自身の指導員としてのこれからのあり方を考えられる機会となった。		

【ブラインドサッカー地域リーグ 2025(北日本・中日本・西日本)】

◆①ブラインドサッカー北日本リーグ(仙台会場)

◆②ブラインドサッカー中日本リーグ(新潟会場)

◆③ブラインドサッカー西日本リーグ(広島会場)

◆④ブラインドサッカー中日本リーグ(静岡会場)

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会		
◆計画書作成者	高橋めぐみ		
◆企画・実施担当者	内田佳	◆経理担当者	姫野琢己

全体事業名称	ブラインドサッカー地域リーグ2025(北日本・中日本・西日本)
委託費	1,900,000
地域の実情・課題点	2017年より開始した「クラブチーム立ち上げ支援事業」の成果、そして東京2020パラリンピックの機運も相まって、ブラインドサッカーチーム30チーム、ロービジョンフットサルチーム5チームとクラブチーム数が増加し、年間平均約70試合ほど公式試合数を開催している。地域における視覚障がい者のスポーツ振興に寄与すべくブラインドサッカー・ロービジョンフットサル地域リーグを2015年から全国4地域のリーグに分かれて開催をしているが、近年の地域リーグ2022・2023・2024を経て以下のような実情と課題を抱えている。 【地域リーグ2022】 ・コロナ禍によってチーム活動が停止したことにより、大会再開後も辞退が多々発生し、大会を成立させること自体が課題。また、コロナ禍で運動不足の選手も増加した。 ・参加チーム辞退が発生することで大会開催が不確実な状況においては、収入増を狙える施策が中央競技団体として打ちにくい。 ・全ての会場をNF主導で運営、資金調達をしていたので、各会場での発展性もなく試合以外の取り組みができていない。 ・大会開催地域の市民を会場に招待することもNFの力だけだと限界があった。 【地域リーグ2023】 ・チームの大会参加辞退抑止のためチームとのコミュニケーション量を増やした。運動不足を懸念し主に暑熱対策の講義を実施。 ・クラブチームから「自らの力で大会を開催したい」という前向きな意見が発される。大会開催にむけて地域の助成金をクラブチーム自身が獲得する等、これまでの中央競技団体が予算獲得をするという構造から少しずつ変化がみえた。 ・大会運営にも地元クラブチームが参画し、クラブチームと大会開催を地域連携する形を開始。「地域リーグ2023」では、西日本リーグin広島と北日本リーグin仙台で、「JBFA×クラブチーム×地域」の3者協働で大会を開催し、弊会初の試みとなるクラブチームとの地域連携による大会運営を実施。 【地域リーグ2024】 ・北日本リーグin札幌と中日本リーグin松本で、「JBFA×クラブチーム×地域」の3者協働での大会を開催。 ・新しく2地域で3者協働の大会開催モデルを実現し、各クラブチームに大会運営ノウハウと大会運営経験者が育成された。 ・過去連携開催したノウハウを他地域に展開して、引き継ぐことができ始めている。 ・クラブチームとの地域連携で開催した地域が築いた関係や実績をもとに、その地域でステークホルダーとより関係性を太くし、ブラインドサッカーを中心に視覚障害者が地域と繋がるモデルの創出が次のステップとして求められている。 弊会の持つ大会運営のノウハウをクラブチームへ伝えることで、チームや関係者自らが中心となり自地域で大会を開催し、各地域でクラブチームハブとなり視覚障害者のスポーツへのアクセス向上、地域への社会参加の促進、競技の普及・発展に繋げるためにも、本事業を実施する必要がある。
総合的な事業の目的	地域リーグは、北日本・東日本・中日本・西日本の各エリアで開催される地域大会で、登録しているクラブチームであれば経験の有無、競技力の高さに関わらず参加することができる大会である。各地域において競技会としての機能を果たすとともに、新しい選手の発掘や育成、継続的なクラブチームの活動にも寄与している。 本申請事業の「地域リーグ2025」では、「各地でブラインドサッカーを通じた新たなつながりを生み、今後の継続的かつ地域に根付いたクラブチーム活動の基盤をつくることを目指す」という地域リーグの在り方に基づき継続開催に取り組む。具体的には、地域のステークホルダー・クラブチーム・JBFAの3者による協業モデルケースの実績を中日本の新潟会場と静岡会場で新たに2ケース作ることを目標としている。北日本の仙台会場と西日本の広島会場は、すでに協業モデルケースでの開催経験があり、本年度はより地域のステークホルダーを巻き込む施策を強化する予定である。弊会と地域のクラブチームが協業し、開催地や開催地域のクラブチームの特色に合った大会の場作りに取り組めるよう企画する。大会という場を作る過程において、地域のステークホルダーを巻き込むことで、地域とクラブチームとが接点を持ち、大会開催後もクラブチームと地域振興に向けた継続した関係を構築することを目的としている。 ロービジョンフットサルにおいては、競技が根付いていない地域への競技普及や新規選手の発掘・育成が課題となっており、未だロービジョンフットサルのチームがない北日本・中日本を事業対象地域に選定している。本競技を多くの人に知ってもらうロービジョンフットサル体験イベントを実施し、弱視者への運動機械の提供と競技普及ならび選手の発掘・育成を図っていくことを大きな目的としている。
総合的な事業のねらい	○目標 ①地域リーグの運営を地域連携として、クラブチームと共に4地域で大会開催される。 ②本事業を経て、地域やクラブチームにおいて大会運営可能なチーム・スタッフが育成される。 ③本事業を経て、新規地域への競技普及及び新規選手の発掘・育成される。

事業名	
事業①	ブラインドサッカー北日本リーグ(仙台会場)
事業②	ブラインドサッカー中日本リーグ(新潟会場)
事業③	ブラインドサッカー西日本リーグ(広島会場)
事業④	ブラインドサッカー中日本リーグ(静岡会場)
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会		
事業名	ブラインドサッカー北日本リーグ(仙台会場)		
事業内容	【ブラインドサッカー北日本リーグ】 宮城県仙台市で開催。3チームが参加、3試合実施。		
開催日時	2025/6/8 9:00-15:00		
会場	仙台北百合学園(宮城県仙台市泉区紫山一丁目2番1)		
参加者	コルジャ仙台 ナマール北海道 スフィータ世田谷BFC		
人員体制	・主催: NPO法人日本ブラインドサッカー協会 ・主管: コルジャ仙台 ・後援: 宮城県 仙台市 ・協力: 公益財団法人日本盲導犬協会／NPO法人東北フットゴルフ協会／みやぎの雀		
連携団体名 (箇条書き)	コルジャ仙台／市民スポーツボランティアSV2004／公益財団法人日本盲導犬協会／NPO法人東北フットゴルフ協会／みやぎの雀		
実際の事業での 連携団体の役割	■会場予約、調整 担当: コルジャ仙台 ■設営、撤収 担当: コルジャ仙台 ■ボランティアマネジメント(募集・連絡窓口・当日の対応) 担当: コルジャ仙台、市民スポーツボランティアSV2004 ■ボランティア活動内容 内容: 設営、撤収、ボールパーソン、チーム付きボランティア、チーム誘導、ピッチ内修繕(芝上に貼ったテープの剥がしや貼り直し) ■開会式、表彰式 担当: コルジャ仙台 内容: 開会式・表彰式(整列、来賓案内、司会、音響／進行管理) ■ブース 担当: コルジャ仙台(マネジメント)、日本盲導犬協会(ブース出店)、東北フットゴルフ協会(ブース出店) ■試合演出 ・キックインセレモニー 担当: コルジャ仙台 内容: 各試合にゲストをお呼びし実施 ・ハーフタイムパフォーマンス 担当: コルジャ仙台(マネジメント)、みやぎの雀(出演) ・MC及び音響演出 担当: コルジャ仙台 内容: 地元で活動されているDJ、音響をお呼びして実施		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	本事業では、パラスポーツ指導員に特化した取り組みは実施していないが、弊会が独自に行なっているコーチ育成研修に参加した指導資格保持者や、地元団体(コルジャ仙台・仙台市民スポーツボランティアSV2004・仙台市スポーツ振興事業団)経由で募集し集まっていた方に参加いただいており、パラスポーツ指導者資格をお持ちの方も複数いらっしゃった。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	調査無し
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	調査無し
スポーツ用具の 整備・活用について	本会場では現在の公式戦の規格とは異なる角度のフェンスであるが、仙台市にあるブラインドサッカーのフェンス・ゴールを活用して実施した。 一式買い直すには数百万円するためなかなか日本各地に整備することは難しいが、以前の規格のものも柔軟に活用し、地域で自力でこういった大会を実施できるようにサポートしていきたい。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会		
事業名	ブラインドサッカー中日本リーグ(新潟会場)		
事業内容	【ブラインドサッカー中日本リーグ】 新潟県北蒲原郡で開催。4チームが参加、4試合実施。		
開催日時	2025/6/1 9:00-17:00		
会場	新潟聖籠スポーツセンターアルビレッジ(新潟県北蒲原郡聖籠町東港5丁目1923-12)		
参加者	新潟フェニックスファイヤーズ 乃木坂ナイツ ツエーゲン金沢BFC 松本山雅B.F.C.		
人員体制	・主催：NPO法人日本ブラインドサッカー協会 ・主管：新潟フェニックスファイヤーズ ・後援：新潟県障害者スポーツ協会／一般社団法人新潟県サッカー協会／聖籠町／聖籠町教育委員会 ・協力：特定非営利活動法人 新潟スポーツコミュニティ／JAPANサッカーカレッジ／株式会社 ミツル		
連携団体名 (箇条書き)	新潟フェニックスファイヤーズ／JAPANサッカーカレッジ／株式会社ミツル		
実際の事業での 連携団体の役割	■会場予約、調整 担当：新潟フェニックスファイヤーズ ■設営、撤収 担当：新潟フェニックスファイヤーズ、株式会社ミツル ■ボランティアマネジメント(募集・連絡窓口・当日の対応・お弁当手配) 担当：新潟フェニックスファイヤーズ、JAPANサッカーカレッジ ■ボランティア活動内容 内容：設営、撤収、ボールパーソン、チーム付きボランティア、チーム誘導、ピッチ内修繕(芝上に貼ったテープの剥がしや貼り直し) ■開会式、表彰式 担当：新潟フェニックスファイヤーズ 内容：開会式・表彰式(整列、来賓案内、司会、音響／進行管理)		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	本事業では、パラスポーツ指導員に特化した取り組みは実施していないが、弊会が独自に行なっているコーチ育成研修に参加した指導資格保持者や、地元団体(JAPANサッカーカレッジ)経由で募集し集まっていた方に参加いただいており、パラスポーツ指導者資格をお持ちの方も複数いらっしゃった。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	調査無し
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	調査無し
スポーツ用具の 整備・活用について	本会場では地元企業のご協力のもと、新潟県内に保有しているブラインドサッカーフェンス・ゴールを活用して実施した。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会		
事業名	ブラインドサッカー西日本リーグ(広島会場)		
事業内容	【ブラインドサッカー西日本リーグ】 広島県広島市で開催。4チームが参加、4試合実施。		
開催日時	2025/6/15 9:00-17:00		
会場	広島工業大学 沼田校舎(広島県広島市安佐南区伴北6丁目4104-2)		
参加者	A-pfeile広島BFC LEO STYLE 北九州 大阪ダイバンス ラッキーストライカーズ福岡		
人員体制	・主催:NPO法人日本ブラインドサッカー協会 ・主管:A-pfeile広島BFC ・後援(予定):広島市/一般社団法人 広島県インクルーシブフットボール連盟/公益財団法人広島県スポーツ振興財団		
連携団体名 (箇条書き)	A-pfeile広島BFC/一般社団法人 広島県インクルーシブフットボール連盟 HBBトレーナー部/一般社団法人MIRAIE/鍼灸院フロンティア		
実際の事業での 連携団体の役割	■会場予約、調整 担当:A-pfeile広島BFC ■設営、撤収 担当:A-pfeile広島BFC ■ボランティアマネジメント(募集・連絡窓口・当日の対応) 担当:A-pfeile広島BFC ■ボランティア活動内容 内容:設営、撤収、ボールパーソン、チーム付きボランティア、チーム誘導、ピッチ内修繕(芝上に貼ったテープの剥がしや貼り直し) ■開会式、表彰式 担当:A-pfeile広島BFC 内容:開会式・表彰式(整列、来賓案内、司会、音響/進行管理) ■ブース 担当:A-pfeile広島BFC(マネジメント)、HBBトレーナー部/一般社団法人MIRAIE/鍼灸院フロンティア(ブース出店)		
本事業における パラスポーツ指導者 の役割・活用について	本事業では、パラスポーツ指導員に特化した取り組みは実施していないが、弊会が独自に行なっているコーチ育成研修に参加した指導資格保持者や、地元団体(A-pfeile広島BFC)経由で募集し集まっていた方に参加いただいており、パラスポーツ指導者資格をお持ちの方も複数いらっしゃった。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	調査無し
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	調査無し
スポーツ用具の 整備・活用について	ブラインドサッカーでは、アイマスクと専用のボールに加えて、フェンスを設置することで試合を行うことができる。用具が身近なスポーツ店で手に入るものではなく、地域でブラインドサッカーを始めよう、大会を開こうとしてもブラインドサッカーボールやフェンスなどが容易に準備できないことが一つの地域への普及の課題となっている。 広島県内にはブラインドサッカーフェンスが無く、本事業においては関東から輸送して実施をした。 継続した地域での実施には不可欠であり、こうした事業を通じてステークホルダーを増やしながら整備の方法を探りフェンスを保有している地域をふやしていきたい。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会		
事業名	ブラインドサッカー中日本リーグ(静岡会場)		
事業内容	【ブラインドサッカー中日本リーグ】 静岡県静岡市で開催。4チームが参加、4試合実施。		
開催日時	令和7年11月23日(日) 9:00-17:00		
会場	IAIパラスポーツパーク(静岡県静岡市清水区庵原町1210)		
参加者	FCコレチーボ静岡 Mix Sense名古屋 ミカレ岐阜 オガルリーブレ山梨		
人員体制	・主催：NPO法人日本ブラインドサッカー協会 ・主管：FCコレチーボ静岡 ・後援：静岡県／静岡市／静岡市教育委員会／一般財団法人静岡県サッカー協会		
連携団体名 (箇条書き)	FCコレチーボ静岡／清水エスパルス／エスパルスサポーター／駒越少年団／株式会社アイエイアイ／IAIパラスポーツパーク／清水魚マルシェ		
実際の事業での 連携団体の役割	■会場予約、調整 担当：FCコレチーボ静岡 ■設営、撤収 担当：FCコレチーボ静岡 ■ボランティアマネジメント(募集・連絡窓口・当日の対応) 担当：FCコレチーボ静岡 ■ボランティア活動内容 内容：設営、撤収、ボールパーソン、チーム付きボランティア、チーム誘導、ピッチ内修繕(芝上に貼ったテープの剥がしや貼り直し) ■開会式、表彰式 担当：FCコレチーボ静岡 内容：開会式・表彰式(整列、来賓案内、司会、音響／進行管理) ■ブース 担当：コルジャ仙台(マネジメント)、株式会社アイエイアイ／IAIパラスポーツパーク／清水魚マルシェ(ブース出店) ■試合演出 ・前座試合 担当：FCコレチーボ静岡(マネジメント)、駒越少年団(出場チーム) ・試合間パフォーマンス 担当：FCコレチーボ静岡(マネジメント)、エスパルスサポーター(応援イベント出演)、エスパルス(チアダンス)		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	本事業では、パラスポーツ指導員に特化した取り組みは実施していないが、弊会が独自に行なっているコーチ育成研修に参加した指導資格保持者や、地元団体(FCコレチーボ静岡)経由で募集し集まっていた方に参加いただいており、パラスポーツ指導者資格をお持ちの方も複数いらっしゃった。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	調査無し
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	調査無し
スポーツ用具の 整備・活用について	本会場はパラスポーツに特化した施設であり、ブラインドサッカーフェンスが常設されている日本唯一の民間運営施設である。 こうした会場でのイベント・試合開催をモデルケースとし、全国に広げていきたい。		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) ①ブラインドサッカー北日本リーグ(仙台会場)

事業の様子



集合写真



表彰式の様子



体験ブース



試合中(フェンス際の攻防)

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) ②ブラインドサッカー中日本リーグ(新潟会場)

事業の様子



集合写真



選手挨拶



試合中(ボール奪取の様子)



キックオフの様子

【事業内容③】の事業写真

①事業写真

(3) ③ブラインドサッカー西日本リーグ(広島会場)

事業の様子



集合写真



キックオフの様子



試合後の挨拶



優勝チームの様子

【事業内容④】の事業写真

①事業写真

(4) ④ブラインドサッカー中日本リーグ(静岡会場)

事業の様子



集合写真



開会の挨拶



試合前の挨拶



試合中(シュートシーン)

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー		
全体事業名	ブラインドサッカー地域リーグ2025(北日本・中日本・西日本)		
総委託費	3,409,648	決算額	2,094,800
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	クラブチームによる地域連携を促し試合を開催することで、クラブチームとステークホルダーとの関係を強化していくことを目的としていた中、取組の成果に差はあったものの一定の評価ができる。例えば、会場におけるブース出店は、仙台や静岡では、チーム協賛企業や連携する障がい者サッカー連盟による協力を得て複数の出店ができた。一方で広島や新潟では、競技体験等1～2の出店となった。運営ボランティア募集において、広島や仙台では、地元の大学生みなさまや、ファンサポーター、クラブの協賛企業みなさま、静岡や新潟では、地元のサッカー関係者みなさまがお力添えいただき、運営を支えて下さった。 地域のみなさまの顔が見える関係ができたことは1つの達成点であり、この関係値を継続、大きくしていくことが次の取組となる。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	実施したいずれのエリアにおいても、クラブチーム内の事務局担当者はもちろん、選手からも「ホームゲームとして開催していきたい」という前向きな声が上がってきたこと、そこへ向けて選手目線で出来ることを考えようとしてくれていることが大きな成果となったと感じている。 NFとして提供する「公式戦の場へ出場する」だけではなく、「自分が観てほしい人を呼ぶ、一緒に盛り上げてほしい人を呼ぶイベントとする」と文脈化していけることが大切だと感じており、同時に自治体やパラスポーツ推進委など、外部力学を活用させていただくためにNFとしても出来ること、整理できる部分があると学べたことも1つの課題と成果としたい。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	今年度は、チーム×地域×NF連携のN数を増やしていくことを目的として、有効に活用することが出来た。マネタイズの難しさを切に感じており、クラブチームが協賛企業を獲得するためには、やはり試合が必要。視覚障がいプレイヤーを集めることの難しさ、サイドフェンスがあるコートで試合を実施することの難しさを痛感している。だからこそ、こうした地域における競技大会を行うだけではなく、そこに必要な関係値をつくっていく働きかけは不可欠であり、今後も試合を含めたイベントを中心としたキャッシュポイントの創出に努めたい。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	【参加者】ホームゲームで開催できることは嬉しい／自分たちだけではなく、同じ地域のおクラブチームと開催地を回していける様になりたい 【支える人】選手たちが懸命にプレーする姿には心を動かされる。こうした舞台をどうやってサポートできるか考えたい 【行政】正直に記載すると、いずれの開催においても行政担当者が会場現地にお越しいただけたケースはなかった。後援申請において自治体とコミュニケーションはとっていたため、今後は自治体の力学活用を能動的に行える様にしたい		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	開催エリアをどうスケールさせていくか、その為にクラブチームへ働きかけをしていくことが課題。単に大会を一緒に開催しようとするのではなく、選手発掘や指導員養成といった、クラブチームが自立していくことへの働きかけを行いたい。決して強制的に行うのではなく、それがクラブチームおよび活躍する選手、関わる地域みなさまとの関係強化に繋がる道筋を、クラブチーム自身で描いていただくことが肝要と考える。		
その他所見	一番の悩みは「チーム×地域」連携において、こういった外郭団体を巻き込んでいくべきか、チーム自身も頭を悩ませたり、困っている点である。NFとして地域リソースを学び、知り、クラブチームやその地域にとってmore betterな座組を模索していきたい。		

【事業名】地域スポーツ振興のための指導者育成・都道府県協会(PF)支援事業

- ◆【事業内容①】Bチャレンジ関東ブロック(東日本対象)
- ◆【事業内容②】Bチャレンジ近畿ブロック(西日本対象)
- ◆【事業内容③】全国代表者会議(各ブロック)

一般社団法人日本ボッチャ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
◆計画書作成者	三浦裕子、山田佐知子		
◆企画・実施担当者	三浦裕子	◆経理担当者	森川奈津子

全体事業名称	地域スポーツ振興のための指導者等育成・都道府県協会(PF)支援事業 (Bチャレンジ2025 東日本・西日本・全国代表者会議・PF支援会議)
委託費	1,900,000円
地域の実情・課題点	東京パラリンピック以後、パリ大会を経て、選手登録数は引き続き増加傾向にあり、それに伴い地域で開催される大会も増加している。その状況下に対し地域協会の組織基盤が脆弱であり、地域での格差が顕著であることが課題である。 また、2026年より日本選手権のブロック予選会を4か所に拡大し実施することを予定しているが大会を企画立案・運営できる競技役員等、競技を支える人材が不足しており、その育成が急務となっている。 さらには、地域から全国的に活躍する選手の育成発掘のために、指導者や支える側も含めてボッチャが実施できる環境を作ることが必要となっている。 本事業により、地域が主体となり大会を開催することや誰もが参加できる環境づくりを行うことを目標に、指導者・競技役員育成および地域協会の加盟団体組織化により、ボッチャを通じた地域でのスポーツ振興が継続したスポーツの取り組みになることを目指し企画立案をした。日本選手権予選会で敗退した選手の模擬試合を実施し機会を創出するとともに、選手を目指す障がい者の参加促進につながるように、地域の指導者協議会、パラスポーツ指導員と連携し、地域の基盤強化につなげる。
総合的な事業の目的	地域で主体的な競技活動が出来る人材育成および地域団体の組織化、地域のスポーツ振興の基盤強化を図る。 ・2026年から日本ボッチャ選手権大会、ブロック予選会の実施（北海道・東北・関東・甲信越・東海・近畿・北陸・中四国・九州・沖縄） ・各都道府県で、障害の有無に関係のなく参加できるインクルーシブ大会の実施。 ・地域での選手発掘・育成、大会・講習会等の実施。 ・地域ボッチャができる施設の拡大。 ・地域協会の指導育成に必要なコンプライアンス・ガバナンスの研修の実施
総合的な事業のねらい	・研修会開催による人材育成 ・模擬試合開催試合機会の増化(全日本選手権予選敗退者対象) ・「全国代表者会議」の設置による地域基盤強化、各県協会のガバナンス強化 ・ブロック会議の実施による、地域内連携強化および中央競技団体への加盟化促進

事業名	
事業①	Bチャレンジ関東ブロック(東日本対象)
事業②	Bチャレンジ近畿ブロック(西日本対象)
事業③	全国代表者会議(各ブロック)
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
事業名	Bチャレンジ関東ブロック(東日本対象)		
事業内容	・全てのブロックで、多くの指導者・スタッフを育成し、競技者が日常的に練習・試合ができるようにする。 ・各県で体験会～練習～競技大会の流れが構築できる状態とする。	・アスリートチャレンジ:強化スタッフの指導のもとに、選手のトレーニングを一緒に考える。 ・審判員、クラス分け員講習:資格保有者のフォローアップ事業を実施。 ・A級コーチ講習:B級コーチ取得後、パラスポーツ指導員資格を持った方が受講できる、クラブづくり、体制づくりのための講習を実施。 ・トレーナー講習:医療資格保有者のための講習を実施。	
開催日時	2025年10月18日(土)・19日(日)		
会場	日本財団パラアリーナ（〒135-0092 東京都品川区東八潮3-1） https://www.parasapo.tokyo/paraarena/#access_section		
参加者	アスリートクラス別個人戦:9名 サポーター講習:3名 審判員講習:16名 A級コーチ講習:14名 トレーナー講習:3名 クラス分け員講習:0名 計45名		
人員体制	東京ボッチャ協会:5名(会場設営・受付) 日本ボッチャ協会事務局:2名 日本ボッチャ協会各講習講師:7名 計14名		
連携団体名 (箇条書き)	東京ボッチャ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	会場調整、当日の運営補助、関東地域内での連絡調整		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	競技団体主催事業により、パラスポーツに興味関心を持っていたが、ステップアップ、フォローアップの段階でパラスポーツ指導者の資格を取得し、活動に役立てていくとともに、地域活動の継続を支える。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	14
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	14
スポーツ用具の 整備・活用について	実施初年度の物品を活用		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
事業名	Bチャレンジ近畿ブロック(西日本対象)		
事業内容	・全てのブロックで、多くの指導者・スタッフを育成し、競技者が日常的に練習・試合ができるようにする。 ・各県で体験会～練習～競技大会の流れが構築できる状態とする。	・アスリートチャレンジ:強化スタッフの指導のもとに、選手のトレーニングを一緒に考える。 ・審判員、クラス分け員講習:資格保有者のフォローアップ事業を実施。 ・A級コーチ講習:B級コーチ取得後、パラスポーツ指導員資格を持った方が受講できる、クラブづくり、体制づくりのための講習を実施。 ・トレーナー講習:医療資格保有者のための講習を実施。	
開催日時	2025年12月6日(土)・7日(日)		
会場	愛知医療学院大学 〒452-0931 愛知県清須市一場519番地 https://amcr.ac.jp/access/		
参加者	アスリートクラス別個人戦:10名 サポーター講習:4名 審判員講習:5名 A級コーチ講習:17名 トレーナー講習:4名 クラス分け員講習:2名 計42名		
人員体制	あいちボッチャ協会:8名(会場設営・受付) 日本ボッチャ協会事務局:1名 日本ボッチャ協会各講習講師:9名 計18名		
連携団体名 (箇条書き)	あいちボッチャ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	会場調整、当日の運営補助、西日本地域内での連絡調整		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	競技団体主催事業により、パラスポーツに興味関心を持っていたが、ステップアップ、フォローアップの段階でパラスポーツ指導者の資格を取得し、活動に役立てていくとともに、地域活動の継続を支える。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	17
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	17
スポーツ用具の 整備・活用について	ボッチャボール3セットを購入し、講習に活用した		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
事業名	全国代表者会議		
事業内容	ブロック単位で活動が活発となり、日本選手権の地域予選ができるようになり、地域競技団体で大会・講習会等が開催できることを目的として、下記を開催した。 「全国代表者会議」(ブロック会議) 日程:8月～11月(5ブロック:北海道、東北、関東・甲信越、近畿・東海・北陸、中四国・九州で開催) 内容:「全国代表者会議」(ブロック会議)の設置による地域基盤強化、各県協会のガバナンス強化、地域内連携強化の促進をした。		
開催日時	各会場 時間:13:30～15:30 ①8月2日(土):東北(JR東日本仙台支社) ②8月24日(日):北海道(北海道立道民活動センター かでる2・7) ③9月6日(土):中四国・九州(広島市西区区民文化センター) ④10月19日(日):関東・甲信越(日本財団パラアリーナ) ⑤11月1日(土):近畿・東海・北陸(大阪公立大学)		
会場			
参加者	①東北:9名 ②北海道:4名 ③中四国・九州:16名 ④関東・甲信越:20名 ⑤近畿・東海・北陸:15名		
人員体制	日本ボッチャ協会 5名		
連携団体名 (箇条書き)	①東北:JR東日本 ②北海道:北海道庁、北海道ボッチャ協会 ③中四国・九州:広島県ボッチャ協会 ④関東・甲信越:東京ボッチャ協会 ⑤近畿・東海・北陸:大阪ボッチャ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	参加者への案内と招聘。会場との調整。参加者へ県協会のPR。受付等。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加選手へ強化方針の指導。地域協会への県協会との関係強化と情報共有。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について	会議のためなし		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名】Bチャレンジ関東ブロック(東日本対象)

事業の様子



【アスリートクラス別個人戦】



【サポーター講習】



【トレーナー講習】



【審判フォローアップ講習】



【A級コーチ講習】

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) 【事業名】Bチャレンジ近畿ブロック(西日本対象)

事業の様子



【アスリートクラス別個人戦】



【サポーター講習】



【トレーナー講習】



【審判フォローアップ講習】



【A級コーチ講習】



【クラス分け員フォローアップ】

【事業内容③】の事業写真

①事業写真

(3) 【事業名】全国代表者会議

事業の様子



東北



北海道



中四国・九州ブロック



関東・甲信越



近畿・東海・北陸

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」事業評価シート

受託団体名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
全体事業名	地域スポーツ振興のための指導者等育成・都道府県協会(PF)支援事業 (Bチャレンジ2025 東日本・西日本・全国代表者会議・PF支援会議)		
総委託費	2,798,390	決算額	1,971,192
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	事業の総合的な以下の目的に対しては、概ね達成 <Bチャレンジ東日本・西日本>① 地域に根ざした競技基盤の構築 全国ブロックでの実施により、地域協会・自治体と連携しながら、ボッチャ競技の普及と強化を支える“地域単位の基盤”を構築する。 ② 「する・みる・ささえる」人材の一体的育成 選手のみならず、審判・コーチ・クラス分け員・トレーナー・サポーターといった多様な役割を体系的に育成することで、競技を持続可能に支える環境を整備する。 ③ 地域内で完結する育成循環の創出 発掘から育成、活動機会の提供までを地域内で完結できる仕組みを構築し、継続的に人材が育ち、活躍できる循環モデルを実現する。 ④ 競技参加のハードルを下げる機会提供 講習会や実践機会を通じて、初心者や関心層が関わりやすい入口を設け、ボッチャへの参加機会を拡大する。<全国代表者会議・PF支援会議>加盟団体組織化を目指し、会議での情報共有と課題の抽出を行い、地域協会の事業水準の平均化、ガバナンスの強化を目的とする		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	<Bチャレンジ>① 多様な専門人材の育成：各地域において、審判・指導者・クラス分け員・トレーナー等の専門人材が参加し、地域での運営および強化の質を高めることができた。② 選手の育成導線の強化：地域における選手育成機能を強化し、競技開始から上位大会への接続までの講習を実践的にを行い指導導線を整備した。③ 地域協会と人材のマッチングを実施：地域協会と選手・支援人材をつなぐことで、活動機会の情報共有と地域協会の活性化を図った。④ 持続可能な運営体制の確立：地域協会と中央とのコミュニケーションと人材育成を通じて地域で取り組むことの重要性の理解と、安定的かつ持続可能な地域運営への強化を図った。<全国代表者会議・PF支援会議>2026年度より始まる加盟団体組織化に向けて、各部事業の情報共有と共に、会員登録システムの理解促進と、地域活動への意欲醸成を図った。ボランティアであるためのネガティブ意識から、競技が社会環境を整備する、各々の活動がその一助になることの理解を深めることができた。残り1か所、団体未設置県、和歌山県もBチャレンジ事業内での参加者と連携することで設置の可能性を見出すことができた。		
費用に関する所見 (今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	今年度は有効に活用ができた。 地域資源を活用して地域協会と連動し、地域協会の基盤強化においても費用対効果は大きい。地域で活躍する人材の場づくりとしての連携や、地域水準の向上を目指し、同額の予算で、中央競技団体として地域振興のさらなる機会として事業を継続していきたい。		
参加者や関係団体からの声 (当事者満足度)	参加者(選手・受講者)地域でここまで本格的に学べる機会はこれまでなかった。継続して関わりたいと思えるきっかけになった。 。自分のレベルに合った指導を受けられ、競技への理解と自信が深まった(指導者・審判・専門人材)体系的に学べるので指導に対する共通認識が持てるようになった。 現場で活かせる実践的な内容が多く、すぐに地域活動に還元できる(地域協会)人材育成と普及が一体となった取り組みで、地域として現場で取り組む内容が明確になった。 。選手・指導者・支える人材がつながり、地域内のネットワークが強化された。単発ではなく継続的な事業として根付いていく期待が持てる。資格取得のフローについての地域協会の理解が浅いため多くの質問があった。選手強化について地域におけるクラス分け人材の不足があり、育成の前に発掘の要望があった。		
今後の課題や事業展開 (具体的方策・展望)	(今後の課題)各地区で異なる専門人材の不足・選手の移動支援を含めた持続的な地域での育成動線の未整備・地域協会と関係主団体との連携構築・地域間格差・地域大会開催における運営ノウハウが弱い。など、多くの課題感がある。地域振興事業については会場の選定・確保も課題である(今後の事業展望)本事業の継続実施による発展的な取り組みを行う。①講習内容のブラッシュアップ(実践に即したカリキュラムの進化)②地域協会への課題抽出と可視化(ヒヤリングとフィードバックの仕組化)③日本選手権予選会4ブロック大会での地域協会主体での実践機会の創出④実践的な地域振興につながる横展開の連携強化⑤Bチャレンジ事業の成果の可視化(KPIの設定と定量評価の共有)本事業の継続により、講習内容の高度化と地域課題の可視化を進め、地域協회를主体とした大会での実践機会を拡充することで、持続的な地域振興モデルの確立を目指す。		
その他所見	地域ごとに活動の進展には差が見られ、課題の内容や深度にもばらつきが存在している。一方で、主体団体との連携が進んでいる地域においては、意欲的かつ継続的な取り組みが生まれつつある。こうした状況を踏まえ、地域間の取り組み水準を平準化していくことが重要であると考え。そのためには、競技普及の継続により健常者の愛好者層からの参加・関与を起点とした波及モデルの確立が求められる。引き続き、インクルーシブな普及活動を推進し、多様な人々が関わる環境を作ることで、パラスポーツの地域振興への導きと持続的な発展につなげていくことを目指す。		

【ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業】

- ◆【事業内容①ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(茨城県)】
- ◆【事業内容②ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(神奈川県)】
- ◆【事業内容③ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(滋賀県)】
- ◆【事業内容④ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(千葉県)】

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人全日本柔道連盟		
◆計画書作成者	国際課課長 蒲原 光一		
◆企画・実施担当者		◆経理担当者	

全体事業名称	ID柔道紹介事業
委託費	500,000円
地域の実情・課題点	ID柔道紹介事業は、2022年度から毎年継続的に実施を続けており、今年度は過去に開催した神奈川県において2回目となる実施を行い、千葉県では3回目となる実施を行った。また、茨城県と滋賀県では新規事業として初の開催を行った。今年度、特に各地域において、知的障がい者とその保護者が多数参加しており、紹介事業として一定の成果があったと考えられる。また、スポーツの意義や武道の特性とともに、ID柔道に特化した安全に配慮したルールについても丁寧に説明を行うことができた。毎年開催されている、当連盟主催の全日本ID柔道大会への参加者も増加傾向にあり、本事業の成果が感じられる(2025年度は男子53名・女子14名の67名が参加)。参加都道府県数も21都道府県と過去最多となった。しかしながら、知的障がい者柔道のルール等については未だ認識が十分でないため、引き続き指導者や保護者に対して丁寧に説明する機会を設け、より広く浸透させていくことが課題である。
総合的な事業の目的	知的障がい者柔道本人(未経験者ならびに選手)、保護者、指導者に対して、知的に障がいがあっても柔道ができるということや、安全に行う事ができるということを広く知っていただくことにより、新規の競技者獲得を目指す。柔道を行う上で怪我のリスクを心配する保護者等も多いため、ID柔道試合審判特別規程というID柔道特有の安全に配慮したルールを紹介し、各地域の開催県で活動している指導者へID柔道の概要やルール等について深く理解していただくことで、受け入れ先の増加を促す。
総合的な事業のねらい	柔道未経験者やその保護者に対するID柔道の紹介(認知度向上) ID柔道特有の安全に配慮したルール「ID柔道試合審判特別規程」の理解促進 新規競技者ならびに新規指導者の獲得・新規受け入れ道場の増加 全日本ID柔道大会への参加選手地域・選手の増加促進

事業名	
事業①	ID柔道紹介事業(茨城県)
事業②	ID柔道紹介事業(神奈川県)
事業③	ID柔道紹介事業(滋賀県)
事業④	ID柔道紹介事業(千葉県)
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人全日本柔道連盟		
事業名	ID柔道紹介事業(茨城県・水戸市)		
事業内容	イントロダクション リズム運動で体を動かそう！ (1) 9:30～10:00 講義 「ID柔道とは？」概要・歴史の紹介・活動報告 (2) 10:10～11:00 実技①「ID柔道を体験してみよう！」 (3) 11:15～12:00 実技② 指導ポイント・ルール紹介「誰でも取り組める安全な柔道」 (4) 12:00～12:15 質疑応答 記念撮影		
開催日時	2025年 10月 11日(土) 9:30～12:15		
会場	アルテンジャパン武道館（旧茨城県武道館） (〒310-0045 茨城県水戸市新原2－11－1)		
参加者	●知的障がい者(児)柔道未経験者＝小学生7名、中学生1名、成人1名 ●知的障がい者(児)柔道経験者＝小学生4名 ●ID柔道選手＝1名 ●健常者柔道未経験者＝幼児1名、小学生2名 ●健常者指導者(茨城県柔道連盟会長1名・副会長1名 含む)＝16名 ●健常者柔道選手＝幼児1名、小学生17名、中学生8名、高校生8名、成人2名 ●保護者＝20名 ●講師＝3名、アシスタント＝1名 計93名		
人員体制	公益財団法人全日本柔道連盟教育普及・MIND委員会 知的障がい者柔道振興部会 部会長 濱名智男、部会員 柳真佐子、石井陽平 講師アシスタント ID柔道指導者 染谷秀男、 ID柔道選手 山本究(谷和原柔道部)		
連携団体名 (箇条書き)	【後援】 茨城県柔道連盟・茨城県教育委員会 【協力依頼(広報等)】 茨城県障がい者スポーツ文化協会・スペシャルオリンピックス日本 茨城・茨城県パラスポーツ指導者協議会・茨城県特別 支援学校体育連盟・キッズプラスひたちなか新光町教室(放課後等デイサービス)		
実際の事業での 連携団体の役割	参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当、報道機関へのプレスリリース、他県の実績紹介		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。 事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。 柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。 障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。 指導者の仲間を増やすこと。練習の場を増やすこと。 参加者の安全に留意し、事故防止に努めること。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人全日本柔道連盟		
事業名	ID柔道紹介事業(神奈川県・横浜市)		
事業内容	(1) 14:00～14:30 ID柔道の概要や歴史の紹介・活動報告 (2) 14:30～15:40 ID柔道のルールについて及び練習法について (3) 15:40～16:00 ID選手の父親として体験談・課題について講義(福田 裕幸氏)		
開催日時	2025年 10月 16日(日) 14:00～16:00		
会場	ラポール 新横浜 (横浜市港北区鳥山町1752)		
参加者	参加者 22名 内、知的障がい者7名 講師 4名 スタッフ 1名		
人員体制	公益財団法人全日本柔道連盟教育普及・MIND委員会 知的障がい者柔道振興部会 副部会長 山崎正義、部会員 角杉昌幸、柳真佐子 講師アシスタント ID柔道指導者(ID柔道を楽しむ会) 福田裕幸 スタッフ(ID柔道を楽しむ会) 福田麻奈美		
連携団体名 (箇条書き)	ID柔道を楽しむ会		
実際の事業での 連携団体の役割	参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。 事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。 柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。 障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。 指導者の仲間を増やすこと。練習の場を増やすこと。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人 全日本柔道連盟		
事業名	ID柔道紹介事業(滋賀県・大津市)		
事業内容	(1) 9:30～10:00 講義 「ID柔道とは？」概要・歴史の紹介・活動報告 (2) 10:10～11:00 実技① 指導・ルール紹介 (3) 11:15～12:00 実技② 指導ポイント・ルール紹介 (4) 12:00～12:15 質疑応答 記念撮影		
開催日時	2025年 11月 30日(土) 9:30～12:30		
会場	滋賀県大津市立瀬田中学校 (〒520-2141 滋賀県大津市大江7-1-1)		
参加者	講習会参加者 合計35名		
人員体制	公益財団法人全日本柔道連盟教育普及・MIND委員会 知的障がい者柔道振興部会 部会長 濱名智男、部会員 柳真佐子、石井陽平 講師アシスタント 坂下 寛(滋賀県柔道連盟 副会長)、井手 宗治、内田 強		
連携団体名 (箇条書き)	【後援】 滋賀県・滋賀県教育委員会 【協力依頼(広報等)】 びわ湖放送、滋賀新聞		
実際の事業での 連携団体の役割	参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当、報道機関へのプレスリリース、他県の実績紹介		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。 事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。 柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。 障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。 指導者の仲間を増やすこと。練習の場を増やすこと。 参加者の安全に留意し、事故防止に努めること。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人 全日本柔道連盟		
事業名	ID柔道紹介事業(千葉県・船橋市)		
事業内容	(1) 14:00~15:30 講義 「ID柔道とは？」概要・歴史の紹介・活動報告 (2) 15:40~16:45 実技① 指導・ルール紹介 (3) 16:45~17:00 質疑応答 記念撮影		
開催日時	2026年 2月 14日(土) 14:00~17:00		
会場	千葉県船橋市本町5-6-16		
参加者	講習会参加者 合計 22 名		
人員体制	22		
連携団体名 (箇条書き)	【後援】 千葉県柔道連盟		
実際の事業での 連携団体の役割	参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。 事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。 柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。 障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。 指導者の仲間を増やすこと。練習の場を増やすこと。 参加者の安全に留意し、事故防止に努めること。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について			

【事業内容①ID 柔道紹介事業・体験会(茨城県)】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名①ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(茨城県)】

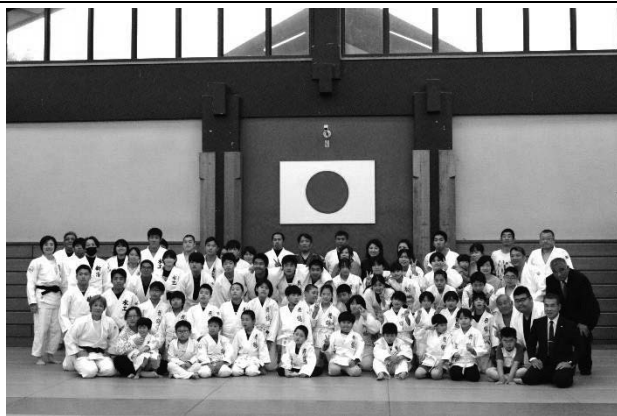
事業の様子



実技(ID 柔道を体験してみよう！)



実技(誰でも取り組める安全な柔道)



集合写真



リズム運動でウォーミングアップ

【事業内容②ID 柔道紹介事業・体験会(神奈川県)】の事業写真

①事業写真

(2) 【事業名②ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(神奈川県)】

事業の様子



ID 選手の父として体験談・課題について



ID 柔道のルールや様々な練習法



集合写真



ID 柔道の概要や歴史の紹介・活動報告

【事業内容③ID 柔道紹介事業・体験会(滋賀県)】の事業写真

①事業写真

(3) 【事業名③ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(滋賀県)】

事業の様子

	
集合写真	講義 ID 柔道について(紹介・活動報告)
	
実技(ID 柔道の練習法など)	実技(指導ポイント・ルールの説明など)

【事業内容④ID 柔道紹介事業・体験会(千葉県)】の事業写真

①事業写真

(4) 【事業名④ID 柔道(知的障がい者柔道)紹介事業(千葉県)】

事業の様子



外山選手の ID 柔道との関わりについての話



全員で自然体の動きの確認



集合写真



柔の理の講習

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	公益財団法人全日本柔道連盟		
全体事業名	ID柔道(知的障がい者柔道)紹介事業		
総委託費	507,000	決算額	509,055
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	本事業の目的はID柔道を広く一般の方へ知っていただく機会を設けることを主な目的としており、事業全体としては当初の予定通り、今年度も4か所(茨城県・神奈川県・滋賀県・千葉県)において実施することができた。(当初開催予定であった東京については、最終的に滋賀での開催となった)各事業には未経験者の知的障がい者や保護者に参加いただくと共に、指導者にも参加頂きID柔道への理解を深めることを目的とした。基本的には、当初の計画通りに事業は実施できたが、一部で目標数値を下回る部分があった。広報などは、出来るだけ県柔連や行政も巻き込んで行ったが時間的な制約(周知期間が短い等)が課題となる部分もあったので、今後はより早い時期に広報を行い、事業の周知期間をより長く確保するなど改善に努めたい。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	特に障がいのある方の保護者は、柔道が危険なスポーツで、障がいのある自身の子供にはできない、もしくはやらせたくないと考えておられる方がいるが、本事業に参加いただいた保護者からは柔道自体が危険なスポーツではないこと、練習を繰り返すことで柔道の技を習得出来ることを理解いただき、本事業自体に関しても非常に前向きな意見をいただくことが多い。また、指導者も知的障がいがある子供にどのように指導をしたらよいのか悩まれている方もいる。そういった指導者に対して、無理に倒れ込む技など無理な体勢や力だけの技を掛けない、基本に忠実な指導をすることで、ID柔道だからといって特別な指導技術が必要であるわけではないことを理解いただいている。また、滋賀県については地元テレビ局、茨城県については地元紙に取り上げて頂くなど広報的にも一定の成果を得ることが出来た。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	事業の実施については、当初、東京都で開催だったところが滋賀県に変更になったが、結果的には事業計画通り4か所にてID柔道紹介事業を実施した。予算については、委託費500,000円を全て執行し、その他支出については当連盟の負担とした。予算を執行するにあたってはインバウンド事業により宿泊費高騰や部屋の不足など、宿泊の手配に苦戦をしたが、各地域の担当者と連携を取ることで対応ができた。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	【参加者】あぶないイメージの柔道が安全に楽しめるということを知るきっかけとなった。 【支える人・保護者】ID柔道は安全に十分配慮されている、ということが理解できた。 【県連盟】柔道原理は柔道の原点であると感じ、多くの指導者にID柔道の意義を伝えたい。		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	開催にあたり地域の行政を始めとした各関係団体などと連携を取る必要があるため、本事業の目的や意義を認識していただくための工夫が必要であった。一方で、本事業に参加いただいた方からは概ね好意的な感想をいただいている。まだ、一般的には知的障がい者柔道の認知度が浸透していない都道府県もあるため、今後も本事業を活用し、積極的にID柔道についての普及活動をおこなっていただきたい。その際には、現地の連盟や団体と連携を密にとり、地元根差した活動になるようにしていきたい。		
その他所見	資料は、わかりやすい内容でシンプルに作成し、イラストなども使って親しみやすいものにするよう心掛けている。また実技指導では遊びを取り入れたウォーミングアップや練習法なども紹介し、参加者にまずは楽しんでいただくことを重点に置いて事業を展開した。		

【事業】

筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会

- ◆【事業内容①】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 佐賀
- ◆【事業内容②】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 香川
- ◆【事業内容③】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 大阪
- ◆【事業内容④】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 鳥取
- ◆【事業内容⑤】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 山口
- ◆【事業内容 追加】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 鳥取②(追加)

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
◆計画書作成者	岡本孝義		
◆企画・実施担当者	岡本孝義	◆経理担当者	吉田彫子

全体事業名称	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会
委託費	2,000,000円
地域の実情・課題点	令和5年、令和6年の事業の実施で岡山県連盟を発足することができたり、選手、コーチ候補、拠点候補をわずかだが増やすこともできた。しかし、パラ・パワーリフティングの地域組織(地域連盟)は非常に少ない(岡山、兵庫のみ)。そのため、選手の育成や競技の普及振興も日本連盟に頼りっぱなしである。また、四国や佐賀などパラパワーリフティングの未開拓地域も存在している。様々な地域で日常的な練習会や記録会ができるように、人員(選手、コーチ、審判員)を増やすことが大きな課題。
総合的な事業の目的	本事業を通して、各地域に地域拠点を作っていききたい。また、本事業では競技性に特化せず、「筋肉」という言葉を合言葉に様々な人と繋がりを持てるようにしていきたい。
総合的な事業のねらい	本事業の研修会や体験会を実施することで、選手、コーチ、スタッフ候補者を発掘をしたいと考えている。そして、他競技のパフォーマンスアップ、日常の体づくりをするのにもとても良い研修内容となっているため、トレーニングをしたくてもやり方が分からない、もっとパフォーマンスを上げるトレーニング方法を知りたいという地域のニーズにも答えることができる(その方たちが将来の選手、コーチ候補となるかもしれない)。また、地域のパラスポーツ協会等の団体と繋がりを強めることで、地域に眠っている逸材を日本連盟に繋いでいただくこともできると考えている。今年度からはジェイスター事業も有効に活用して、地域のパラスポ協会との繋がりも強めていきたい。

事業名	
事業①	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in佐賀
事業②	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in四国
事業③	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in大阪
事業④	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in鳥取
事業⑤	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会in山口

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
事業名	筋肉で繋がろうパラパワーリフティング研修会&体験会 山口版		
事業内容	・パラパワーリフティング研修会 パラスポーツ、パラパワーリフティングとは トレーニング、体験会の魅力やポイントについて パラパワーリフティングの魅力 トレーニング方法(VBTトレーニング) 地域で行われているパラパワーリフティングと普及振興 ・パラパワーリフティング体験会&トレーニング相談会 パラパワーリフティングの練習方法の体験 他競技選手からのトレーニング相談会 一般の方を対象とした体験会 地元施設のトレーニング設備の有効活用方法 ・ディスカッション		
開催日時	令和7年8月30日(土)		
会場	山口県身体障害者福祉センター 山口県山口市八幡馬場36番地の1		
参加者	・地元でパラパワーリフティングをやっている人、スタッフ ・公益社団法人山口県障害者スポーツ協会 ・香川県のトレーニング愛好家 ・地元放課後等ディサービスセンターの利用者、スタッフ		
人員体制	・連盟スタッフ ・地元でパラパワーリフティングをやっている方 ・公益社団法人山口県障害者スポーツ協会		
連携団体名 (箇条書き)	・公益社団法人山口県障害者スポーツ協会 ・山口県 ・山口県特別支援学校長会 ・公益財団法人山口県スポーツ協会 ・山口県パラスポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 →研修会、体験会の運営 鳥取県パラパワーリフティングクラブ →会場準備、広報、その他総務 鳥取県障がい者スポーツ協会 →広報 鳥取県 倉吉市、社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会 全国脊髄損傷者連合山陰支部 → 後援名義		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	資格保有している連盟スタッフ→研修会、体験会運営 地元スタッフの中に三名おり研修会、体験会のサポート	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	4
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	4
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
事業名	筋肉で繋がろうパラパワーリフティング研修会&体験会 香川版		
事業内容	・パラパワーリフティング研修会 パラスポーツ、パラパワーリフティングとは パラパワーリフティングの魅力 トレーニング方法(VBTトレーニング) 地域で行われているパラパワーリフティングと普及振興 ・パラパワーリフティング体験会&トレーニング相談会 パラパワーリフティングの練習方法の体験 他競技選手からのトレーニング相談会 一般の方を対象とした体験会 ・デイスカッション		
開催日時	令和8年1月24日(土)		
会場	かがわ総合リハビリテーション福祉センター 〒761-8057 高松市田村町1114番地		
参加者	トレーニング愛好家 他競技のパラ選手 理学療法士 地元高校生等		
人員体制	連盟スタッフ		
連携団体名 (箇条書き)	主催 特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 主管 香川県障害者スポーツ協会 後援 香川県 香川県教育委員会 公益財団法人香川県スポーツ協会 協力 香川県パラスポーツ指導者協議会 香川県パラカヌー協会		
実際の事業での 連携団体の役割	特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 → 研修会、体験会の運営 鳥取県パラパワーリフティングクラブ → 会場準備、広報、その他総務 鳥取県障がい者スポーツ協会 → 広報 鳥取県 倉吉市、社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会 全国脊髄損傷者連合山陰支部 → 後援名義		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	資格保有している連盟スタッフ→研修会、体験会運営 香川県障害者スポーツ協会、指導者協議会→研修会サポート	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
事業名	筋肉で繋がろうパラパワーリフティング研修会&体験会 鳥取版		
事業内容	・パラパワーリフティング研修会 パラスポーツ、パラパワーリフティングとは パラパワーリフティングの魅力 トレーニング方法(VBTトレーニング) 地域で行われているパラパワーリフティングと普及振興 ・パラパワーリフティング体験会&トレーニング相談会 パラパワーリフティングの練習方法の体験 他競技選手からのトレーニング相談会 一般の方を対象とした体験会 ・ディスカッション		
開催日時	令和7年 6月21日(土)		
会場	〒682-0023 倉吉市山根529-2 倉吉市文化会館		
参加者	鳥取県パラパワーリフティングクラブ 鳥取県障がい者スポーツ協会 スタッフ 鳥取県パワーリフティング協会 役員 トレーニング愛好家 地元看護専門学校学生 地元住民 地元車いすユーザーと家族		
人員体制	連盟スタッフ 鳥取県パラパワーリフティングクラブスタッフ		
連携団体名 (箇条書き)	主催 特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 主管 鳥取県パラパワーリフティングクラブ 協力 鳥取県障がい者スポーツ協会 後援 鳥取県 倉吉市 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会 全国脊髄損傷者連合山陰支部		
実際の事業での 連携団体の役割	特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 → 研修会、体験会の運営 鳥取県パラパワーリフティングクラブ → 会場準備、広報、その他総務 鳥取県障がい者スポーツ協会 → 広報 鳥取県 倉吉市、社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会 全国脊髄損傷者連合山陰支部 → 後援名義		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	資格保有している連盟スタッフ→研修会、体験会運営 地元スタッフの中に二名おり研修会、体験会のサポート	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
事業名	筋肉で繋がろうパラパワーリフティング研修会&体験会 大阪版		
事業内容	・パラパワーリフティング研修会 パラスポーツ、パラパワーリフティングとは パラパワーリフティングの魅力 トレーニング方法(VBTトレーニング) 地域で行われているパラパワーリフティングと普及振興 ・パラパワーリフティング体験会&トレーニング相談会 パラパワーリフティングの練習方法の体験 他競技選手からのトレーニング相談会 一般の方を対象とした体験会 ・デスカッション		
開催日時	令和7年 9月 21日(日)		
会場	大阪市長居障害者スポーツセンター 546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32		
参加者	トレーニング愛好家 長居障がい者スポーツセンター利用者、職員 兵庫県パラパワーリフティング連盟役員 パラパワーリフティング審判員		
人員体制	連盟スタッフ		
連携団体名 (箇条書き)	主 催 特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 協 力 大阪市長居障害者スポーツセンター 後 援 大阪市		
実際の事業での 連携団体の役割	特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 → 研修会、体験会の運営 鳥取県パラパワーリフティングクラブ → 会場準備、広報、その他総務 鳥取県障がい者スポーツ協会 → 広報 鳥取県 倉吉市、社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会 全国脊髄損傷者連合山陰支部 → 後援名義		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	資格保有している連盟スタッフ→研修会、体験会運営 長居障がい者スポーツセンター職員→研修会サポート	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
事業名	筋肉で繋がろうパラパワーリフティング研修会&体験会 佐賀版		
事業内容	・パラパワーリフティング研修会 パラスポーツ、パラパワーリフティングとは パラパワーリフティングの魅力 トレーニング方法(VBTトレーニング) 地域で行われているパラパワーリフティングと普及振興 ・パラパワーリフティング体験会&トレーニング相談会 パラパワーリフティングの練習方法の体験 他競技選手からのトレーニング相談会 一般の方を対象とした体験会 ・デスカッション		
開催日時	令和7年11月23日(日)		
会場	SAGAパラスポーツセンター 〒840-0851 佐賀市天祐1丁目8-5		
参加者	トレーニング愛好家 他競技のパラ選手 理学療法士 特別支援学校の教員など		
人員体制	連盟スタッフ		
連携団体名 (箇条書き)	主催 特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 協力 一般社団法人佐賀県パラスポーツ協会 佐賀県パラスポーツ指導者協議会 後援 佐賀県、佐賀市		
実際の事業での 連携団体の役割	特定非営利活動法人 日本パラパワーリフティング連盟 → 研修会、体験会の運営 鳥取県パラパワーリフティングクラブ → 会場準備、広報、その他総務 鳥取県障がい者スポーツ協会 → 広報 鳥取県 倉吉市、社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会 全国脊髄損傷者連合山陰支部 → 後援名義		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	資格保有している連盟スタッフ→研修会、体験会運営 SAGAパラスポーツセンター職員→研修会サポート	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について			

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 佐賀

事業の様子



基礎解説: パラリンピックとは何かから始まり、パラ・パワーリフティングの魅力やルールについて解説しました



連盟の取り組み紹介: トレーニング解説としてVBT(Velocity Based Training)や、補助ベンチの解説を行いました。



補助トレーニング: 他競技や日常生活に活かせるトレーニング方法を伝えるための補助トレーニングコーナーも設置しました。



他競技のパラ選手、理学療法士、特別支援学校の教員、トレーニング愛好家など、多岐にわたる方々にご参加いただきました。

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) 【事業名】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 香川

事業の様子



理学療法士、地元高校レスリング部の
教員・生徒、香川県スポーツ協会関係
者、一般のトレーニング愛好家など、
競技経験や立場の異なる多様な参加者



わずかな工夫によるトレーニング効果の変化を
体験的に学んでいただいた



パラカヌーの今井さんにも
トレーニングをお伝えした



自身の競技に筋トレノウハウを生かし競技力向
上に役立ててもらうため、怪我のリスクを抑え、
効率的に挙上できるフォームを重点的にお伝え
した

【事業内容③】の事業写真

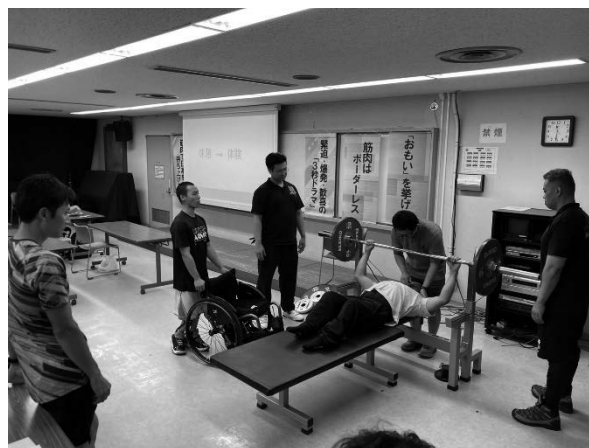
①事業写真

(3) 【事業名】 筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 大阪

事業の様子



講座全体像



ベンチ体験



トレーニング講習



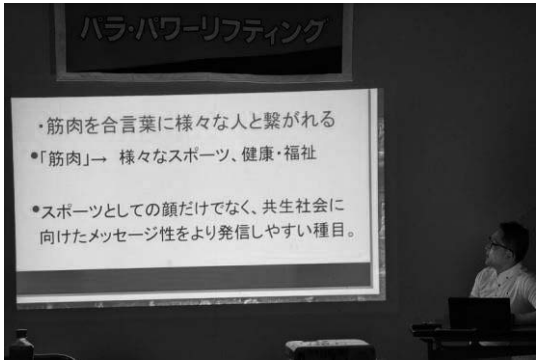
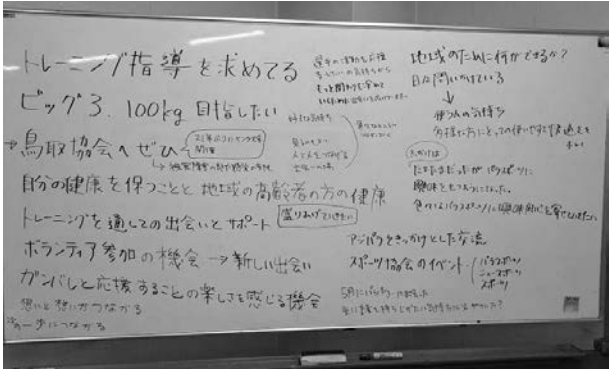
集合写真

【事業内容④】の事業写真

① 事業写真

(4) 【事業名】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 鳥取

事業の様子

	
体験会 & トレーニング相談会 パラパワーリフティングの練習方法を体験する参加者	パラパワーリフティング研修会 地域で行われているパラパワーリフティングと普及振興について話す岡本講師
	
鳥取での活動を続けていくためのディスカッションで出た意見	参加者とスタッフで記念撮影

【事業内容⑤】の事業写真

①事業写真

(5) 【事業名】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 山口
事業の様子



研修会:トレーニングの目的や効果、体験会実施のポイントや安全管理、応援の力の重要性についてなど



体験会の様子



会場の「山口県障害者スポーツセンター」にあるトレーニングマシンの効果的な使用方法をアドバイス



代表者なども決まり「山口パラパワーリフティングクラブ」が立ち上がりました

【事業内容 追加】の事業写真

①事業写真

(6) 【事業名】筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会 in 鳥取②(追加)
事業の様子

	
実際に練習に付き合える知識と技術を持つ人材の専門能力向上を最大のテーマとして取り組んだ	専門相談会:ベンチプレスのフォームのポイント、プログラムの考え方、効率の良い様々な補助種目のやり方など、「目から鱗」となる専門情報を提供し喜ばれた。
	
パラリンピックの基本から、パラパワーリフティングの魅力やルール、日本連盟のプログラム、VBT(速度基準トレーニング)、および補助ベンチについて解説。	実技技術の習得(フットストラップ) 森繁選手のフットストラップのオーダーを聞き、実際に巻く実践技術を体験。受講者同士で巻き合い、適切なポイントでストラップを強く巻く技術を体感することで、技術的な好奇心が高まった。

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」事業評価シート

受託団体名	日本パラパワーリフティング連盟		
全体事業名	筋肉でつながろう!パラパワーリフティング研修会&体験会		
総委託費	2,284,000	決算額	2,020,248
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	本事業では競技性に特化せず、「筋肉」という言葉を合言葉に様々な人と繋がりを持てるようにしていくことを目的としたが、どの地域でも達成することができたと感じている。また、地域のパラスポーツ協会等の団体と繋がりをもつことで、今後の地域振興、拠点作りに向けて具体的な進め方を協議、共有することができた。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	山口では、新たな選手、コーチ候補の発掘。既存施設の有効活用方法。山口パラパワーリフティングクラブの設立をすることができた。大阪では、地元キーマンと大阪在住日本連盟役員、隣県地域連盟役員との連携強化。既存施設の有効活用方法を伝えることができた。鳥取では、地元有力者やキーマン、健康者県協会との連携強化。新選手、コーチ候補の発掘をすることができた。二回目の研修会では、知識や技術力を育むための「良いスタート研修」となった。パラパワーに限らず、トレーニング全般の専門研修をすることで、今後パラパワーに関わろうとする人を増やせた。未開拓地域の香川、佐賀ではファーストステップである地域との繋がりだけでなく、キーマンの発掘もできた。特に佐賀では、とてもやる気のある若者がたくさんおり、コーチ候補としても有望である。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	有効に活用することができたと思う。器具の運搬やレンタル費用に多めにかかってしまうが、スムーズな運営を考えると必要な経費と感じている。先ずは、それぞれの地域に拠点ができ、地域で練習やイベントができるようになってから、地域で助成を取れるように支援をしていきたいと思う。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	参加者 ・体を鍛えることの素晴らしさをあらためて感じる事ができた。 ・年を取っているからウエイトはできないと思っていたけど、むしろ大切だということが分かった。 ・効率の良い体の使い方がとても面白い。またやりたい。もっと知りたい。 支える人 ・参加者のキラキラとした顔を見るとやって良かったと思うし、専門力をもっと高めたい。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	香川県: 地元キーマンが所有する坂出市のトレーニング施設を拠点候補地とし、そこでの事業実施を計画していく。 佐賀県: 西九州大学を拠点として確保できるよう交渉を進め、将来的に「ユニバーサルトレーニングクラブ」を設立することを目指す。また、意欲のある若手スタッフへの専門力向上研修も継続する。 大阪府: 「大阪ユニバーサルトレーニングクラブ」の設立を目指し、さらに仲間(協力者や参加者)を増やす活動に注力する。 山口県・鳥取県: すでに設立されたクラブ(山口パラ・パワーリフティングクラブなど)が自立して練習会や一般向け体験会を運営できるよう、専門スキルの向上研修やノウハウの伝授を引き続き行う。		
その他所見	環境構築の先行モデル: 選手がいない地域では、まずトレーニングや健康をテーマにした「環境(拠点と専門力)」を先に作る手法が、その後の人材育成に有効であることが確認できた。NFの専門性の活用: 連盟(NF)が持つVBT(速度に基づくトレーニング)等の最新知見は、他競技選手や健康者にとっても魅力的であり、地域社会へ入り込む強力なフックとなる。共創の重要性: 一方的な普及ではなく、地域のニーズを汲み取り、将来の展望を共有する「共に創る姿勢」が、地元の熱意を引き出し自立を促す。既存リソースの再定義: 大学や既存のトレーニング施設を有効活用し、ユニバーサルな場として再定義することが、効率的な普及に繋がると思う。		

【日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業】

◆【事業内容①】

日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業

一般社団法人日本パラ水泳連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラ水泳連盟		
◆計画書作成者	櫻井 誠一		
◆企画・実施担当者	鈴木しのぶ	◆経理担当者	岡田恵里

全体事業名称	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業
委託費	2,000,000
地域の実情・課題点	東京2020は無観客の大会に終わったが、その理念でもあるインクルーシブ社会の推進を進めて行かなければならない。2024年度にはパリ2024パラリンピックが開催されたがマスコミによる露出度は必ずしも多くはなく、東京圏はともかく、地方では未だに「日本水泳連盟競技規則では、片腕肘下欠損の選手が出場したとします。平泳ぎやバタフライのターンやゴールタッチで両手同時に壁に手をつくことができません。」「失格や注意をするのか、どうしたら良いでしょうか」と言った問い合わせがある。このことから、パラ水泳への理解を進め、インクルーシブな社会を進めて行くためには、地域における記録会へ健常者の参加の機会をつくるなど、共に楽しむ記録会を目指す必要がある。
総合的な事業の目的	今まで、コロナ禍からの会員回復や地域の活性化を目指して行ってきた通信記録会におけるポイント制の導入は、健常者も公平にポイントで争うことができるため、健常者の参加も含めた通信記録会の開催が可能と考えるに至った。この試みは地域における記録会の活性化とインクルーシブ社会の構築に寄与することになると考えている。昨年度、地域の一部では、ブラックゴーグル体験など健常者のレースも取り入れてきたことから、健常者の参加も呼びかけ、インクルーシブ型を取り入れた通信記録会を実施し、新たな地域における記録会の魅力づくりを行う。
総合的な事業のねらい	当連盟の中・長期計画では、そのミッションとして「パラ水泳をする、見る、支える多様な人々が輝く社会を実現する一水でつながり、世界が広がるー」としており、アクションプランとして「健常者の大会にも障がい者が参加するインクルーシブ大会(豪州モデル、神戸・横浜・スイミングクラブ全国大会等)の普及・拡大」を掲げてきた。しかし、健常者がパラ水泳記録会に参加をすることで、インクルーシブの考え方を醸成し、それをきっかけに健常者の大会にも参加するという相互乗り入れの実施を試みる必要があるのではないかと考え取り組みを進める。

事業名	
事業①	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

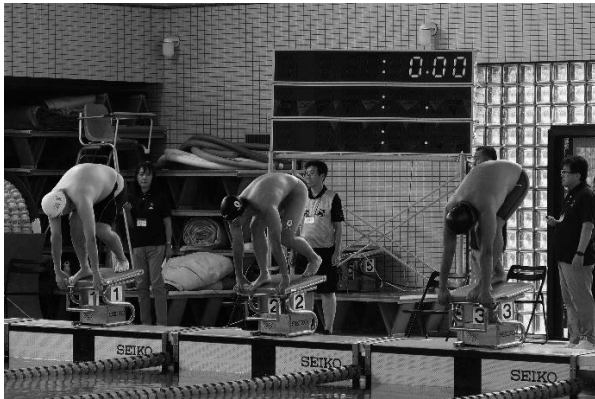
実施協会名	一般社団法人日本パラ水泳連盟		
事業名	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業		
事業内容	5地域で開催する事業に資格の持った競技役員を派遣し、ポイント制による記録順位を整理、順位づけし、ホームページで公表するなどを行った後、地域対抗リレーなど日本選手権で表彰した。(費用には表彰関係は入っていない)		
開催日時	(1) 東北ブロック2025年8月24日(日) (2) 関東ブロック2025年6月22日(日) (3) 近畿・中部ブロック2025年9月23日(祝・月) (4) 九州・中四国ブロック2025年10月19日(日) (5) 東日本インクルーシブ型特別事業2025年7月26日(土)		
会場	(1) 東北ブロック 盛岡市立総合プール (2) 関東ブロック 川崎市多摩スポーツセンタープール (3) 近畿・中部ブロック 滋賀県立障害者福祉センター (4) 九州・中四国ブロック 大分市営温水プール (5) 東日本インクルーシブ型特別事業 福島県郡山しんきん開成山プール		
参加者	(1)東北ブロック 92 名 (2)関東ブロック 135名 (3)近畿・中部ブロック 104名 (4)九州・中四国ブロック 244名 (5)東日本インクルーシブ型特別事業 97名 合計 672名		
人員体制	各ブロックでの人員体制は、記録会運営のための地域連盟役員はブロックで確保、記録の公認や順位付けなどは、パラ水泳競技役員資格を持つ、日本パラ水泳連盟派遣役員で構成。		
連携団体名 (箇条書き)	(1)東北ブロック 一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会、一般社団法人岩手県水泳連盟、公益財団法人盛岡市スポーツ協会、東北身体障がい者水泳連盟、一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 (2)関東ブロック 川崎水泳協会 東京ウエストライオンズクラブ (3)近畿・中部ブロック 一般社団法人滋賀県水泳連盟 滋賀県立障害者福祉センター 滋賀県パラスポーツ指導者協議会 滋賀水泳会 一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 中部障がい者水泳連盟 (4)九州・中四国ブロック 大分県マスターズ水泳協会、九州障がい者水泳連盟 一般社団法人 日本知的障害者水泳連盟 九州ブロックパラスポーツ指導者協議会、大分県障がい者スポーツ協会(社福)大分県社会福祉協議会、大分県パラスポーツ指導者協議会、大分合同新聞社、中国四国身体障害者水泳連盟、大分県障がい者水泳連盟 (5)東日本インクルーシブ型特別事業 関東身体障害者水泳連盟・東北身体障がい者水泳連盟 一般社団法人福島県水泳連盟 公益財団法人福島県障害者スポーツ協会 一般社団法人日本知的障害者水泳連盟		
実際の事業での 連携団体の役割	障害者・パラスポーツ協会関係は会場確保などでの連携、パラスポーツ指導員協議会や県水泳連盟関係は競技役員協力での連携及びパラ水泳体験のための参加などで連携		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	大会エントリー選手の控え所での招集、その後の競技エリアへの誘導、会場内でのサポート業務 東北-5人、関東-20人、近畿中部-15人、九州-13人、東日本-5人	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	58
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	58
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

【事業内容①】の事業写真

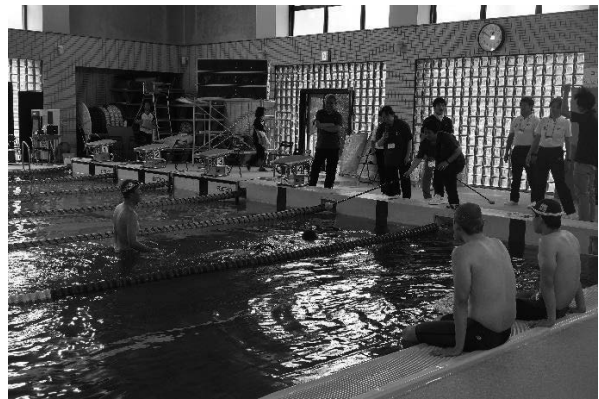
① 事業写真

(1) 【日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業】

事業の様子



記録会の様子(選手のスタート)



インクルーシブの取り組み(視覚障がい者体験)



審判をする派遣競技役員

リレー表彰

※ リレー対戦型は大会項目、お假休中に参加形式が異なります。

種目	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x100m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x100m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x200m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x200m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x400m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x400m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x800m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x800m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x1600m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x1600m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム

ハイパーインター表彰

※ ハイパーインター対戦型は大会項目、お假休中に参加形式が異なります。

種目	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x100m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x100m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x200m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x200m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x400m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x400m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x800m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x800m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
男子 4x1600m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム
女子 4x1600m	チーム名	選手	順位	タイム	記録	タイム

1/2ページ

各地域で実施した記録会の記録をポイント換算し、ホームページで公開、順位付けと表彰を行った。

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人日本パラ水泳連盟		
全体事業名	日本パラ水泳通信総合記録会地域インクルーシブ型の開催事業		
総委託費	2,126,460	決算額	1,834,375
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	パラ水泳を通して仲間と楽しむ地域記録会の開催及びそれを統合した通信記録会を通じて、障がい別水泳技術を普及させ、地域での取り組み振興と全国レベルでの取り組みとの融合を図る目的は達成した。 東北、関東、近畿・中部、九州・中四国の4地域と1地方で実施した。地域連盟所属の知的障害者にも通信記録会の対象とする試みを行い参加をしてきている。 2025年度は健常者の参加も促すインクルーシブな取り組みも実施したことで、インクルーシブ水泳大会への可能性が大きく一歩前進した。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	本事業は、コロナ禍にあって密の状態での競技を行うのではなく、身近な地域拠点で記録を図り、全国的な集計を行い、表彰を行うことで、泳ぐという楽しみを継続させる取り組みとして始めた。このことで、大幅な会員の減少に歯止めをかけたと考えている。また、ユース対象の表彰制度も発足させたことで、若い年齢層の獲得にも寄与していると考えている さらには、スポーツを通じてインクルーシブな社会をつくる取り組みとして、視覚障がい者体験なども取り入れることで、健常スイマーの参加も多く成果があった		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	本年度の予算は200万であった。5地域で実施しているので、1地域40万弱のコストで実施出来ている。日本選手権など1大会を実施すると700万～800万かかることを考えるとコストパフォーマンスは良いと考えている		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	5地域で実施し、連盟スポンサーから景品も出してもらったことで盛り上りを見せた。インクルーシブな取り組みをいれることで、健常スイマーとの交流も出来て良かったと聞いている		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	各都道府県、市で県民大会や市民大会が開催されているが、障害者を積極的に受け入れているとは思えない。こういった地域でのインクルーシブの取り組みが、本来の県民・市民大会に取り入れられて、各地でインクルーシブな大会が開催されていくことを進めていきたい		
その他所見	思った以上に健常者の参加があり、成果があったと感じている		

【事業名】キッズ&ジュニアチームの創設(活動)支援プロジェクト

◆【事業内容①】キッズ&ジュニアチームへの活動支援

一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟		
◆計画書作成者	宮本 有里恵・石田 菜月		
◆企画・実施担当者	山内 昌幸	◆経理担当者	宮本 有里恵

全体事業名称	発掘支援事業
委託費	2,000,000
地域の実情・課題点	近年ジュニア世代への育成に力を入れるクラブチームやブロックが増えてきた。一方で、選手数はまだまだ少なく、キッズ&ジュニア世代の選手を増やしていくことは課題である。また、関わっているスタッフ・指導者のマンパワー不足も課題としてあがっており、人材確保や育成も必要になっている。継続したジュニア世代の発掘と、継続して活動できるようなサポートや主体的に活動できるような大会などのイベントの場の提供や活動できる場所の確保も今後の課題としてあげられた。
総合的な事業の目的	障害をもった子どもたちが気軽に参加できるような環境(ジュニアチーム)を整備し、仲間を増やし、スポーツの楽しさを共に分かち合えるようにする。全国各地で車いすバスケの人口を増やし、日本全体の車いすバスケ人口の底上げにつなげ競技を発展していく。
総合的な事業のねらい	全国にあるジュニアチームは資金難が多い。助成金を活用し、スポーツをする環境(練習場所の使用料)や指導者への謝礼金、競技備品の購入費などに当ててもらい、ジュニアチームの運営にかかる資金的な援助をする。そうすることで、ジュニアチームの運営が安定し、支える人も、競技に参加する人も徐々に増え、車いすバスケの人口増加に繋がり、底上げされ競技が発展していく。

事業名	
事業①	キッズ&ジュニアチームの創設(活動)支援プロジェクト
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟		
事業名	キッズ&ジュニアチームの創設(活動)支援プロジェクト		
事業内容	地域のクラブチームや、パラスポーツの活動をしている団体でキッズ・ジュニア層をターゲットとして活動しているチームに向けて、活動支援金やボールを支給し、車いすバスケットボールの練習や大会参加などの活動を支援する。		
開催日時	2025年7月1日～2025年12月31日の期間に各クラブチームのスケジュールに合わせて実施。		
会場	各クラブチームや団体が拠点としている地域の学校や公立体育館などで実施。		
参加者	19チーム 上限7回の活動 延べ1,846名が参加		
人員体制	各クラブチームの指導者・マネジメントスタッフを1～10名配置。		
連携団体名 (箇条書き)	東京都障害者スポーツ協会 茨城県立医療大学 近畿車いすバスケットボール連盟 (一社)日本車いすバスケットボールアカデミー 都立大 草加市スポーツ協会 四国車椅子バスケットボール連盟 長崎市障害福祉センター 秋田県車椅子バスケットボールクラブ		
実際の事業での 連携団体の役割	体験会の運営サポート、共同イベントの開催、バスケット車のレンタル、活動場所の提供、関係団体同士の交流		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	キッズ&ジュニア選手への指導、育成のサポート、活動の運営等で活動している。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	約51名
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	124名
スポーツ用具の 整備・活用について	各チーム(19チーム)へ活動用のバスケットボール1球購入。 参加する子どもたちが1球ずつ使用できる個数を常備できるようにしていきたい。		

【事業内容①】の事業写真

① 事業写真

(1) 【事業名】キッズ&ジュニアチームの創設(活動)支援プロジェクト

事業の様子



活動の様子



練習の様子



活動中の様子



練習の様子

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟		
全体事業名	発掘支援事業		
総委託費	2,000,000	決算額	2,037,408
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	キッズ&ジュニア世代の選手数や指導者、支えるスタッフの人材確保のために、全国各地で20チームへの支援を目標に設定していたが、本年度は全19チームとなり、目標値に達成することができなかった(R5は16チーム、R6は18チーム、R7は19チーム)。昨年度から継続して参加した団体や新規で参加した団体がある一方、本年度の参加を辞退された団体もあり、目標値達成には至らなかった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	事業開始前にキックオフミーティングを開催し、それぞれ団体間でのコミュニケーションの場をつくった。お互いの活動を共有し合うことで、団体間の交流やモチベーションの向上につながったのではないかと考える。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	今年度は、募集团体数の拡大を念頭に置き、より多くの団体の活動を支援できるよう、支援内容を各チームへの活動支援金に一本化した(旅費支援は削減)。本事業を申請した当初から、ジュニアチームにおける資金不足は大きな課題となっており、トップチームに成長しなければスポンサー獲得が難しい現状がある。そのため、今後も継続的な支援を希望する団体が多く存在している。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	参画したチームとの報告会の開催やアンケートを実施し、本年度の活動における成果および課題の確認を行った。複数の団体からは、ジュニアの大会に参加する機会を得たことで、子どもたちのモチベーション向上につながったとの声が寄せられた。また、活動支援金を活用して他県への遠征を実施している団体や、日頃サポートに携わっているスタッフへの謝金に充てている団体も見られ、今後も継続的な支援を求める声が多く挙がった。		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	毎年継続して、スタッフのマンパワー不足、競技用車いす(バスケット車)の不足および保管場所の不足、活動場所への送迎の課題、子どもたちの人数が少ないことなど、共通した課題が挙げられた。活動支援金によるサポートは、各団体が抱えるそれぞれの課題に柔軟に活用できることから、今後も継続した支援を求める声が多く聞かれた。また、子どもたちやスタッフのマンパワー不足への対応策として、ジュニア大会の開催など、参加者の裾野を広げるイベントの実施についても検討していきたい。		
その他所見	団体の中には、自治体や大学、地域のクラブチーム等、地域の各団体と連携・協力しながら活動している団体も多く見られた。地域全体で子どもたちを包括的に支えていくためには、こうした横のつながりを今後も大切にしていこう必要があると実感した。		

【事業名】地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業

- ◆【事業内容① パラスキー・スノーボード体験教室事業】
- ◆【事業内容② 特別支援学校スキー体験事業】
- ◆【事業内容③ 地域スキークラブ活動支援事業】

公益財団法人日本障害者スキー連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟		
◆計画書作成者	辻村和見		
◆企画・実施担当者	井口・夏目・北野	◆経理担当者	篠原・平見・諸橋

全体事業名称	地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業
委託費	1,710,000円
地域の実情・課題点	パラスキー(スノーボード含む)は、降雪のある地域・季節に限定され、「スキー場」に行かないとできないスポーツであり、障がい者特有のものも含めた競技用具や指導者が必要なスポーツのため、「障がい者が気軽にできるスポーツ」ではないことが一番の課題である。 競技団体として、地域のスキー場・スキー連盟・スキー指導者や障がい者スポーツ指導員等との協力関係ができていないと、障がい者が「スキーを体験する」「日常的に練習する」という場所を提供できずにいるので、今後地域とのつながりを構築しスポーツ機会の増加のために地域団体やチーム・クラブの登録制度を作ることも必要な課題と考えている。
総合的な事業の目的	障害者が参加しやすい環境(会場までの交通・バリアフリーもしくは、バリアが少ないなど)で体験会を少しでも多く開催し、まずは「雪の上で滑る」機械を創出し、「またやってみたい」という障がい者を増やす。 3競技全体で、30名以上の参加を目標とし、年5人程度リピーターを発掘、3年後には初心者向けの競技大会への参加者を3人程度参加参加、5年後では地域での講習会拠点または初心者向けの大会が開催できるよう、連盟としては地域と連携し、チーム・クラブ活動やスキー場での指導を元に、多くの障がい者が日常的に競技に取り組める環境づくりを目指す。
総合的な事業のねらい	①体験会を通じ多くの障がい者がスノースポーツを体験し、「またやってみたい」と思う。 ②体験会を通じ、地域のスキー関係施設・団体・指導者等の協力体制を構築し、各地域でいつでも体験会ができる、日常的に練習ができる環境を作ることを目的とする。 ③特別支援学校生徒がスキーを体験する機会を創り、スノースポーツに親しむことで、将来の競技者発掘につなげる。 ④競技者・指導者・協力者が団体(支部・クラブ・チーム等)を創設し計画的に各地域での活動できるよう、各地域での活動を継続することを目指す。

事業名	
事業①	パラスキー・スノーボード体験教室事業
事業②	特別支援学校スキー体験事業
事業③	地域スキークラブ活動支援事業
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟		
事業名	パラスキー・スノーボード体験教室事業		
事業内容	2025パラスノースポーツ体験会(北海道会場) パラスキー・スノーボードに必要な用具の操作や必要なサポートについての知識を広める。 障害のある人に必要な用具や人的サポートを活用してスノースポーツ(パラスキー・スノーボード)を楽しむことができることを体験会を通じて伝える。		
開催日時	実施日程:1月11日		
会場	北海道・札幌テイネスキー場		
参加者	のべ人数:3名 ・スノーボード:2名(片まひ・脳性まひ) ・スキー:1名(ID)		
人員体制	スタッフ:8名 各地域の選手・コーチ・トレーナー・支援スタッフなどが参加。当日は、参加者の安全確保を第一に、外部講師(地元)とも連携し、用具運搬、フィッティング、雪上指導などを分担。		
連携団体名 (箇条書き)	・札幌テイネスキー場 ・札幌障害者スキー協会 ・北海道ハンディキャップスキー協会 ・神奈川県総合リハビリテーションセンター		
実際の事業での 連携団体の役割	地元のスキー場や関係者(札幌障害者スキー協会、北海道ハンディキャップスキー協会)にサポートを依頼し、事前の周知などを行ってもらい、当日も運営のサポートを行った。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	パラスポーツ指導員資格所持者が用具のフィッティング・装着・技術指導を行った。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	5
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	5
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟		
事業名	特別支援学校スキー体験事業		
事業内容	松本盲学校体験授業 ・松本盲学校におけるノルディックスキーおよびビームライフルの体験授業を通じて、新たなスポーツ体験の提供と継続的なスキー活動へのきっかけを作ることを目的とした地域振興事業。 ノルディックスキー（芝生上）、3輪ローラー、ビームライフル等の体験・指導を行った。		
開催日時	令和7年10月12日（日） 10時～12時		
会場	長野県松本資格支援学校 体育館・グラウンド		
参加者	男性4名、女性3名 合計7名		
人員体制	スタッフ：6名		
連携団体名 （箇条書き）	松本盲学校 長野県障がい者福祉センター サンアップル		
実際の事業での 連携団体の役割	①学校内調整・準備 ②指導員の派遣（ノルディックスキーおよびシットローラースキーの技術指導、スキー用具の提供と体験会のサポート）		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	サンアップルからの派遣の指導員および競技指導者（資格所持者）が連携し、生徒への指導を行った。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟		
事業名	地域スキークラブ活動支援事業		
事業内容	コムレイド クラブチームが練習会を開催し、地域のパラスキープレーヤーの競技機会を創出する。	松本クラブ クラブチームが練習会や大会を開催し、地域のパラスキープレーヤーの競技機会を創出する。	
開催日時	10月4,5,9,12,20,26日 11月2,6,9,12,15,16,29,20日 12月2,6,7,11,13,14,20,21,30日 1月3,4,8,11,12,16,18,22,24,25,29,31日 2月1日	6月8日 7月27日 8月24日 9月7日 10月19日 11月2日	
会場	北海道旭川市花咲スポーツ公園 北海道旭川市東光スポーツ公園 旭岳クロスカントリースキーコース 富沢クロスカントリースキーコース	長野県東筑摩郡朝日村小野沢河川敷 長野県塩尻市洗馬信州スカイパーク	
参加者	延べ人207人	延べ人数 6人	
人員体制	コーチ2～3名 当日は参加者人数に合わせ準備、用具運搬、技術指導などを分担。	コーチ1～2名 当日は参加者人数に合わせ準備、用具運搬、指導などを分担。	
連携団体名 (箇条書き)	地元相談支援事業所	特になし	
実際の事業での 連携団体の役割	相談(利用者の健康増進目的の参加希望)		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	障がい者が安全・安心にスポーツをするための指導および講習会運営 練習会の計画、実施および普及活動	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名 パラスキー・スノーボード体験教室事業】

事業の様子



集合写真



スキー指導(知的)



スノーボードの指導①



スノーボードの指導②

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2)【事業名 特別支援学校スキー体験事業】

事業の様子



体育館でのローラースキー体験



ビームライフル体験



校庭でのローラースキー指導①



校庭でのローラースキー指導②

【事業内容③】の事業写真

①事業写真

(3)【事業内容③ 地域スークラブ活動支援事業】

事業の様子

	
ローラースキー体験(シット)	体幹トレーニング
	
雪上練習(W-up)	雪上練習

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	公益財団法人日本障害者スキー連盟		
全体事業名	地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業		
総委託費	1,998,080	決算額	1,315,606
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	地域における障害者スキーの普及促進に向け、参加者が安全に楽しみながらスキーを体験することができ、一定の成果を達成することができた。また、地域スキークラブ活動支援事業では、各地域ごとのニーズに応じたサポートが実現出来た。 概ね目的は達成できたが、新規開催地域の行事日程の確認や内容などの調整が遅くなってしまったことにより、開催日の確定や広報の遅れが生じ、目標となる参加人数に達しなかった。限られた受け入れ先や一部の学校やクラブに集中して支援することも大切ではあるが、継続性(自立)と、他地域への拡大が必要。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	新規実施地域で地元団体と連携を取る事ができ今後の参加者増加に向けて、希望が持てた。学校体験会・クラブ支援では、実施場所・参加者の固定化が見られ、今後の検討が必要な状況である。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	体験会を北海道(札幌)開催にしたことにより、本州から出向く費用がかさみ、予定の回数が実施できなかった。他の事業との調整にも工夫が必要。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	・参加者:「もっと練習したい」「大会にも挑戦したい」との意欲的な声が多数あった。 ・「週末開催だと参加できない」との声もあり、日程調整も必要。 ・地元相談支援事業所から利用者の健康増進目的の参加希望があった。		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	・札幌での体験会は、周知方法等の工夫により参加者増につながることがわかり、次年度の開催も検討する。 ・学校体験会は固定した地域での継続が課題であり、さらに新規地域での開催を検討する。		
その他所見			

【事業名】

車いすカーリングの体験会および、活動拠点の環境整備

◆【事業内容①】

本事業は、車いすカーリング体験機会を創出し、パラスポーツの裾野拡大および競技人口増加の基盤形成を目的として実施した。

特に、都内近郊在住の車いすユーザーにとって、アクセス可能な氷上スポーツ体験の機会は極めて限定的であり、その課題解決を目指した。

一般社団法人 日本車いすカーリング協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人 日本車いすカーリング協会		
◆計画書作成者	齋藤 妙子		
◆企画・実施担当者	持田 靖夫、金子 恵実	◆経理担当者	伊藤 友博

全体事業名称	車いすカーリングの体験会および、活動拠点の環境整備
委託費	1,615,000円
地域の実情・課題点	<栃木会場> 今年度は大阪会場の開催ができず、来年度以降に開催予定の栃木県日光市において急遽事業を開催。次年度の開催として準備を行っていたため、行政、総合型地域スポーツクラブ、栃木県カーリング協会が積極的に連携・協力する体制を構築することができた。開催場所である細尾ドームリンクは、駐車場からリンクまで段差や階段がなく、車いす利用者が安全かつ円滑に移動できる環境が整備されている。また、日光市日光体育館においてもスロープ等のバリアフリー設備が整っており、参加者が不自由なく体験会に参加できる環境のもとで事業を実施することができた。 参加者は未就学児から70代まで幅広い年代にわたり、世代を超えて障がい者スポーツへの理解を深める機会となった。 本事業を来年度以降も継続して実施することで、車いすカーリングおよびパラスポーツ全体のさらなる普及が見込まれる。 課題① 会場への公共交通機関によるアクセスがやや不便である点。 課題② 開催地の人口が比較的少なく、障がいのある方の参加者募集に苦労した点。
地域の実情・課題点	<東京会場> 都市部で実施をする意義が大きかった。車いすユーザーからは「移動負担を考えると都内開催は非常にありがたい」「定期開催であれば継続参加したい」との声が寄せられた。都市型パラスポーツ体験モデルとしての可能性が確認されたと思う。 参加者について、後半日程では想定を上回る申込があり、最終日は受付を早期に締め切る状況となった。 これは本事業への潜在需要の高さを示すものであり、都市部での体験機会不足、氷上競技へのアクセシビリティの課題、継続参加機会の欠如といった構造的課題が浮き彫りとなった。 課題①受け入れ体制の強化 少人数体制での運営であったため、指導・安全管理・受付対応に負荷が集中した。 課題②体験希望者受入人数の拡大 現行体制では体験希望者の受入人数に限界があり、参加希望者全員に対応できなかった。(定員に早々に達したため、募集を早期に打ち切った回があった) 次年度は運営体制強化および備品整備を行うことで、都市部における持続可能なパラスポーツ普及モデルの構築を年間通して目指していく。
総合的な事業の目的	本事業は、都市部における車いすカーリング体験機会を創出し、パラスポーツの裾野拡大および競技人口増加の基盤形成を目的として実施した。 特に、都内近郊在住の車いすユーザーにとって、アクセス可能な氷上スポーツ体験の機会は極めて限定的であり、その課題解決を目指した。
総合的な事業のねらい	行政や地域と協力しながら、選手発掘や大会等の開催に発展させていく。 地元協会が主体となって車いすカーリングの普及活動を実施すること、カーリング、車いすカーリング競技人口を増やすことを目的とし、国際大会に出場できる選手、コーチスタッフ、ボランティアなどの人材を確保をする。 ゆくゆくは、国内大会が盛んになり、海外選手を招いたキャンプや国際大会ができるようにしていきたい。

事業名	
事業①	車いすカーリングの体験会および活動拠点の環境整備
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人 日本車いすカーリング協会		
事業名	車いすカーリングの体験会および、活動拠点の環境整備		
事業内容	カーリングに興味関心がある人が、関係各団体の中でも共有されておらず、具体的な事業展開や連携・協働に向けたコミュニケーションが行えていない。課題の解決のため、関係各団体間での定期的な情報交換を行い、地域の興味関心や具体的なニーズを収集する。また、体験イベントの実施と並行して都道府県協会やパラスポーツ指導員と連携し、指導者や支援者の確保・育成に向けたきっかけづくりを行う。まずは規模の小さなイベントから行い、参加者や運営者の反応や改善点を確認していきたい。 <東京辰巳アイスアリーナ>情報発信の拠点である首都圏に於いて、新施設が2025年9月6日(土)オープンして、新たな拠点でのイベントを実施する事ができるチャンスを逃すことなく、体制を整えて、初年度から活動拠点の環境整備をしっかりと整え、継続実施ができるよう「氷上の楽しみを多くの人へ」を届けるために、精一杯邁進していきたい。		
開催日時	<栃木会場>		<東京会場>
	①2025/12/ 7(日) 17:15~20:30 ②2025/12/22(月) 19:00~21:00 ③2026/ 1/17(土) 10:00~15:00 ④2026/ 1/18(日) 19:00~22:15 ⑤2026/ 1/26(月) 19:00~21:00	①2026/1/10(土) 16:30~18:00 ②2026/1/11(日) 11:30~13:00 ③2026/1/17(土) 16:30~18:00 ④2026/1/24(土) 16:30~18:00 ⑤2026/1/31(土) 16:30~18:00	
会場	細尾ドームリンク 栃木県体育館	東京辰巳アイスアリーナ	
参加者	①2025/12/ 7(日) 大人2名 ②2025/12/22(月) 大人8名 ③2026/ 1/17(土) 大人13名、子ども7名 ④2026/ 1/18(日) 大人3名 ⑤2026/ 1/26(月) 大人7名	①2026/1/10(土) 大人13名、子ども2名 ②2026/1/11(日) 大人15名、子ども2名 ③2026/1/17(土) 大人9名 ④2026/1/24(土) 大人17名 ⑤2026/1/31(土) 大人32名	
人員体制	①2025/12/ 7(日) コーチ2名 ②2025/12/22(月) コーチ2名 ③2026/ 1/17(土) コーチ2名 ④2026/ 1/18(日) コーチ2名 ⑤2026/ 1/26(月) コーチ2名	①2026/1/10(土) コーチ4名、スタッフ4名 ②2026/1/11(日) コーチ5名、スタッフ2名 ③2026/1/17(土) コーチ3名、スタッフ2名 ④2026/1/24(土) コーチ3名、スタッフ2名 ⑤2026/1/31(土) コーチ4名、スタッフ1名	
連携団体名 (箇条書き)	●一般スポーツ競技団体(栃木県カーリング協会) ●総合型地域スポーツクラブ (みんなで楽しむスポーツクラブ) ●地域のスポーツチーム、団体(日光カーリングクラブ) ●日光市	●江東区教育委員会	
実際の事業での 連携団体の役割	●開催の告知 ●開催運営協力	●開催の告知 ●関係機関へのフライヤーの配布等	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	カーリングスタートコーチとして、地域スポーツクラブ・スポーツ少年団・学校運動部活動等の必要最低限度の知識・技能に基づき、当該競技の上位資格者と協力して安全で効果的な活動を提供。プレイヤーズセンタードの考え方のもとに、プレイヤーの望む活動を理解し、育成選手発掘、人材育成に励む。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	3人
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	延べ10人
スポーツ用具の 整備・活用について	車いすカーリング競技に必要な、用具の整備と氷上での体験ができる施設の確保が必要。 現状、協会、コーチ、選手所有のデリバリースティックを借用しての体験会になっているため、車いすカーリングを気軽に運動・スポーツを実施することができる環境の整備が必要と考える。 氷上施設においては、まだまだ借用することが難しく、東京会場は借用料が高くなかなか気軽に借りることが難しく、年度末の東京都、施設とのヒヤリングで苦悩をヒヤリングで改善を要望した。		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真 事業の様子



車いすユーザー、はじめての体験、
デリバリースティックの使い方指導



子供たちの車いすカーリング体験



地域スポーツ指導員に指導教育風景



【事業内容①】の事業写真

①事業写真 事業の様子



子供たちの車いすカーリング体験



健常者車いすカーリング体験



参加車いすユーザーに指導



令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人 日本車いすカーリング協会		
全体事業名	車いすカーリングの体験会および、活動拠点の環境整備		
総委託費	1,756,000	決算額	826,023
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	地域全体の冬のパラスポーツの振興体制を整備し、選手の発掘はもとより、指導の担い手や競技ボランティアの増加および関係団体と強い連携のもと、継続できる体制の構築を目指す。本事業は、都市部における車いすカーリング体験機会を創出し、パラスポーツの裾野拡大および競技人口増加の基盤形成を目的として実施した。 特に、都内近郊在住の車いすユーザーにとって、アクセス可能な氷上スポーツ体験の機会は極めて限定的であり、その課題解決を目指した。 前回引き続き、大阪開催の計画を立てていたが、施設との調整が難しく、急遽、2026年度に開催予定をしていた栃木県での開催となった。急な開催にも関わらず、もともと地盤があり、開催が出来たことは大きな成果につながったと思う		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	<東京会場> 参加者の大多数が未経験者であり、競技認知拡大に直接的成果があった。 「テレビで見て興味はあったが体験機会がなかった」という声が多く、体験機会の創出そのものが普及に直結することが確認できた。 <栃木会場> 開催場所である細尾ドームリンクは、駐車場からリンクまで段差や階段がなく、車いす利用者が安全かつ円滑に移動できる環境が整備されている。また、日光市日光体育館においてもスロープ等のバリアフリー設備が整っており、参加者が不自由なく体験会に参加できる環境のもとで事業を実施することができた。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	<東京会場> 専用シートでない弱みは、施設の借用料に反映し、1コマ21,000円＋シート使用料2100×2シートの費用がかかる。東京都、施設側とのヒヤリングにおいて、要望はお伝えしましたが、経営に直結するためなかなか改善策は見えなかった。 <栃木会場> 非常に協力的である、身障者割引料金があるので、使用しやすい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	<東京会場> 明確になった社会的ニーズ 後半日程では想定を上回る申込があり、最終日は受付を早期に締め切る状況となった。これは本事業への潜在需要の高さを示すものであり、都市部での体験機会不足、氷上競技へのアクセシビリティの課題、継続参加機会の欠如といった構造的課題が浮き彫りとなった。 複数回参加する車いすユーザーが見られ、単発イベントではなく競技導入段階として機能していることが示唆された		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	<東京会場> 現行体制では体験希望者の受入人数に限界があり、参加希望者全員に対応できなかった。（定員に早々に達したため、募集を早期に打ち切った回があった） 今後は… ・指導者増員 ・時間帯拡張 ・備品整備（車いすカーリング用器具等） ・運営サポートスタッフ配置を行うことで、受入規模の拡大を目指していく。 <栃木会場> 会場への公共交通機関によるアクセスがやや不便である点 栃木県カーリング協会協会の協力により、車での送迎対応を行うことが可能であり、参加者の移動負担軽減を図る 開催地の人口が比較的少なく、障がいのある方の参加者募集に苦労		
その他所見	パラリンピックの開催年として、注目を浴びた。火を灯すことなく、継続、かつ拡大をしていきたいと思っております。 すでに、沖縄、札幌が開催を希望している。		

みやざきにおけるグランドソフトボール競技の選手・審判養成事業

【「プレイ&ジャッジ育成プロジェクト」】

全日本グランドソフトボール連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	全日本グランドソフトボール連盟		
◆計画書作成者	金野 守		
◆企画・実施担当者	神田 裕透	◆経理担当者	金野 守

全体事業名称	みやざきにおけるグランドソフトボール競技の選手・審判養成事業
委託費	510,000円
地域の実情・課題点	グランドソフトボールは、視覚障害者の社会参加や健康促進に貢献する重要なパラスポーツです。宮崎県では、2年後の全国障害者スポーツ大会を控えながらも、選手数が少なく、競技の基盤整備が急務となっています。 そこで本年度、宮崎県を対象に選手育成を中心とした取り組みを開始します。体験会や練習会を通じて競技人口の拡大を図るとともに、試合運営に不可欠な審判員の養成講習会も併せて実施します。 この取り組みは、宮崎県パラスポーツ協会、宮崎県ソフトボール協会、グランドソフトボール連盟が連携して進める「プレイ&ジャッジ育成プロジェクト」として展開し、県内での競技定着と発展を目指します。
総合的な事業の目的	本事業は、視覚障害者の社会参加と健康促進を支援することを目的としています。グランドソフトボールというパラスポーツを通じて、宮崎県内における競技の定着と発展を図り、特に2年後に開催される全国障害者スポーツ大会に向けて、選手の育成と競技力の向上を目指します。また、審判員やコーチなど競技運営に関わる人材の育成を進めることで、競技全体の質を高めることを目的としています。さらに、こうした取り組みが全国的に広がることで、視覚障害者スポーツ全体の発展にも寄与することを期待しています。
総合的な事業のねらい	本事業では、若年層の参加促進、体験会や練習会による競技人口の拡大、審判員・コーチの養成、地域住民の支援体制の構築を通じて、競技全体の質を高め、宮崎県内でのグランドソフトボールの定着と発展、さらには全国的な競技力向上と波及効果の創出をねらいとしています。

事業名	
事業①	「プレイ&ジャッジ育成プロジェクト」
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	全日本グランドソフトボール連盟		
事業名	みやざきにおけるグランドソフトボール競技の選手・審判養成事業		
事業内容	・グランドソフトボール体験会・練習会の開催 ・審判員に向けた講義「視覚障がい者スポーツと審判員の役割」と実技指導		
開催日時	令和7年9月6日(土)		
会場	サンドーム日向 〒883-8555 宮崎県日向市本町10番5号 電話0982-66-1036		
参加者	宮崎県内のグランドソフトボール競技の選手及び体験希望者 宮崎県内の審判員希望者		
人員体制	講師:全日本グランドソフトボール連盟役員 2名 運営補助:九州地区の選手及び審判員 22名(宮崎県、鹿児島県、熊本県、大分県)		
連携団体名 (箇条書き)	宮崎県パラスポーツ協会 宮崎県ソフトボール協会		
実際の事業での 連携団体の役割	宮崎県パラスポーツ協会:会場確保、宮崎県内への選手・参加者の募集 宮崎県ソフトボール協会:審判員募集		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	今回の参加はなかった。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について	既存の物を使用		

【「プレイ&ジャッジ育成プロジェクト」】の事業写真

①事業写真

(1) 【「プレイ&ジャッジ育成プロジェクト」】

事業の様子



開会セレモニー



準備体操



ルール説明



練習会



実技指導



練習会参加者

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	全日本グランドソフトボール連盟		
全体事業名	競技指導者・支援者養成事業		
総委託費	510,000円	決算額	448,737円
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	本事業は、視覚障害者の社会参加と健康促進を目的とし、グランドソフトボール競技の選手および審判員の育成を通じて、宮崎県内での競技の定着と発展を図ることを目指しました。特に、2年後に開催される全国障害者スポーツ大会に向けた準備として、競技人口の拡大と運営人材の育成が急務である中、体験会・練習会および審判講習を実施することで、一定の成果を得ることができました。しかしながら、グランドソフトボールの競技人口が宮崎県内では極めて少数であるため、事業の実施にあたっては他県から選手・スタッフを招へいする必要があり、財政的支援を通じて人材の確保を行いました。結果として、初期段階の体験活動やゲーム形式の実施には十分な人員を確保できたものの、地域内での自立的な運営体制の構築には至っておらず、今後の継続的な取り組みが求められます。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	本事業を通じて、宮崎県内の視覚障害者に対してグランドソフトボールのゲーム形式の体験機会を提供することができ、競技への関心と理解を深める一助となりました。また、審判員に対しては、講義と実技指導を通じて、実際の試合の流れの中でのジャッジ経験を積むことができ、今後の大会運営に向けた人材育成の第一歩となりました。これらの成果は、地域における競技の認知度向上と、次回以降の活動への動機づけにつながっており、参加者や関係団体からも前向きな評価を得ています。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	将来の効果的な資金繰りについて） 本事業は、宮崎県内の選手・審判員のみでは運営が困難であるため、近隣県（鹿児島県、熊本県、大分県）からスタッフ・選手を招へいして実施しました。その結果、交通費・宿泊費等を含む費用が大きく膨らみ、予算の圧迫要因となりました。また、参加者の多くが仕事との調整を必要とする中で、日程や移動時間の制約により欠席者も見られ、人的資源の確保に課題が残りました。今後、中央主導型の運営では持続可能性が低く、地域主導による体制構築と、安定的な資金確保の仕組み（補助金・助成金の活用等）が不可欠です。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	宮崎県ソフトボール協会をはじめとする関係団体からは、全国障害者スポーツ大会を控えた審判養成の一環として、本事業が非常に有意義な機会であったとの評価をいただいています。特に、実技指導を通じて実践的なスキルを習得できたことは、今後の大会運営に向けた準備として高く評価されています。参加者からも、「初めての体験で競技の魅力を実感できた」「審判の役割を理解することができた」といった声が寄せられており、事業の意義と効果が広く認識されたことがうかがえます。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	現時点では、次年度以降の開催は未定であり、特に財源面において自主財源のみでの継続は困難と考えられます。仮に補助金等を活用して事業を継続する場合でも、他県からの人材招へいに伴う時間的・経済的負担が大きく、参加希望者の確保が今後の大きな課題となります。今後は、宮崎県内での人材育成を強化し、地域内での自立的な運営体制の構築を目指すとともに、関係団体との連携を深め、持続可能な事業モデルの検討が必要です。また、若年層への普及活動や地域住民の支援体制の整備を通じて、競技の裾野を広げる取り組みも併せて進めていくことが望まれます。		
その他所見			

【事業名】

JFFID 地域活性化プロジェクト

～誰もがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～

- ◆【事業内容①】JFFID 地域活性化プロジェクト in 青森
- ◆【事業内容②】JFFID 地域活性化プロジェクト in 八戸
- ◆【事業内容③】フォローアップ事業 ID サッカー教室

特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟		
◆計画書作成者	葛尾優子		
◆企画・実施担当者	葛尾優子	◆経理担当者	葛尾優子

全体事業名称	JFFID地域活性化プロジェクト ～誰もがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～
委託費	2,000,000
地域の実情・課題点	当連盟選手登録人数 1327人(うち女性104名)、加盟都道府県 32地域(うち地域知的障がい者サッカー連盟登録26地域)2024年3月調べ 2030年までに30府県での地域知的障がい者サッカー連盟の設立、各地域組織化を進め各都道府県にそれぞれ担当委員の配置を目指しています。 地域主体での組織化・協力者の増員を促してはいるものの、人材不足やノウハウ不足によりなかなか担当者の配置が進まず、なかなか事業の拡大が叶いません。 競技者人口が増える一方、受け入れ先の組織力が脆弱で、当事者のレベルに応じたサッカーをできる環境が整えられていない地域が多くある現状です。
総合的な事業の目的	地域だけで組織化促進するのが難しい地域や、当連盟として開拓したい地域に日本連盟から各委員会総出で出向き直接働きかけることで効果の最大化を目指し、担当者人材発掘と、該当地域での継続した事業遂行のための外部との関係性作りの構築など、地域の組織化促進の助成。
総合的な事業のねらい	各地域カテゴリー担当者の配置が進み、全国単位での連携が叶い各カテゴリーの問題解決や活性化が進むことにより全国で知的障がい児・者がサッカーをできる環境や場の整備が進んでいくことを目指す。

事業名	
事業①	JFFID地域活性化プロジェクト in 青森
事業②	JFFID地域活性化プロジェクト in 八戸
事業③	フォローアップ事業(青森市、八戸市)
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟		
事業名	JFFID地域活性化プロジェクト ～だれもがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～		
事業内容	JFFID地域活性化プロジェクト in 青森 障がい特性に関する座学と体験会を通して、障がい者サッカーへの関心を高めていただき、翌日の知的障がい児者向けサッカー教室への運営協力で実施に当事者と接することで理解を深めていただく。	JFFID地域活性化プロジェクト in 八戸 障がい特性に関する座学と体験会を通して、障がい者サッカーへの関心を高めていただき、翌日の知的障がい児者向けサッカー教室への運営協力で実施に当事者と接することで理解を深めていただく。	
開催日時	2025/9/27-28	2025/11/29-30	
会場	青森県立青森第二高等養護学校	フットサルアリーナ八戸	
参加者	27日／協力団体・個人向け講習会受講者 13名 28日／運営協力団体・個人 7名 28日／サッカー教室当事者参加者数 ①エンジョイサッカー教室 19名 ②選抜練習体験会 10名	29日／協力団体・個人向け講習会受講者 2名 30日／運営協力団体・個人 1名 30日／サッカー教室当事者参加者数 ①エンジョイサッカー教室 14名 ②選抜練習体験会 1名	
人員体制	・JFFID役員5名(講師、各コースリーダー、統括) ・東北FID2名(サポートスタッフ、ゲスト選手) ・青森県知的障害者サッカーチーム4名(練習会コースリーダー、サポートコーチ) ・青森第二高等養護学校1名(会場借用、サポートスタッフ) ・個人協力者6名(サポートスタッフ)	・JFFID役員5名(講師、各コースリーダー、統括) ・東北FID2名(サポートスタッフ、ゲスト選手) ・個人協力者1名(サポートスタッフ)	
連携団体名 (箇条書き)	・青森県障がい福祉課 ・青森県国スポ障スポ事務局 ・一般社団法人青森県サッカー協会 ・青森県障害者スポーツ協会 ・青森県特別支援学校スポーツ連盟 ・青森県特別支援学校校長会	・青森県障がい福祉課 ・一般社団法人青森県サッカー協会 ・青森県障害者スポーツ協会 ・青森県特別支援学校スポーツ連盟 ・青森県特別支援学校校長会 ・ヴァンラーレ八戸 ・八戸市サッカー協会	
実際の事業での 連携団体の役割	周知協力と各コース運営補助	周知協力と各コース運営補助	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	青森県障がい者スポーツ協会に募集依頼 既存スタッフが資格所持のため運営全般	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	6
スポーツ用具の 整備・活用について	ミニゴール2対×2セット、ボール20球、子供用ビブス		

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟		
事業名	JFFID地域活性化プロジェクト ～だれもがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～ フォローアップ事業		
事業内容	・主催:JFFID、主管:青森県知的障害者サッカー選抜チーム、協力:東北FID ・目的①青森の知的障がい児者にサッカーの機会を再び創出すること ・目的②選抜練習で1箇所選手を集めて実施が地形的に頻度多くできないため、青森市と八戸市の2箇所拠点構想の地盤作り。 年代別知的障がい児者向けサッカー教室 ◆小学生以下コース 13:00-14:00 ◆中学生以上コース 14:00-15:30 ※体育館での実施 ※終了後運営スタッフにて振り返りMTG 対象者:知的障がいがあり、サッカーを楽しみたい方(年齢・手帳不問) 定員:各コース10名程 参加費:無料		
開催日時	2025/12/20	2025/12/21	
会場	青森県立青森第二高等養護学校(体育館)	青森県立八戸高等特別支援学校(体育館)	
参加者	小学生以下コース:1名 中学生以上コース:1名	小学生以下コース:2名 中学生以上コース:12名	
人員体制	JFFDI役員2名 青森県知的障害者サッカーチーム2名 青森県立第二高等養護学校教員 1名 八戸PJ参加者 1名	JFFDI役員2名 東北FID1名 青森県知的障害者サッカーチーム2名 八戸PJ参加者 1名 個人協力希望者 1名	
連携団体名 (箇条書き)	・青森県特別支援学校スポーツ連盟 ・青森県特別支援学校校長会 ・青森県知的障害者サッカーチーム	・青森県特別支援学校スポーツ連盟 ・青森県特別支援学校校長会 ・青森県知的障害者サッカーチーム	
実際の事業での 連携団体の役割	周知協力、会場借用、運営	周知協力、会場借用、運営	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	青森県障がい者スポーツ協会に募集依頼 既存スタッフが資格所持のため運営全般	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	4
スポーツ用具の 整備・活用について			

【事業内容①】の事業写真

① 事業写真

(1) 【事業名】JFFID 地域活性化プロジェクト in 青森

事業の様子



1_講習会_青森



2_障がい者サッカー体験_青森



3_エンジョイサッカー教室_青森



4_青森県選抜練習体験会_青森

【事業内容②】の事業写真

① 事業写真

(2) 【事業名】JFFID 地域活性化プロジェクト in 八戸

事業の様子



5_講習会_八戸



6_障がい者サッカー体験_八戸



7_エンジョイサッカー教室_八戸



8_練習会_八戸

【事業内容③】の事業写真

② 事業写真

(3) 【事業名】フォローアップ事業 ID サッカー教室(青森市、八戸市)

事業の様子



9_小学生以下_青森



10_中学生以上_青森



11_小学生以下_八戸



12_中学生以上_八戸

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟		
全体事業名	JFFID地域活性化プロジェクト ～だれもがいつでもどこでもサッカーができる環境整備～		
総委託費	2,000,000	決算額	1,756,503
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	本事業は、地域の仲間集め、当事者への機会創出、その先に当連盟と連携を取れる組織作りの種まきを目的としている。 講習会では他障がい種サッカー体験やグループワークを通して、「人はなぜスポーツをするのか」という根本の気づきをしっかり得て頂いた後に、当事者向けのサッカー教室運営に協力してもらうことで、なぜこのような場が求められているのか、そのために現状は何が不足しているのかという点を皆さんにしっかりと伝えられたと感じている。参加者こそ少数ではあったものの、積極的に今後もサポートとして関わりたいという方にも出会え、実りある実施となった。 当事者向けも周知に課題は残りつつ、来てくださった方々が涙ながらにこういう機会が青森にも欲しかったと言ってくださる姿はとても心に刺さるものがあった。 このような場を求めている、なかなか情報をキャッチできない人も多いと感じる。引き続き青森チーム主体での定期的な活動をフォローすることで、より多くの方に周知が広がっていくことを願う。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	元々青森県選抜チームが新体制で発足されたばかりだったので、中心となるスタッフはいて熱意もあるものの、強化以外の場作りまでは手が回らない状態だった。 しかし、エンジョイサッカー教室の実施により、このような場の需要を目の当たりにすることで、中心スタッフ内での役割分担が自然となされ、二箇所拠点構想に基づき、フォローアップのサッカー教室実施が実現した。コースのリーダーも務めていただき、終了後に振り返りもじっくりすることで、今いるメンバーでこういう役割分担ができるのかという発見は大きな成果だったのではないだろうか。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	現地ヒアリングの末、地域の需要に合わせて実施内容を検討し、主要運営人数を厳選したため、旅費が予定より下回る着地となった。（当連盟としては、この人数でも十分充実した事業を届けられるという自信に繋がった嬉しい側面もあった） また、フォローアップを12月に青森市、1月に八戸市と2回に分けて予定していたのだが、スタッフの都合がどうにも合わず、12月の土日1回に収めた実施となったことも費用削減の要因となった。 青森チームからも他県ではどのように資金繰りをしているか質問もいただき、各種事例をお伝えするとともに、任意団体なら申請できる助成金なども伝達した。そのような面からも、前向きに組織化することを検討してくれている状況。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【サッカー教室参加者・保護者】 ・知的障害のある子がルールのある団体競技を経験する機会は限られており、今回「知的障害」に限定した体験会は不安なく参加できる大変貴重な機会でした。 ・初めての場所、人の中で最後までやりきれた。 ・コーチに褒められて嬉しかった。 【講習会参加者】 ・障害の有無でサッカーをする理由が変わらないことを体感できた。座学での疑問を実技を通してより考えることができた。 ・1日目の講習会があったからこそ、2日目の体験会で安全に心配なく補助できたと感じた。また、事前情報の開示等の段取りがしっかりしていたからこそ、参加者それぞれのスキルに合わせて行動できたと思う。 ・身体・知的障害の概要のみならず、それぞれの疾患特性に合わせた緊急時対処法等も教えていただき、大変勉強になりました。また、障がい者サッカーに関しても、7種それぞれの競技特性を学習し、知見が広まりました。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	青森市と八戸市での実施を経て、県内でも地域性に差があり、八戸の方が機会の定着が見込めると感じた。次年度の全スポ競技会場地域である機運や県FAが八戸側にある事、雪が少ない地域、保護者の積極性という点も理由に挙げられる。 今回回期的に地域クラブは試合が重なり参加はできなかったが、この事業をツールとしてコンタクトをとり、競技を知っていただいたことをはじめ、今後につながる関係性作りとしては良いきっかけとできた。この繋がりを地域へ繋げていき、今後声をかけ協力しあえる関係性にしていきたい。 青森スタッフも、全スポ以降もチームを存続させるため、監督はJFAライセンスを受講し指導力の向上を目指し、他スタッフは継続的な機会作りに賛同しフォローアップの準備をしてくれ、事務側では青森県障がい者サッカー連盟（仮）の設立を目指している。 高校年代は部活も活発でスポーツに対する普及は一定数ある中、「継続した運動経験がない」と回答した参加者が多くいた様子から小中学生年代にはその機会が少ないように見受けられたので、選抜練習と共に定期的な普及サッカー教室を同時開催することで、地域の皆さんがスポーツにチャレンジする機会を創出し、サッカーが身近になる環境作りを少しずつ進めていただきたい。 助成金期間は終了となるが、今回できた繋がりを地域にしっかりと引き継げるまでは、関係各所との連絡報告など、引き続きフォローアップをしていく。		
その他所見	内容としては充実した良い事業を届けられた自負があるものの、周知や連携においてはもっと工夫ができたのかなと感じている。 校長会や行政にも、主となる方には対面でコミュニケーションをとって想いも伝えて賛同してくださった上でチラシ配布に協力してくださったものの、その配布先から当事者への配布までがなかなかされない。 次回実施の際は、JPCの方にも相談させていただき、連携先について、知見をお借りたいと思う。 また、本事業の派生で、地域のプロクラブを対象にした実施もダイレクトな効果が生まれると感じており、検討中である。		

【アンプティサッカー普及プロジェクト】

Amputee soccer Challenge Camp 2025

- ◆第1回 広島ラウンド@PIVOX 広島 令和7年7月26日(日)
- ◆第2回 大分ラウンド@春木川パーク 令和7年10月5日(日)
- ◆第3回 新潟ラウンド@新潟ふれ愛プラザ 令和7年11月30日(日)
- ◆第4回 千葉ラウンド@高瀬下水処理場上部運動広場(タカスポ)

令和7年12月21日(日)

特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会		
◆計画書作成者	岸 秀忠		
◆企画・実施担当者	岸 秀忠	◆経理担当者	宮口 大海

全体事業名称	アンプティサッカー普及プロジェクト
委託費	1,330,000円
地域の実情・課題点	当協会はアンプティサッカーを通じ、障がいの有無を乗り越え充実した共生社会を実現することを目指し、普及と強化を中心に幅広く事業に取り組んでいる。現在、日本全体で10チームが活動を行っており、選手数は約100名前後で切断障がい者及びチーム関係者を中心にアンプティサッカーをする・みる・ささえる機会を創出している。 2024年度の活動実績として、女性対象のアンプティサッカー練習会&体験会を実施し、女性アンプティサッカー選手は5名増え、一定の成果を得ることができた。しかしながら、男女問わずその数はまだ十分とは言えず競技人口の増加に向けた取組みが現在もなお必要である。また競技発展のためにはユース世代の選手発掘は不可欠であるとともに、競技普及の観点からも活動開始のきっかけとして体験会を位置づけ、アンプティサッカーを知ってもらう機会を創出することは極めて重要である。 関東や関西における活動は参加者も集まりやすく、持続可能な環境が整いつつある一方で、地方は定期的に活動できる環境が十分とは言えない現状にある。継続的に地方での活動を増やし、既存選手の活躍の場を設けるとともに新規選手を獲得することが喫緊の課題である。したがって、地方で開催する体験会に本助成金を活用する予定である。
総合的な事業の目的	本事業は、地方におけるアンプティサッカー体験会・練習会の実施を通じて、競技に触れる機会を創出し、新規選手および支援者の発掘と定着を図るとともに、地域団体との連携による継続的な活動環境を整備し、競技人口の拡大と共生社会の推進に寄与することを目的とする。
総合的な事業のねらい	本事業の総合的なねらいは以下の通りである。 ①選手発掘:活発な広報活動により参加機会があることを知らせ、アンプティサッカーを知らない層を主なターゲットとした体験会やイベントを開催することで初めてアンプティサッカーに触れる機会を創出する。新規切断障がい者選手や支援者の獲得を目指す。 ②継続支援および選手の定着:アンプティサッカーチームがない地域でこれらのイベントを開催することで、当事者・関係者のコミュニティを形成し、クラブ創立を目指す。遠征をしなければ体験できなかった状況を解消し、競技継続できる環境を整備する。 ③地域の関連団体との連携:当事者への情報提供、地域での開催告知など、周知活動における支援、また該当地域における支援者の確保を進める。

事業名	
事業①	Amputee soccer Challenge Camp 2025
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会		
事業名	Amputee soccer Challenge Camp 2025		
事業内容	アンプティサッカーの体験会		
開催日時	①広島ラウンド:令和7年7月27日(日) 9:00~12:00 ②大分ラウンド:令和7年10月5日(日) 11:00~13:00 ③新潟ラウンド:令和7年11月30日(日) 10:00~13:00 ④千葉ラウンド:令和7年12月21日(日) 14:00~16:00		
会場	①広島(会場:フットサルドームPIVOX広島) 〒734-0012 広島県広島市南区元宇品町21-10 ②大分(会場:春木川パーク) 〒874-0918 大分県別府市汐見町4-119 ③新潟(会場:新潟ふれ愛プラザ) 〒950-0121 新潟県新潟市江南区亀田向陽1-9-1 ④千葉(会場:高瀬下水処理場上部運動広場(タカスポ)) 〒273-0014 千葉県船橋市高瀬町56-1		
参加者	①広島:参加者(切断)【3名】、参加者(ノンアンプティ)【0名】 + A-pfeile広島チーム選手・スタッフ, 個人登録選手 ②大分:参加者(切断)【0名】、参加者(ノンアンプティ)【5名程度】 + 九州パイラオールチーム選手・スタッフ, 個人登録選手 ③新潟:参加者(切断)【1名】、参加者(ノンアンプティ)【4名】 + 新潟県スタッフの皆さま, JPSAスタッフの皆さま ④千葉:参加者(切断)【0名】、参加者(ノンアンプティ)【7名】 + Bumblubee千葉チーム選手・スタッフ		
人員体制	<pre> graph TD A[主催: 日本アンプティサッカー協会] --> B[技術委員会] A --> C[事務局] B --> D[各チーム選手およびスタッフに体験会講師派遣依頼] D --> E[協会登録チーム] C --> F[総務部: 岸 秀忠(事務局長), 田中愛理, 宮口大海, 富永伸哉] C --> G[広報部: 渉 外: 鈴木 要] C --> H[連携: 各都道府県障がい者スポーツ協会, 日本障がい者サッカー連盟] C --> I[協力: 開催地域近隣のサッカーチーム, 開催地域近隣の障がい者スポーツチーム, 医療機関・義肢装具士] E --> I </pre>		
連携団体名(箇条書き)	・公益社団法人広島県パラスポーツ協会 ・大分県障がい者スポーツ協会 ・新潟県障害者スポーツ協会 ・一般社団法人千葉県障がい者スポーツ協会 ・船橋市教育委員会		
実際の事業での連携団体の役割	後援として, 名義貸しおよび体験会開催のチラシの配布や案内等の広報・周知活動, 関係者への体験会参加やボランティアの募集活動, 体験会運営補助活動を担当した。		
本事業におけるパラスポーツ指導者の役割・活用について	パラスポーツ指導者は, 体験会の指導, 指導補助を担当した。体験会は初心者を対象とし, 指導者はその時の参加者の状態により必要な支援や実施内容を検討し実施した。 さまざまな特性を持つ参加者に対応しうる指導者の参画により, 参加者にとって安心感がある体験会を開催することができた。	本事業におけるパラスポーツ指導員の実人数	3
		本事業におけるパラスポーツ指導員の延べ人数	4
スポーツ用具の整備・活用について	体験会および練習会実施にあたり, 【ロフトスタンドクラッチ, サッカーボール】を購入し, トレーニング環境を整備した。毎回会場にてこれらを活用し, 初めて参加した方やそのご家族と一緒に活動できる環境を準備することができた。		

【◆第1回 広島ラウンド】の事業写真

①事業写真

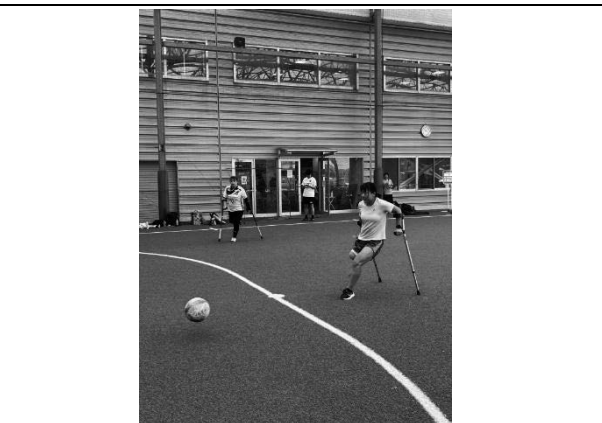
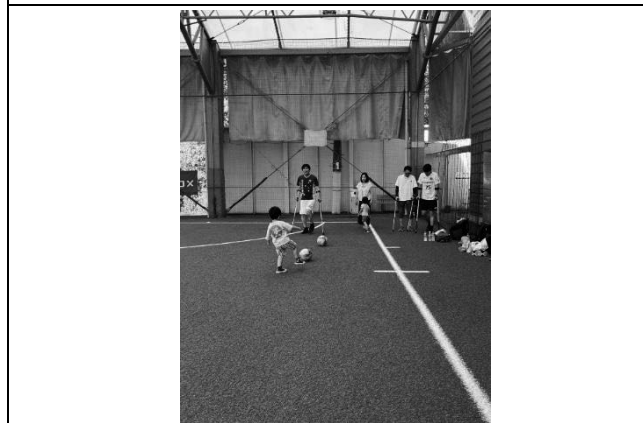
(1) PIVOX 広島 令和7年7月26日(日)

事業の様子



パス練習の様子

歩行練習の様子



参加者のご家族の体験の様子

当事者女性の参加

切断障がいがある方の参加: 3名(男性2名, 女性1名)

切断障がいがない方の参加: 0名(男性0名, 女性0名)

【◆第2回 大分ラウンド】の事業写真

①事業写真

(2) 春木川パーク 令和7年10月5日(日)

事業の様子

	
パス練習の様子	複数の女子の参加者
	
走行練習の様子	試合の様子

切断障がいがある方の参加:0名(男性0名, 女性0名)

切断障がいがない方の参加:5名(男性1名, 女性4名)

【◆第3回 新潟ラウンド】の事業写真

①事業写真

(3) 新潟ふれ愛プラザ 令和7年11月30日(日)

事業の様子

	
2歳の当事者の参加	上肢障がいがある方の参加
	
試合の様子	義肢装具士を目指す大学生の参加

切断障がいがある方の参加:1名(男性1名, 女性0名)

切断障がいがない方の参加:4名(男性3名, 女性1名)

その他:4名

【◆第4回 千葉ラウンド】の事業写真

①事業写真

(4) 高瀬下水処理場上部運動広場(タカスポ)令和7年12月21日(日)

事業の様子

	
クラッチ操作練習の様子	シュート練習の様子
	
聴覚障害を持つ方の参加	教育機関での体験会に参加した小学生が再度参加してくれました。

切断障がいがある方の参加：0名(男性0名, 女性0名)

切断障がいがない方の参加：7名(男性3名, 女性4名)

②資料

◆体験会チラシ

※各実施回に合わせて内容を変更

※千葉(船橋)会場については、同会場で活動していた Bumblebee 千葉から体験会開催の周知を目的とした要望があり、大会チラシを200部印刷し、配布した。

発行枚数:200部, 配布先:チーム関係者の知人, 教育機関関係 他



アンプティサッカー 体験会

だれでも参加可能!

日本アンプティサッカー協会主催
切断障がい者サッカーの体験会を
新潟で開催します!

2025/ **11/30** 日

10:00
|
13:00

会場 新潟ふれ愛プラザ
(〒950-0121新潟県新潟市江南区亀田向陽1-9-10)

対象者

**性別・年齢・障害の有無問わず
どなたでもご参加いただけます!**

アンプティサッカー・サッカー未経験の方もぜひご参加ください。
アンプティの精鋭選手・スタッフがサポートいたします!

会場アクセス

【お車でお越しの方】 *敷地内駐車場あり
日本海東北自動車道「新潟亀田IC(亀田市街方面)」
下車の後、亀田バイパス橋ノ子交差点より約10分

【電車でお越しの方】
信越本線JR「亀田駅」東口より徒歩5分

【バスでお越しの方】
新潟交通「稲葉」より徒歩8分、
「亀田駅前」より徒歩10分
区バス「亀田駅西口」より徒歩7分、
横バス「亀田駅東口」より徒歩5分

参加申込

ご参加は、QRコードから
お申し込みください!
当日参加も可能です。






本事業は(公財)日本パラスポーツ協会委託事業 令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」にて実施しています。

事業名称	AMPUTEE FOOTBALL Challenge Camp・2025
主催	特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会
後援	新潟県障害者スポーツ協会

問合せ先

特定非営利活動法人
日本アンプティサッカー協会 事務局 普及担当

協会Web <http://j-afa.jp>
E-mail admin@j-afa.jp

公式SNS配信中



体験会開催要項

※各実施回に合わせて内容を変更

関係者各位
2025 年 10 月 23 日（木）
特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会
AMPUTEE FOOTBALL Challenge Camp 2025
第 3 回 新潟ふれ愛プラザ会場 開催要項

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
この度、アンプティサッカー体験会を開催いたします。皆様お話し合わせの上、奮ってご参加ください。

1. 開催目的 本事業はアンプティサッカーを通じて「スポーツ活動の機会」、
「全国の仲間と交流する機会」を創出・提供・拡充することを目的に開催します。
2. 委託元 公益財団法人日本バラスポーツ協会（JPSA）
※令和 7 年度「地域におけるバラスポーツの振興事業」委託事業
3. 主催 特定非営利活動法人 日本アンプティサッカー協会（JAFA）
4. 後援 新潟県障害者スポーツ協会
5. 日時 2025 年 11 月 30 日（日）10：00～13：00（3 時間）
6. 場所 新潟ふれ愛プラザ 体育館（ <https://n-fureaiplaza.com/> ）
〒950-0121 新潟県新潟市江南区亀田向隣 1-9-1
- ▶アクセス
【お車でお越しの方】
日本海東北自動車道「新潟亀田 IC（亀田市街方面）」下車の後、亀田バイパス橋ノ子交差点より約 10 分
敷地内駐車場有り 約 100 台 ※満車の場合、徒歩 5 分圏内（駅）にコインパーキング有り
【電車でお越しの方】
信越本線 JR「亀田駅」東口より徒歩 5 分
【バスでお越しの方】
新潟交通 「稲葉」より徒歩 8 分、「亀田駅前」より徒歩 10 分
区バス 「亀田駅西口」より徒歩 7 分、横バス 「亀田駅東口」より徒歩 5 分
7. 参加対象者 性別・年齢・障がいの有無不問
※アンプティサッカー・サッカー未経験の方もぜひご参加ください。
8. 参加費 無料
9. 持ち物 【必須】運動ができる服装、運動ができる室内シューズ、飲料水、タオル他。
ご自身で必要なものをご準備ください。
※サッカーボールの用具等は協会で準備いたします。

10. 参加登録 URL もしくは QR コードを読み込み、参加登録を完了してください。
▶URL <https://forms.gle/HPGJeRiQ9rFTuZeM0> ▶QR コード



11. 日程(予定)

11 月 30 日（日）@新潟ふれ愛プラザ（体育館）

時 間	予 定	備 考 欄
9：30	受付開始	体育館に直接お越しください。
10：00	体験会参加者 集合	遅刻する場合は、問合せ先メールアドレスまでご連絡ください。
10：10	開始	
13：00	解散	

- 注 意 事 項
・体育館で実施いたします。
・万が一中止となる場合は、ご登録いただいたメール宛にご連絡または協会 HP にてご案内いたします。
・貴重品は自己管理をお願いいたします。

- お問合せ先 日本アンプティサッカー協会 普及担当者 宛にご連絡ください。
メールアドレス admin@j-afa.jp
※当日の遅刻連絡等は、上記のメールアドレスまでお願いいたします。

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会		
全体事業名	アンプティサッカー普及プロジェクト		
総委託費	1,330,000	決算額	1,017,044
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	本事業は、地方におけるアンプティサッカー体験会の実施を通じて、競技に触れる機会を創出し、新規選手および支援者の発掘と定着を図るとともに、地域団体との連携による継続的な活動環境を整備し、競技人口の拡大と共生社会の推進に寄与することを目的としている。 昨年度の女性の活動機会を主軸から切り離し、広く新規当事者を募っていく方向で本年度は進めた。結果、少数ながらも新規当事者の参加があったことは評価すべき点であると考えている。一方で、当事者と接点を持つための手段を検討する必要がある。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	当事者4名のうち3名は、各地域のチーム関係者が声をかけて参加しており、1名は告知を見ての参加であった。昨年度同様にまったく接点がなかった方の目に留まり、参加に至ったこと、わずかながらも新規選手の獲得につながったことは成果であると捉えている。 また協会所属チームがない新潟県での開催は本協会にとっては大きな挑戦であったが、大学や障がい者サッカー関係の方々等、幅広く交流を持ち今後の展望について相談できたことはこれまでにない成果である。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	会場費用が掛からなかったことや参加者が少ない状況による講師数減も影響し、想定よりも大幅に返金となったが、予定していたところで十分に活用できた。 次年度は購入品目や外部連携における費目が追加される可能性がある。事業内容とともに費用面についても見直していく。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【参加者】広島ラウンド、新潟ラウンドについては、体験会後にチームへの加入や今後の選択肢の開拓につながったとの報告が届いている。切断当事者が参加したラウンドにおいて、そのような報告があり体験会の意義があった証であると捉えている。 【各地域スタッフ】協会主催で今後もこのような機会を作ってほしい、あまり参加者を動員できず申し訳ないとの声が上がった。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	・参加者の動員（↓） 協会のSNSやHPでは限界があり、地域の各チームからの発信でもなかなか動員に繋がらなかった。行政や大きい組織からの早めの告知を次年度以降はより進めたい。また直接、義肢装具士や同系のスポーツ参加者に関心を持ってもらい、手軽に参加できる機会あるいは目につく機会、タイアップの機会をつくる。 ・地域開拓（↑） 各地域の状況から拠点にする地域の選定を行った。拠点とする地域には協会のスタッフがより強固な連携をすでにとっている。次年度は活動回数を増やすとともに、ボランティア等の参加も募りたい。また教育機関との連携も実施する予定である。		
その他所見	2025年12月の千葉ラウンドにおいて、ノンアンプティの参加者が体験会で楽しむことができ、2026年1月に開催された国際大会に足を運んでくださった。 このように協会の他事業との連携も欠かすことなく、相互に「する・みる・ささえる」機会を作れるよう、次年度は運用の形を検討していきたい。		

【パラセーリング普及推進事業】

- ①【障がい者体験セーリングキャラバン・高松】
- ②【障がい者・高齢者・青少年向けハンザ級ヨット体験会 in 徳良湖】
- ③【セイラビリティ交流レガッタ in 若洲2025】
- ④【障害者家族セーリング体験会 緑の島ヨットハーバー】
- ⑤【JBSA インクルーシブセーリング体験会(令和7年度)】
- ⑥【パラセーリングファミリー体験会(東京夢の島マリーナ)】

公益財団法人日本セーリング連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人日本セーリング連盟		
◆計画書作成者	高間信行		
◆企画・実施担当者	中尾義一	◆経理担当者	荒木裕実

全体事業名称	パラセーリング普及推進事業
委託費	1,400,000
地域の実情・課題点	地域の実情 ・障害者がスポーツとしてのセーリング競技が有る事が認知されていない。セーリング体験できる場所が有る事さえ知らない。 課題点 ・障害者がセーリングをできる場所を作りそこでヨットに乗ってセーリングを体験する環境をつくる事。セーリング競技の楽しさを体験してもらう機会を提供する事。
総合的な事業の目的	・各地に、スポーツとしてのパラセーリングに体験できる新たな場を生み出すこと。 ・パラセーリングの人口を増やすうえでも家族の方にもパラセーリングを理解してもらう場をつくること。 ・パラセーリングが想像以上に安全で簡単に楽しめ競技としても面白い事を周知し将来のパラセーラとして世界大会を目指す選手を発掘をすること。
総合的な事業のねらい	健常者と障害者が同じ条件で楽しめるスポーツの一つであるセーリングの認知度のアップと普及。 開催地域での健常者セーリング団体、障がい者スポーツ支援団体と協力し多種類の障害の方がセーリング活動に参加できる場の提供。 体験会(家族を含めて)・交流レガッタを開催することでパラセーリングの理解や競技への楽しみが体験のできる環境の構築と、ヨットに補助具を付け改良したりして多種の障がい者が幅広く継続的にスポーツに参加できる場を作っていく自立、自走しやすい環境を整えることが目的である。

事業名	
事業①	パラセーリング普及推進事業
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人日本セーリング連盟		
事業名	パラセーリング普及推進事業		
事業内容	①障がい者体験セーリングキャラバン・高松 ②障害者・高齢者・青少年ハンザ級ヨット体験会in徳良湖 ③セイラビリティ交流レガッタin若洲 ④インクルーシブセーリング体験会 函館 ⑤インクルーシブセーリング体験会(夢の島、シーボニア) ⑥パラセーリング体験会(夢の島マリーナ)	①体験会は、受付9:45、10:00体験会12:00解散 ②体験会は、受付9:00、9:30午前体験会、昼食、13:00午後体験会15:30終了解散 ③交流レガッタは、受付8:45開会式後3レース、13:00表彰・閉会式後懇親会16:00解散 ④、⑤、⑥受付9:00、体験会の説明、10:00から13:00体験乗船、昼食:13:00から15:00ヨットの機装の解装しランチ、ランチをとりながら体験会の感想、ヨット競技についての質疑応答後解散	
開催日時	①2025年8月2日(土)9:00から12:00 ②2025年8月10日(日)9:00から15:30 ③2025年8月4日(日)8:00から17:00 ④2025年8月10日(土)9:00から17:00 ⑥PST夢の島2025年6月29日(日)、8月17日(日)、9月28日(日)、10月5日(日)、11月16日(日)9:00から15:00	⑤JBSAシーボニア、2025年6月8日(日)、7月20日(日)、8月31日(日)、9月28日(日)、11月24日(日)9:00から15:00 ⑤JBSA夢の島2025年6月1日(日)、7月6日(日)、8月17日(日)、9月7日(日)、10月12日(日)9:00から15:00	
会場	①香川県高松市ヨット競技場 ②山形県尾花沢市徳良湖ヨット倶楽部 ③東京都江東区若洲ヨット訓練所 ④北海道函館市 緑の島ヨットハーバー ⑤東京都江東区東京夢の島マリーナ、 神奈川県三浦市シーボニアマリーナ ⑥東京都江東区夢の島マリーナ		
参加者	①26人(精神8、引率職員10、ボランティア8) ②52人(障害7、高齢7、青少年13、一般10、ボランティア15) ③28人(肢体3、発達障害1、一般6、ボランティア18) ④80人(障害14、青少年8、一般38、ボランティア20) ⑤42人(視覚7、ボランティア35) ⑥39人(肢体9、精神3、介助7、ボランティア20)		
人員体制	①技術指導・安全講習講師1人、救助艇(免許資格者、クルー)4人、乗降等補助スタッフ2人 ②ヨット指導員10人、救助艇要員3人、受付1人、看護師1人 ③大会役員5人、レース運営8人、陸上本部要員5人 ④体験船船長3人、クルー6人、陸上本部要員5人	⑤体験会運営支援スタッフとしての乗船者は最低3人を確保(船長免許資格者、セーリング経験者2から3人) ⑥体験会運営支援スタッフとしての乗船者は最低3人を確保、船長(船舶免許資格者・パラスポーツ指導員)、パラセーリング経験者(介護関係者)、クルー(セーリング経験者)	
連携団体名 (箇条書き)	セイラビリティ高松 NPO法人スマイリーハンズ 香川県ヨット連盟 一般社団法人パラセーリング東京 一般社団法人東京都セーリング連盟 NPOマリンプレイス東京 東京都江東区スポーツ振興課 B&G徳良湖海洋クラブ 一般社団法人徳良湖ヨットクラブ 山形県尾花沢市(福祉課) 山形県尾花沢市教育委員会	山形県セーリング連盟 山形県パラスポーツ指導者競技会 北海道外洋帆走協会 道南地区パラスポーツ指導者協議会 NPO日本視覚障害者セーリング協会 神奈川県シーボニアマリーナ 東京都東京夢の島マリーナ	
実際の事業での 連携団体の役割	セイラビリティ高松(運営主体) NPO法人スマイリーハンズ(広報・申込受付) 香川県ヨット連盟(体験会情報発信) 一般社団法人パラセーリング東京(運営主体) 一般社団法人東京都セーリング連盟(競技運営) NPOマリンプレイス東京(申込問合せ対応、会場提供) B&G徳良湖海洋クラブ(運営主体) 一般社団法人徳良湖ヨットクラブ(運営主体) 山形県尾花沢市(福祉課)(情報発信) 山形県尾花沢市教育委員会(情報発信)	山形県セーリング連盟(運営主体) 山形県パラスポーツ指導者競技会(指導員派遣) 北海道外洋帆走協会(運営主体) 道南地区パラスポーツ指導者協議会(広報・指導委員派遣) NPO日本視覚障害者セーリング協会(運営主体) 神奈川県シーボニアマリーナ(体験会会場の提供及び緊急時対応) 東京都東京夢の島マリーナ(体験会会場の提供及び緊急時対応)	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	パラスポーツ指導員として学んだ知識をもとに、年齢、障害の違いによる乗船、下船の際のサポート、体力に応じてヨットの操船に必要な作業分担の決定、各担当ポジションの動作方法の指導をおこなう。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	41
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	61
スポーツ用具の 整備・活用について	スポーツ用具の購入無し (体験会場等での借用艇、設備については、艇の機装・片付け、目標マークブイの設置・撤去当運営スタッフにより的確に行った。)		

【事業内容①】の事業写真

事業写真

(1) 【事業名】 地域におけるパラスポーツの振興事業(インクルーシブセーリング体験会・高松)

事業の様子



操船・安全講習の様子



体験セーリングの様子



体験セーリング・レスキュー艇2艇体制



レスキュー艇体験の様子



体験会本部



会場風景



ハンザ群 1



ハンザ群 2



体験会風景 1



体験会風景 2



救助艇群と乗合カッター



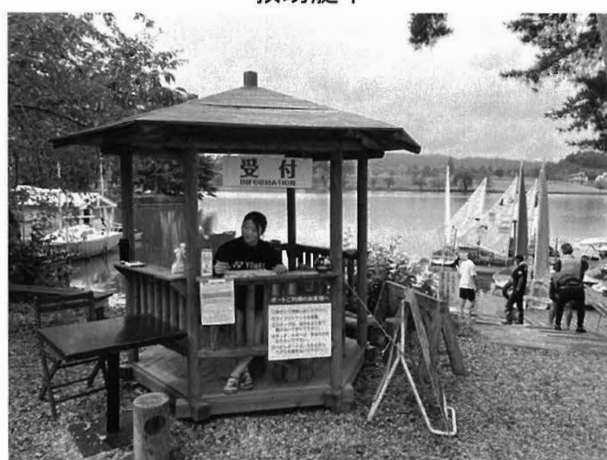
救助艇小



救助艇中



救助艇大



受付



救護用テント



スポットクーラーと扇風機が設置されたテント

【事業内容③】の事業写真

事業写真

(3) 【事業名】セイラビリティ交流レガッタ in 若洲2025

事業の様子



開会式



レース前の待機中ヨット



ハンザ2.3レース中



レース運営艇(本部艇)



表彰式



集合写真

【事業内容④】の事業写真

事業写真

(4) 【事業名】障害者家族セーリング体験会 緑の島ヨットハーバー

事業の様子



体験会の説明



体験セーリングのヨットへの移動様子



ヨットへ乗艇の様子



体験セーリングの様子

【事業内容⑤】の事業写真

⑤事業写真

(5) 【事業内容】JBSAインクルーシブセーリング体験会
事業の様子



令和7年6月1日東京夢の島マリーナ



令和7年6月8日神奈川シーボニアマリーナ



令和7年7月6日東京夢の島マリーナ



令和7年7月20日神奈川シーボニアマリーナ



令和7年8月17日東京夢の島マリーナ



令和7年8月31日神奈川シーボニアマリーナ



令和 7 年 9 月 7 日 東京夢の島マリーナ



令和 7 年 9 月 28 日 神奈川シーボニアマリーナ



令和 7 年 10 月 12 日 東京夢の島マリーナ



令和 7 年 11 月 24 日 神奈川シーボニアマリーナ

【事業内容⑥】の事業写真

事業写真

(6) 【事業名】パラセーリングファミリー体験会(東京夢の島マリーナ)
事業の様子



令和 7 年 6 月 29 日 片麻痺乗船補助



令和 7 年 8 月 17 日 出港前の体験者集合写真



令和 7 年 9 月 28 日 帆走中



車いす利用者の下船補助



令和 7 年 11 月 16 日 船上でのロープワーク



令和 7 年 11 月 16 日 帆走中

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	公益財団法人日本セーリング連盟		
全体事業名	パラセーリング普及推進事業		
総委託費	1,400,000	決算額	1,347,643
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	小型艇の体験会は2か所、大型艇に体験会は4ヶ所、初心者むけ交流レガッタ1回の事業を行い地域との連携、多種障がい者の参加、家族ぐるみのパラスポーツの理解は目的通りに達成できたと考えられる。 新たに開催した北海道函館市ではパラセーリングが有る事を各開催地からは開催団体を含め参加者からも事業の継続について要望があった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	小型艇の体験会開催地（2か所）からは、前年度の開催状況をみて今年度の開催についても積極的な協力の申込が有り、精神障害の参加者もこの機会が来ることを待ち望むようになってきた。視覚障害社に向けても音で正確な走り方をサポートできる装置を地域銀行が資金を助成し作成した。地域での障害者スポーツへのサポートが見られるようになってきた。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	費用については効果的に活用ができた。使用施設については活動内容を理解していただき無料又は少額に抑えることができた。事業の運営費用については将来的に地域での助成金獲得、体験者の受益者負担を考えて行ければと検討している。まだ、初めての開催場所もあるので継続的に事業が行える基盤づくりに本助成費用を活用したい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【参加者】ヨットの安全性が体験でき楽しかった。ヨットに乗れる場所があるとは知らなかった。海や自然を体験しながらこれからもスポーツとしてヨットも続けたいとの意見などもアンケートで頂いた。 【関係団体】ボランティアからは障がい者と共にできるスポーツが有る事を知った。自らも初めての経験で有り家族も楽しめるスポーツの場を継続して活動して欲しいとの声もあり、その際には協力したいとの声も多数あった。 【行政など】障害者同士で誘い合っていけるパラセーリングは楽しい試みであり、障害者が社会参加の場・機会が有る事を発信していきたい。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	地域差のある開催地の設備の問題（バリアフリー）、使用するヨットの確保、開催する際の予算の確保、各地域での運営体制の確立、継続的に指導できる人・団体の確保、障がい者への宣伝活動方法が問題であること。これらの問題は一団体での活動では解決するには難しい、費用などについては協賛企業獲得や地域ボランティアの発掘・育成を検討していく必要がある。インフラ等については行政に働き改修のための費用の確保必要であり事業展開をする上では開催団体を中心に地域での継続的に開催できる場や人の繋がりをの構築と方法の検討を進めていくことが必要である。		
その他所見	この事業は、パラセーリング普及推進事業であるがインクルーシブセーリング活動を利用し障害者と健常者が共にできるスポーツとして推進して行く必要がある。参加者は障がい者をはじめ健常者の老若男女も対象で進めている。特に障害者にはヨットは体力が無くても簡単に楽しめるスポーツである事を認知してもらい。障害者がヨットに乗れる場所が多くあり、参加する事の壁が低いことをこれから継続して発信していきたい。		

【事業名】

精神障がい者バスケットボール推進事業

ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026

- ◆【事業内容①】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 群馬ラウンド
- ◆【事業内容②】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 堺ラウンド
- ◆【事業内容③】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 奈良ラウンド
- ◆【事業内容④】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 東京ラウンド
- ◆【事業内容⑤】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2025-2026 岐阜ラウンド
- ◆【事業内容⑥】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 福岡ラウンド
- ◆【事業内容⑦】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 沖縄ラウンド
- ◆【事業内容⑧】 エンジョイカップ 2025 九州プレ大会
- ◆【事業内容⑨】 ドリームカップ2025

NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
◆計画書作成者	安藤俊輔		
◆企画・実施担当者		◆経理担当者	安藤俊輔

全体事業名称	精神障がい者バスケットボール推進事業 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026
委託費	1,805,000
地域の実情・課題点	精神障がい者を対象とした第3の競技としてバスケットボールの実施・普及に努めてきたが、その認知度は十分ではない。また当事者や家族から「バスケットボールをやりたいが、どうしたらよいか」、「近くにチームはないか」との問い合わせが多々来るが、実施・普及も十分でなく、実施の機会を提供出来ていない。また関心のある支援者でも精神障害者の行うバスケットボールをイメージできず、敬遠してしまうものも多い。十分な広報と実施機会の提供、先入観の打破が大きな課題である。また、実施・普及を行うにあたり、現地支援者の不足も新たな課題となっている。
総合的な事業の目的	本事業の目的は、まだ認知度が十分でない精神障がい者バスケットボールについて当事者選手および支援者が地方に遠征し、直接交流会を開催することで実施の機会を作り、いつでもバスケットボールが行えるような活動環境を整える機会を作ることである。今年度は和歌山県、岐阜県、群馬県、沖縄県、福岡県、奈良県、東京都の7か所での実施をめざし、1つの交流会で参加者20名以上を目標に実施する。また今年度も事前訪問を行うことで協力団体と緊密な連携を目指すとともに、一部のラウンドでは協力団体会員に対して事前オンラインセミナーを行うことで支援者の掘り起こしを行う。 また前年度の実施・普及事業により大分県および近県の活動が活発となってきたことから、福岡県にて九州プレ大会を開催する。これを足掛かりに九州、中国、四国のブロック化を推進したい。 また今年度もバラスポーツ指導員への協力依頼を行い、スタッフの突発的な欠員が生じても現地で安定した運営が行えるよう努めることとする。
総合的な事業のねらい	精神障がい者を対象とした競技性スポーツは3種目のみであり、全国の精神障害者総数380万人に対し十分な競技数とは言えない。また精神障がいのある人が、気軽に競技性スポーツを楽しめる環境は整っていない。当会が推進するバスケットボールについても、世界的に競技人口の多い種目であるにも関わらず、認知度の低さと実施機会の少なさからチームや大会が一部の地域に偏った状況にある。そのため、本事業を実施することで精神障害バスケットボールの周知を図るとともに、交流会を介して誰もが気軽にバスケットボールを楽しめるような環境を整えたいと考える。また併せて支援者の掘り起こしを行うことで、本活動が終了した後も現地でバスケットボールが行えるようなサポート体制の構築を行っていきたい。具体的には、開催県に1名以上の地域推進委員の確保およびチームの設立を一つの目標とし、ニーズを持つ当事者が地域推進委員を通じてチームにつながる体制を整えることである。また今回は九州でのブロック大会の足掛かりとして、九州プレ大会を開催する。4チーム・3地域以上のチーム参加を一定の目標とし、県バスケットボール協会やバラスポーツ協会との連携しつつ運営をマニュアル化するとともに、次回以降の開催年・県を決定することを目標とする。

事業名	
事業①	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 群馬ラウンド
事業②	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 堺ラウンド
事業③	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 奈良ラウンド
事業④	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 東京ラウンド
事業⑤	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 岐阜ラウンド
事業⑥	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 福岡ラウンド
事業⑦	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 沖縄ラウンド
事業⑧	エンジョイカップ2025九州プレ大会
事業⑨	ドリームカップ2025

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 群馬ラウンド		
事業内容	群馬県および近隣県在住の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催		
開催日時	令和7年7月26日(土)13時30分～16時		
会場	しんしん大渡体育館 (群馬県前橋市大渡町2丁目3-11)		
参加者	選手 8名 支援者 5名 家族 8名 小学生 9名 計30名		
人員体制	・統括 1名(日本ソーシャルバスケットボール協会) ・運営 1名(ライトニングバスケットボールクラブ) 3名(UNION・BC)		
連携団体名 (箇条書き)	・一般社団法人ライトニングバスケットボールクラブ ・公益財団法人前橋市まちづくり公社 ・特定非営利活動法人精神障害者社会復帰協議会 ・一般社団法人群馬県精神保健福祉士会 ・一般社団法人群馬県作業療法士会 ・群馬県精神障害者家族会連合会		
実際の事業での 連携団体の役割	運営 一般社団法人 ライトニングバスケットボールクラブ 公益財団法人 前橋市まちづくり公社 広報協力 特定非営利活動法人精神障害者社会復帰協議会 一般社団法人群馬県精神保健福祉士会 一般社団法人群馬県作業療法士会 群馬県精神障害者家族会連合会		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	事業の当日の運営	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボールキャラバン2025-26堺ラウンド		
事業内容	2025年9月5日 21時から22時までzoomにて事前セミナーを開催。2025年9月13日 10時から12時まで交流会を実施した。		
開催日時	2025年9月5日(金) 21:00-22:00:事前セミナー 2025年9月13日(土) 10:00-12:00:交流会		
会場	ファインプラザ大阪		
参加者	事前セミナー:7名 交流会:20名		
人員体制	運営スタッフ:3名 ボランティアスタッフ:1名		
連携団体名 (箇条書き)	一般社団法人 大阪ソーシャルスポーツ協会 インクルーシブフットボールクラブ ハーフタイム arts&sports club EENEN OSAKA		
実際の事業での 連携団体の役割	広報協力をご協力いただいた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	準備段階では複数人に関わっていただいたが、当日の交流会の参加はなし。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 奈良ラウンド		
事業内容	13:00から当協会の事業などを共有するセミナー、14:00から交流会を開催した。		
開催日時	2025年8月2日(土) 13:00~13:45 セミナー 14:00~16:00 交流会		
会場	橿原市中央体育館		
参加者	事前セミナー17名 交流会17名		
人員体制	運営スタッフ3名 運営ボランティア4名		
連携団体名 (箇条書き)	・奈良県作業療法士会 ・奈良県社会福祉士会 ・奈良県精神科ソーシャルワーカー協会 ・奈良県障害者スポーツ協会 ・奈良県バスケットボール協会 ・奈良県ソーシャルフットボール協会 ・奈良県障害者スポーツ指導者協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	広報協力を中心にご協力いただいた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	運営、運営協力	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボールキャラバン2025-26東京ラウンド		
事業内容	11-12時は会議室にて事前セミナーを開催、11名にご参加頂いた。ソーシャルバスケットボール協会理事の坪井から、協会の取り組みについて発表した。東京都推進委員の佐藤氏からは東京での取り組みについて発表した。その後、質疑応答やチーム運営をするにあたっての工夫や困りごとについて話し合うなど、活発な意見交換を行った。13時からは交流会を実施。ウォーミングアップでは楽しい空間となるよう、リズムトレーニングを取り入れた。続いて基礎練習では横浜フラットヘッドのメンバーが指揮を執り、皆で声を掛け合いながら楽しく取り組んだ。フリースロー対決やスリーポイント対決なども行い、大いに盛り上がった。最後は5対5のゲームで締めくくった。		
開催日時	日時:2025年8月31日(日)13時30分~16時		
会場	東京都多摩スポーツセンター		
参加者	事前セミナー:11名 交流会:38名		
人員体制	運営スタッフ:4名		
連携団体名 (箇条書き)	・東京YMCA医療福祉専門学校 ・医療法人社団柏水会三軒茶屋診療所東京リワークセンター ・アームズラボ ・株式会社サイマムアルヴァカウンセリング ・横浜フラットヘッド ・I.W.P.B ・Vagabond ・一般社団法人 東京都作業療法士会 ・一般社団法人 東京精神保健福祉士協会 ・OTバラスポひろば		
実際の事業での 連携団体の役割	【広報】 ・医療法人社団柏水会三軒茶屋診療所東京リワークセンター ・アームズラボ ・株式会社サイマムアルヴァカウンセリング ・OTバラスポひろば 【運営協力】 ・東京YMCA医療福祉専門学校 ・横浜フラットヘッド ・I.W.P.B ・Vagabond 【後援】 ・一般社団法人 東京都作業療法士会 ・一般社団法人 東京精神保健福祉士協会		
本事業における バラスポーツ指導者の 役割・活用について	運営協力や広報の役割を担っていただいた。	本事業における バラスポーツ指導員の 実人数	5
		本事業における バラスポーツ指導員の 延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 岐阜ラウンド		
事業内容	岐阜県および近隣県在住の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催	岐阜県および近隣県在住の精神障がい者バスケットボールの実施・普及に関心を持つ当事者、支援者、家族等	
開催日時	令和7年9月13日(土)13時30分～16時	令和7年9月7日(土)21時00分～22:00	
会場	岐阜県福祉友愛アリーナ 〒502-0851 岐阜県岐阜市則武1816-1	オンラインセミナー	
参加者	選手 12名 支援者 6名 家族 1名 ボランティア 8名 計27名	当事者 3名	
人員体制	運営 4名 ・統括 鎗田英樹:JSBA会長 ・運営 南島翔太:JSBA愛知県地域推進委員 ・運営 河合孝宣:JSBA岐阜県地域推進委員 ・運営 助川亮平:流山OWLS代表 ボランティア 8名 ・平成医療短期大学 学生 ・個人参加	講師① 鎗田英樹:JSBA会長 講師② 河合孝宣:ソルランテ岐阜代表	
連携団体名 (箇条書き)	・一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会 ・一般社団法人岐阜県作業療法士会 ・一般財団法人岐阜県バスケットボール協会 ・特定非営利活動法人岐阜県精神保健福祉会連合会 ・岐阜県精神保健福祉士協会 ・岐阜バスケットボール株式会社		
実際の事業での 連携団体の役割	【後援および広報協力】 ・一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会 ・一般社団法人岐阜県作業療法士会 ・一般財団法人岐阜県バスケットボール協会 ・特定非営利活動法人岐阜県精神保健福祉会連合会 ・岐阜県精神保健福祉士協会 【ビデオメッセージ提供】 ・岐阜バスケットボール株式会社		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	運営補助	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 福岡ラウンド		
事業内容	福岡県および近隣県在住の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催		
開催日時	令和7年10月11日(土)12時30分～15時30分		
会場	福岡市立障がい者スポーツセンター(さん・さんプラザ) (福岡県福岡市南区清水1丁目17－15)		
参加者	選手 40名 支援者 13名 学生 4名 見学者 2名 計59名		
人員体制	・統括 1名(日本ソーシャルバスケットボール協会) ・運営 1名(ライトニングバスケットボールクラブ) 3名(UNION・BC)		
連携団体名 (箇条書き)	・福島Dreams ・総合型地域スポーツクラブHEROES ・筑紫女学園大学日高研究室 ・福岡市 ・一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会 ・公益社団法人福岡県作業療法士協会		
実際の事業での 連携団体の役割	運営 福島Dreams 総合型地域スポーツクラブHEROES 広報協力 筑紫女学園大学日高研究室 福岡市 一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会 公益社団法人福岡県作業療法士協会		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	事業の当日の運営	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボールキャラバン2025-26沖縄ラウンド		
事業内容	12-13時まで会議室にて事前セミナーを開催。 13時からは交流会を実施した。		
開催日時	2025年10月18日(土) 12:00-13:00:事前セミナー 13:00-15:30:交流会		
会場	沖縄県体協スポーツ会館		
参加者	事前セミナー:11名 交流会:11名		
人員体制	運営スタッフ:3名 ボランティアスタッフ:11名		
連携団体名 (箇条書き)	NPO法人ちゅらゆい てるしのワークセンター ウィル訪問看護ステーション 沖縄統合医療学院 NPO法人Arch to Hoop		
実際の事業での 連携団体の役割	広報協力、ボランティアスタッフとしてご協力いただいた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	運営、運営協力	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	7
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	7
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	エンジョイカップ2025 九州ブレ大会		
事業内容	九州地方の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催		
開催日時	令和7年11月15日(土)10時～16時		
会場	熊本青明病院 体育館 (熊本県熊本市中央区渡鹿5丁目1-37)		
参加者	選手 35名 支援者 40名 計75名		
人員体制	・統括 1名(日本ソーシャルバスケットボール協会) ・運営 1名(医療法人真浄会寺町クリニック) 2名(くまもと青明病院) ・審判 2名(大分県サムシティラステック) ・救護 1名(熊本県希望ヶ丘病院)		
連携団体名 (箇条書き)	・一般社団法人熊本県バスケットボール協会 ・熊本県精神保健福祉士協会 ・熊本ヴォルターズ ・熊本県障害者スポーツ・文化協会 ・一般社団法人熊本県作業療法士会		
実際の事業での 連携団体の役割	・運営:日本ソーシャルバスケットボール協会 大分県サムシティラステック ・広報協力:熊本県障害者スポーツ・文化協会 一般社団法人熊本県バスケットボール協会 一般社団法人熊本県作業療法士会		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	事業の当日の運営	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事業名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026		
事業内容	日本全国の精神障がい者と支援者などを対象としたバスケットボール大会の開催		
開催日時	令和7年11月29日(土)10時~16時		
会場	倉敷体育館 (岡山県倉敷市上富井1-8)		
参加者	選手 60名 支援者 20名 審判6名 学生9名 ボランティア 6名 計101名		
人員体制	・統括 1名(日本ソーシャルバスケットボール協会) ・運営 2名(日本ソーシャルバスケットボール協会) 2名(岡山SWISH) ・審判 4名(岡山県バスケットボール協会) ・救護 1名(岡山SWISH)		
連携団体名 (箇条書き)	岡山県作業療法士会 岡山県精神保健福祉士協会		
実際の事業での 連携団体の役割	広報協力 岡山県作業療法士会 岡山県精神保健福祉士協会		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	大会の運営(準備、司会進行、片付け等)	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	1
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 群馬ラウンド

事業の様子



ウォーミングアップのミニゲームの様子



フリースロー大会の様子



交流試合の様子



参加者全員で写真撮影

【事業内容②】の事業写真

① 事業写真

(2) 【事業名】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 堺ラウンド

事業の様子



参加者が受付で氏名・住所を記入



運営スタッフが初心者の方へシュートの指導



フリースロー大会



イベント最後の集合写真

【事業内容③】の事業写真

①事業写真

(3) 【事業名】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 奈良ラウンド

事業の様子



事前セミナーの様子



参加者全員でストレッチ



試合前の練習



フリースロー大会

【事業内容④】の事業写真

①事業写真

(4) 【事業名】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026 東京ラウンド

事業の様子



リズムトレーニング

参加者の家族も一緒にエンジョイ



当事者も支援者もごちゃ混ぜでチーム分け

試合開始のジャンプボール

【事業内容⑤】の事業写真

①事業写真

(5) 【事業名】ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2025-2026 岐阜ラウンド

事業の様子



開催挨拶



ウォーミングアップ



ゲーム風景



全体集合写真

【事業内容⑥】の事業写真

①事業写真

(6) 【事業名】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 福岡ラウンド

事業の様子



開会式の様子



全員でウォーミングアップの様子



各チームにわかれて交流戦の様子



イベント最後の集合写真

【事業内容⑦】の事業写真

①事業写真

(7) 【事業名】 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025－2026 沖縄ラウンド

事業の様子



事前セミナーの様子



試合前の様子



チーム対抗戦、勝利チームの景品贈呈



イベント最後の集合写真

【事業内容⑧】の事業写真

①事業写真

(8) 【事業名】 エンジョイカップ 2025 九州プレ大会

事業の様子



フリースロー大会の様子
今回、福岡、熊本、大分、佐賀、広島からの参加
皆の交流も兼ねて、子供から、女性、初心者の方、選手の方含めた交流がみられた



3×3競技 女子チームの戦い
寺町クリニック VS くまもと青明病院
同点にて フリースロー勝負で
くまもと青明病院の勝利



エキシビジョンマッチ
大分サムシティラスティック VS 参加希望者
流石のテクニックとスピードで
会場大歓声



3×3競技
福岡精神障がい者クラブ、広島混合チーム
VS いぬお病院
スピード感がある勝負
シュートが入ると歓声があがる

【事業内容⑨】の事業写真

①事業写真

(9) 【事業名】ドリームカップ2025

事業の様子



開会式の様子

試合の様子



優勝チームと準優勝チームの記念撮影

大会後の記念撮影

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価

受託団体名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
全体事業名	精神障がい者バスケットボール推進事業ソーシャルバスケットボール・キャラバン2025-2026		
総委託費	1,913,300	決算額	1,773,037
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	事業全体を通して、キャラバンではソーシャルバスケットボールチームの設立に繋がることができ、各地域の活性化に繋がっているように感じる。また、チーム設立には至っていない地域でも、現地支援者や当事者との繋がりを持つ機会となり、今後チーム設立に向けた基盤作りを行うことができたと感じる。大会では、開催地域やその周辺地域からも参加があり、今後ブロック化に向けた動きを行うことができた。また、支援者同士の交流の機会や、当事者も交流することによって、今後の協力体制が構築できた。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	キャラバンや大会の実行委員等の地域の人たちが運営に携わることによって、主体的・能動的に動いていただき、「チームを設立したい」と前向きな意見が多く見られた。その結果チームの設立に繋がった。また、次年度に向けて全国4地区での大会開催に向けて、各地域の支援者中心に動きが見られるようになった。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	今年度は新たなチーム設立や地域の支援者や当事者との繋がりを持つことに主眼をおき、有効に活用することができた。今後は地元地域での助成金や補助金等も視野にいれ、地域で更なる基盤づくりや、チーム未設立の地域への働きかけに本事業を活用したい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	参加者からは「楽しかった、チームが設立できて、バスケットボールができる機会が増えた、たくさんの方と交流ができて良かった」等の声があった。支援者からは「当事者の方が安心してバスケットボールができる環境を提供できた、良い居場所になる。精神疾患の方の新たな一面を見ることができて良かった」等の声があり、地域にとってプラスとなった。また、学生ボランティアの参加者からは、「精神疾患の方と初めて話をして、貴重な機会となった、また一緒に活動したい」等の声があり、精神疾患の理解促進にもつながった。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	今後の課題として、活動を行う上での予算確保や活動地域の支援者を確保し、運営体制を確立させ、継続して活動ができるように働きかけていく。行政やパラスポ協会ももっと巻き込み、より充実した活動や大会ができるように働きかけていく。 今後、チーム設立にいたっていない地域への開拓を行い、チーム設立ができるようにその地域の支援者や当事者に働きかけ、サポートをしていく。チームが増加したら、各地域でブロック大会を行い、ソーシャルバスケットボールがさらに発展できるよう働きかけていく。		
その他所見	今まで開催していない地域で、キャラバンや大会を開催することで、地域の支援者や当事者と繋がることができ、実際チーム設立のきっかけに繋がったと感じる。地域のプロスポーツチームとも連携し、支援者にも当事者にもさらに魅力的なイベントとできるよう、今後も継続して活動していきたい。		

【事業名】ソーシャルフットボール全国キャラバン

- ◆【事業内容①】ソーシャルフットボールキャラバン in 岩手 北東北
- ◆【事業内容②】ソーシャルフットボール キャラバン in 香川 四国
- ◆【事業内容③】ソーシャルフットボール全国キャラバン
指導者養成研修会
- ◆【事業内容4】東北地区交流大会

特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会		
◆計画書作成者	織田靖史・岡崎 恵		
◆企画・実施担当者	佐々 毅・織田靖史	◆経理担当者	伊藤 佐絵子

全体事業名称	ソーシャルフットボール全国キャラバン
委託費	1,500,000
地域の実情・課題点	ソーシャルフットボール(精神障がい者フットボール)活動は、多い時で全国160チーム、2000人が参加していた。日本ソーシャルフットボール協会(以下JSFA)は、この競技の統括団体ではあるが、経済面の問題やマンパワーの不足により、現状では地域への支援やコミュニケーションが不足している。そのため、地域との連携を通じた地域に置ける活動の拠点づくりにより、競技人口や支援者を増やすことが課題である。 現在、JSFA東北ブロック、四国ブロックにおいては、チーム数が多い県とコロナ禍以降活動が停滞している県があり、それぞれの交流や連携が制限されている。また、普及と啓発を担う現地スタッフは少数で献身的努力を行っているが、地域全体への普及に至らないのが実情である。
総合的な事業の目的	全都道府県にソーシャルフットボールチームを発足し、全ての都道府県が参加する地区大会を定期的に開催する。全てのチームが大会を目指し、目標をもって活動できるよう、体制を整える。そのための運営に各都道府県のサッカー協会、パラスポーツ協会が協力するなど、通常のサッカー大会と同様の運営体制に整備し、継続的な活動へと体制整備する。
総合的な事業のねらい	本申請の事業のねらいは、全国各地にソーシャルフットボール活動の地区統括団体の設立および発展に資することである。そのために、以下の目標を設定する。 ①ソーシャルフットボール活動に参加する選手の育成及び潜在的ニーズを持つ選手の発掘を行う。 ②地域内の支援者のネットワークを構築するとともに、新たな人材の発掘と施設・団体との連携をはかる。 ③JSFAスタッフから、地域におけるチームの運営のノウハウや他団体等との連携、普及方法の提供を行う。 ④活動の拠点となる施設や経済的支援につながる企業などの連携のきっかけとする。 ⑤一般市民の精神障がいに対するイメージを変え、インクルーシブな社会を構築する一助とする。 精神障がい者の持つ、喪失体験が、社会復帰を遅らせる要因となっているため、同じ苦しみを経験したソーシャルフットボール日本代表選手が社会貢献する姿を見て、目標を持ち地域生活を送れるようスポーツによるリカバリーモデルを創設する。

事業名	
事業①	ソーシャルフットボールキャラバン in岩手 北東北
事業②	ソーシャルフットボール キャラバン in香川 四国
事業③	ソーシャルフットボール全国キャラバン 指導者養成研修会
事業④	東北地区交流大会
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会		
事業名	ソーシャルフットボールキャラバン in岩手 北東北		
事業内容	日本代表スタッフ・代表候補選手によるフットサル教室兼指導者講習会及び、代表選手と東北地区の選手、障害者指導者協会会員のフットサル交流大会	これまでで、一番の参加人数となり、東北地区の潜在力を確認できる機会となった。今後のソーシャルフットボールの普及が期待できるイベントとなった。	
開催日時	日程:令和7年9月14日(日曜日)	10:35～開会式 10:40～クリニック基礎編 12:00～休憩 12:30～クリニック実践編 13:45～まぜこぜ交流試合 15:00～強化指定選手vs東北選抜 15:25～強化指定選手vs岩手FID 15:45～閉会式	
会場	岩手県 サン・ビレッジ紫波（岩手県盛岡市内丸10-1）		
参加者	24名(F P19名/G K5名) 岩手スタッフ10名 福島スタッフ2名 青森スタッフ1名 アスレチックトレーナー1名 代表スタッフ3名(監督1名/コーチ2名) 強化指定選手6名 J S F Aスタッフ2名	49名	
人員体制	運営:岩手スタッフ10名 福島スタッフ2名 青森スタッフ1名 アスレチックトレーナー1名 指導:代表スタッフ3名 強化指定選手6名 J S F Aスタッフ2名		
連携団体名 (箇条書き)	NPO法人岩手県精神保健福祉連合会 岩手県知的障がい者サッカー連盟 社会医療法人智徳会未来の風せいわ病院 社会医療法人新和会宮古山口病院		
実際の事業での 連携団体の役割	NPO法人岩手県精神保健福祉連合会→ 岩手県知的障がい者サッカー連盟→ 社会医療法人智徳会未来の風せいわ病院→ 社会医療法人新和会宮古山口病院→	運営協力、事業の周知 交流試合対戦、事業の周知 スタッフの派遣、事業の周知 スタッフの派遣、事業の周知	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	岩手県障がい者スポーツ協会との連携が希薄であったため、後援申請の許可も届かず、電話で最終確認することになった。精神障がい者スポーツへの理解が進んでいない現状が把握できたが、このような状況のため、参加者への周知も難しく参加に至らなかった。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	無
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	無
スポーツ用具の 整備・活用について	フットサルボールを購入したが、これまでのイベントで最高人数の参加者であったため、購入したボールが十分に活用できた。事業④のイベントでも活用した。また、今回のイベントで知的障がい者サッカー連盟との連携がとれたため、練習試合等での活用も期待できる。岩手県精神障がい者フットサル連盟で管理し、今後、東北地区ソーシャルフットボール協会開催のイベントでも活用する。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会		
事業名	ソーシャルフットボール キャラバン in香川 四国		
事業内容	日本代表スタッフ・代表候補選手によるフットサル教室兼指導者講習会及び、代表選手と東北地区の選手、障害者指導者協議会会員のフットサル交流大会	日本代表監督等によるフットサルクリニックを午前中に実施、午後は当事者と支援者が、ごちゃまぜになって交流試合を実施した。最後に、強化指定選手と四国選抜チームの交流試合を実施し、日本代表選手と交流する良い機会となった。また、四国以外からの参加もあり、選手間での交流ができた。	
開催日時	日程:令和7年12月14日(日曜日)	10:30～受付 11:00～フットサルクリニック 12:30～休憩 13:30～ごちゃまぜ交流戦 14:30～強化指定選手vs四国選抜 15:30～閉会式	
会場	あなぶきアリーナ香川サブアリーナ(香川県高松市サンポート6-11)		
参加者	22名(FP18名/GK4名) 支援者3名 見学3名 香川スタッフ8名 代表スタッフ4名 強化指定選手6名	合計46名	
人員体制	運営:香川スタッフ8名 パラスポーツ指導員1名 徳島県サッカー協会1名 指導:日本代表スタッフ4名 強化指定選手6名		
連携団体名 (箇条書き)	一般社団法人徳島県サッカー協会 医療法人社団光風会三光病院		
実際の事業での 連携団体の役割	一般社団法人徳島県サッカー協会→ 医療法人社団光風会三光病院→	運営協力 スタッフの派遣	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	香川県障害者スポーツ協会との連携はできず、徳島県からのみの参加であった。参加者として、フットサルと一緒に楽しんでいた方と、運営スタッフとして協力いただいた方がいます。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について	フットサルボールを購入したが、香川県チームには十分なボール数が無かったため本事業で購入したボールが十分に活用できた。今後の香川県ソーシャルフットボールチーム「まんてガンバ讃岐」で管理しインクルーシブイベントでも活用を予定している。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会		
事業名	ソーシャルフットボール全国キャラバン 指導者養成研修会		
事業内容	精神障がい者スポーツの実際を体験していただきながら指導者として養成するための講習会。 ・佐々理事長によるソーシャルフットボールの歴史や役割の説明 ・ソーシャルフットボール日本代表 奥田 監督による指導方法や日本代表選手が目指す姿について ・強化指定選手2名による、自身の発症時の体験談とソーシャルフットボールでの経験について	精神障がい者スポーツの実際を体験していただきながら指導者として養成するための講習会。 ・日本代表監GM 真庭 氏によるソーシャルフットボールの歴史や役割の説明 ・ソーシャルフットボール日本代表 奥田 監督による指導方法や日本代表選手が目指す姿について ・強化指定選手2名による、自身の発症時の体験談とソーシャルフットボールでの経験について	
開催日時	日程:令和7年9月20日(土曜日) 18:30～20:10	日程:令和7年12月13日(土曜日) 19:00～20:30	
会場	紫波町情報交流館(岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅2丁目3番地3オガールプラザ内)	東部防災館 おきのすインドアパーク(徳島県徳島市東沖洲1丁目8)	
参加者	7名 岩手スタッフ6名 代表スタッフ2名 強化指定選手6名 JSFAスタッフ2名 合計 23名	14名 徳島スタッフ2名 代表スタッフ4名 強化指定選手6名 J S F Aスタッフ1名 合計 27名	
人員体制	運営スタッフ6名 代表スタッフ2名 強化指定選手6名 JSFAスタッフ2名	運営スタッフ2名 代表スタッフ4名 強化指定選手6名 J S F Aスタッフ1名	
連携団体名 (箇条書き)	社会医療法人智徳会未来の風せいわ病院 社会医療法人新和会宮古山口病院	一般社団法人徳島県サッカー協会 徳島県精神保健福祉士協会 徳島県パラスポーツ協会	
実際の事業での 連携団体の役割	NPO法人岩手県精神保健福祉連合会→周知 岩手県知的障がい者サッカー連盟→周知 社会医療法人智徳会未来の風せいわ病院 →スタッフ派遣、周知 社会医療法人新和会宮古山口病院→スタッフ派遣、周知	一般社団法人徳島県サッカー協会→運営、周知 徳島県精神保健福祉士協会→運営、周知 徳島県パラスポーツ協会→周知	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	東北と香川県障害者スポーツ協会との連携はできず、徳島県パラスポーツ協会経由で障害者指導者協議会への周知に協力いただいた徳島県からの参加のみであった。初めて講演会を受講いただいたので、ソーシャルフットボールの理解を深める機会としていただいた。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会		
事業名	東北地区交流大会		
事業内容	東北地区のソーシャルフットボールに関わる選手・支援者・関係者が気軽に参加し、横のつながり(顔が見える関係)の構築と、関係者人口の増加を目的とした交流を行う。 精神障がい者と支援者がフットサルを通して交流する大会。	地震と当日の大雪で中止も検討したが無事に開催することができた。地震と雪の影響で当日、欠席された方も多く、参加者が予定より少なかったが、複数県の開催があり今後の東北地区のソーシャルフットボールの普及には期待ができる大会となった。	
開催日時	日程:令和7年12月14日(日曜日)	8:30～ 開場, 設営準備 9:00～ 受付 10:00～ 開会式 ・ごちゃまぜ交流戦 ・フリー交流時間 14:00～ 表彰式・閉会式 記念撮影 15:00 終了	
会場	クローバーフットサルクラブワッセ仙台 〒981-0901 宮城県仙台市青葉区北根黒松2-10		
参加者	当事者11名 支援者11名 JSFAスタッフ2名	24名	
人員体制	運営:東北スタッフ7名 JSFAスタッフ2名		
連携団体名 (箇条書き)	令和7年度ソーシャルフットボール東北交流会実行委員会 一般社団法人東北サッカー協会		
実際の事業での 連携団体の役割	令和7年度ソーシャルフットボール東北交流会実行委員会 一般社団法人東北サッカー協会	→運営 →会場調整	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	今回は、宮城県での開催となり、スタッフのつながりも無く、関係を構築することができなかった。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	無
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	無
スポーツ用具の 整備・活用について			

【事業内容①】の事業写真

①事業写真

(1) 【事業名】ソーシャルフットボールキャラバン in 岩手 北東北

事業の様子



開会式



クリニック



クリニック



まぜこぜ交流試合

【事業内容②】の事業写真

①事業写真

(2) 【事業名】ソーシャルフットボール キャラバン in 香川 四国

事業の様子



クリニック



ゴレイロクリニック



四国選抜チーム



参加者の集合写真

【事業内容③】の事業写真

①事業写真

(3) 【事業名】ソーシャルフットボール全国キャラバン 指導者養成研修会

事業の様子



佐々理事長の講義(岩手県)



強化指定選手の講義(岩手県)



日本代表奥田監督の講義(徳島県)



強化指定選手からのコメント

【事業内容④】の事業写真

①事業写真

(4) 【事業名】東北地区交流大会

事業の様子



ウォーミングアップ



開会式



表彰式



参加者集合写真

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価

受託団体名	特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会		
全体事業名	ソーシャルフットボール全国キャラバン		
総委託費	2,582,420	決算額	1,864,719
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	東北・四国地区の体制作りはできたため、今後のソーシャルフットボール関係イベントでの主管団体として、ソーシャルフットボールの窓口を担える組織作りはできたが、他団体との連携については課題が多く、精神障がいスポーツの理解促進が今後必要であると感じた。特に、パラスポーツ協会、パラスポーツ指導員はこれまで関わりのある、身体・知的障がいについての理解はあるが、精神障がいスポーツへのアクセスが悪いため、今後は、パラスポーツ協会との連携強化が必要である。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	東北地区の支援者の定期的な集まりが無かったが、中心となる支援者もでき、今後の東北でのソーシャルフットボール活動の拠点となる組織作りができたことは成果である。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	一定レベルの指導とソーシャルフットボールの場を提供するには、ある程度の予算が必要。今後は、価値の提供に理解をしていただけるよう、企業の支援も含め活動を啓発していく。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	参加者はレベルの高い指導を受けることができ、大変満足してくれた。人数の少ない県では、試合ができる環境も少なく、障がい理解のある環境でフットサルののができたことは大変喜んでいただけた。当事者の満足度は相当高いと感じた。支援者も、今後の地域での活動に活かせることができると感謝された。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	今後は、企業と連携し、代表選手の活躍の場と、精神障がい者のチャレンジの場を提供できるよう活動を継続していく。		
その他所見	車いす競技や身体障がい者の競技ならつながりを持つが、なじみのない精神障がい者競技団体が、パラスポーツ協会とのつながりを持つのは難しい。これに関しては、日本パラスポーツ協会のサポートが必要と感じる。		

【事業名】卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業

事業① 卓球バレー指導者・審判員養成講習会(全 9 会場)

- E-1 千葉県船橋市
- E-2 青森県弘前市
- M-1 長野県長野市
- M-2 滋賀県栗東市
- M-3 石川県野々市
- M-4 三重県伊勢市
- W-1 島根県出雲市
- W-2 広島県三原市
- W-3 徳島県徳島市

事業② 卓球バレー体験教室(全 8 会場)

- E-1 千葉県船橋市
- E-2 青森県弘前市
- M-2 滋賀県草津市
- M-3 石川県野々市
- M-4 三重県伊勢市
- W-1 島根県出雲市
- W-2 広島県三原市
- W-3 徳島県徳島市

事業③ ブロック公認 卓球バレー交流大会(全 3 会場)

- E 岩手県盛岡市
- M 滋賀県草津市
- W 佐賀県佐賀市

日本卓球バレー連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	日本卓球バレー連盟		
◆計画書作成者	向 仁子		
◆企画・実施担当者	宮本 聖史、菅野 聡	◆経理担当者	斎門 豊、岡部 航希

全体事業名称	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業
委託費	200万円
地域の実情・課題点	用具が安価で対象を選ばず座ってプレーできる「卓球バレー」は、その気軽さから、近年、インクルーシブスポーツやユニバーサルスポーツとしても全国各地で紹介される機会が多くなり知名度が高まっている。しかし、その場に競技の特性や魅力に詳しい指導者が関わることが少なく、その場限りの体験に留まり継続的な実施や競技としての発展に繋がっていないのが現状である。本連盟は2008年の設立以降、東・中・西の3ブロックによる組織体制を基盤に指導者養成を含め都道府県単位の協会設立など全国レベルでの普及に取り組んできたものの、資金と人材不足のため思い通りの活動ができない状況であった。令和5年度から本委託事業に採択されたことにより、2事業(①指導者・審判員養成講習会、②体験教室)を実施することで一定の成果も得られ、需要の高さや継続した活動の必要性を認識することが出来た。 また上記2事業に参加し「卓球バレー」に興味を持った障がい者や資格取得者が活動を継続できるための仕組み作りや動機づけとして、大会開催の機運が高まってきている。 同時に既存の協会やチーム活動の活発化に伴い競技性が高まっている中で、ルール正しい理解と審判技術の統一化は競技の質を担保する上で不可欠となるが、実際の大会時にルールの解釈が異なるケースが発生し試合運営に混乱を招き、選手から不満の声が上がっている。ルールと審判技術の統一化が早急に図られない場合、競技の公平性が損なわれ、卓球バレー全体の信頼性を揺るがしかねないと危惧しており、早急な対策が急務となっている。
総合的な事業の目的	【短期目標】 未普及(もしくは普及が進んでいない)地域において、令和5、6年度実施事業である2事業(①卓球バレー指導者・審判員養成講習会、②卓球バレー体験教室)を継続実施することで、卓球バレーの競技特性と魅力を効果的に伝え、指導者の育成と拠点となる場・関係団体との連携作りを行う。 【中期目標】 上記2事業を契機に「継続的な練習」を希望する障がい者やその活動を支える指導者・審判員が増加し、この動きに応える場(障がい者福祉施設内や地域での教室等の活動拠点)とチーム(仲間)づくりが展開されつつある。地域にチームが複数誕生すると、練習の成果を試す場としての「大会(③ブロック公認卓球バレー大会)」開催の期待も高まり、同時に指導者や審判員としての技術向上も進む。なお、競技者の増加・普及拡大に伴い用具の工夫改善が進み、販売拠点も増加する。 【長期目標】 地域に「継続的な活動(練習)」の場が増える→「活動を支える指導者・審判員が増える」→「身近な地域で練習の成果を試す大会が開催される・地域団体との連携強化」→「ルールの理解・競技レベルの向上」→「地域での活動定着」 これにより卓球バレーを通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着とスポーツを通じた障がい者のエンパワーメント・自走、ひいてはスポーツ庁が掲げる「スポーツを通じた共生社会の実現」に繋がる。
総合的な事業のねらい	「卓球バレー」は、1971年に大阪府の支援学校で進行性筋ジストロフィー症の生徒と教員によって考案されたものである。本事業を契機に、国が取り組む「スポーツを通じた共生社会の実現」に直接的に貢献し得る種目であることを自覚しつつも、特に重度障がい者の地域におけるスポーツ参加に伴う多くの課題を意識し、パラスポーツ協会及び同指導者協議会をはじめ、障がい者のスポーツ活動を支援する関係者・組織と連携してそれらの解決に具体的に取り組む関係づくりにもつなげることをねらいとしたい。

事業名	
事業①	卓球バレー指導者・審判員養成講習会
事業②	卓球バレー体験教室
事業③	ブロック公認 卓球バレー交流大会
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本卓球バレー連盟		
事業名	卓球バレー指導者・審判員養成講習会		
事業内容	日程は、本委託事業で定められた期間内。内容は、講義1時間(歴史やルール等を理解)と実技2時間(指導法、審判ジャッジ法等)の2部制、合計3時間を基本とする。 会場は、本連盟加盟協会がない(もしくは協会が設立して間もない)9都道府県(東ブロック:千葉県、青森県、中ブロック:滋賀県、石川県、長野県、三重県、西ブロック:島根県、広島県、徳島県)で実施。		
開催日時	【東ブロック(北海道・東北・関東地区)】 E-1 千葉県船橋市 6月29日(日) 10:00～13:00 E-2 青森県弘前市 11月24日(月)9:30～12:30 【中ブロック(中部・近畿地区)】 M-1 長野県長野市 11月30日(日) 9:30～12:30 M-2 滋賀県栗東市 12月14日(日) 9:00～13:00 M-3 石川県野々市 12月20日(土) 9:30～12:30 M-4 三重県伊勢市 12月21日(日) 13:00～16:00	【西ブロック(中四国・九州地区)】 W-1 島根県出雲市 8月24日(日) 13:00～16:20 W-2 広島県三原市 10月18日(土) 9:00～12:00 W-3 徳島県徳島市 11月9日(日) 10:00～14:00 W-4 沖縄県うるま市 12月17日(水) 9:30～12:30 → 参加者が集まらず中止	
会場	【東ブロック(北海道・東北・関東地区)】 E-1 千葉県船橋市 船橋市薬円台公民館 E-2 青森県弘前市 弘前市社会福祉センター 【中ブロック(中部・近畿地区)】 M-1 長野県長野市 長野市障害者福祉センター M-2 滋賀県栗東市 治田東コミュニティセンター M-3 石川県野々市 野々市市民体育館 M-4 三重県伊勢市 伊勢市小俣農村環境改善センター	【西ブロック(中四国・九州地区)】 W-1 島根県出雲市 島根県立浜山公園 小体育室 W-2 広島県三原市 県立広島大学 W-3 徳島県徳島市 徳島県立障がい者交流プラザ W-4 沖縄県うるま市 うるま市健康福祉センター → 参加者が集まらず中止	
参加者	【東ブロック】 E-1 46名(健46名) E-2 10名(健10名) 【中ブロック】 M-1 19名(肢3名、精1名、15健名) M-2 15名(肢6名、健9名) M-3 9名(肢2名、精1名、健6名) M-4 11名(肢1名、健10名)	【西ブロック】 W-1 5名(肢1名、健4名) W-2 8名(聴1名、健7名) W-3 9名(肢1名、健8名) *略称(障がい種別) 肢:肢体、知:知的、精:精神、聴:聴覚、視:視覚、発:発達 健:健常 参加者合計 132名	
人員体制	【東ブロック】 E-1 本連盟指5名(内4名パラ指)・協力団体10名(内2名パラ指) E-2 本連盟指4名(内3名パラ指) 【中ブロック】 M-1 本連盟指2名(内2名パラ指) M-2 本連盟指6名(内6名パラ指) M-3 本連盟指2名(内2名パラ指)パラ指協8名(内8名パラ指) M-4 本連盟指1名(内1名パラ指)	【西ブロック】 W-1 本連盟指3名(内3名パラ指)・パラ指協3名(内3名パラ指) W-2 本連盟指2名(内2名パラ指) W-3 本連盟指2名(内2名パラ指) *略称:パラ指(パラスポーツ指導者)パラ指協(パラスポーツ指導者協議会) 本連盟派遣指導者延べ人数 27名(内 パラ指 26名) 協力団体指導者延べ人数 21名(内パラ指 13名)	
連携団体名 (箇条書き)	・日本卓球バレー連盟 加盟府県協会 (岩手、茨城、埼玉、福井、富山、滋賀、京都、兵庫、三重、和歌山、鳥取、山口、熊本、大分、佐賀、宮崎、鹿児島、香川) ・船橋市ユニバーサルスポーツ協会 ・千葉県パラスポーツ指導者協議会 ・岩手県障がい者スポーツ協会 ・NPO法人スポネット弘前 ・青森県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ・石川県障害者スポーツ協会 ・石川県パラスポーツ指導者協議会 ・長野県障がい者スポーツ指導協議会 ・長野県障がい者スポーツ協会 ・長野市障害者スポーツ協会 ・三重県パラスポーツ指導者協議会 ・伊勢市パラスポーツ協会 ・島根県障害者スポーツ協会 ・島根県パラスポーツ指導者協議会 ・県立広島大学ASC ・広島県パラスポーツ協会 ・徳島福祉レクリエーション連合会 ・沖縄県障がい者スポーツ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	本連盟加盟協会未設立(もしくは設立して間もない)県での事業実施となるため、いかに事業を周知し参加者を募るかが課題であった。そのため開催地の障がい者(パラ)スポーツ協会と同指導者協議会をはじめ、障がい者(パラ)スポーツセンター、各障がい者団体、福祉施設、スポーツ団体、学校関係に対する積極的な広報による参加者と実施場所の確保、参加受付、また当日のスケジュール管理や安全面の確保等、事業全体のサポートもいただいた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	本連盟派遣指導者の殆どがパラスポーツ指導者資格を保有している(96%)。また今回の受講者は卓球バレー指導者・審判員資格取得を目的としている。講義(座学)・実技の講師として障がい特性に合わせた指導法等も含め受講者をサポートした。 【講義】 障がい者スポーツの歴史、パラスポーツやユニバーサルスポーツ、卓球バレーのあゆみや社会的な意義等を説明 【実技】 ルール・ジャッジの解説、障がい特性に配慮した指導法を実際にプレーしながら説明	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	30
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	39
スポーツ用具の 整備・活用について	購入したプラサウンドボール(事業番号①②を兼ねる、消耗品)は、各ブロックの普及委員長が保管し、地域における普及活動に使用する。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本卓球バレー連盟		
事業名	卓球バレー体験教室		
事業内容	日程は、本委託事業で定められた期間内。内容は、簡単なルール説明の後、参加者のレベルに合わせて卓球バレーを体験する合計2時間の「体験教室」。 会場は、本連盟加盟協会がない(もしくは協会が設立して間もない)8都道府県(東ブロック:千葉県、青森県、中ブロック:滋賀県、石川県、三重県、西ブロック:島根県、広島県、徳島県)で実施。 また事業①「卓球バレー指導者・審判員養成講習会」に参加した資格取得者のうち希望者は本事業に参加し、指導実践、地域の障がいのある方と交流することで、資格取得後の活動につなげていく。		
開催日時	【東ブロック(北海道・東北・関東地区)】 E-1 千葉県船橋市 6月29日(日) 13:00～15:00 E-2 青森県弘前市 11月24日(月) 14:00～16:00 【中ブロック(中部・近畿地区)】 M-2 滋賀県栗東市 12月14日(日) 14:30～16:30 M-3 石川県金沢市 12月20日(土) 13:30～15:30 M-4 三重県伊勢市 12月21日(日) 14:00～17:00	【西ブロック(中四国・九州地区)】 W-1 島根県出雲市 8月24日(日) 14:20～16:20 W-2 広島県三原市 10月18日(土) 13:00～15:00 W-3 徳島県徳島市 11月9日(日) 13:20～16:20 W-4 沖縄県浦添市 12月17日(日) 14:00～16:00 → 参加者が集まらず中止	
会場	【東ブロック(北海道・東北・関東地区)】 E-1 千葉県船橋市 船橋市葉山台公民館 E-2 青森県弘前市 弘前市社会福祉センター 【中ブロック(中部・近畿地区)】 M-2 滋賀県栗東市 滋賀県立障害者福祉福祉センター M-3 石川県野々市 野々市市民体育館 M-4 三重県伊勢市 伊勢市小俣農村環境改善センター	【西ブロック(中四国・九州地区)】 W-1 島根県出雲市 島根県立浜山公園 小体育室 W-2 広島県三原市 県立広島大学 W-3 徳島県徳島市 徳島県立障がい者交流プラザ W-4 沖縄県うるま市 うるま市健康福祉センター → 参加者が集まらず中止	
参加者	【東ブロック】 E-1 65名(肢5名、内3名、知1名、健56名) E-2 8名(知2名、健6名) 【中ブロック】 M-2 17名(肢8名、健9名) M-3 14名(肢4名、精1名、健9名) M-4 11名(肢1名、健10名)	【西ブロック】 W-1 10名(知4名、健6名) W-2 12名(肢2名、聴1名、知1名、健8名) W-3 24名(肢9名、知5名、健10名) ※略称(障がい種別) 肢:肢体、知:知的、精:精神、聴:聴覚、視:視覚、発:発達 健:健常 参加者合計 161名	
人員体制	【東ブロック】 E-1 本連盟指5名(内4名パラ指)・協力団体10名(内2名パラ指) E-2 本連盟指4名(内3名パラ指) 【中ブロック】 M-2 本連盟指6名(内6名パラ指) M-3 本連盟指2名(内2名パラ指) パラ指協8名(内8名パラ指) M-4 本連盟指1名(内1名パラ指)	【西ブロック】 W-1 本連盟指3名(内3名パラ指)・パラ指協3名(内3名パラ指) W-2 本連盟指2名(内2名パラ指) W-3 本連盟指2名(内2名パラ指) ※略称:パラ指(パラスポーツ指導者) パラ指協(パラスポーツ指導者協議会) 本連盟派遣指導者延べ人数 25名(内 パラ指 24名) 協力団体指導者延べ人数 21名(内パラ指 13名)	
連携団体名 (箇条書き)	・日本卓球バレー連盟 加盟府県協会 (岩手、茨城、埼玉、福井、富山、滋賀、京都、兵庫、三重、和歌山、鳥取、山口、熊本、大分、佐賀、宮崎、鹿児島、香川) ・船橋市ユニバーサルスポーツ協会 ・千葉県パラスポーツ指導者協議会 ・岩手県障がい者スポーツ協会 ・NPO法人スポネット弘前 ・青森県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ・石川県障害者スポーツ協会 ・石川県パラスポーツ指導者協議会 ・三重県パラスポーツ指導者協議会 ・伊勢市パラスポーツ協会 ・島根県障害者スポーツ協会 ・島根県パラスポーツ指導者協議会 ・県立広島大学ASC ・広島県パラスポーツ協会 ・徳島福祉レクリエーション連合会 ・沖縄県障がい者スポーツ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	本連盟加盟協会未設立(もしくは設立して間もない)県での事業実施となるため、いかに事業を周知し参加者を募るかが課題であった。そのため開催地の障がい者(パラ)スポーツ協会と同指導者協議会をはじめ、障がい者(パラ)スポーツセンター、各障がい者団体、福祉施設、スポーツ団体、学校関係に対する積極的な広報による参加者と実施場所の確保、参加受付、また当日のスケジュール管理や安全面の確保等、事業全体のサポートもいただいた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	本連盟派遣指導者の殆どがパラスポーツ指導者資格を保有しており(96%)、障がい特性に合わせた指導を行った。かつ指導者と一緒にプレーし楽しむことで支援する側・される側の垣根を取り除いた。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	28
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	37
スポーツ用具の 整備・活用について	購入したブラサウンドボール(事業番号①②を兼ねる、消耗品)は、各ブロックの普及委員長が保管し、地域における普及活動に使用する。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本卓球バレー連盟		
事業名	ブロック公認 卓球バレー交流大会		
事業内容	ブロック内における競技普及と質の向上を目的とし、「ブロック公認 卓球バレー交流大会」を実施した。既存の所属チーム・審判員に加え、過去2年間の事業で資格を取得した指導者や体験会参加者を招致し、実戦を通じたフォローアップと交流の場を提供する。また、競技レベルの高度化に伴い、全関係者(選手・支援者・指導者・審判員)間でのルール解釈の徹底と、審判技術の平準化を図る機会とした。 【大会参加チーム】 ・ブロック所属協会の選手・チーム及び審判員に加え、本事業(①②)の参加者・指導者資格取得者。 ・選手は障がいの有無(健常者含む)、種別、程度、年齢、性別を問わないオープンな参加枠とする。 ・チームの技術習熟度に応じた2クラス制を採用。 チャレンジクラス: 競技重視 マスコットクラス: 親睦・交流重視 【大会の規模】 ・計15チーム程度(両クラス合計)		
開催日時	【東ブロック】 E 岩手県盛岡市 10月19日(日) 9時～16時 【中ブロック】 M 滋賀県草津市 8月31日(日) 9時～16時	【西ブロック】 W 佐賀県佐賀市 10月5日(日) 9時～16時	
会場	【東ブロック】 E 岩手県盛岡市 ふれあいランド岩手 【中ブロック】 M 滋賀県草津市 滋賀県立障害者福祉センター	【西ブロック】 W 佐賀県佐賀市 SAGAパラスポーツセンター	
参加者	【東ブロック】 参加チーム数 21チーム E 151名(肢50名、聴2名、視3名、内1名、知6名、精12名、健77名) 【中ブロック】 M 97名 参加チーム数 12チーム (肢38名、聴2名、視1名、内3名、知18名、精5名、健30名)	【西ブロック】 W 72名 参加チーム数 10チーム (肢36名、聴1名、内2名、知13名、精11名、健9名) 参加者合計 320名 (肢124名、聴5名、視4名、内6名、知37名、精28名、健116名)	
人員体制	【東ブロック】 E 本連盟指導者31名 (肢1名、聴1名、知1名、精1名、健27、内パラ指31名) 【中ブロック】 M 本連盟指26名 (肢2名、健24名、内パラ指22名)	【西ブロック】 W 本連盟指32名 (肢2名、聴1名、健29名、内パラ指21名) 本連盟派遣指導者延べ人数 89名 (内 パラスポーツ指導者 74名)	
連携団体名 (箇条書き)	・日本卓球バレー連盟 加盟都道府県協会 (岩手、宮城、茨城、埼玉、福井、富山、和歌山ユニバーサルスポーツ卓球バレー実行委員会、滋賀、京都、兵庫、岡山、鳥取、山口、熊本、大分、佐賀、宮崎、香川) ・岩手県障がい者スポーツ協会 ・岩手リハビリテーション学院 ・滋賀県障害者スポーツ協会 ・滋賀県パラスポーツ指導者協議会 ・佐賀県パラスポーツ協会 ・佐賀県パラスポーツ指導者協議会 ・西九州大学ESRDサークル		
実際の事業での 連携団体の役割	・大会の周知や参加申し込み受付、当日の会場設営や運営及び運営補助の役割を担った。 ・岩手リハビリテーション学院は運営補助に加えチーム参加いただき、他チームとの交流を深めた。		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	本事業に携わった本連盟指導者延べ89名中74名(83%)がパラスポーツ指導者資格を保持している。 障がい特性に合わせた対応は勿論、日頃から地域でチーム育成を行っており、大会参加へ導いている。 また障がいのある選手が卓球バレー指導者・審判員資格に加え、パラスポーツ指導者資格を取得する等、障がいがあっても能力を活かしサポートする側としても活躍している。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	71
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	74
スポーツ用具の 整備・活用について	購入したブラサウンドボール 72個(各会場 24個、消耗品)は、各ブロックの普及委員長が保管し、地域における普及活動に使用する。		

【実行委員会 事前打合せ会議 6月1日(日) Zoom 開催】

録画した会議動画を YouTube 上で配信し(会員限定配信)事業手順など迷った時は各自で確認できるようにした。



令和7年度 JPSA説明会動画(限定配信)

事業① 卓球バレー指導者・審判員養成講習会

E-1 千葉県船橋市 6月29日(日)

指導者・審判員養成講習会受付	講義の様子(1)
講義の様子(2)	実技指導

E-2 青森県弘前市 11月24日(月・祝)

	
受付準備	講義風景
	
体験講習	審判講習

M-1 長野県長野市 11月30日(日)

	
今回のチラシが掲示されていました。	講習会は安井さんが担当。 スライドを見ながら説明
	
実技の始めは椅子に座って行いました。	実技は箕島さんが担当。

M-2 滋賀県栗東市 12月14日(日)

	
講義風景	
	
実戦でルールを学びます	

M-3 石川県野々市 12月20日(土)

	
スライドは、ホワイトボードに映し説明。	講習会は安井さんが担当。 スライドを見ながら説明
	
斎門さんによる実技は、始めは椅子に座って行いました。	斎門さんの説明を聞きながら、受講者の方もラケットを持って確認されていました

M-4 三重県伊勢市 12月21日(日)

	
パワーポイントで説明します	ネットのセットの仕方も重要!
	
ルールを確認しながら進めます	

W-1 島根県出雲市 8月24日(日)

	
会場入り口の看板	指導員の講義
	
アンテナの位置は・・・	指導員の実技

W-2 広島県三原市 10月18日(土)

	
講義	講義
	
実技	体育館(裏)

W-3 徳島県徳島市 11月9日(日)

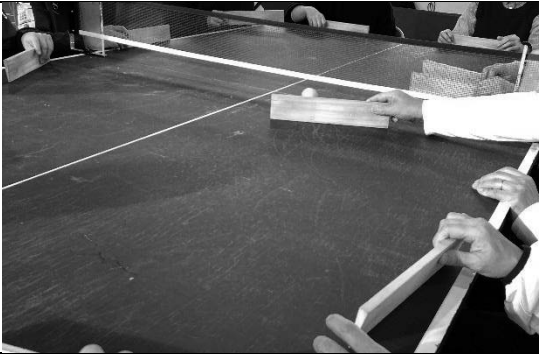
	
卓球台を机に講義	ネットのはり方
	
実技研修	大会での実技研修

事業② 卓球バレー体験教室

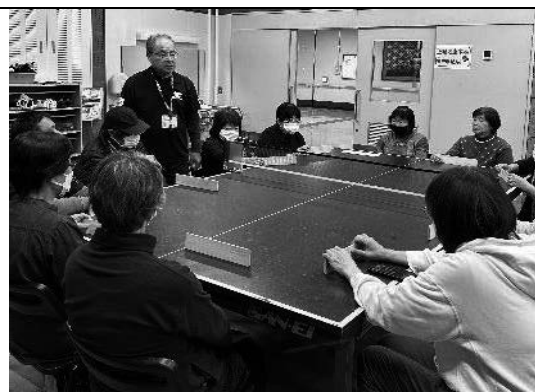
E-1 千葉県船橋市 6月29日(日)

	
体験会(1)	体験会(2)
	
体験会(3)	体験会(4)

E-2 青森県弘前市 11月24日(月・祝)

	
体験風景 1	体験風景 2
	
体験風景 3	体験風景 4

M-2 滋賀県草津市 12月14日(日)



体験会の様子



参加者の皆さん

M-3 石川県野々市 12月20日(土)



参加者は集中してボールを追いかけます



順番に主審、副審としても体験



後半は本格的な試合を楽しんでいます

W-1 島根県出雲市 8月24日(日)



最初はゆっくり



ルールなど説明しながら進めました



もっと強く打っていいよ



皆さんで、楽しかったで～す

W-2 広島県三原市 10月18日(土)



体育館入口



始まり



審判は実技の続き



皆さんで、楽しかったで～す

W-3 徳島県徳島市 11月9日(日)



体験会(徳島大会)開会式



白熱した試合でした



ラケット持って構えてね



審判の実技研修でも

事業③ 東ブロック公認 卓球バレー交流大会

E 岩手県盛岡市 2025 年 10 月 19 日

岩手県卓球バレー交流大会 2025



大会前日の審判員会議
真剣です!(^^)!



開会式 連盟理事長挨拶
はるばる九州から〜♪



試合の様子



試合の様子



昼食時の審判員ミーティング



奥コートは全国大会優勝チーム アスレクト



おつかれさまでした(*^_^*)

事業③ 中ブロック公認 卓球バレー交流大会

M 滋賀県草津市 2025 年 8 月 31 日

2025 中ブロック 卓球バレー交流大会

	
開会式 ブロック長挨拶	ベテランチームのチャレンジクラスの試合
	
ベテランチームのチャレンジクラスの試合	新しくできたチームの若あゆクラスの試合
	
新しくできたチームの若あゆクラスの試合	嬉しさいっぱい表彰式

事業③ 西ブロック公認 卓球バレー交流大会

W 佐賀県佐賀市 2025 年10月5日

第15回ムツゴロウ杯卓球バレー交流大会

	
審判研修会①	審判研修会②
	
試合の様子①	試合の様子②
	
閉会式	審判員

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	日本卓球バレー連盟		
全体事業名	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業		
総委託費	1,833,460	決算額	1,815,294
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	本助成金を活用した事業は3年目を迎え、当初の計画通り「卓球バレー指導者・審判員養成講習会(事業①)」と「卓球バレー体験教室(事業②)」の継続事業に加え、「卓球バレー」に興味を持った障がい者・資格取得者が活動を継続できるための仕組み作りや動機づけとして、新規の「ブロック公認 卓球バレー交流大会(事業③)」を加えた3事業を完遂した。 継続事業①②は本連盟が普及したい地域を優先したことで、会場および参加者の確保に時間を要した場面もあったが、実施後のアンケートでは次年度の継続を望む声が大半を占めている。 新規事業③の「ルールの正しい理解」と「審判技術レベルの統一化」を兼ねた大会の開催は、参加チームや審判から、これまでにない取り組みとして評価され効果の芽生えを感じている。なお、各ブロック1回の開催であるため、今回参加できなかったチームや審判からも参加機会の継続設定を希望する声が寄せられているため、次年度以降もこれらの要望に応える準備を進めたい。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	【地方協会の新設と加盟促進】 三重県にて県協会が設立し本連盟に加盟。また千葉県においても県協会が発足し、次年度以降に本連盟加盟に向け精力的な活動を展開している。 【地域主導による大会開催の実現】 石川県宝達志水町において、資格取得者が運営主導し初の地域大会を開催。初大会ながら地域から7チームの参加があり地域に根差した活動へと発展しつつある。 【競技力向上】 ブロック公認大会を通じて、県境を越えたチーム交流を実現。チーム間で技術指導の授受が自発的に行われるなど、競技に対する士気向上が見られた。 【審判員の技術習熟と組織力の強化】 チームのレベル向上に伴い、審判員の間でも「より質の高い審判技術」への意識が高まった。審判員同士の連携が深まり、課題の共有と対応策を迅速に講じる体制が整ったことは、競技運営の質を担保する大きな成果である。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	・「卓球バレー指導者・審判員養成講習会(事業①)」と「卓球バレー体験教室(事業②)」を同日・同会場で実施することにより、本連盟から派遣する指導者の旅費を半減することができた。 ・本事業3年目ということもあり、各ブロックで講習会や体験教室運営のノウハウ継承が進み主体的に動くことができる指導者の育成につながりつつある。今後は開催地近隣地区から指導者を派遣する・派遣指導者数を参加者数に合わせ人数を絞ることで更なる効果向上を目指す。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	【卓球バレー指導者・審判員養成講習会(事業①)】 講義・実技ともに受講者からルール運用に関する具体的な質問が相次ぎ、指導者・審判員として積極的に競技普及に携わろうとする高い意欲が示された。 【卓球バレー体験教室(事業②)】 ・参加者の大半から「非常に楽しかった」「今後も継続して参加したい」との高い満足度を得られた。 ・「次は試合形式でプレーしたい」「実際の大会に出場してみたい」といった声が寄せられ、体験から競技継続へのスムーズな動機づけができていたことが確認された。 【ブロック公認 卓球バレー交流大会(事業③)】 ・選手からは「負けて悔しい、次は勝ちたい」という競技者としての熱意ある声が聞かれ、練習の継続と次回大会への参加に向けた強いモチベーションを形成している。 ・審判員の説明が分かりやすくルールへの理解が深まったことや「高い技術を持つ審判員からの指導を継続して仰ぎたい」などの評価をいただいた。競技レベルの向上において、選手への技術指導のみならず、審判員の育成が不可欠であることを再認識する機会となった。		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	・「卓球バレー指導者・審判員養成講習会(事業①)」「卓球バレー体験教室(事業②)」において、開催地との調整に時間を要し、実施時期が11月・12月に集中する結果となった。この反省を活かし、次年度は開催地の選定プロセスを見直すとともに、早期の交渉開始や広報期間の確保に努めバランスの良い事業実施を目指す。 ・継続要望が非常に高い「ブロック公認 交流大会(事業③)」を事業の柱に据え、さらなる充実に注力する。パラスポーツ関係者との協働に加え、教育機関や行政との連携を強化する等、参加層の拡大と地域に根ざした持続可能な大会運営体制を構築していく。		
その他所見	本委託事業は受託3年目を迎え、各ブロックにおいて事業計画立案や開催地との連携を主体的に行える指導者の育成が進展した。一方で、事業実施そのものが目的化し、形骸化する兆しも見られた。 また、「卓球バレー」が地域におけるパラスポーツ振興や障がいのある方の社会参加、共生社会の実現に資する競技であることを再確認した。地域や関係団体を巻き込んだ取組が各地で展開され、普及は新たな段階に入っている。今後は、普及要請のある地域を精査し、ニーズの高い地域へ重点的に事業を展開することを検討する。 さらに、事務・経理面ではマニュアルやフォーマットの整備により標準化が進んでいるが、属人的な運用が課題であり、次年度以降は情報共有体制を強化し、持続可能な運営基盤の早期確立を目指す。		

【事業名】パラダンススポーツ体験会

◆【事業内容①】パラダンススポーツ体験会

一般社団法人日本パラダンススポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラダンススポーツ協会		
◆計画書作成者	浅見明子		
◆企画・実施担当者	浅見明子・増田和子	◆経理担当者	長谷川夕夏

全体事業名称	パラダンススポーツ体験会
委託費	1,530,000円
地域の実情・課題点	パラダンススポーツは認知度の低いスポーツです。 現在日本のパラダンススポーツは、当協会のある東京都渋谷区を拠点として活動を行っています。また関東圏のみ講師者が在籍しています。日本国内には他にパラダンススポーツ専門の指導者が普及していません。関西、中部地方の選手には、年間に数回、選手の要望があり講師が大阪や広島まで遠征し指導を行っています。必要によっては撮影した映像をみてオンラインでの指導を行っています。始めたいと考えている人がいても始められない、競技として上位を目指したい選手が競技力向上を目指した練習を行うことが難しい現状です。 都内には、専門性の高い指導者がおり、「競技用車いす貸し出しプロジェクト」によって全国10か所に競技用車いすを置いているにも関わらず、指導者がいないため生かしきれていない現状です。 また、昨年度の「地域におけるパラスポーツの振興事業」助成による体験会の実施を通じて、各地にパラダンススポーツへのニーズがあることも確認できたが、これを活かしてきれていない。
総合的な事業の目的	地域のJPDSA登録団体と連携し、協力体制を取れる繋がりを形成し体験会を開催する。当事者対象の体験会に留まらずサポーターの発掘や繋がりが育成も視野にいれる。2年目となる地域では、具体的に共同事業が実施できるように関係性を深めていくこととする。特に、教育関係者との連携を深めることを重視する。
総合的な事業のねらい	昨年度の「地域におけるパラスポーツの振興事業」助成により実施した体験会を通じて、継続活動の希望があった2地域(北海道、千葉)で、現地のかたとの連携をより密にした体験会を実施する予定(今回はJPDSA主導だったが、今回は協業する)。 加えて、本事業の報告会でつながることができた岡山市の小学校にて体験会を実施し、若年層へ及び、教育関係機関との協力強化を通じた普及体制の構築を目指す。

事業名	
事業①	パラダンススポーツ体験会
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本パラダンススポーツ協会		
事業名	パラダンススポーツ体験会		
事業内容	パラダンススポーツの体験会。ラテンやスタンダードの曲に合わせてシングル・コンビ・デュオ種目の体験。対象は選手となりうる車いすユーザー（ドライバー）と健常者（スタンディング）。初心者、経験者問わず。指導者希望も含む。 競技継続サポート及び体験会当日の実践として、各地域のパラスポーツ指導者にサポート方法の指導と当日のサポートを依頼		
開催日時	①2025年7月12日 ②2025年8月30日 ③2025年9月13日 ④2025年10月4日 ⑤2025年11月11日 ⑥2025年12月20日 ⑦2026年1月17日 ⑧2026年1月31日		
会場	①函館アリーナ（函館市） ②ふれあいプラザ（我孫子市） ③函館アリーナ（函館市） ④中山福祉プラザ（広島市） ⑤芥子山小学校（岡山市） ⑥函館アリーナ（函館市） ⑦小郡交流センター（小郡市） ⑧中山福祉プラザ（広島市）		
参加者	①4名 ②8名 ③4名 ④6名 ⑤135名 ⑥5名 ⑦10名 ⑧4名		
人員体制	①講師3名、サポートスタッフ2名 ②講師3名、サポートスタッフ7名 ③講師4名 ④講師2名 ⑤講師5名、サポートスタッフ4名 ⑥講師4名、サポートスタッフ1名 ⑦講師3名、サポートスタッフ1名 ⑧講師2名、サポートスタッフ1名		
連携団体名（箇条書き）	①③⑥道南地区パラスポーツ指導者協議会、ハダース ②我孫子市、千葉県、千葉県パラスポーツ指導者協議会 ④⑧広島市パラスポーツ指導者協議会 ⑤パラ・パワーリフティング連盟、岡山市パラスポーツ指導者協議会 ⑦レクダンス協会		
実際の事業での連携団体の役割	すべて…広報（会員へのチラシ配布、地域施設へチラシの掲示、Webサイトでの告知）、募集（参加者、サポートスタッフの募集） ①③⑥、④、⑦…競技車の貸し出し		
本事業におけるパラスポーツ指導者の役割・活用について	練習会を独自で開催できるよう競技車の組み立て・基本的なメンテナンスチェック項目の知識、技術を習得し、パラダンススポーツが地域で根付くきっかけとなる人材として、体験会を通して実践的に活動してもらう。	本事業におけるパラスポーツ指導員の実人数	17名
		本事業におけるパラスポーツ指導員の延べ人数	21名
スポーツ用具の整備・活用について	「車いす貸し出しプロジェクト」により全国にある競技車を活用し、使用状況や使用方法を地域の人たちと共有する場としても体験会を活用。本年は2か所（北海道、広島（レクダンス協会））にて開催した。		

【事業内容①】の事業写真

1 事業写真

(1) 【事業名】パラダンススポーツ体験会 受付・集客など

事業の様子

	
7/12 北海道入口	8/30 我孫子入口
	
広島 受付の横 チラシ配布	11/11 岡山 学校入口
	
広島市障害者スポーツ協会 Web サイト	広島県お洗スポーツ協会 Web サイト

【事業内容②】の事業写真

1 事業写真

(2) 【事業名】パラダンススポーツ体験会 体験会の様子

事業の様子



我孫子 シングル体験



広島 コンビ体験



岡山 選手デモ実演の様子



岡山 選手デモ実演の様子



函館 パラダンススポーツの説明



福岡 コンビの体験

【事業内容②】の事業写真

1 事業写真

(3) 【事業名】パラダンススポーツ体験会 集合写真

事業の様子



北海道1 集合写真



我孫子 集合写真



北海道2



広島 集合写真



岡山 1 時間目



岡山 2 時間目



岡山 3 時間目



岡山 4 時間目



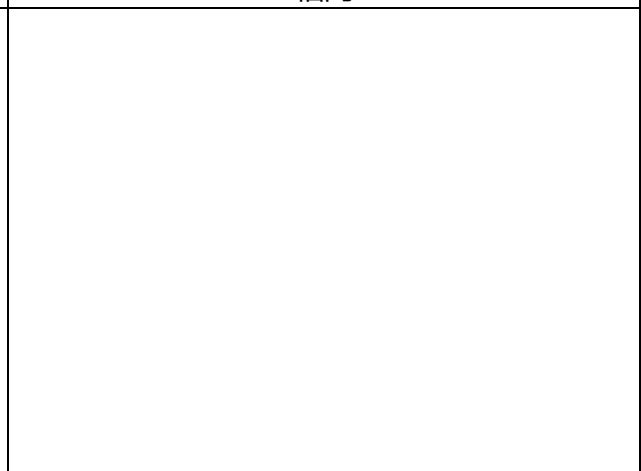
北海道3 集合写真



福岡



広島2



令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」事業評価シート

受託団体名	一般社団法人 日本パラダンススポーツ協会		
全体事業名	パラダンススポーツ体験会		
総委託費	1,530,000	決算額	1,506,427
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	体験会全体として当初の目的達成以上、また、今回目的としていなかった項目での成果を出すことができた。地域との連携や地方団体の登録、選手の発掘、体験会回数を追加など成果を出すことができた。逆に、障害当事者の参加という面では、当初の目的を大幅に下回ってしまう結果となった。チラシ・SNS活用・地域のパラスポーツ団体への呼びかけに募集方法が限られてしまい、当事者に直接リーチする募集方法を検討する必要があると感じた。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	北海道の体験会では、地域のパラスポーツクラブ（車いすバスケットボールチーム）と連携することにより、競技車の輸送コストが削減できたとともに、パラダンススポーツへの興味をもち練習会への参加や当事者同士の横の繋がりを作ることができた。 また岡山の小学校での体験会では、5年生の授業の1つとして組み込んだ実施だったが、昼休みなどの時間を使って、他学年（2年生）の当事者の参加や教員の皆さんが興味をもって体験してくれ、次年度以降の開催も期待の聲があがり、パラダンススポーツの教育的意義や側面をスタッフ側も感じることもできた。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	当初予算建てしていた費用よりも地域の連携により費用を抑えて実施できることを実体験でき、次年度以降も継続して地域への働きかけを行うべきだとわかった。しかしながらこのような事業を継続するには根本から資金がないため、地域での指導者やサポートの育成を行い、自立した団体を確実に作っていく必要があると感じている。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	参加者からは、「楽しかった」というポジティブな声を毎回いただいている。車いすの操作やダンスの動きに対しては、「気持ち良かった。こんなに速くまわったり動いたりできるとは思わなかった。」と対象に「手で動くのは大変だった。選手の人は軽やかに動いているのに思った以上に大変だった。」という意見があった。 希望として「継続してやってほしい」という声をあがっている。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	参加者からの「継続してやってほしい」という声に対し、地域で自分たちで練習できる環境づくりにも注力して事業を実施していく必要があると感じ、地域でできること、協会としてサポートできることなど地域で軸となる人・団体づくりを次年度から取り入れていきたい。 また、障害当事者の参加者を増やす、体験会の情報がリーチするよう体験会の宣伝・広報に力をいれていく。		
その他所見	追加で開催した福岡での体験会は、これまで繋がりなかった車いすレクダンス協会と連携して開催を試みることができた。実施後には、「レクリエーション」と「競技」の垣根を越えて連携していきたい。という声をいただき、当協会として大きな繋がりをつくることができた。 設立以降、「車いすダンス」関連の団体と繋がるのが難しかったが体験会を通して連携をとることができ、今後も他団体へのアプローチを行っていきたいと感じた。		

地域における車椅子ソフトボール振興事業

- ◆【事業内容①】 車いすソフトボール体験会 in 新潟
- ◆【事業内容②】 車いすソフトボール体験会 in 大阪
- ◆【事業内容③】 車いすソフトボール体験会 in 岩手
- ◆【事業内容④】 車いすソフトボール体験会 in 広島
- ◆【事業内容⑤】 チーム設立支援(青森)
- ◆【事業内容⑥】 車いすソフトボール体験会 in 千葉

一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
◆計画書作成者	下川友暉		
◆企画・実施担当者	高山樹里	◆経理担当者	柴田恭平

全体事業名称	地域における車椅子ソフトボール振興事業
委託費	
地域の実情・課題点	全国で講習会や大会を開催して車椅子ソフトボールの普及や選手育成に取り組んでいるが、地方での競技人口が少なく、また地方では車いすやグラウンドなど環境が十分に整っていないため、車椅子ソフトボールに触れる機会がないのが実情です。 体験会を行うことで各地域での競技の認知・関心をもってもらい、競技に取り組んでもらうことに繋げていくことが狙いです。
総合的な事業の目的	体験会を実施することで、競技人口を増やすとともに地域との連携を築いていき、車椅子ソフトボールに取り組む選手や関係者の意識高揚につなげ、各地域で競技を楽しむ人・機会を増やす事が目標である。 ①競技人口の増加:【2023登録チーム】22チーム⇒【2028目標】30チーム ②選手層の拡大:【2023新規登録者】約300人⇒【2028までに】約500人 ③競技レベルの向上:【2023大会出場チーム】9チーム⇒【2028目標】16チーム ④国際大会での活躍:現在ワールドシリーズ3年連続「世界一」であるがそのレベルを落とさず、代表選出に向けた競争を高める。 ⑤車椅子スポーツ文化の浸透:【2023チーム所在地】14都道府県⇒【2028目標】22都道府県 最終的に各都道府県に1チーム以上設置を目標とし、その他車椅子競技との交流等を図る。
総合的な事業のねらい	・新たな人材の発掘:車椅子ソフトボールの魅力を知ってもらうことで、新たな競技者・協力者を増やします。 ・地域との交流:地域の方が参加することで、地域内の交流を深めます。 ・障がい者スポーツの環境構築:競技を通じ、障がい者スポーツに対する理解を深め地域での競技環境を構築していきます。

事業名	
事業①	車椅子ソフトボール体験会 in 新潟
事業②	車椅子ソフトボール体験会 in 大阪
事業③	車椅子ソフトボール体験会 in 岩手
事業④	車椅子ソフトボール体験会 in 広島
事業⑤	チーム設立支援(青森)
事業⑥	車椅子ソフトボール体験会 in 千葉

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
事業名	車椅子ソフトボール体験会 in 新潟		
事業内容	大分県には車椅子ソフトボールチームがないため、新チームの設立を目的とする体験会を実施。5人以上の障がい者が参加することを目標とする。また、実施地域においての競技普及・育成に協力してくれる団体・個人との関係構築を行う。		
開催日時	7月5日(土)		
会場	新潟医療福祉大学 第一体育館 (新潟市北区島見町1398番地)		
参加者	18名		
人員体制	事務スタッフ(団体事務局)、運営・指導スタッフ・補助員(スポーツセンター・指導者協議会等)		
連携団体名 (箇条書き)	新潟医療福祉大学 新潟県障がい者スポーツ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	体験会の広報活動支援、競技の普及促進、参加者への 情報提供やサポート、今後の競技環境整備の相談対応		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者への基礎技術指導(バッティング、スローイング、キャッチング)、車椅子ソフトボールのルール解説および実技指導、ミニゲームの進行サポート、参加者の安全管理と適切なアドバイスの提供	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
事業名	車椅子ソフトボール体験会 in 大阪		
事業内容	パートナーシップ協定を結ぶ東大阪市で、競技の普及・促進を目的に体験会を実施。基本技術指導やミニゲームを通じて参加者に競技の魅力を伝えた。近畿地方での競技普及を進めるため、地域の協力団体・個人との関係構築も図った。		
開催日時	7月20日(日)		
会場	東大阪市立ウィルチェアースポーツコート (東大阪市松原南1丁目1)		
参加者	17名		
人員体制	協会スタッフ、代表選手		
連携団体名 (箇条書き)	東大阪市 東大阪市中学校		
実際の事業での 連携団体の役割	会場の使用		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者の安全管理、参加者への基礎技術指導	本事業における 障がい者スポーツ指導員の 実人数	2
		本事業における 障がい者スポーツ指導員の 延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について	なし		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
事業名	車椅子ソフトボール体験会 in 岩手		
事業内容	岩手では現在1チームのみが活動しており、地域やチーム単位での体験会が実施されていない。そこで、協会主催の体験会を計画し、競技の普及・促進を進める。基本技術指導やミニゲームを通じて参加者に競技の魅力を伝え、さらに、普及・育成に協力する団体・個人とのネットワーク拡大を目指す。		
開催日時	9月28日(日)		
会場	富士大学室内トレーニングセンター (岩手県花巻市下根子450-3)		
参加者	25人		
人員体制	協会スタッフ、代表選手		
連携団体名 (箇条書き)	富士大学		
実際の事業での 連携団体の役割	体験会の広報活動支援、競技の普及促進、参加者への 情報提供やサポート、今後の競技環境整備の相談対応		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者への基礎技術指導(バッティング、スローイング、キャッチング)、車椅子ソフトボールのルール解説および実技指導、ミニゲームの進行サポート、参加者の安全管理と適切なアドバイスの提供	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
事業名	車椅子ソフトボール体験会 in 広島		
事業内容	広島では現在1チーム活動しており、地域やチーム単位での体験会が実施されていない。そこで、協会主催の体験会を計画し、競技の普及・促進を進める。基本技術指導やミニゲームを通じて参加者に競技の魅力を伝え、さらに、普及・育成に協力する団体・個人とのネットワーク拡大を目指す。		
開催日時	10月11日(土)・12日(日)		
会場	広島みなと公園 (広島市南区宇品海岸1丁目)		
参加者	15人		
人員体制	事務スタッフ(団体事務局)、運営・指導スタッフ・補助員(スポーツセンター・指導者協議会等)、代表選手、クラブチームスタッフ		
連携団体名 (箇条書き)	FOOT&work		
実際の事業での 連携団体の役割	事務スタッフ(団体事務局)、運営・指導スタッフ・補助員(スポーツセンター・指導者協議会等)、代表選手 会場の借用		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者の安全管理、参加者への基礎技術指導	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
事業名	チーム設立支援(青森)		
事業内容	青森県には車椅子ソフトボールチームがないため、新たなチーム設立を目的とした支援事業を実施した。体験会を通じて参加者の関心を集め、その後、チーム設立に向けた具体的な支援を行い、地域での競技活動の基盤を作ることを目指した。この取り組みによって、青森県内での車椅子ソフトボールの普及を行う。		
開催日時	10月5日(日)		
会場	青森県立保健大学 (青森県青森市大字浜館字間瀬58-1)		
参加者	13人		
人員体制	事務スタッフ(団体事務局)、運営・指導スタッフ・補助員(スポーツセンター・指導者協議会等)、代表選手、クラブチームスタッフ		
連携団体名 (箇条書き)	公立大学法人青森県立保健大学 一般社団法人青森県理学療法士会 一般社団法人青森県作業療法士会		
実際の事業での 連携団体の役割	体験会の広報活動支援、競技の普及促進、参加者への情報提供やサポート、今後の競技環境整備の相談対応		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者の安全管理、参加者への基礎技術指導	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	3
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
事業名	車いすソフトボール体験会 in千葉		
事業内容	千葉県には車椅子ソフトボールチームがないため、新たなチーム設立を目的とした支援事業を実施した。体験会を通じて参加者の関心を集め、その後、チーム設立に向けた具体的な支援を行い、地域での競技活動の基盤を作ることを目指した。この取り組みによって、青森県内での車椅子ソフトボールの普及を行う。		
開催日時	12月20日(土)		
会場	イオンモール木更津 (千葉県木更津市築地1-4)		
参加者	20人		
人員体制	事務スタッフ(団体事務局)、運営・指導スタッフ・補助員(スポーツセンター・指導者協議会等)、代表選手、クラブチームスタッフ		
連携団体名 (箇条書き)	清和大学 女子ソフトボール部		
実際の事業での 連携団体の役割	体験会の広報活動支援、競技の普及促進、参加者への情報提供やサポート、今後の競技環境整備の相談対応		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	参加者の安全管理、参加者への基礎技術指導	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について			

【事業内容①】の事業写真

① 事業写真

(1) 【事業名】 車いすソフトボール体験会 in 新潟
事業の様子



体験会始めの説明



集合写真

【事業内容②】の事業写真

① 事業写真

(1) 【事業名】 車いすソフトボール体験会 in 大阪

事業の様子



ティーを使った練習



日本代表選手からの指導



トスバッティング



集合写真

【事業内容③】の事業写真

① 事業写真

(1)【事業名】 車いすソフトボール体験会 in 岩手

事業の様子

	
模擬試合	模擬試合
	
用意した車椅子	あいさつ
	
新聞記事(岩手日報)	

【事業内容④】の事業写真

① 事業写真

(1)【事業名】 車いすソフトボール体験会 in 広島

事業の様子

	
参加者集合写真	模擬試合
	
終了後	

【事業内容⑤】の事業写真

① 事業写真

(1)【事業名】 車いすソフトボール体験会 in 青森

事業の様子

	
集合写真	あいさつ
	
練習風景	練習風景
	
終了時	

【事業内容⑥】の事業写真

① 事業写真

(1)【事業名】 車いすソフトボール体験会 in 千葉

事業の様子

	
ウォームアップ	集合写真

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
全体事業名	地域における車椅子ソフトボール振興事業		
総委託費	2,370,400	決算額	1,899,640
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	5つの地域での体験会が実施できた。(新潟、広島、千葉、岩手、大阪) 岩手や新潟については、初開催となったが、大学と連携したことにより、学びが大きかったと思う。 大学から地域との連携も呼びかけてもらったが、まだ活用できる部分もあったと思うのでさらに活用していきたい。 青森については正式にチームの発足となり、2026年度からチーム登録を行う。非常に大きい成果だと感じる		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	人数を適正な形で実施できたことで、選手と参加者の距離は近くなり、車椅子ソフトボールに本格的に触れることはできたのではないかと感じる。 青森にチームが発足できたことは成果だと考えている		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	昨年に引き続きになるが、競技用車椅子の運搬には費用が掛かると感じる。 それに伴う、運搬に関わるレンタカーや人件費も同様である。 日本代表選手の派遣については、より専門的な選手を派遣できたことで参加者の満足度にはつながったと感じる		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	日本代表選手とまじかで体験ができて楽しかった。 競技用の車椅子に乗るのは初めてだったので楽しかった チームを発足させたい		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	地域での継続的な体験会の開催と、選手の発掘が重要だと感じる。 47都道府県、どこでも、車椅子ソフトボールが参加できるような仕組みを目指して取り組みたいと感じる。		
その他所見	継続していきたい 地域と大学との連携をより図っていききたいと考える		

【事業名】

4ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会

- ◆【事業内容①】東北ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
- ◆【事業内容②】関東ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
- ◆【事業内容③】中四国ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
- ◆【事業内容④】北信越ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会

一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟		
◆計画書作成者	中島昭博		
◆企画・実施担当者	中島昭博	◆経理担当者	阿南孝志

全体事業名称	4ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
委託費	1,100,000円
地域の実情・課題点	当連盟では、障がいのある人たちが障がいの種類や程度、ライフステージやニーズに応じて、身近な地域で日常的にスポーツを楽しめるような環境を整え、車いすハンドボールの普及拡大を実現するための取り組みを行っている。しかし、車いすハンドボールの普及振興を行っていくうえで、従来の普及地域とそれ以外の未普及地域との格差が大きい現状である。そこで、2024年に初めて全国大会を開催した岩手県を含む東北ブロック、2025年全国大会を開催する徳島県を含む中四国、来年度関東では初の開催となる神奈川県を含む関東ブロック、さらに未普及地域の北信越ブロック(当初九州の予定を変更)に対して車いすハンドボールの活動が定着するように場づくりを進めていきたい。 そのため各地域で拠点となる場づくりと支援者や指導者等の人材の育成が急務となっている。
総合的な事業の目的	本事業は健常者と障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的に車いすハンドボールに参加し、パラスポーツで共生社会を実現することを目的に実施する。本事業をきっかけに地域の自治体やスポーツ団体、関係者等と連携・協働し、教室等でのスポーツ指導やイベント等の事業の企画に携わることで、地域全体のパラスポーツの振興体制に寄与していきたい。
総合的な事業のねらい	そのためのステップ1としてモデル地区を選定し、該当地域の車いすユーザーがスポーツをする環境を整え、指導の担い手および関係団体と連携協力し、継続できる運営体制の構築を目指す。当事者の車いすハンドボールをする場の普及及び未普及地域の開拓につないで、ライフスポーツとしての車いすハンドボールの普及拡大を図り、2026年第4回車いすハンドボール世界選手権および2032年ブリスベン大会から採択予定のパラリンピックに向けて日本代表選手の発掘と日本チームの強化につなげたい。

事業名	
事業①	東北ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
事業②	関東ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
事業③	中四国ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
事業④	北信越ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟		
事業名	東北ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会		
事業内容	6月28日:岩手関係者を対象 ・講義Ⅰ「車いすハンドボールの歴史と現状」 日本車椅子ハンドボール連盟専務理事 中島昭博 ・講義Ⅱ「車いすハンドボール世界選手権と競技規則」 日本車椅子ハンドボール連盟理事 柏葉公平 ・体験会「車いす基本操作、パス、ドリブル、シュート、ゲーム」日本車椅子ハンドボール連盟普及委員 大和田洋平 ・審判講習 国際審判:中島昭博、柏葉公平	6月29日:岩手および宮城関係者を対象 ・講義Ⅰ「車いすハンドボールの歴史と現状」 日本車椅子ハンドボール連盟専務理事 中島昭博 ・講義Ⅱ「車いすハンドボール世界選手権と競技規則」 日本車椅子ハンドボール連盟理事 柏葉公平 ・体験会「車いす基本操作、パス、ドリブル、シュート、ゲーム」日本車椅子ハンドボール連盟普及委員 今野育男 ・審判講習 国際審判:中島昭博、柏葉公平	
開催日時	令和7年6月28日 13:00-13:10 開会行事 13:15-14:10 講義「車いすハンドボールの歴史と現状」 14:15-15:10 講義「車いすハンドボールの競技規則」 15:15-16:45 体験会:車いす基本操作、パス、ドリブル、シュート、ゲーム(審判講習を兼ねる) 16:50-17:00 閉会行事	令和7年6月29日 9:00- 9:10 開会行事 9:15-10:10 講義「車いすハンドボールの歴史と現状」 10:15-11:10 講義「車いすハンドボールの競技規則」 11:15-12:10 体験会:車いす基本操作、パス、ドリブル、シュート、ゲーム(審判講習を兼ねる) 12:15-13:15 昼食、休憩 13:15-15:50 ゲーム(審判講習を兼ねる) 15:50-16:00 閉会行事	
会場	花巻市青少年ホーム体育館 〒025-0093岩手県花巻市南川原町272 Tel 0198-23-4839		
参加者	盛岡市:漆真下伸一、朝岡徹、工藤彰一 花巻市:神山慶子、神山颯斗、阿部聖子、柏葉公敬、柏葉律子、柏葉そら、柏葉葵 以上、10名		
人員体制	合計 16名 【内訳】 講師:中島昭博、柏葉公平、大和田洋平、今野育男 以上、4名 運営スタッフ:北田佳奈、兼子葵、勝又文彦、熊倉崇史、馬場ひとみ、佐藤景太、鷹鷲寿之、小野寺健一、平館祐二、奥寺慎也、宮古幸夫、高橋秀男 以上、12名		
連携団体名(箇条書き)	・花巻市 ・花巻市青少年ホーム ・花巻市ハンドボール協会 ・岩手車いすハンドボール協会 ・宮城車いすハンドボール協会		
実際の事業での連携団体の役割	・花巻市:市広報掲載による案内周知 ・花巻市青少年ホーム:会場提供 ・花巻市ハンドボール協会:ホームページ等で案内周知 ・岩手車いすハンドボール協会:実技対応 ・宮城車いすハンドボール協会:実技対応		
本事業におけるパラスポーツ指導者の役割・活用について	中級パラスポーツ指導員の中島が講師を務めた。初級・中級パラスポーツ指導員が1名ずつ参加した。その方々には審判等、運営協力者として今後継続して関わっていただけることとなった。	本事業におけるパラスポーツ指導員の実人数	3
		本事業におけるパラスポーツ指導員の延べ人数	3
スポーツ用具の整備・活用について	事業実施の開始時期との関係で整備・活用が間に合わず、地元関係者から借用した。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟		
事業名	関東ブロック車椅子ハンドボール体験会・指導者審判講習会		
事業内容	講義「車椅子ハンドボールの現状と競技規則」 日本車椅子ハンドボール連盟専務理事 中島昭博 講義「車椅子ハンドボールのゲームと審判法」 日本車椅子ハンドボール連盟 理事 柏葉公平 実技「車椅子ハンドボールのトレーニング」 車椅子ハンドボール日本代表 諸岡晋之助 講義「車椅子ハンドボールクラブ立ち上げと運営」 一般社団法人Knockü 代表 岡田美優		
開催日時	2025/8/16 10:00- 開会行事 10:10- 講義「車いすハンドボールの現状と競技規則」 11:00- 講義「車いすハンドボールのゲームと審判法」 12:00- 実技「車いすハンドボールのトレーニング、ゲーム」 13:00- 昼食、休憩 14:00- 講義「車いすハンドボールクラブの立ち上げと運営」 15:00- 閉会行事		
会場	千葉ポートアリーナ 〒260-0025千葉県千葉市中央区間屋町1-20 Tel 043-241-0006		
参加者	青木暁、富田拓、大塚清彦、山本彩椰、飯山雅司、大月美陽、 山島花音 以上、7名		
人員体制	合計 16名 【内訳】 講師：中島昭博、柏葉公平、諸岡晋之助、岡田美優 以上、4名 運営スタッフ：仲田稔、津郷琉也、竹川真園、伊藤咲、深瀬蔵 之助、正野健志朗、七海航基、青柳圭祐、石塚秀冴、飯山雅 司、山島花音、大谷颯 以上、12名		
連携団体名 (箇条書き)	・千葉県ハンドボール協会 ・神奈川県ハンドボール協会 ・一般社団法人Knockü		
実際の事業での 連携団体の役割	・千葉県ハンドボール協会：開催案内周知 ・神奈川県ハンドボール協会：2026年全国大会開催に備え て、当該協会理事長兼事務局長が参加 ・一般社団法人Knockü：会場確保、実技対応		
本事業における パラスポーツ指導者 の役割・活用について	中級パラスポーツ指導員の中島が講師を務めた。 初級パラスポーツ指導員が参加した。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	5
スポーツ用具の 整備・活用について	簡易ゴールを活用し、十分なシュート体験の機会を補償することができた。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟		
事業名	中四国ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会		
事業内容	講義「車椅子ハンドボールの動向と競技規則」 日本車椅子ハンドボール連盟 副会長 仲田稔 実技「車いすハンドボール体験と練習方法」 日本車椅子ハンドボール連盟 理事 歴舎敦輝 車椅子ハンドボール日本代表 主将 安田孝志 ゲーム・審判研修 仲田稔、車椅子スポーツチームAcro		
開催日時	令和7年11月3日(月) 9:30 受付 9:50 開会行事 10:00 講義「車いすハンドボールの動向および競技規則」 11:00 実技「車いすハンドボール体験と練習方法」 12:00 昼食、休憩	13:00 ゲーム・審判研修 14:50 閉会行事 15:00 閉会	
会場	鳴門大崎・スポーツパーク(アミノバリューホール) 〒772-0017徳島県鳴門市撫養町立岩字四枚61 Tel 088-685-3131		
参加者	松田(徳島県吉野川市)、村中(徳島県鳴門市)、谷口(徳島県三好市)、橋本(徳島県鳴門市)、木野(徳島県徳島市)、島崎(徳島県徳島市)、平野(徳島県鳴門市) 以上、7名		
人員体制	合計 5名 【内訳】 講師:仲田、歴舎、安田 以上、3名 運営スタッフ:半田、佐藤 以上、2名		
連携団体名 (箇条書き)	・徳島県ハンドボール協会 ・車椅子スポーツチームAcro ・徳島県パラスポーツ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	・徳島県ハンドボール協会:案内周知、参加者派遣、会場設営・撤去 ・車椅子スポーツチームAcro:実技対応 ・徳島県パラスポーツ協会:参加者派遣		
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	徳島県パラスポーツ協会員2名が参加者として協力していただいた。 その後、上記2名に同会場で開催した第23回日本車椅子ハンドボール競技大会のファミリー部門の審判をしていただいた。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	2
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	7
スポーツ用具の 整備・活用について	簡易ゴールを活用し、十分なシュート体験の機会を補償することができた。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟			
事業名	北信越ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会			
事業内容	開会行事 講義「車いすハンドボールの動向と競技規則」 日本車椅子ハンドボール連盟 専務理事 中島昭博 講義「世界の車いすハンドボール事情と日本初のクラブ設立」 一般社団法人 Knocku 代表 岡田美優 実技「車いすハンドボール体験」 日本車椅子ハンドボール連盟 理事 歴舎敦輝	講義「クラシフィケーション」 日本車椅子ハンドボール連盟 理事 長井一樹 リーグH前座イベントとして 車椅子ハンドボール日本代表選手によるデモンストレーションマッチ リーグH 観戦「ハニービー石川 vs アランマーレ富山」 閉会行事		
開催日時	令和 8 年 1 月 17 日(土) 8:40 受付 8:50 開会行事 9:00 講義「車いすハンドボールの世界と日本の動向並びに競技規則」 10:00 講義「世界の車いすハンドボール事情と日本初のクラブ設立」	11:00 実技体験 12:00 エキシビジョン・マッチ 13:00 講義「クラシフィケーション」 14:00 リーグH 観戦 15:30 閉会行事		
会場	金沢市総合体育館 石川県金沢市泉野出町3丁目 8-1 TEL 076-247-0088			
参加者	事前申込者: 城下(石川県金沢市)、岩山(石川県金沢市)、佐藤(石川県金沢市)、金丸(石川県白山市)、阿戸(石川県小松市)、北中(石川県能美市)、佐川(石川県金沢市)、山田夫妻(石川県金沢市) 以上、9名		当日参加者:体験会参加者47名(石川県内、富山県内の小学生から高齢者まで)	
人員体制	合計 25名 【内訳】 講師①講義・実技指導:中島、長井、歴舎、岡田 (4名) 講師②体験会・エキシビジョンマッチ:安田、木村、八橋、北野、諸岡、山島、大谷、大和田 (8名) 運営スタッフ:江川、山本、大石 ボランティア:10名			
連携団体名 (箇条書き)	石川県(スポーツ健康課) 金沢市 株式会社ハニービースポーツ 石川県障害者スポーツ協会 石川県社会福祉協議会 石川県ハンドボール協会 金沢市ハンドボール協会		金沢大学 金沢星稜大学 北陸学院大学 金城大学 公立小松大学 デポルターレHC 金沢リハビリテーションアカデミー	
実際の事業での 連携団体の役割	・石川県、金沢市:後援 ・ハニービースポーツ:会場提供、エキシビジョンマッチ対応 ・石川県ハンドボール協会、金沢市ハンドボール協会:案内周知、参加者派遣 ・上記「連携団体名」に記載した各団体:チラシ配架		国際医療福祉専門学校七尾校:学生及び教員のボランティア10名派遣	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	中級パラスポーツ指導員の中島が講師を務めた。 石川県の上級パラスポーツ指導員1名、中級パラスポーツ指導員1名が参加した。前述の方々には、講習後もリーグH観戦に来場した子どもから大人まで車いすハンドボール体験ブースの対応に自主的に携わっていただくとともに今後、選手にも挑戦する意欲を示していただいた。		本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	3
			本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	10
スポーツ用具の 整備・活用について	簡易ゴール及びボールを活用し、大勢の参加者に十分な体験機会を補償することができた。			

【事業内容①】の事業写真

① 事業写真

(1) 【事業名】 東北ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
事業の様子



柏葉講師による講義の様子



実技体験



実技体験



ゲーム体験&審判講習



1日目の参加者集合写真



2日目の参加者集合写真

【事業内容②】の事業写真

② 事業写真

(2) 【事業名】 関東ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
事業の様子



仲田副会長による開会あいさつ



中島講師による講義の様子



柏葉講師による講義の様子



岡田講師による講義の様子



実技体験



ゲーム体験&審判講習



会場正面

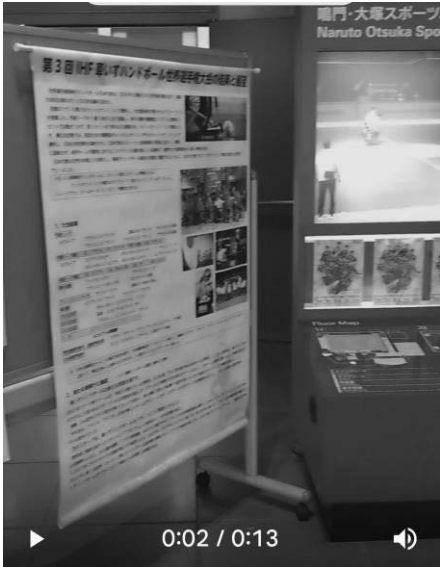
【左の写真】

競技場フロアから、付近のコンビニ、隣接ホテル
までバリアフリーに配慮した会場でした。

【事業内容③】の事業写真

③ 事業写真

(3) 【事業名】 中四国ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
事業の様子

	
半田会長開会あいさつの様子	仲田講師による「歴史と競技規則」講義の様子
	
仲田講師による審判講習	歴舎講師による実技体験
 ※参加者の4名に直後に同会場で開催した全国大会の審判を務めていただきました。	
参加者・スタッフ集合写真	会場入り口に掲示した PR タペストリーと車いすハンドボール世界選手権の映像

【事業内容④】の事業写真

④ 事業写真

(4) 【事業名】北信越ブロック車いすハンドボール体験会・指導者審判講習会
事業の様子

	
岡田講師による講義	ボランティアの皆さん
	
ハンドボールジュニアクラブ向け体験会	同左
	
ボランティア（国際医療福祉専門学校七尾校の学生）対象体験会	ボランティアと日本代表選手
	
事前申込参加者の実技体験	事前申込参加者とスタッフ

	
日本代表選手と当日参加者の実技体験	同左
	
エキシビジョンマッチ前の日本代表選手	日本代表選手によるエキシビジョンマッチ
	
エキシビジョンマッチの実況放送席	エキシビジョンマッチ後、選手と審判
	
リーグ H 観客用に車いすハンド PR ブース設置	リーグ H 観客用車いすハンド体験コーナー
	
リーグ H 公式戦をコートサイドから応援	リーグ H「ハニービー石川 vs アランマーレ富山」

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 事業評価シート

受託団体名	一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟		
全体事業名	地域におけるパラスポーツの振興事業		
総委託費	1,100,000円	決算額	1,068,538円
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	体験会・講習会事業を通して、参加者・支える人にパラスポーツの魅力と楽しさを実感してもらうことができ、実施地域で今後の普及拡大の契機となり、パラリンピック種目の採択に向けて国際的な普及拡大の展開を視野にモチベーション向上の思いに繋がった。東北・関東・北信越ブロック参加者の中から審判やパラスポーツ指導者を目指したいとの声が上がリ、中四国ブロックでは徳島県パラスポーツ協会事務局職員の受講がみられ、直後の車いすハンドボール大会審判に主体的に申し出ていただいたことは、今後の地域での普及活動のきっかけの場となり、人材育成に結びついた。継続した活動を通して、地域の支える人たちの顔が見える関係性が創出され、思いを共有し、支える人たちの一体感や仲間意識の共有に努めて、今後の協力体制が構築された。		
事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）	事業実施に関わった講師および運営スタッフと参加者同士のつながりを深めることができた。地域で自分たちの力で事業を作っていくためにはどうしたらよいかを考え、支援を要する人たちに対して主体的に働きかけていきたいなど前向きな意見が多く見られるようになった。参加者から審判員や指導者を目指して、地域での活動に発展的に携わりたいと希望する声があがり、ブロック未実施の他地域にもモデル化できる手応えをつかむことができた。次年度に向け、未実施ブロックでの展開のほか、行政主催イベントでの体験会実施への企画提案の働きかけが可能となった。		
費用に関する所見（今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて）	今年度は、3地域で継続した活動に主眼をおいて実施するとともに、未普及の1地域で体験会・講習会の参加者を含み、リーグH（ハンドボール最高峰の大会）観戦者にも車いすハンドボールの魅力を知っていただくことができて、有効に活用ができた。会場使用料については、会場地のご厚意によって中四国ブロックを除いて無料で使用させていただくことができ、その分事業内容の充実を図ることができた。今年度の実績を活かして、今後も、未実施地域での普及拡大と基盤づくりにより本事業を活用したい。		
参加者や関係団体からの声（当事者満足度）	【参加者】審判員に挑戦してみたい、共生社会の実現にパラスポーツの果たす役割が大きい、デフ＆車いすハンドボール体験会に参加したい、世界の車いすハンドボール事情と日本初の車いすハンドボールクラブ設立の話が興味深かった、競技用車いすに慣れてくると楽しくプレーできた、車いす操作・重度障害者も楽しめる楽しみ方があれば学びたい、楽しく爽快感が魅力と感じた、すごく面白くて楽しかった、等々の声を寄せていただいた。 【支える人】パラスポーツに携わる者として胸が熱くなりこれからの普及振興への決意が強くなった、ドイツでパラスポーツが文化になっているように日本でも更にパラスポーツの普及活動を進めていきたい、スポーツ全体に対する予算を増額する必要があるそうですね、皆様のチャレンジを応援していますなど、この事業を継続発展させていくことが重要との声があがった。 【行政】クラス分けは公平さを保つために重要なものだと感じた、障害区分について知りたい、指導だけでなく選手としても興味がわいた、等の声を寄せていただいた。		
今後の課題や事業展開（具体的方策・展望）	今事業を通して明らかになった課題の解決に向けて、今後の活動を行う上での予算確保、運営体制を確立させ、継続して展開できる体制を整えるため、当連盟は、車いすバスケットボール等の車いすスポーツを含めたパラスポーツ界発展のためのサポート役として、引き続き連携を図って参ります。		
その他所見	リーグHと連携して、体験会・講習会を開催することで、多くの参加者・観戦者・ボランティアなど人材の掘りおこし・育成に大きく繋がった。 県・社会福祉協議会・障害者高齢者体育館・医療福祉専門学校・大学・障害者スポーツ協会・リハビリテーションアカデミー等に体験会・講習会のチラシを配布し、情報提供を行うことにより参加者の拡大につながった。 国内トップレベルのリーグH理事長の視察もあり、今後の全国展開と連携の可能性についてもコミュニケーションを図ることができた。		

【事業名：視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業】

◆【視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 2025

in 鳥取／in 浜松】

一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会		
◆計画書作成者	青松 利明		
◆企画・実施担当者	青松 利明	◆経理担当者	佐藤 紀子

全体事業名称	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業
委託費	1,710,000円
地域の実情・課題点	ボウリングは誰でも楽しめるスポーツである一方、視覚に障害のある人が挑戦しようと思っても支援者・指導者が見つからず、その結果、体験や練習ができず、選手数が増えないという現状がある。指導者・支援者が見つからない理由は、視覚障害のある人がどのようにすればボウリングをできるのかが広く知られていないことが考えられる。当協会の選手数もなかなか増えないという課題がある。
総合的な事業の目的	本事業の目的は、視覚障害のあるボウラーを増やし、視覚障害者の社会参加や自己実現、健康の維持増進を図り、ひいては国内および国際大会で活躍できる選手を増やしていくことである。そのために、まず指導者を増やすことを目的とする。
総合的な事業のねらい	毎年2～3回の指導者・支援者講習会を各地域で開催し、それらの指導者を中心に普及活動を行い、選手数を1.5倍の人数に増加させるねらいである。5年後にはその数を2倍にし、現在は実施できていないブロック単位での大会をできるようにしていきたい。指導者を増やすことで、潜在的な選手を発掘し、競技の普及に力を入れ、5年後、10年後に選手数を大きく増やしたい。

事業名	
事業①	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会		
事業名	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業		
事業内容	講義:視覚障害者ボウリングの現状と指導方法 実技:ガイドレール体験、視覚情報の言語化体験、インクルーシブチーム戦	講義:視覚障害者ボウリングの現状と指導方法 実技:ガイドレール体験、視覚情報の言語化体験、視覚障害者ボウリング体験	
開催日時	2025年11月24日 9時～16時	2025年12月7日 13時30分～16時30分 2025年12月8日 10時30分～12時30分	
会場	クイーンボウル (鳥取県米子市東福原1-3-10)	浜松グランドボウル (浜松市中央区半田山5-36-1)	
参加者	13名	16名	
人員体制	一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会 スタッフ6名 強化指定選手1名	一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会 スタッフ3名 強化指定選手1名	
連携団体名 (箇条書き)	一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会(スポーツFun ネット) 公益社団法人鳥取県視覚障害者福祉協会 鳥取県ロービジョン相談窓口 鳥取県ボウリング場協会 鳥取県ボウリング連盟	静岡県ボウリング連盟	
実際の事業での 連携団体の役割	連携団体の役割:事業の広報、参加者の派遣	連携団体の役割:事業の広報、参加者の派遣	
本事業における パラスポーツ指導者の 役割・活用について	運営者として当協会のパラスポーツ指導者(コーチ)2名が、実技指導を中心に事業の円滑な運営に尽力した。参加者としてパラスポーツ指導者が参加し、視覚障害者ボウリングの基本内容および指導方法を学んだ。今後、各地域において視覚障害者ボウリングを経験したい当事者に、指導・アドバイスしてくれることが期待できる。	本事業における パラスポーツ指導員の 実人数	11
		本事業における パラスポーツ指導員の 延べ人数	11
スポーツ用具の 整備・活用について	視覚障害者ボウリングに欠かせないガイドレール(手すり)を1台購入した。現段階でガイドレールを整備しているボウリング場は数えるほどで、ガイドレールそのものも高額である。本事業で購入したガイドレールを用いて、組み立て方や使用方法を説明し、地域での活動に利用できるよう、当面の間当協会から連携団体に貸し出しをすることとした。事業に参加した地域にガイドレールを貸し出すことで、視覚障害者ボウリングの普及が進むことを期待している。		

【視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 2025

in 鳥取】の事業写真

①事業写真

(1) 【視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業】

事業の様子



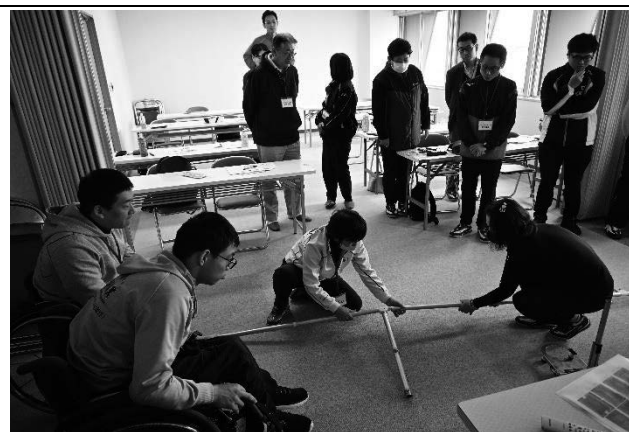
視覚を制限し投球



インクルーシブチーム戦



参加者と運営スタッフ



ガイドレール組み立て説明

【視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 2025

in 浜松】の事業写真

①事業写真

(2) 【視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業】

事業の様子



参加者と運営スタッフ



ガイドレールを使用しての投球



ミーティング



弱視レンズを着用しての投球

令和7年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」事業評価シート

受託団体名	一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会		
全体事業名	視覚障害者ボウリング地域指導者・支援者養成講習会 事業		
総委託費	1,710,000	決算額	0
事業の総合的な目的の達成あるいは未達の原因	昨年度に続き、2年目の事業実施となった。協力団体や会場(ボウリング場)との日程調整に昨年同様に苦慮した。最終的には予定通り2か所で実施することができた。 鳥取ではパラスポーツ指導者、ボウリング競技の専門家の参加があり、視覚障害者ボウリングの基本的な内容や指導・支援方法を伝えることができた。浜松は視覚障害者ボウリングを始めたいと考えている当事者がいたことが、講習会開催のきっかけとなった。パラスポーツ指導者の参加はなかったが、ボウリング競技の専門家が多く参加してくれた。講習会を契機に支援者・指導が継続的に活動してくれることを期待する。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	各実施地域において、視覚障害当事者が参加してくれた。ボウリング競技の方法を知り、その楽しさを体感してくれた。今後もボウリング競技の継続が期待できる。またパラスポーツ指導者、ボウリング競技の専門家も参加し、疑似体験や支援・指導体験を通じて、どのような活動が可能かを考えるきっかけとなった。継続的な支援・指導のためには、当事者とのマッチングも必要であるとする。		
費用に関する所見(今年度の執行状況と将来の効果的な資金繰りについて)	視覚障害者ボウリングを普及し、支援者・指導者の育成、選手数の増大を図るためには競技用具「ガイドレール」が必要不可欠である。スポーツ用具の購入には総事業費の4分の1までしか利用できないため購入が困難である。令和6年度は3分の1であった。状況に応じて、スポーツ用具に使える助成額の割合を変えていただけると助かる。今後は、各地域での予算の確保も促しながら、持続可能な予算繰りを検討していきたい。		
参加者や関係団体からの声(当事者満足度)	講義において理解したことが多かった。視覚を制限されることがスポーツ活動に及ぼす影響をあらためて感じ、その支援・指導方法の知識の習得は重要であると感じた。 視覚障害者がスポーツに参加する上でまだ障壁はあるが、それを解決していく方法を学ぶことができた。スポーツをきっかけに社会の障害を解決していくことが、スポーツの価値を高めることにつながると思う。 「インクルーシブチーム戦」を通して、ボウリングの楽しさと難しさ、仲間との一体感を感じることができた。		
今後の課題や事業展開(具体的方策・展望)	今年度の開催地は、視覚障害当事者からの講習会開催要望のあった地域である。次年度以降も当事者の希望を聞きながら、各都道府県のパラスポーツ協会に連絡をし、視覚障害者ボウリングの支援者・指導者講習会の必要性を探り、希望する地域に優先的に講習会を実施していきたい。 ボウリング場やボウリング競技関係者との連携も重要であるため、今後も各都道府県のボウリング連盟、ボウリング場協会と連携していく。各地域で視覚障害者ボウリングのクラブが開始されるように支援していきたい。		
その他所見	昨年度に続き2年目の実施となった。各地域での講習会への参加者も増えてきている。ボウリングは年齢に関係なく実施できるため、高齢化が進む各地域での普及を考えていきたい。		

「令和 7 年度地域におけるパラスポーツの振興事業」
委託先団体募集要項

**令和7年度障害者スポーツ振興事業
「地域におけるパラスポーツの振興事業」
委託先団体募集要項**

1. 助成の目的

本事業は、障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現することを目的に実施する。

また、地域のパラスポーツ振興の統括組織である都道府県・指定都市のパラスポーツ協会、同パラスポーツ指導者協議会、JPSA 登録パラスポーツ競技団体が、本事業をきっかけに地域の自治体やスポーツ団体、関係者等と連携・協働し、スポーツ活動の場づくり、人材の育成、体制づくり、選手発掘・育成等を行うことで、地域全体のパラスポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。

2. 委託対象

本事業は委託事業として実施する。委託対象は以下のとおりとし、かつ、助成事業の実施体制が整っている事を委託先対象の条件とする。

委託対象	
①	都道府県・指定都市パラスポーツ協会
②	都道府県・指定都市パラスポーツ指導者協議会
③	パラスポーツ競技団体（日本パラスポーツ協会 登録競技団体）

※①および②の団体は同一地域の団体間で情報を共有した上で申請すること。

※パラスポーツセンターは別事業での実施とする。

3. 対象事業

本事業は、障がい者がスポーツ活動に参加する機会を増やすものであり、以下の事業区分に当てはまる内容を対象とする。事業実施にあたっては、委託対象団体が主体的に企画・運営し、関係団体等と協力・連携した体制で実施するものとする。

※注1：厚生労働省が実施している「社会参加支援に関する事業（レクリエーション活動等支援）」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。

※注2：スポーツ庁が都道府県・指定都市に対して委託事業として実施する「障害者スポーツ推進プロジェクト」内の事業を実施する都道府県・指定都市の団体は、申請時に必ず申し出ること。

①パラスポーツ協会

事業区分	事業の方向性
1. 障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 (活動の場づくり)	・ 県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・ 未普及地域における活動拠点の創出事業 ・ 他団体等と連携したスポーツ拠点の設置事業
2. スポーツ指導者等の育成・連携事業 (指導者対象)	・ パラスポーツの指導人材の資質向上事業 ⇒ パラスポーツ指導者協議会、学校教員、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブスタッフなどを対象
3. 競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 (体制づくり)	・ 新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・ 県市における競技団体設立に向けた事業 ・ 県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援事業
4. 新たな取り組み支援事業 (事業区分1～3に該当しない事業)	

②パラスポーツ指導者協議会

事業区分	事業の方向性
1. 障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 (活動の場づくり)	・ 県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・ パラスポーツ指導者の支部拠点設置事業
2. スポーツ指導者等の育成・連携事業 (指導者対象)	・ パラスポーツの指導を担う人材の資質向上事業 ・ パラスポーツ指導者の活動機会の活性化事業 ・ 若手人材の活動活性化事業（大学生等との連携）
3. 競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 (体制づくり)	・ 新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・ 県市における競技団体設立に向けた事業 ・ 県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援 事業
4. 新たな取り組み支援事業 (事業区分1～3に該当しない事業)	

③パラスポーツ競技団体

事業区分	事業の方向性
1. 障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 (活動の場づくり)	・ ブロック、県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・ 特別支援学校等と連携したスポーツ活動事業
2. スポーツの体験・継続事業 (障がい者対象) ※新たな教室・大会等の開催含む	・ パラスポーツに新たにに取り組む障がい者のスポーツ体験事業（体験会を通じた競技参加の裾野拡大） ・ 障がい者が地域で継続してスポーツに取り組むための事業 ・ ブロック、県市における大会、記録会開催事業
3. 競技指導者・支援者育成事業 (指導者対象)	・ ブロック、県市における競技別（専門性の高い）指導者の育成 ・ ブロック、県市における審判員及び普及に関わる指導者の育成
4. 競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 (体制づくり)	・ 新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・ ブロック、県市における競技団体設立に向けた事業 ・ ブロック、県市における既存の競技団体の活動支援事業
5. 新たな取り組み支援事業 (事業区分1～4に該当しない事業)	

4. 活動の範囲

①②の団体は、原則として、委託先団体の都道府県・指定都市を実施場所とすること。
 なお、実施内容・特性等の理由により当該の都道府県・指定都市内で実施が困難な場合はこの限りではない。

③の団体は、ブロック単位もしくは都道府県・指定都市（複数可）を実施場所とすること。
 なお、実施場所の選択理由を申請書類に記載すること。

5. 助成対象となる事業の実施期間

本事業の委託契約締結日～令和8年1月末日

※委託契約締結日より前に発生した事業経費は助成対象外となるので留意すること。

※委託契約締結日から委託費の入金以前に発生した事業経費の負担は、委託先団体の立替えによるものとする。

6. 募集期間と提出書類

募集期間は次のとおりとする。締切日までに下記の書類を作成し、送付すること。なお、締切り後および書類に不備がある場合は受理できないので注意すること。

【募集期間】 令和7年3月14日（金）～令和7年4月7日（月）（必着）

【提出書類】（１）受託申請書・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式１
（２）事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式２-１、２-２
（３）予算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式３-１、３-２
（４）スポーツ用具購入申請書、管理誓約書・・・・様式４
（５）事業評価シート・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式７
（６）各事業の実施概要（案）
（７）謝金・旅費・賃金等の規程・規約等
※なお、全ての資料はデータおよび紙媒体の両方で提出すること。

7. 委託団体数

原則として 30 団体程度とする。

8. 委託費と対象経費

委託費は、原則として各団体につき 50 万円～200 万円とする（ただし、申請団体数と申請総額に応じて委託費を調整することがある）。

委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。

諸謝金、旅費交通費、スポーツ用具、消耗品費、会議費、借損料、印刷製本費、
通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料

詳しくは別紙の「地域におけるパラスポーツ振興事業事務の手引き（令和7年度版）」をご参照ください。

- * 委託費の入金は6月以降の予定です。
- * 事業の実施に必要な（使用する）スポーツ用具の購入が認められていますが、上限金額は、予算時ではなく決算時の総事業費の25%以内となります。
- * 賃金は、決算時の総事業費の20%を上限とします。

9. 選定方法及びその結果

- （１）委託先団体の選定は、当協会が設置する選定委員会で、本事業に関する選定方針・基準に基づいて審査し決定する。
- （２）申請内容や受託回数を考慮したうえで受託団体及び金額を決定する。
- （３）選定結果については、内容確認後随時、文書をもって知らせる。また、決定した事業については、当協会ウェブサイトで公開する。
- （４）他の機関の助成等を受けて当該事業を実施することとなった場合は、採択後であっても受託申請を辞退すること。
- （５）選定結果に関するいかなる問い合わせ等については答えられない。

10. 委託先団体の決定と決定後の事務手続き（提出物）

委託先団体の決定後、下記の書類を提出すること。

- （１）委託契約書・・・内容を確認の上、委託先団体の長が署名捺印し、事業計画書とともに１部提出すること。
- （２）請求書・・・・事務手続きの簡素化から、委託契約書と同時に請求書を提出しても構わない。

11. 委託事業に係わる消費税の取り扱い

当協会との委託事業契約に基づき実施する事業の委託金については、国等からの補助金と同様の扱いとし、「特定収入」として取り扱うこと。また、消費税の計算にあたり簡易課税を選択されている団体についても、本委託金は課税対象外の収入として取り扱うこと。

12. 事業報告

事業報告は、各団体において事業の完了から １カ月以内に提出すること。令和８年１月以降に事業が完了するものは令和８年２月６日(金)(消印有効)までに提出すること。

なお、全ての資料はデータおよび紙媒体の両方で提出すること。

（１）完了報告書

完了報告書は、委託先団体の長が押印して提出すること。

（２）事業報告シート

事業ごとの報告を記入し提出すること。

（３）事業写真

写真については、事業ごとに以下の様子がわかるような写真を必ず提出すること。

【必須写真】

- ・ 実行委員会等打合せの様子 ・ 受付 ・ 準備運動等 導入の写真
- ・ 事業実施の様子（複数枚）
- ・ 全体の様子がわかる写真（事業の様子や参加規模のわかるもの）

（４）決算書・決算内訳（領収書・納品書等の写し）

決算書は、領収書及び納品書等のコピーを添付し提出すること。

（５）事業評価シート

事業ごとの評価を記入し提出すること。

(6) 成果物・印刷物

ポスター・チラシ・冊子等、委託費で作成したものを1部提出すること。

(7) その他事業に係る資料

開催要項、アンケート、新聞記事等

※全ての委託先の報告書を当協会で合本するので、原稿等をデータで提出すること。

(7) 事業ヒアリング

各団体と地域における各事業実施の状況確認、今後の展開を含めた情報・意見交換を行うことで、これからの地域振興事業の充実に向けた情報収集を目的としたヒアリングを実施する。

(8) 事業報告会

各団体が事業を通じて各地域のパラスポーツの振興における課題に向き合い、多くの支援者や関係団体との連携を深め、障がい者のスポーツ環境や振興体制の整備・拡充を目的に実施した本事業の報告会を事業終了後に開催する。(2月下旬開催予定)

13. 問合せ先及び送付先

公益財団法人日本パラスポーツ協会 スポーツ推進部 佐藤
E-Mail: jpsa-shinkou@parasports.or.jp
〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 2-13-6
TEL) 03-5695-5420 (直通) FAX) 03-5641-1213
問合せ時間 月曜～金曜 AM9:30～PM5:45

※ この募集要項は、令和7年度国庫補助事業（スポーツ振興事業）の予算の状況によっては内容が変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

令和7年度障害者スポーツ振興事業
「地域におけるパラスポーツの振興事業」
令和8年3月31日 発行
発行 公益財団法人日本パラスポーツ協会
印刷 日本印刷株式会社

